

IBLARD Naohisa Inoue

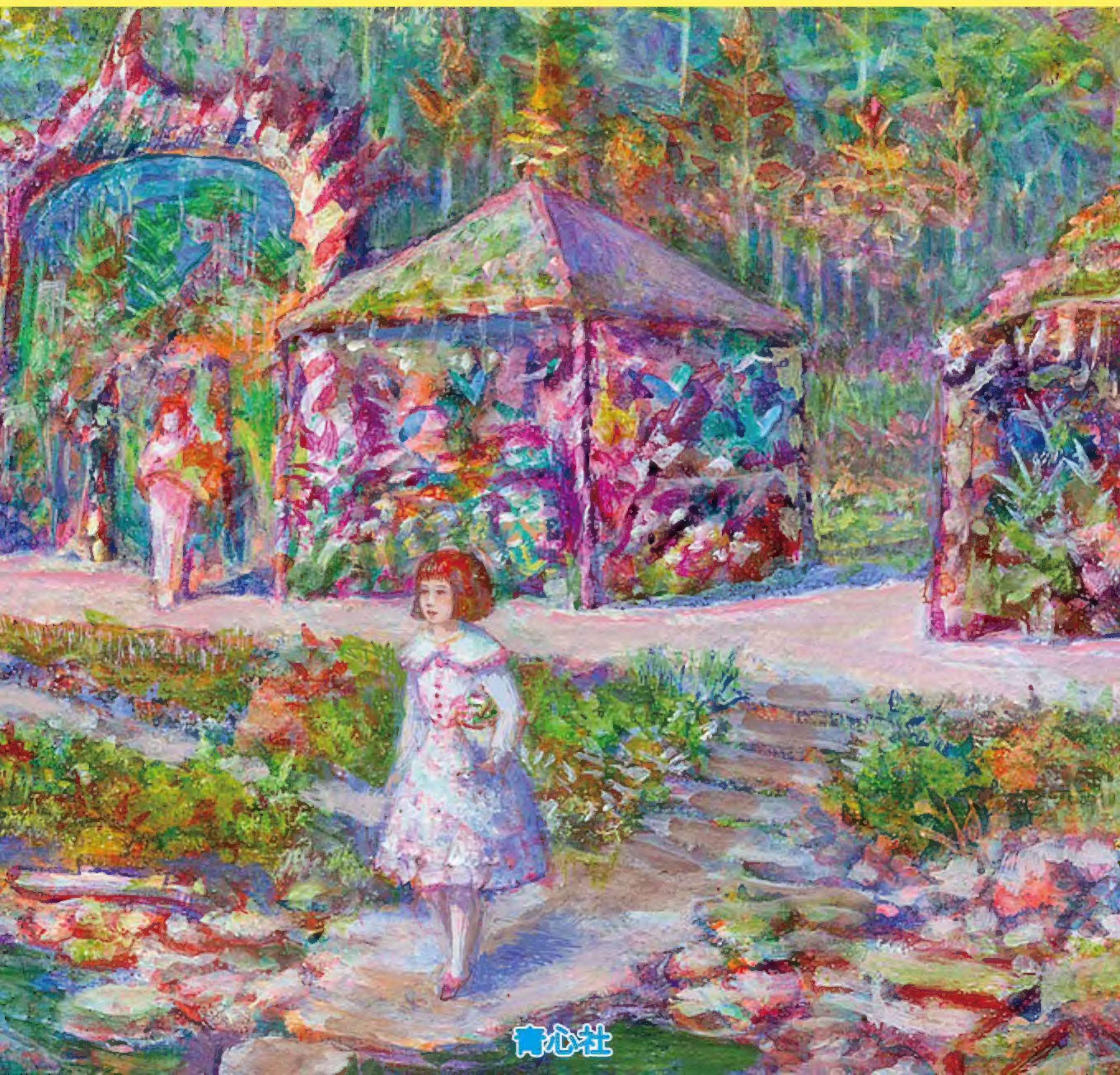
— See Things with IBLARD Eyes —

イ バ ラ ー ド
IBLARD 井上直久

— 世界はもっとキレイにみえる —

監修 井上直久

編集・制作 山野邊友梨



イバロード

IBLARD 井上直久

—世界はもっとキレイに見える—

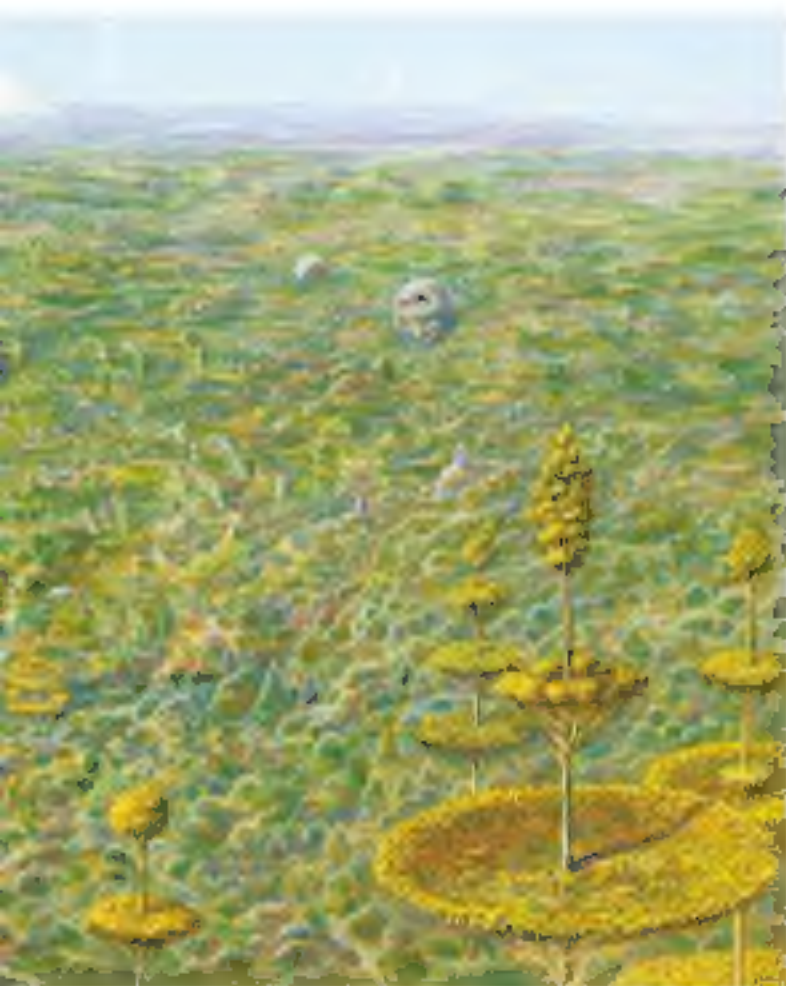


青心社











What is IBLARD?

日本の戦に敗れたイギリスの賠償

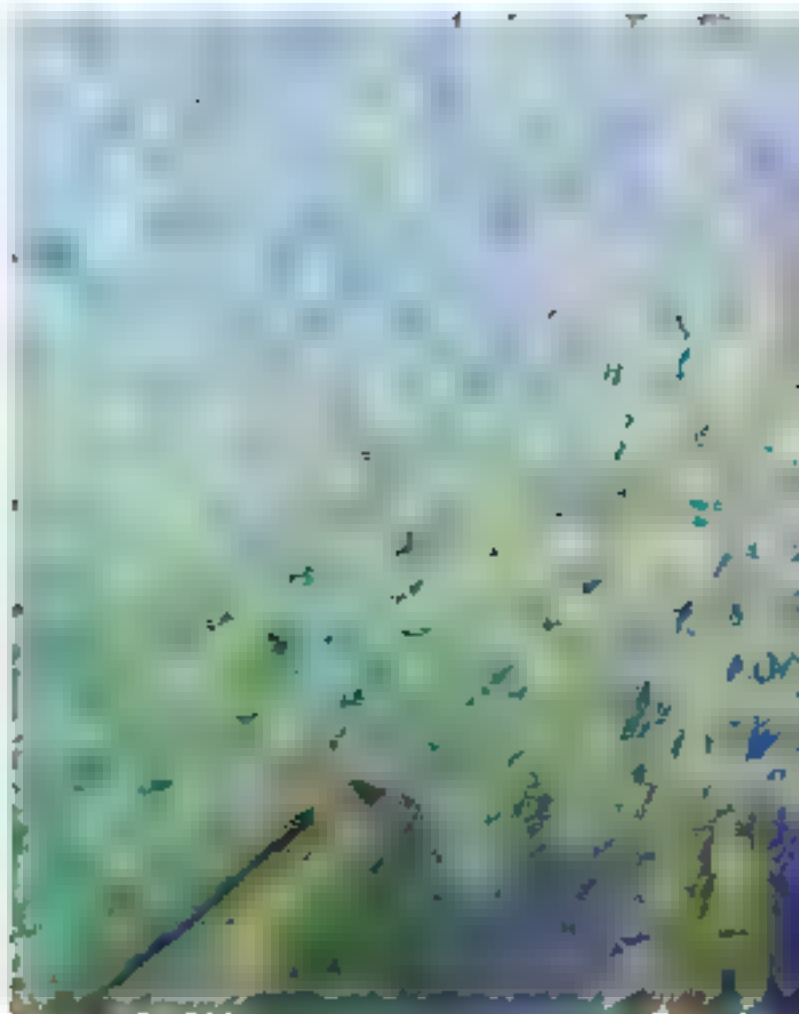
[illegible][illegible]

「それなら」には、先知像とてきたには、聖書の福音がほびし
 として、聖書の目的にあり、こゝに、其の福音があらんす。う
 ちから、もともとの福音一つ、ほびし、その福音の、こゝに、あらん
 16た、何れ、には、聖書の福音にあらんす。

[illegible]

1998年12月1日







《小さな駅》1982



一朝一夕では身につかない造形世界

こうして技術が磨かれていく

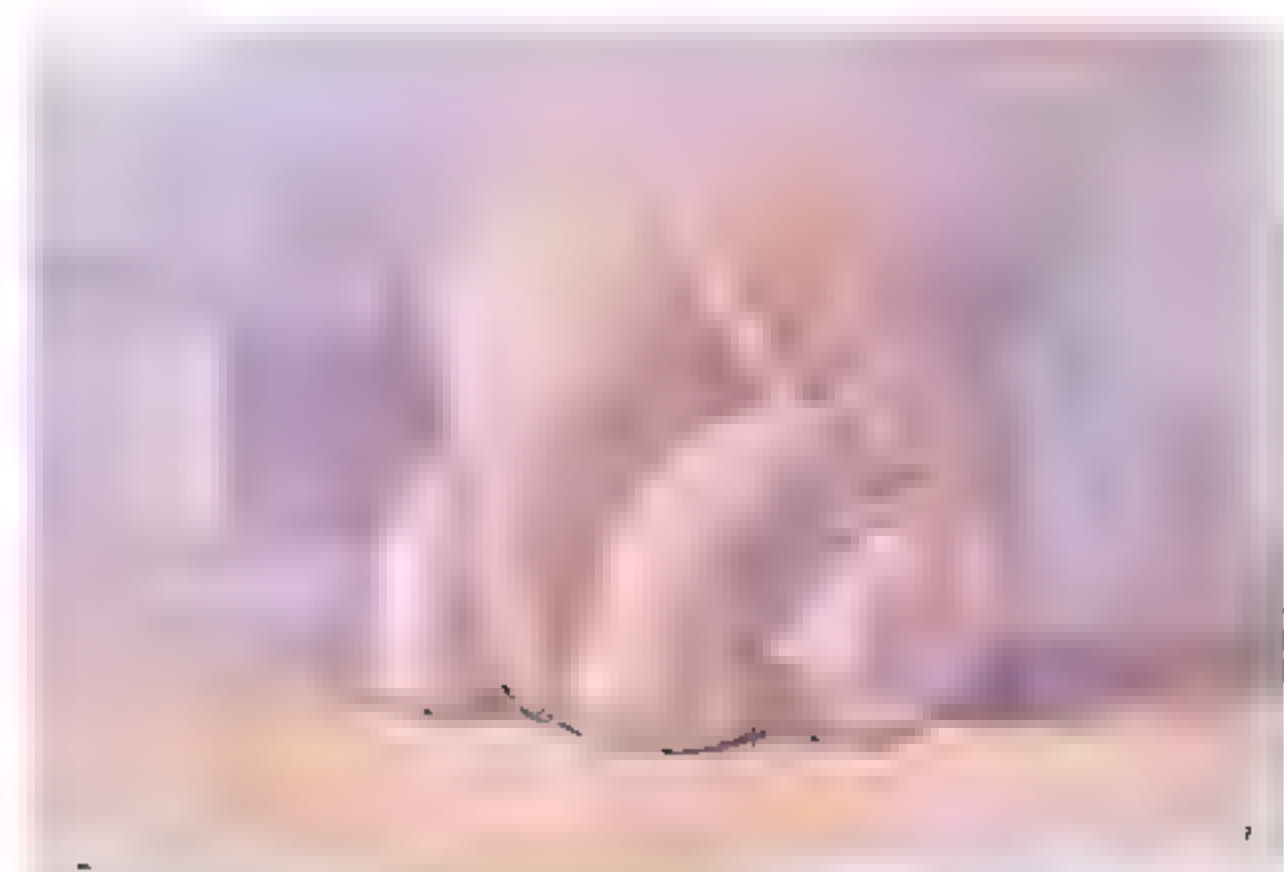
- 96 100の技法
Drawing×Painting / Teaching / Color
- 110 高校教師時代の教え子 宝永たかこ
- 111 大学講師時代の教え子 宮脇周作

創作を支えるキーパーソン

- 114 井上直久×アートスペース 福岡敏郎
- 116 井上直久×デジタル技術 内堀法孝
- 118 井上直久×ピエゾグラフ
- 119 座談会 HOLBEIN
井上直久×ホルベイン
- 122 スペシャル企画
井上直久さんで行くホルベイン工業工場見学

- 124 井上直久式
物語の創り方、絵の描き方
- 130 理屈なんてない世界
対談 井上直久×宮崎駿
- 136 How to Create IBLARD
- 148 IBLARD Collections
- 162 あとがき 山野邊友梨

綴じ込み付録：よいこのすごろく



めげゾウ

イバフードに登場するキャラクター。
めげゾウを見ると、優しい心を持った者にはプラスの効果を発揮し、励まされ力を与えられるが、打算的で計算高い者にはマイナスに働き、魔法の力ややる気などがなくなってしまう。

イバラード

IBLARD 井上直久

—世界はもっとキレイに見える—



6 What is IBLARD?

16 茨木市 イバラードマップ

29 井上直久とは？

NAOHISA CHRONICLE

1948年~2017年

時間を辿るように

40 自分の世界を追い求めて——。
表現の憧憬を語り合う。
対談 井上直久×たむらしげる

43 独立を後押しした恩人 北見隆

44 「何観た?」「何聴いた?」
「何読んだ?」「何した?」

カギを握る人

54 井上直久さんのこと 鈴木敏夫

56 共に関わった22年間 野中晋輔

60 同じ画家として 男鹿和雄

62 『耳をすませば』背景画

64 一枚のハガキがもたらした巡り合わせ
映画『耳をすませば』秘話

66 伏線が張られていたかのような出会い
対談 小室和之×松尾清憲

68 音楽が好きな画家、絵が好きな音楽家 中村由利子

72 自然とリンクした二人のイメージ
短編映画『星をかった日』の秘話

78 NAOHISA INOUE

イバラードを見つけるまで

Ⅲ NAOHISA COLLECTIONS

ミニ企画

special theme

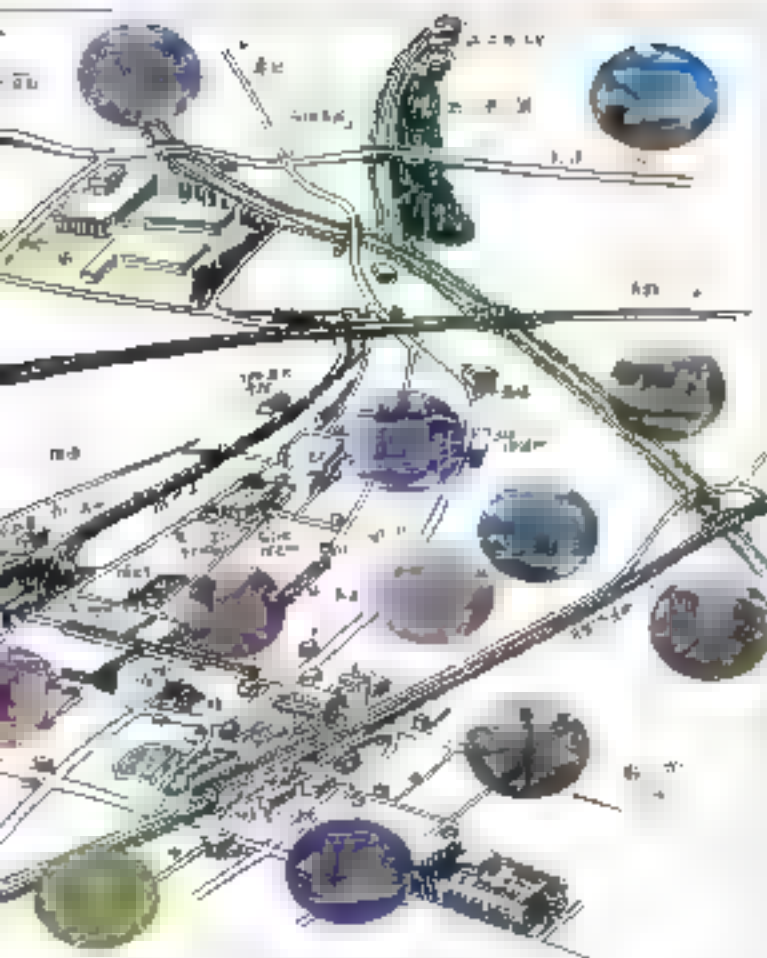
IBLARD GUIDELINE I	イバラードの住人	28
	1枚のDMから	38
	システム大図解	50
IBLARD GUIDELINE II	イバラードの作り方	52
	100 Questions	83
IBLARD GUIDELINE III	イバラード音韻学	84
	ラピュタによる下地実験	94
	メモの山	95
IBLARD GUIDELINE IV	イバラード色の試案	112

井上直久

画家。大阪府茨木市在住。デザイナー、高校教師、大学教授などの経歴の傍ら、絵画、漫画、絵本やアニメーションなどジャンルを超えて多岐にわたる作品を手がけてきた。自身の描く作品を「イバラード」と名付け、「どこかで見たような懐かしい」気持ちにさせてくれる絵画として、国を問わず多くの人たちから親しまれている。スタジオジブリとの関わりも深く、映画の背景画やジブリ美術館の壁画の制作に携わる。







青森市～ランドマップ

BLARD Eyesで青森景色を見てみませんか？



春日丘高校前の交差点。高校教師時代に撮影



Photo courtesy of Nachisa Inoue



《駅前》1980



《駅前Ⅱ》1998





茨木市・本町商店街
1990年代撮影



Photo courtesy of Naohisa Inoue





《アーケード 2009》2009

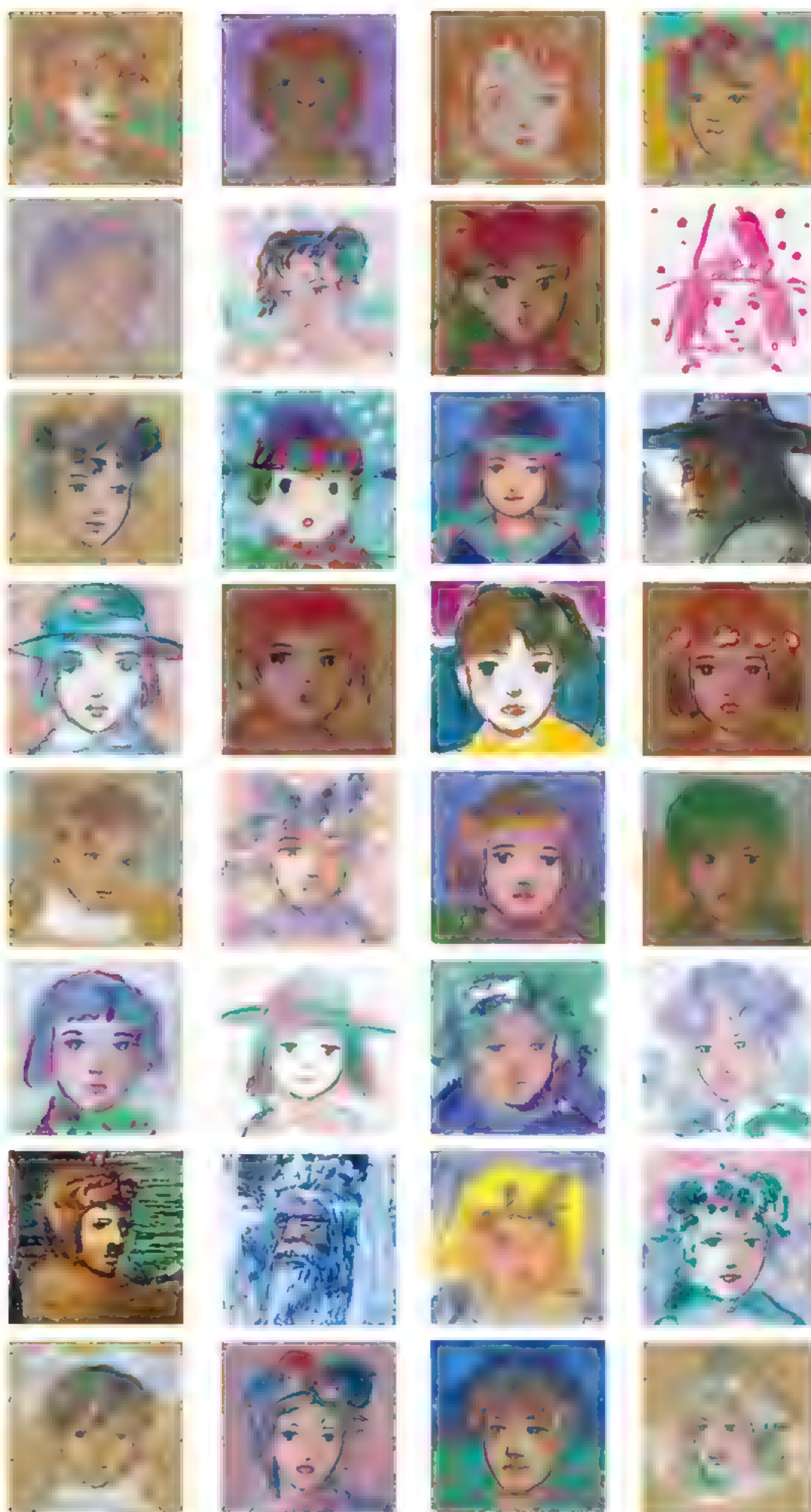


Photo courtesy of Naohisa Inoue 茨木阪急本通商店街
2004年代撮影

《アーケード》1979
6歳まで居住していた大阪市平野区の
市場のイメージも元になっています



イバラードの住人



イバラードに描かれる住人は実在の人物がモチーフ。でも子供と女性が多く描かれているので、「男性の大人はあんまりいないの?」「男性はイバラードへ行きにくいのか?」などの質問があります。しかし、オトナもおじいさんも、男の子もいます。イバラードの住人は多かれ少なかれ、ほぼみんな魔法使いなので、見つけるのが難しく、絵にも描きにくいのだそうです。

Chronicle

井上直久とは？

1948 年 7 月 7 日、井上直久さんは布師市（現在の東大和市）に生まれました。絵に興じる習い事な才能をすくすくと伸ばし、今へと至る創作活動しできました。1948 年なら 2017 年末まで経経した井上さん直絵の貴重な年譜と共に、これまでの作品と留置写真を延滞の所々取りこ紹介します。

NAOHISA CHRONICLE

井上直久の軌跡
1948年～2017年

井上直久さん直々の手書きの年譜と写真と作品で、歩んできた半生を辿ります。
これまでの軌跡のほんの一部ですが、ご紹介いたします。



僕の妹とスケッチ
している様子です

妹誕生

1948年、布施市
(現在の東大阪市)
で生まれる



高校の修学旅行です。
今の奥さんとの
ツーショット



ボーイスカウトは、
小6から中3までしていました



生駒山遊園地にて



大学時代の作品



大学3年生の時の作品
《エンツウジ》



大学2年生の時の作品
《青い立石》
圓通寺をイメージして



大学2年生の時の作品
《青い立石》



大学2年生の時の作品
《異国の姫君》
ジョルジュ・ルオーをモチーフに



新婚旅行は奈良へ



1971年に結婚



日本画のような色とセザンヌのようなタッチで卒業制作を描きました。6枚一組の絵となっています

高校教師時代の作品



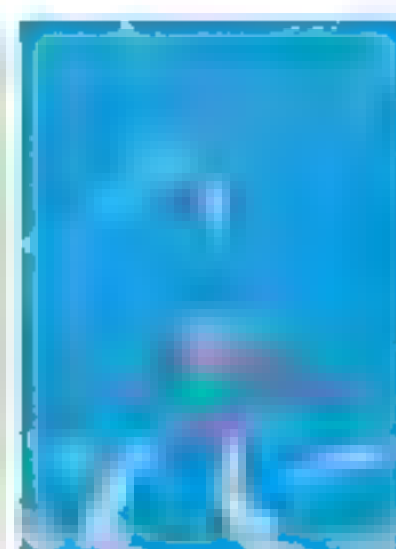
《赤い二つの星》



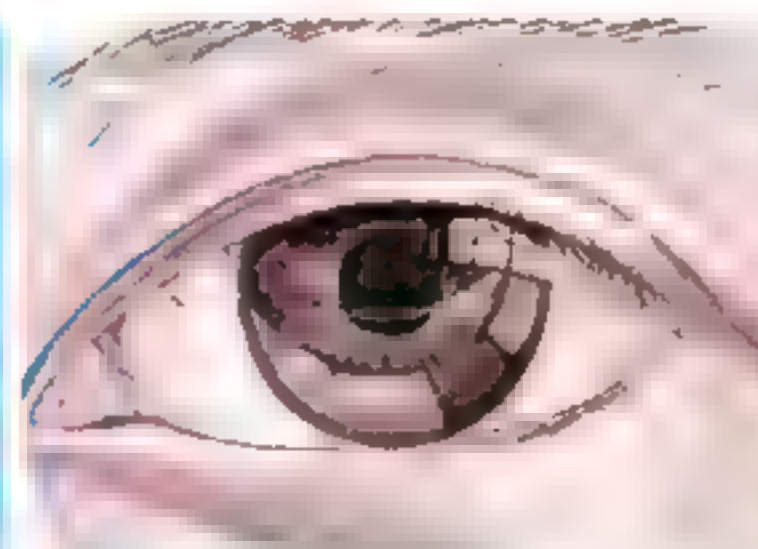
《家を刻んだ塔》



《飛行船と3つの塔》



《風揚げをした日》



高校教師時代(1982年?)の作例。大阪府立春日丘高校に
生徒に見せるために描いたものです



1973年赴任

この年譜は、井上直久さん自身の記憶を元に制作されたものです（2017年3月17日）。
 「若干事実と異なる記述があるかもしれませんが……。」（井上さん）

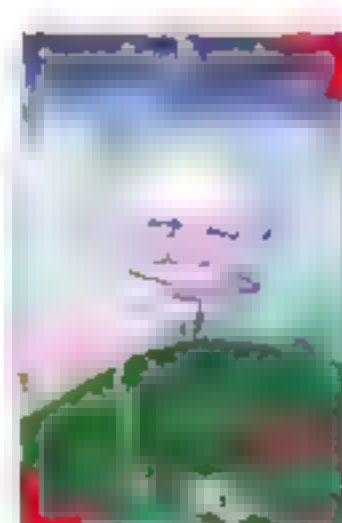
Date		井上直久		父		母		兄弟姉妹		学校		習いごと		作品		備考	
38	13	誕生	1月	25	15	30	18										
39	14																
40	15																
41	16																
42	17																
43	18																
44	19																
45	20																
46	21																
47	22																
48	23	誕生	1月	32	20	33	21										
49	24																
50	25																
51	26																
52	27																
53	28																
54	29																
55	30																
56	31																
57	32																
58	33																
59	34																
60	35																
61	36																
62	37																
63	38																
64	39																
65	40																
66	41																
67	42																
68	43																
69	44																
70	45																
71	46																
72	47																
73	48																
74	49																
75	50																



8歳の時の作品です彼女はクラスメイトでした



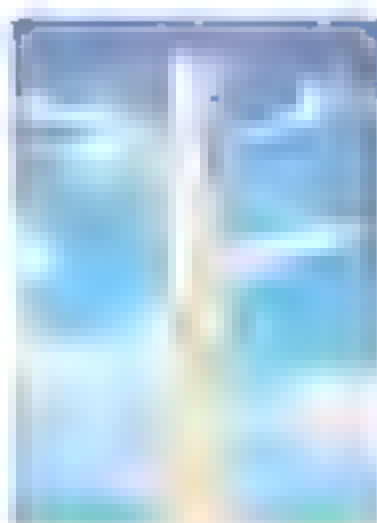
《Mr. Full Moon》
父をイメージして描きました



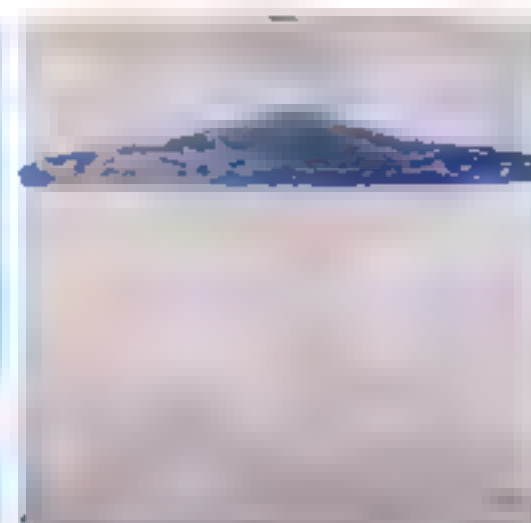
《Full Moon》



《象の家》



《ラプンツェルの塔》



《須弥山とラピュタ》

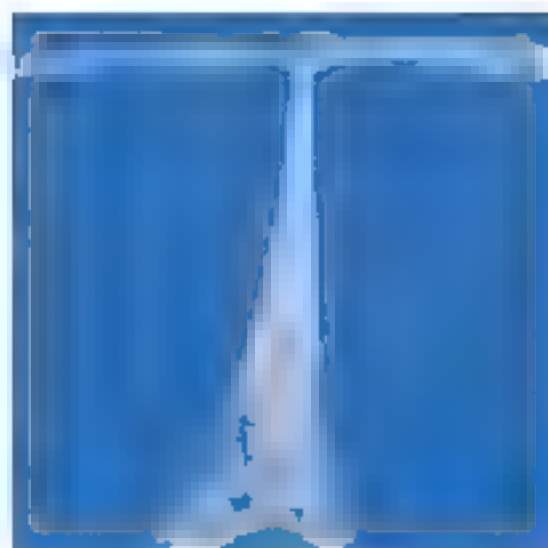


《二つの塔》



《丘の家》

全美術展	4	5	6	7	8	9	10	11	12	71
インカ鉄 三人展 1983年2月										
美術① 春日の空										75
美術② 山										
美術③ 花										
美術④ 花										
美術⑤ 花										
美術⑥ 花										
美術⑦ 花										
美術⑧ 花										
美術⑨ 花										
美術⑩ 花										
美術⑪ 花										
美術⑫ 花										
美術⑬ 花										
美術⑭ 花										
美術⑮ 花										
美術⑯ 花										
美術⑰ 花										
美術⑱ 花										
美術⑲ 花										
美術⑳ 花										
美術㉑ 花										
美術㉒ 花										
美術㉓ 花										
美術㉔ 花										
美術㉕ 花										
美術㉖ 花										
美術㉗ 花										
美術㉘ 花										
美術㉙ 花										
美術㉚ 花										
美術㉛ 花										
美術㉜ 花										
美術㉝ 花										
美術㉞ 花										
美術㉟ 花										
美術㊱ 花										
美術㊲ 花										
美術㊳ 花										
美術㊴ 花										
美術㊵ 花										
美術㊶ 花										
美術㊷ 花										
美術㊸ 花										
美術㊹ 花										
美術㊺ 花										
美術㊻ 花										
美術㊼ 花										
美術㊽ 花										
美術㊾ 花										
美術㊿ 花										



《彫刻家のアトリエ》
20代の頃の作品



《花1》1978



《カッパの山》1977



《瑠璃の髪飾》

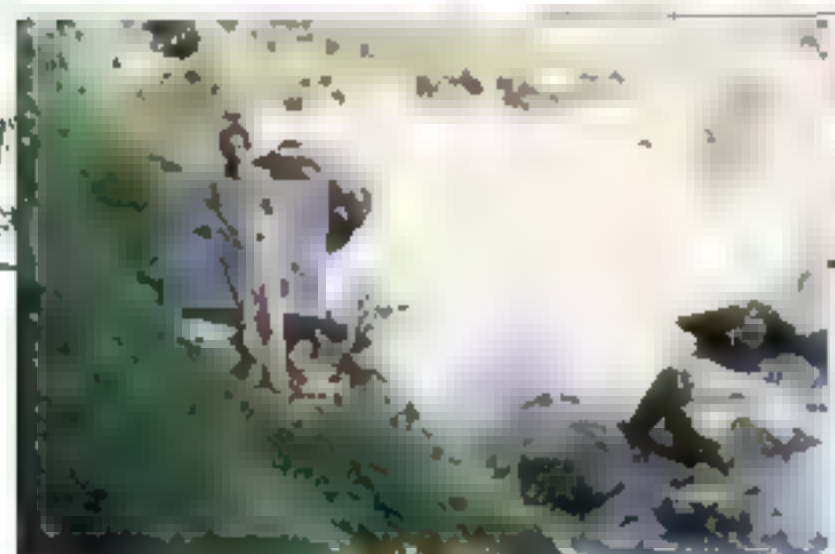


《春四角》

《野の工房》
20代最後の作品



《コズミック・ハット》
20代最後の作品



奥津にて



水泳部顧問



《インカ鉄道(旧い道)》1975



《コダツノ1》



春日丘高校からの掃路



美術部顧問

1982 春日丘 2年生 会合
~1983 春日丘 3年生 会合



1982年 春日丘高校美術部会合 飛鳥宿泊研修所



1983 受験指導



1982 春日丘高校 美術部会合 飛鳥



初臨 1982 奈良 春日大社



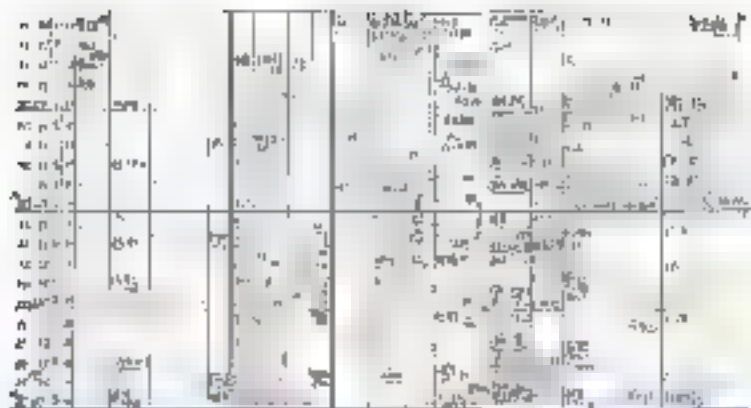


图 10



图 11



图 12



图 13



图 14



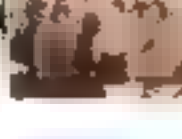
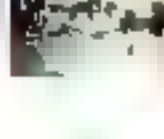
图 15

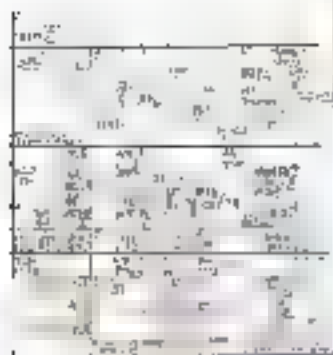


图 16



图 17





2007. 11. 10. 서울, 서울역, 서울역, 서울역



2007. 11. 10. 서울, 서울역, 서울역, 서울역



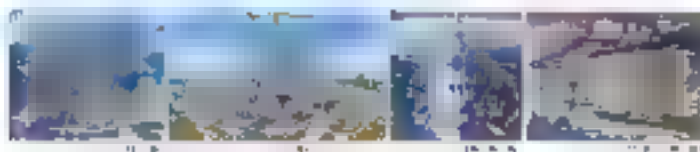
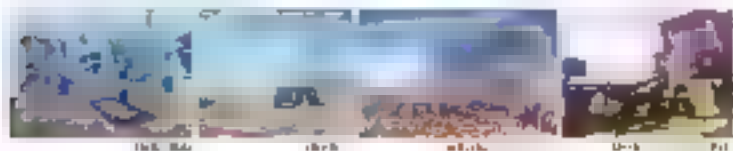
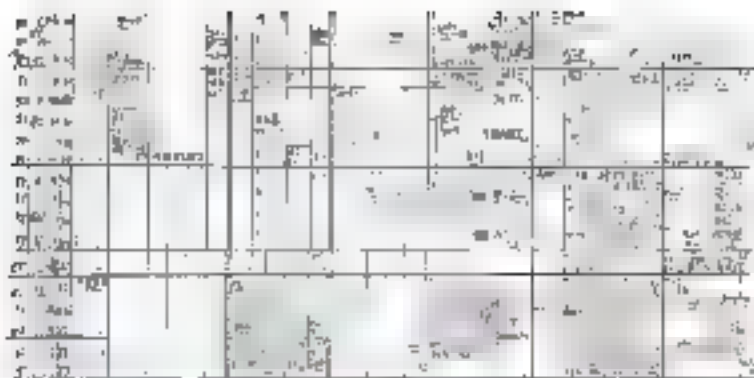
2007. 11. 10. 서울, 서울역, 서울역, 서울역

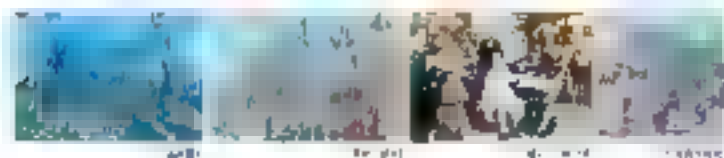
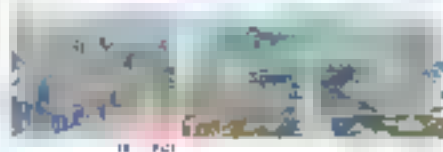
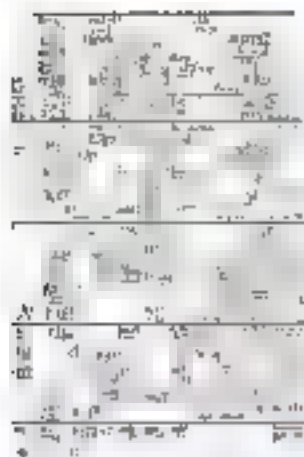


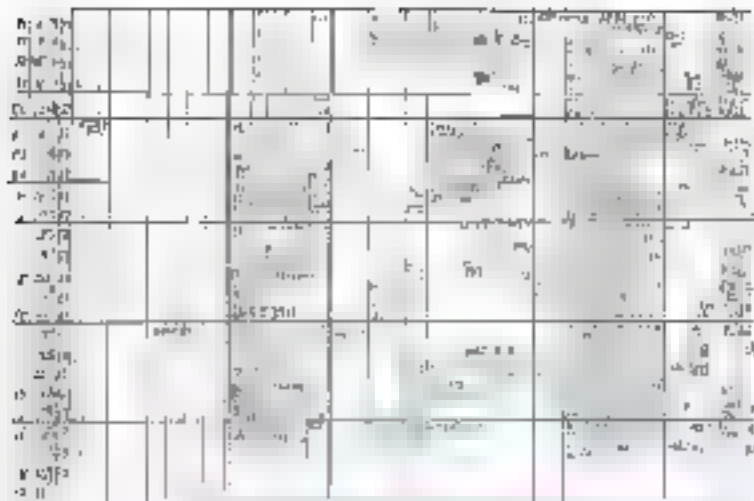
2007. 11. 10. 서울, 서울역, 서울역, 서울역



2007. 11. 10. 서울, 서울역, 서울역, 서울역

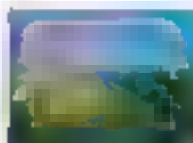






1枚のDMから

11月 20日 土 日 11月 21日 月 22日 火 23日 水 24日 木 25日 金 26日 土 27日 日 28日 月 29日 火 30日 水 31日 木



11月

11月 20日 土 日 11月 21日 月 22日 火 23日 水 24日 木 25日 金 26日 土 27日 日 28日 月 29日 火 30日 水 31日 木

11月 20日 土 日 11月 21日 月 22日 火 23日 水 24日 木 25日 金 26日 土 27日 日 28日 月 29日 火 30日 水 31日 木



11月

11月 20日 土 日 11月 21日 月 22日 火 23日 水 24日 木 25日 金 26日 土 27日 日 28日 月 29日 火 30日 水 31日 木



let's move

時間を追うように

ほんの瞬間なきっかけから、計大な転機が動き出されること
があります。人生においても、人との運つ合いという、
見小さな偶然が、世の大きな展開を導くこともあつます。
ここでは、井土昌久さんが食事に画家として夢み抽ぬるマ
イミノウで出会われた人たちとのお話をご紹介します。



たむらしげるさん

浦田に生まれ、すぐに八王子に移り住む。印刷会社にデザイナーとして勤務後、1976年、絵本「ありとすいか」出版と同時にフリーに。イラストレーション、絵本、マンガ、映像作品など幅広く活躍中。

対談 井上直久×たむらしげる

自分の世界を追い求めて—— 表現への憧憬を語り合う。

今から20年以上前、高校の教師をしながら絵を描いていた井上直久さんは、19年間の教師人生に休止符を打ち、画家一本に専念することを決意。その際に送った1枚のハガキから、たむらしげるさんとの絆が生まれました。お二人の出会いから、作品作りに対する姿勢をたっぷり語っていただきました。

たむらさん 最初にどうコンタクトが来たのか記憶にないんですが、井上さんから連絡が来たのが嬉しかったのはよく覚えています。

井上さん 僕が高校の先生をしている頃にたむらさんの漫画に出会い、「こんなの描く人って、いくつぐらいの、どういう人なんだろう」といろいろ想像してました。そこの漫画家と次元が全然違う、それこそ宇宙人みたいな人かな、なんて（笑）。それで、僕が教師を辞める時、何の面識もコネもないのに、「とにかく辞めて、絵で生きていきます」という報告のハガキを送ってみたんですよ。それがなければ、たむらさんと出会うことも、出版社を紹介してもらうことも、その後のことも起こることはなかったと思いますね。

たむらさん そもそも作品が良くなければそうはいかないですよ。実は、ハガキが来る前に『イバード物語』の最初の漫画集をどこかの書店で

買い、今までにないアイデア
を持った素晴らしい作家だと
思っていたんです。ある意味、
少しジェラシーを感じるぐら
いの衝撃と、コマずつ相当
時間がかかっているの、こ
のクオリティーでこれから描
き続けて食べていけるのかな
といった、ちよつとした心配
がありました(笑)。

お会いする前は、内向きで
気難しく、自分の世界をひた



92年、93年に井上さんから
たむらさんへ宛てられたお手
紙。個展のお礼、近況報告な
どが丁寧に綴られています。

すら描いている感じの人かな
と想像していたんです。でも、
実際は非常に外向的で、いろ
んな方面に広がりを持ってい
らしたので意外でした(笑)。
井上さん たむらさんは外向
的と言ってくださいますが、
うちの奥さんからしたら、人
の言うことを全く聞いていな
い、聞いているようで自分の
事しか考えていないとよく言
われます(笑)。

たむらさん 僕もそんなもん
ですよ、家族からは(笑)。

究極の形

たむらさん 僕の作品作りつ
てね、組み合わせなんですよ。
ブロックではないけれども、
違うものが力チカチつとうま
くはまった時にいい作品がで
きる。例えばよく言うんです
けれども、炭素の原子がいろ
んな形で組み合わせり、石炭
ができますが、ある組み合わ
せだとダイヤモンドになる。
それに近いです。
井上さん ダイヤモンドは、
究極の形ですよ。

たむらさん 結晶は正8面体
が多い。本当は市場価格ほど
希少ではないらしいですが。
井上さん 何の役に立つかと
いうと、観賞のためとか、も
のを切ったりですもんね。
たむらさん 僕はそんなに
「素材」が多いわけではない
んですよ。組み合わせるのを
静かに待っている感じです。

井上さん それは、たむらさ
んのお人柄にも通じているよ
うな気がします。覚えてい
ますかね？僕はたむらさん
に、フープ博士やひいらぎは
かせのような人物になれたら
いいなどお話ししたら、たむ
らさんはあつさり「あれはお
話ですよ」と。この人はやつ
ぱり普通のひと純度が違うん
だなと思いましたね。この方
としゃべる時はちゃんと言葉
を選ばなくてはと。譲れない
情熱的な部分と社会評価され
ている部分もよくわかってい
らっしゃるし、言葉の選び方
だとか、ものの考え方だとか、
論理的な思考の密度も、本当
にすごいと思いました。

たむらさん 井上さんは当
然、何か描く時にある程度考
えて描いていらつしやると思
うのですが、他にももつとこ
うなるかなとか、どんどん描
き足していける広がり無限
に持っていて、そこで終わら
ないのが素敵です。

漫画の中の「不思議世界」
が多方向からの視点でしつか
り描かれていて3次元空間十
時間を感じます。こういう漫
画は見たことないなど。自身
の世界がちゃんと構築されて
いないと描けないですよ。
僕が絵本を描き始めて、そう
いう部分をしつかりやらない
とな、と悩んでいた時期に井
上さんの漫画にちようど出
会ったので、それが羨ましく
もありました。

好きなんです。たむらさんも、
人情の絡みとかよりも、世界
の不思議さがどんどん見えて
くる作品なので面白いです。
たむらさん ちよつと考え方
をずらすと、すごく面白い世
界が出てくるんですよ。実
は今ちようどそういう本を
作っているところなんです。
少しシンプルなものなんです
が、それを自分自身と通じる
と言ってはあれですが、世界
を創るってこういう事なんだ
ろうなど。結局井上さんや僕
のような絵だと、アシスタン
トを雇うということはできな
いので、全部自分一人で描か
なくてはいけない。少しの心
の揺れというのがダイレクト
に伝わり、ほんの少しでも氣
に入らないと最初から描き直
しです。今制作中の絵本は、
印刷インクの色ごとに別描き
したハーフトーンのモノクロ
水彩画です。それをスキャニ
ングしてレイヤーにすると
A4・400dpiで各色20層
ぐらい。
井上さん たむらさんの作品



思われがちですよ。

井上さん 知らない人には「好きな絵を描いて、好きな漫画描いて生活をしていてい

いですよね」とよく言われま
すけれども、こういうのって
結構大変なんですよね。その
期限までに出さないといけな
いとか、出すからには面白い
のにしたいとかね。

たむらさん 仕事になっちゃ
うと義務が出てきちゃうんで
すよね。売れないと暮らせて
いけない上に、好き勝手描い
て良いかというと、それでは
ホビーなんです。厳しい世界で
すよね。販売する絵本や絵は

商品ですから。

井上さん　そういうのとは別に
なんです、画商さんにど
んなのが売れ筋かたまに聞く
んです。今のお客さんに喜ば
れるのが何か教えてくれた
ら、それを描くからと。そし

よく個展に足を運んで見てくださるお客さんは、いつもと違う作品があると嬉しく感じるものですよね。

井上さん 好きに描いていて
も、《多層海》シリーズだと
大きくて高いから買えないの
で、小さいのを描いてほしい
という人も（笑）。でも、そ
れはそれで面白いと思いま

す。最小限何があつたら、《多
層海》になるのかなと。
たむらさん 井上さんは描い
ていて、デジャヴを感じませ
んか？ 僕は雑誌の表紙連載
でしょっちゅうです（笑）。

井上さん 僕は逆に、物忘

れがいいから（笑）。いいアイデアだと思つていたのが、遡つてみたらすでに描いていたりします。でも、忘れて描いているから、生えている植物の種類とか季節が変わっているんですよ。

世界が広がった先

たむらさん 実は、2000年代ぐらいまで、僕が描く絵本は子供が好きなはずと思っていた

んです。絵本の王道を描いてい
ると。

井上さん 違うんですか。
たむらさん 多くの子には書
店や図書館で僕の絵本が見え
ない。少数の子にだけ見える
らしいのです。井上さんの作
品もそれに近いのかなあ。

井上さん　そうですね。
たむらさん　子供は自分から
周囲に世界を広げていくんで
す。最初に自分自身がいて、

世界の共有

井上さん 描いた時期と読んだ時期の時系列はわかりませ

んが、僕の漫画は、たむらさ
んの漫画も影響していると思
います。その世界がどうい
う世界なのかを見せるだけの、
淡々と流れていく漫画があつ
てもいいんだと。とても面白
く感じました。

たむらさん 僕らは世界を共に
有でできるのがいいですよ。ね。
井上さんの世界を借りて、僕
自身が描いてもいいし、逆も
いい。そもそもその漫画を

偶然手にしていなければ、僕らは出会っていないわけですし、今の僕たちの繋がりも、20年以上にわたる関係もないですからね。

井上さん 本当にそうですね。今日はじっくりお話しできて本当に良かったです。



画家・北見隆

独立を後押しした恩人

北見隆さんは、井上直久さんが独立の決断をする後押しをしてくださった方の一人だそうです。古くからのよしみである北見さんに、井上さんについてお話を伺いました。

ました。スタイリッシュな方でもあるんですね。

独立を悩まれていた当時は、僕だけでなく、いろいろな方にご相談されていたのではないのでしょうか。井上さんは、広告代理店を退職後、学校の先生を勤めながらの二足のわらじで、『詩とメルヘン』に絵を執筆されて

はつきりとは覚えていないのですが、おそらく月刊誌『詩とメルヘン』のパーティー会場で初めてお会いしたのではないかと思います。1980年代の前半と記憶しています。

常々、『詩とメルヘン』で井上さんの絵を拝見していて、作品のサインの入れ方が印象的で、どんな方なのかなと思っていました。右下に小さくサインを入れるのが一般的なのですが、井上さんのは赤のカタカナで、絵の下左端から右端いっぱい、等間隔に隙間を空けてサインされています。几帳面なのか目立ちたがり屋なのか、どういう人なんだろうと、気になっていました。井上さんがかつて広告代理店でデザインの仕事もされていたと伺い、納得し

印象深いエピソード

変なエピソードしか覚えていないのですが（笑）。立食パーティーなどで、グラスとお皿で両手が塞がると料理を食べにくくなりますよね。会場で井上さんとお会いした時、僕がお皿の

上にグラスを乗せて、料理を取ったり食べたりしている様を見て、「このスタイルは便利だ！」と、えらく感心されたのを覚えています。妙な事で驚かれたものです。

昔と変わらない律儀さ

実は1995年秋に、僕の仕

場が火事になり、その年の暮れの『詩とメルヘン』パーティーで、僕は話の種つもりでそのエピソードを井上さんにお話したんですよ。そしたら、井上さんは後日、わざわざご丁寧なお手紙と共に、お見舞金を送って来てくださったのです。そんなのこちらは期待していたわけではないので、本当に律儀な方だなとびっくりしました。その時の事は今でもとても感謝しています。律儀といえば、井上さんはいつもコメント付きで個展のDMを送って来てくださるんです。DMだけでなく、見に行った展示の礼状までいただく事もあります。僕なんか友人として、ただで絵を見させていただいて、その上たわいもない話をして帰るだけの客なのに……人として誰でもできることでは

尽きないイマジネーション

イマジネーションの無限の

アミーバのようなものが見えますよね。井上さんはそれを視覚化しているのではないかと、僕は推理したわけです。そしたら、井上さんは「それじゃあ、飛蚊症ではないですか！」って笑っていました。

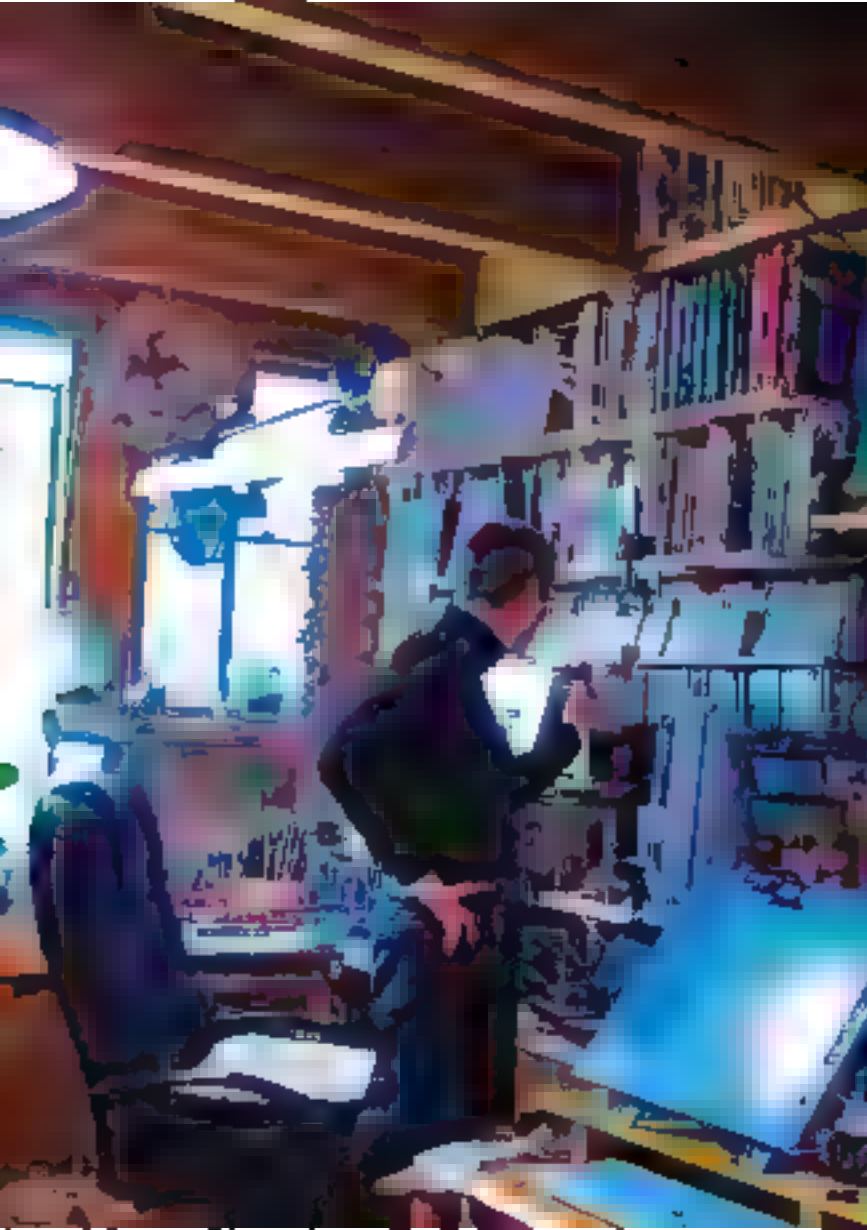
浮かんで来たイマジネーションを的確に表現でき、それを過不足無く人に伝えられるという技術は、並大抵のものではありません。井上さんのイバラード世界は今後もイマジネーションが尽きる事がないと思いますので、ご本人とお会いすることも含め、作品を拝見するのをも楽しみにしています。

北見隆さん
東京生まれ。宝塚大学新宿キャンパスで教壇に立つ傍ら、フリーランスとして書籍の装丁、挿画、絵画、版画、立体作品などを手掛けている。

北見隆さんブログ情報：
TAKASHI KITAMI from the studio
URL <http://www.ne.jp/asahi/takashi/ku/mu/>







「何読んだ？」

——今回の特集のために、お好きな作品を、読まれた本、観た映画、聴いた曲、とそれぞれ選んでいただきました。それらは白ずと井上さん自身の血肉となり、作品創作にも影響を与えているものもあるかと思えます。井上さんの興味の幅が広い分、挙げていただいた作品も多く、残念ながら割愛となったものも多いと思うのですか、いかがでしょうか。

井上さん 絞るのは本当に大変でした。もつと挙げたいものがたくさんあったのですが……。無理やりではありませんが、まとめてみました。

『少年ケニヤ』 作・山川惣治

3歳の頃大ファンでした。老いて見捨てられたかつての勇者と、父とはぐれた健気な日本少年が、アフリカの奥地で助け合いながら、誇り高く困難に立ち向かうという冒険絵物語です。

当時は産経新聞に連載されていて、後に単行本になりました。敗戦からの復興に立ち上がる日本人を励ます良いお話でした。僕は父の膝の上で、毎日ワクワクしながら、読み聞かせてもらっていました。毎朝のそのひと時がそれはそれは楽しみで、今思えば、この上なく幸せな時間でしたね。

宮澤賢治

大学生の時の通学の中、列車の中で繰り返し読み、感動したのを今でも覚えて

います。あらゆる人の幸せを願う、無私の世界観、作品の中に感じられる色彩感、小さなものに対する愛情、ユーモアのセンス、なんともいえない幻想性……挙げたらきりがなく、魅力に溢れています。

全作品、大好きです。なので、今の僕の思想自体が、彼の大きな影響の下にあると言っても過言じゃないです。

『ロビンソン漂流記』

作・ダニエル・デフォー

僕は、この本が大好きな少年でした。いろいろ工夫して生き延びる姿勢だけでなく、たった一人で生活するという境遇も魅力でした。しかしその境遇も、船の積荷にあった火薬や鉄砲、麦の種、何より文明社会から持ってきた知識の恩恵によつて保たれていて、やがて仲間もでき、文明社会に帰れたんでしたよね。そこが、もし晩年まで孤島で一人孤独のまま死んでしまうという日記で終わっていたら、あまりに悲惨で読めない話になっていたと思います。

『アシモフの科学エッセイ』

作・アイザック・アシモフ

この本を読み、もし宇宙があらゆる秩序で無数にできたら、地球の周りを太陽が回っている天動説の宇宙や、地面が平たくて端へ行くと海が滝になっている宇宙があっても面白いのでは、と思いま

した。

アシモフの科学エッセイ10巻『存在しなかった惑星』は、繰り返し読みすぎたせいで、バラバラになってしまいました。

手塚治虫

幼い頃に読み、知らなかった世界が広がりました。

『けいおん!』 作・かきふらい

『へうげもの』 作・山川芳裕

世の中から2周遅れながら読みました。これ、前者はたいした事件もなく、ささいな人間関係の妙味を描いた作品なので、日本伝統ジャンル『枕草子・源氏物語』型に似てますね。後者は大事件に翻弄される物語なので、日本伝統の『平家物語』型だと思いました。マンガながらも、日本文化の継承と革新をしてるところに感心しました。

前者はほのぼのとしていますが、後者は少し「厭世的」で、人間関係と絵にえぐい部分が多少あるので、苦手な方もいるかもしれません。

おかげで利休の意図した「侘び」を考え直す契機になり、清貧を尊ぶ、世界に誇れる珍しい日本の文化がここから来ているのかも、と再考させられ、いろいろ勉強になりました。一方『けいおん!』はこれも日本的な細やかな心遣いの典型ともいえる、4コマずつ縦に描かれた絵巻の样ですね。



その他、Bertrand Russell『哲学入門』、Franz Kafka『家長の心配』『城』『審判』、Jonathan Swift『ガリヴァー旅行記』『桶物語』、Lewis Carroll『不思議の国のアリス』『鏡の国のアリス』、大伴家持『万葉集』、Jean-Eugène Atget『アジェのパリ』、吉田戦車『伝染(うつ)るんです。』、山上たつひこ『がきデカ』、魔夜峰央『パタリロ!』、杉浦茂『少年西遊記』、Albert Camus『異邦人』、Stendhal『赤と黒』、鴨川つばめ『マカロニほうれん荘』、稲垣足穂、J. R. R. Tolkien『指輪物語』、夏目漱石『吾輩は猫である』、Laurence Sterne『トリストラム・シャンディ』、W. Somerset Maugham『太平洋』、九井諒子『ダンジョン飯』 など (順不同)

「何観た？」

『Groundhog Day』

(恋はデジャ・ブ)

監督：ハロルド・ライミス

冬眠から覚めた小さな動物グラウンドホッグが、自分の影を見て、また冬眠するか、それとも春の訪れを知るかというのをイベントにした日のお話。そのこと自体、自分のあり方が、冬眠の果てしない繰り返しか、春の到来かを決めるという映画のテーマになっています。原題は、この映画が単なる成就した恋の話ではなく、世界観の表明であることを示しています。ラストの雪融け、無限ループから抜け出した日の心温まる描写が心に沁みます。しかし、『恋はデジャ・ブ』ですか、そうですか……。あなたにはこの映画、あんまり響かなかったんですな、という邦題に思えてならないんです。それはまあ、わからない人がいるのは当たり前なので、ちっとも構いません。しかし困るのは、この能天気な恥ずかしい題名のおかげで、この素晴らしい映画を誰かに薦めたい気持ちが萎えてしまうことなんです。

『The Illusionist』

(イリュージョニスト)

監督：シルヴァン・シヨメ

素晴らしい映画です。10分も見ないうちにもう一度観て来ようと思った数少ない映画です。アニメ映画では久しぶりに目頭を押さえました。背景の風景が素晴らしいかったです。人物の描写もさすが、バンドデシネの国。くるりと肩が回るところなど、実に自然な立体感で、見事な描写です。特筆すべきは色彩の統一感。深みのある淡い色で抑えた中に、意味のある切ない色が……。ヒロインのワンピースも初めて買ってもらった落ち着きのある赤い靴から、オフホワイトのコート、白い靴、水色の爽やかワンピースと色が変化し、これが心の変化を語る。セリフは少ないのに、優しい心遣いが随所から読み取れ、仕草と表情で気持ちが痛いほどに伝わります。

その他、『Pride and Prejudice』、『Chitty Chitty Bang Bang』、『Blade Runner』、『Week-end』、『Les Parapluies de Cherbourg』、『Miss Potter』など (順不同)

「何聴いた？」

The Beatles (ザ・ビートルズ)

特に好きなのが、『In My Life』ですが、全曲、大好きです。なんせ僕が高校1年生の時に、ビートルズがデビューしたので。つまり、リアルタイムで影響されたんです。大学生の時に雪の金沢の下宿で初めての全世界同時中継で『You Need Love』の演奏を生放送で観たんですよ。歌詞も曲も音響効果もアルバムとのコンセプトもその美術も、全て自分たちで作るという姿勢からは、音楽だけではなく創作活動全般や生き方についても示唆されました。ビートルズの曲は楽曲としても演奏としても素晴らしい。しかし、僕のように40数年以上も聴いていると、さすがに同じ録音はもう聴けなくなつて、アウトテイクや海賊盤を探し、それも尽きれば、そつくりの録音のトッド・ラングレンやお見事なパロディーのラトルズにまで転んでいきます。もし、ビートルズよりもさらにテクを磨きこんで、録音も最新のクオリティーの音で勢いも本家以上、曲の解釈も納得できる演奏をしてくださるミュージシャンがいるならば、間違いなくそのレコードを買ってしまうと思います。クラシック音楽の世界はそういう楽しみで成り立っている、パロディーやコピーではない、アートとしての演奏だと思っています。

『William Tell Overture (ウィリアム・テル序曲)』
Gioachino Antonio Rossini

4歳くらいの時に父の膝の上に乗って聴いてました。「ここは夜明けのシーン」「ここは馬に乗って走っているところ」。父が膝でリズムをとってくれたのが何よりの解説でしたね。



その他、ナポリ民謡『Santa Lucia』、Bob Dylan『Knockin' on Heaven's Door』、The Honeycombs『Have I The Right』、Glenn Gould『Goldberg-Variationen』、Queen『The Show Must Go On』、Sylvie Vartan『Cherchez l'idole』、Franz Liszt『Hungarian Rhapsodies』、Roberta Flack『Killing me softly』、Bob Hope『Buttons and Bows』、Paul Simon『A Church Is Burning』、Pat Boone『Love Letters In The Sand』、The Rolling Stonesと『Paint It Black』などでのBrian Jonesの演奏、Herman's Hermits、Kraftwerk、Pink Floyd、The Hollies、Depeche Mode、The Animals、Sparks、Johann Bach、など (順不同)

「何した？」

陶芸

Pottery

高校教師の頃、授業で陶芸をしようと校庭のはずれに耐火レンガを積んで陶芸窯を作りました。しかし、温度が上がらず、楽焼でしかできませんでした。結局校費で電気釜を買ってもらい、授業に陶芸を取り入れました。

書道

Calligraphy



金沢美大生だった頃、隷書、良寛、会津八一の書に目覚め、自己流の手習を続けました。



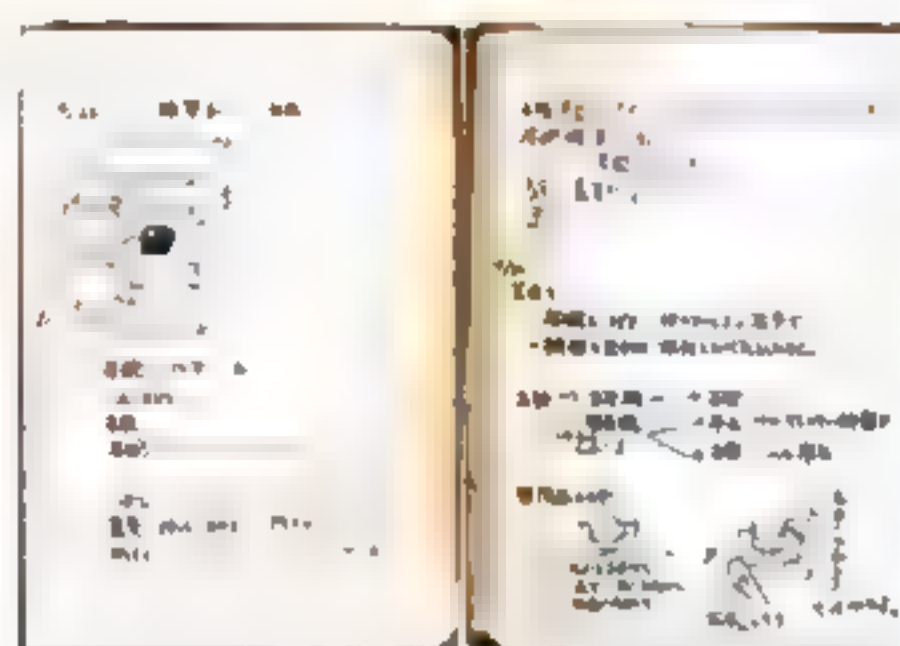
茶道

Tea ceremony

写真は大学生の時、金沢で私が習っていた表千家の村上宗信先生。きっかけは、友人が茶道部の女子生徒に憧れまして、しかし男子生徒一人だけではということで、僕は無理やり入部を頼まれたのが始まりなのですが。大学時代の4年間通い続け、免状と地方講師という小さな看板のようなものまでもらいました。大げさな言い方もしませんが、今にして思えば、お茶を習いに行ったのではなく、お茶人というものを見るために通ったのかもしれませんが。大学で4年間通ったのは、貴重な日々でした。



Photo courtesy of Naohisa Inoue

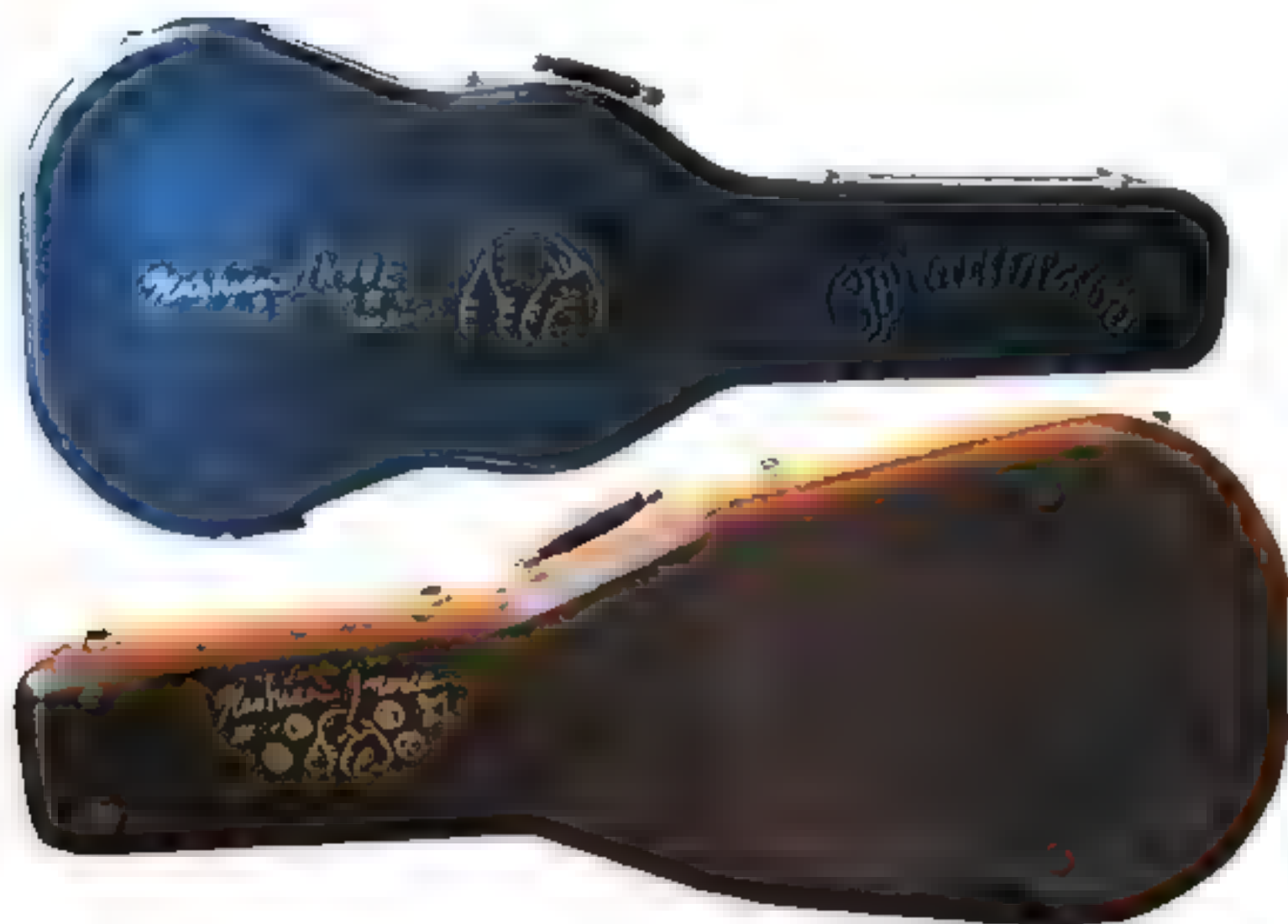


茶道稽古の際の覚え書き

ギター

Guitar

ギターは30年ほど前に買った S.Yairi が最初です（最近同名のブランドが復活したとも聞きましたが、私のは初期型です）。当時5万円、普通の右利きのモノですが、弦を逆に張り替えただけでもこういう形だから大丈夫だろうと左用に使っていました。今よく弾いているのは Martin HD-28V です。



植物

Plant

多肉植物、特に育てにくいリトープス（女仙：メセン）が好きです。胡蝶蘭、デンドロビウムなど冬になるとアトリエの窓辺は鉢だらけになります。



リトープス（多肉植物）



カメラ Camera

ウジェーヌ・アジェとかウィン・バロックが好きで一時は写真にも凝っていました。大学入学時、学校の課題でカメラが必要だったので、父にオリンパスペンFを買ってもらいました。(株)大広に入社のお祝いに、ニコンF2を買ってもらいました。どこに行くにもカメラを持ち歩いています。

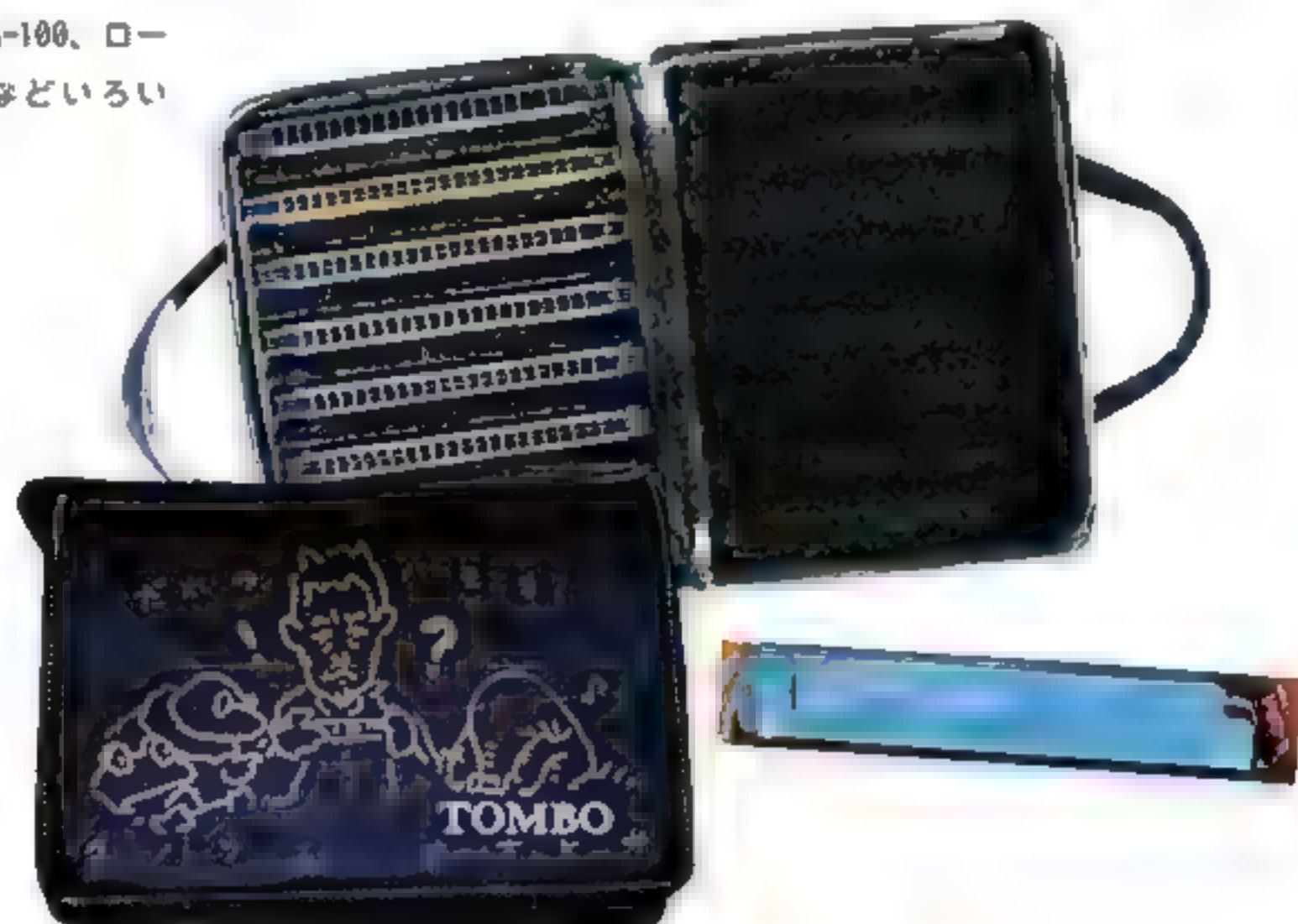


シンセサイザー Synthesizer



上：Roland V-Synth
中央：YAMAHA DX-7 II
下：YAMAHA PORTATONE
最初はRoland System-100 (101、102のユニット)。その後YAMAHA DX-7 II、ドイツのDoepfer A-100、ローランドV-Synthなどいろいろ試しました。

ハーモニカ Harmonica



個展の演奏会の時などに持ち運び、ピアノの演奏にあわせて吹きます。G調 A調 B♭調 D調 E調 F調全て揃っています。ハーモニカはトロボの複音をキー音別に10本ほど持っていて、キー音さえ合えばすぐに演奏できるようになっており、最近愛用しています。



旅行 Traveling

マレーシア、スウェーデン、アメリカ、フランス、中国など、日本以外にもたくさん場所を訪れました。40歳くらいまで海外に行く機会がなかったのですが、環境の違うところへ行ってみると、いろいろ想像していたものが、旅をすると本当に実在していたり想像以上だったりするので面白いです。

その他

ピアノ、アコーディオン、リコーダー、熱帯魚、ボーイスカウト、キャンプ、山歩き、スキューバダイビング(シュノーケルでの素潜り)、飯盒炊爨、水泳、3D立体視(ステレオグラム)の製作、ブーメラン、など

いろいろな楽器でいろいろな曲を作るのが楽しいです。梨が好きなので、大学時代に『Pear Afternoon』という弾き語りの曲を作ったこともあります。



自作の曲を録音したミニディスク。
・公園の歌
・カエルの歌
・青磁のテーマ



右がS.Yairi NewYorker type, 左がMartin HD-28



システム大図解



1990年頃の井上さんのアトリエの様子を描いたイラスト。音楽好きが高じて、ピアノ、シンセサイザー、ギターなども置いていたため、一時はレコーディングスタジオに近い状態になったこともあったそうです



イバードの作り方

無いものを形にするシンプル・メソッド

過去の講演で配布された井上さん直筆の資料を手がかりに、
「イバードの作り方」のエッセンスに触れてみましょう。

井上直久 1/2

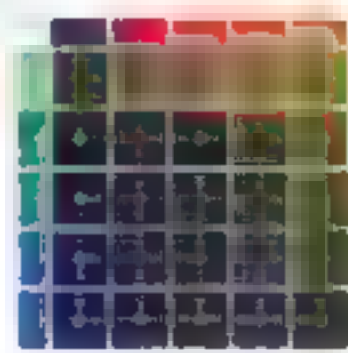
(1) イバード(不思議の町)の作り方

- ① 無いものを形にするには 方法^Aがある
- ② 無いものも思いつくにも 方法^Bがある
- ③ 形にする方法(①)がないと、
思いついても(②)形にできない。



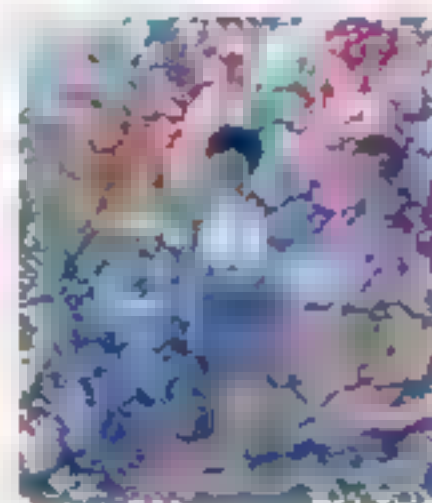
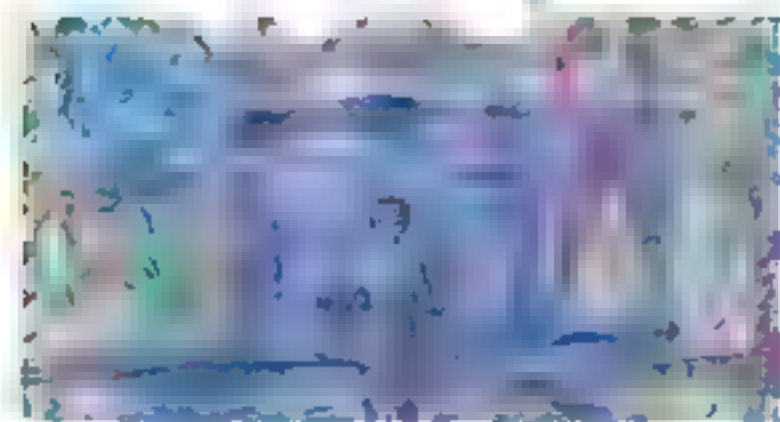
ので、方法^A
(2) 無いものを形にする方法を図解

- ① 遠近法(透視図法)
- ② 彩色技法(色彩遠近法)
- ③ 陰景法(光線追跡法)



^B
(3) 意識していないものも、思いつく方法

- ① 遠い記憶(「おぼえている」からには何かがある)
- ② 夢 — 夢の景色は、心にあるものでできている
- ③ あいまいな形の中に連想を探索 無意識に
てがかりを



(4) 以上の図解説明パネル・作品にあわせ、その方法がわかりやすく
現れた「イバード画」も展示する。





Interview

力を握る人

これまでどんな方に会ったのかは、その人を持つ上でとても重要だ。井上道久さんには、人を置き込み、巻き込む力があるのでしょう。そんな「やってみない」や「面白そう」といった、ヒンネスだけの感情を導いた朝ひつぎア・堀にお仕事をされた人たちとのお話です

井上直久さんのこと 99

鈴木敏夫

2008年に開催された「茨ラード絵画展」パンフレットより、スタジオジブリプロデューサー、鈴木敏夫さんのエッセイを再録。井上さんとイバラードに対する敬意と、もっと深く楽しむためのメッセージがつまっています。

井上直久さんと僕が初めて出会ったのは、スタジオジブリが映画「耳をすませば」を制作したときなので、もう15年前のことになる。

宮さん（宮崎駿）が、映画の中に出てくる主人公の中学生・月島雫の空想シーンを井上さんが描く「イバラード」の世界で作れないだろうかと考えたことが、そもそもの始まりだった。宮さんは「耳をすませば」

の準備中に、たまたま井上さんの個展（東京での初個展）の案内ハガキを受け取り、ふらりと出かけて見た井上さんの絵がとても印象的だったのでそう思い立った。井上さんご本人にもその時初めて会って、面白い人だと思ったようだ。この映画の監督は近藤喜文だが、製作プロデューサー・脚本・絵コンテは宮さんが担当している。

井上さんの「イバラード」ならば、雫が生み出す空想物語の

世界を他の部分とは違う魅力を持った背景美術で作ることが可能だ。また、「イバラード」は、その発想というか物の見方というか、「現実にある風景も見方を変えれば、こんなに魅力的に見える」という点が「耳をすませば」という映画のテーマと相通じるものがあると宮さんは考えたのだ。

最初、宮さんはジブリの美術スタッフに井上さんの画風を真似て背景画を描いてもらうことを考えていた。しかし、どうせなら井上さんご本人に映画で使う絵そのものを描いてもらったらどうかと僕が提案し、井上さんをお願いしてみたところ快諾いただいた。こうしてトントン拍子で楽しいコラボレーションが実現した。

このときは大小取り混ぜて確か60点以上の絵を、映画のために井上さんに描き下ろしてもらった。大体の作業は茨

木市にある井上さんの自宅で描いていただいたが、山場の1週間ほどは、井上さんに東京都小金井市にあるジブリに來てもらってスタジオの中で背景画を描いてもらった。それも宮さんと机を並べてだった。二人はおしゃべりしながらそれぞれの作業をしていたが、井上さんの明るい人柄もあって、いつもと違う刺激を宮さんも僕も、そして他のスタッフも受けていたように記憶している。特に背景画を描く美術部のスタッフは大きな触発を受けたようで、その後も井上さんと個人的にお付き合いさせてもらっている者が何人もいる。ちなみにこの「イバラード」が使われているシーンは、そこだけ宮さん自身が演出している。

「このシーンを設定することで、中学生同士の恋という地味な作品が『映画』になった」宮さんが、嬉しそうに、そう話し

ていたのを昨日のこのようなように思い出す。

その後も井上さんにはいろんな形でジブリとコラボレーションや協力をしていただいている。2001年に三鷹の森ジブリ美術館が開館した後、井上さんに館内の壁に絵を描いてもらったが、このときもお客さんとやりとりしていただきながらお客さんの目の前で絵を描いてもらったのは、ジブリ美術館にとっても有り難いことだった。中央ホールではその成果である絵「上昇気流Ⅱ」を見ることが出来る。

また、ジブリ美術館の短編の1本として井上さんの原作で「星をかった日」という作品を宮崎駿監督で制作し2006年に公開している。これなどは井上さんがジブリ美術館その他で宮さんと交わした雑談がベースになっており、井上さんはその後自らそのお話を発展

的にまとめて『星をかった日』という絵本を制作している。井上さんのアイディアを元に、同じタイトルだが、それぞれに違う内容の作品が、井上さんと宮さんの手で別々に生まれたとても面白いケースだ。短編映画の「星をかった日」はジブリ美術館で今でも定期的に上映している。

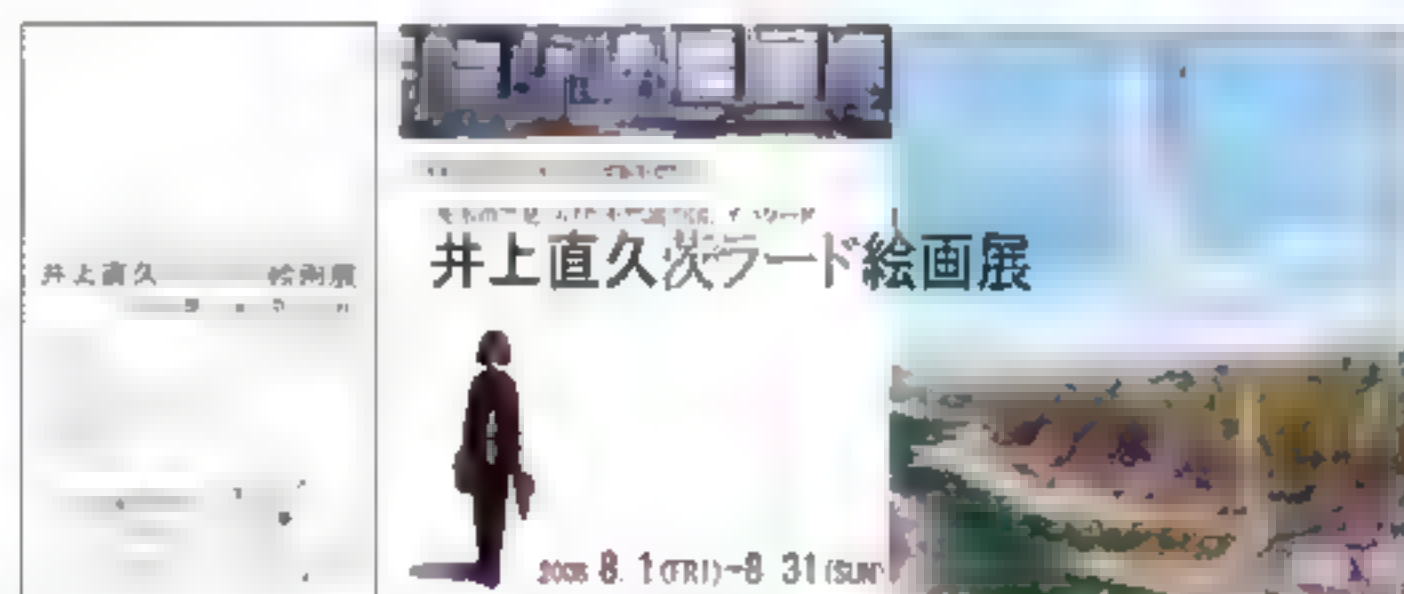
一昨年は井上さん監督、ジブリ製作で「イバラード時間」というDVD／Blu-ray Disc作品を制作しディズニーから発売した。アニメーションではないけれど、井上さんの絵を井上さん自身の演出でデジタル処理して音楽を付けて、いわば「動くDVD画集」のような作品を制作したが、イバラードの世界に新しい魅力を加えるお手伝いが出来たのではないかなと思う。「イバラード時間」はこの種のDVDソフトでは異

例の出荷枚数を記録しており、井上さんのファン層の広がりを感じた。

このように、井上さんとジブリとはずっとお付き合いが続いており、井上さんが上京するときは時折ジブリに立ち寄って交流を深めている。話し出すと柔らかい関西弁でどんどん面白いお話が出てくる井上さんの人柄がジブリの水に合っていたということもあるだろうが、きっとジブリ作品と井上さんの描く世界はそもそも相性がいいのだと思う。今回の展示会は「イバラード」のふるさと茨木市で開かれる展示会なので、井上さんにとっても大きな意味がある。「イバラード（不思議な町）の作り方」がテーマと聞いているが、その発想の秘密を僕もぜひ、覗いてみたい。



Photo courtesy of Naohisa Inoue



「茨（イバ）ラード絵画展」の際のDM

鈴木敏夫さん
1989年株式会社スタジオジブリ入社。
愛知県出身。代表取締役プロデューサーとして多くのジブリ作品を手がけてきた。

“ インタビュー

共に関わってきた22年間 ”

野中晋輔

スタジオジブリ入社当時から、井上さんとお付き合いがある野中晋輔さん。1995年公開の映画『耳をすませば』の制作時期から共に関わってきた22年間で語っていただきます。

——スタジオジブリの当時の様子と井上さんの最初の印象をお聞かせください。

私がジブリに入社したのが94年の5月なので、その時は映画『平成狸合戦ぽんぽこ』の製作は最後の段階で、『耳をすませば』は、もうすでに準備段階でした。井上直久さんにお仕事のお願いをしたのが、その頃か、ちよつと後ぐらいだったと思います。

私は、鈴木敏夫プロデューサーと一緒に仕事上の契約のやりとりの際に井上さんとはじめてお会いしました。『耳をすませば』の監督は近藤喜文さんなんですけれど、主人公の月島雫の空想シーンは、宮崎駿監督が自ら考えて描いた、特別な、ある種独立したシーンなんです。短い映像なんです。映画の要となる重要な部分だと思います。このシーンでイバラードの世界観を使

わせていただきたかったというところで、井上さんにコンタクトを取ったんです。イバラードをシークエンスのために使わせてほしいということと、その背景を井上さんに描いてほしいというお願いをしたところ、井上さんは非常に快く引き受けてくださいました。

初対面の時から井上さんの印象というのはお変わりなく、すごく明るく、ユニークでエネルギーがすごかったです。宮崎監督にはじめて会った時も、鈴木プロデューサーの時も同じ印象を受けました。やはりこのようなご自身の世界観をお持ちの方は、一味違うオーラというか共通した部分があるなとは常々感じます。井上さんが関西弁で話されるのも、当たり前な話ですが、ここ（関東）では、関西弁には触れないからこそ余計、新鮮に感じますね。そこがさらに

人当たりの良さと魅力度を増すポイントだと思います。

井上さんはいろんなことに興味をお持ちで、どんなことにも詳しいんです。ジブリは毎年社員旅行をしているのですが、1994年の秋に、たまたま奈良に行きまして、その際に井上さんが案内をかつてでてくれました。奈良の歴史などにも大変詳しく、解説もしてくださいながら、飛鳥方面などいろいろとお寺を回りました。宮崎監督、鈴木プロデューサー、高畑勲監督などのジブリ最重要メンバーに私もご一緒しまして、井上さん率いる10人ほどのツアーで回らせていただきました。『耳をすませば』の制作の合間だったんですけれども、この時は監督が近藤さんだったので、宮崎監督も高畑監督も行けませんでした。自作を監督中ですと、行かないんですけれども。そ

の後も、ジブリの社員旅行で京都に旅行したことがありました。その際もわざわざ京都まで足を運んでくださり、お昼をご一緒したりしました。

——映画で画家の絵を直接使われるのは、とても斬新な考えだと思うのですが、よくそのような流れになりましたね。

確かに、実際に画家の絵を使った映画ですと、私がパツと思いつくのは、ヒッチコックの『白い恐怖』ぐらいですか。あれではダリの絵が使われていますが、そんなに、多くないかもしれませんね。

実は、『耳をすませば』はスタジオジブリが初めてデジタル合成を使った映画なんです。宮崎監督が、デジタル合成のことは前々から聞いていたもので、そこで、せっくなので空想シーンで挑戦してみよう

ということになりました。

井上さんには、描き下ろしやいろいろなとしていただきしました。しかも、全てカットに合わせて。必ずしも四角い枠に描くわけではなく、パーツのようなものにも描いてもらったり、素材も紙だけではなく、セルに描いてもらった。宮崎監督のいろんなリクエストに応えていただきました。デジタル合成が前提だったので、雲のパーツとかもバラバラに描いてもらいました。

映画は、一人で作るものではなく、いろんな人の力が結集されて作られるものだと常々思います。当初は考えられていなかったいろんな要素がうまく作用しあっている結果となり、『耳をすませば』もいろんな出会いとか、運とか偶然とかのタイミングがうまく重なり合わさったことによりできあがった映画なんです。

——短編映画『星をかった日』の制作時のお話をお願いします。

三鷹の森ジブリ美術館は2001年の10月1日に開館したんですけれども、確か開館してすぐくらいのタイミングで、宮崎監督が井上さんに壁画の依頼をしたんです。美術館の壁に2点ほどあるのですが、その一つが『上昇気流Ⅱ』という名で、宮崎監督が以前購入した絵の別バージョンなんです。お客さんが見ている中でも描かれていたもので、

当時は結構面白い空間になっていたようですね。

私は後からお話をお聞きしたのですが、そこで宮崎監督と井上さんが会話をされた際に、井上さんが口頭でお話をされたイメージをベースに作られたのが『星をかった日』なんだそうです。『星をかった日』の原作は井上さんなのですが、映画の制作の段階では

まだ絵本が現物としてなかったんですね。

井上さんの話をベースに、宮崎監督が自分なりに絵コンテを描き、話を持ちこんだところ、井上さんが非常に快く承諾してくださったんです。最初は、主人公が井上さんの中では女の子、宮崎監督の中では男の子と、どちらも譲らずな感じだったそうですが（笑）。その後に、井上さんも『星をかった日』を絵本として実際に形にしました。

これも後から聞いたお話ですが、『星をかった日』の裏設定が映画『ハウルの動く城』の若き日のハウルと荒地の魔女の話なんだそうです。100%同じキャラ設定というわけではないと思うのですが、宮崎監督の意識の中でキャラクターが繋がっているというかなんでしょうね。それには、やはり時期も関係する

のではないかとされます。
『ハウルの動く城』の後にジブリ美術館の短編映画として『星をかった日』を制作したので、たぶんそのハウルの影響というか、流れの中でイメージの投影があったのかなという感じがしますね。正解とか正しいというよりは、2つのキャラクターにどこか関連があり、繋がっているってことでしょ。うね。作品と作品がどこかで関係していたりするので、創造者というのは面白いですね。

DVD / Blu-ray

Disc『イバラード時間』はどういった経緯でできあがったのでしょうか。

『星をかった日』が2006年に公開されたんですけれども、作ってる最中か公開の後に、『イバラード時間』のお話ができました。『イバラード時間』は一応私がプロデュー

サーという肩書きになつていますが、どちらかというとジブリ側の管理担当という感じでした。なので実際は、井上さん自身がプロデュースをかなりしているといっているのではないかと思います。もともと井上さんが自分の絵を使つて何か映像作品を作りたいということと構成案を組み、企画を立てられたんです。音楽は松尾清憲さんと小室和之さんをお願いをしたんですが、確か1年くらい前には、すでに何曲か用意されていたそうです。映像は、ただ静止画を動かすというだけではなくて、そこにCGも加えて絵を動かしたいということも井上さん

のご意向で、すでに手配もされていました。ある程度そういった枠組みができ、内容も固まってきた段階で、ジブリに、「キャラクターも動かしたい」と井上さんから話がきま

した。実はこれ、ジブリの最初のブルーレイなんです。ブルーレイディスクは2005年ぐらいに一般に広まったと思うのですが、ジブリの長編もののブルーレイはこの時点ではまだ出てなかったんですね。動く画集のような感じで、じっくり見ても、流して見ても楽しめる、非常に面白いものができあがったのではないのでしょうか。

『イバラード時間』というのは時間が大事なんです。絵はやっぱり止まっているというか、観ている側の時間は動いているのですが、作品の世界の中で時間が流れるというわけではないので、その中で流れている時間を、音楽も加えて、効果音も加えて作り出そうと。井上さんは時間を追った世界を作りたかったということがあったんじゃないかなと思います。



野中晋輔さん

岐阜県出身。1994年5月、株式会社スタジオジブリ入社。現在、制作業務部取締役部長。法務・著作権、広報・関連事業等の業務を務める。

DVD&Blu-ray Disc

『イバラード時間』

時間：30分

監督：井上直久

発売元：ウォルト・ディズニー・スタジオ・ジャパン

DVD：3,800円＋税 / Blu-ray Disc：4,700円＋税

ジブリ美術館短編アニメーション

『星をかった日』

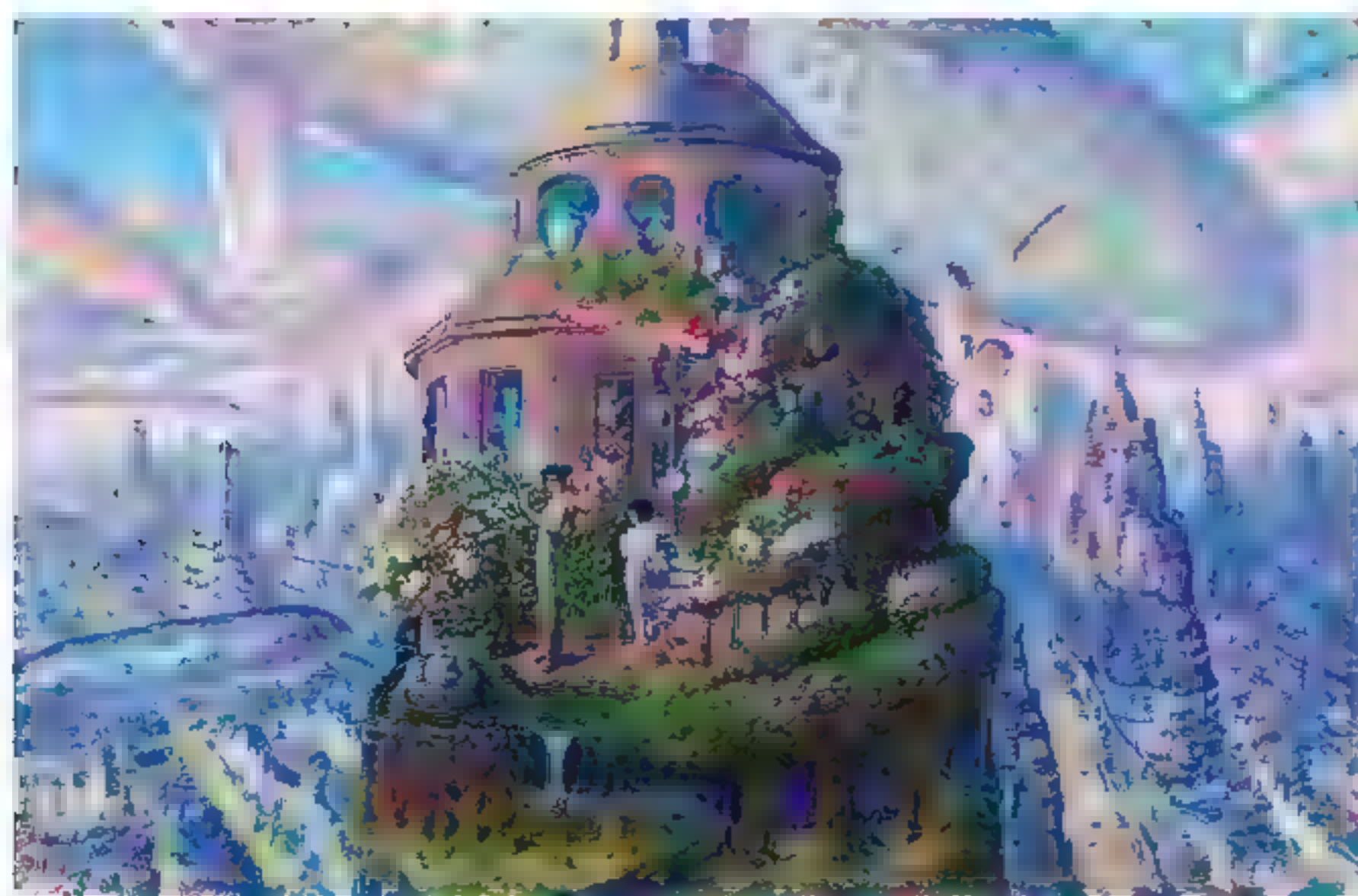
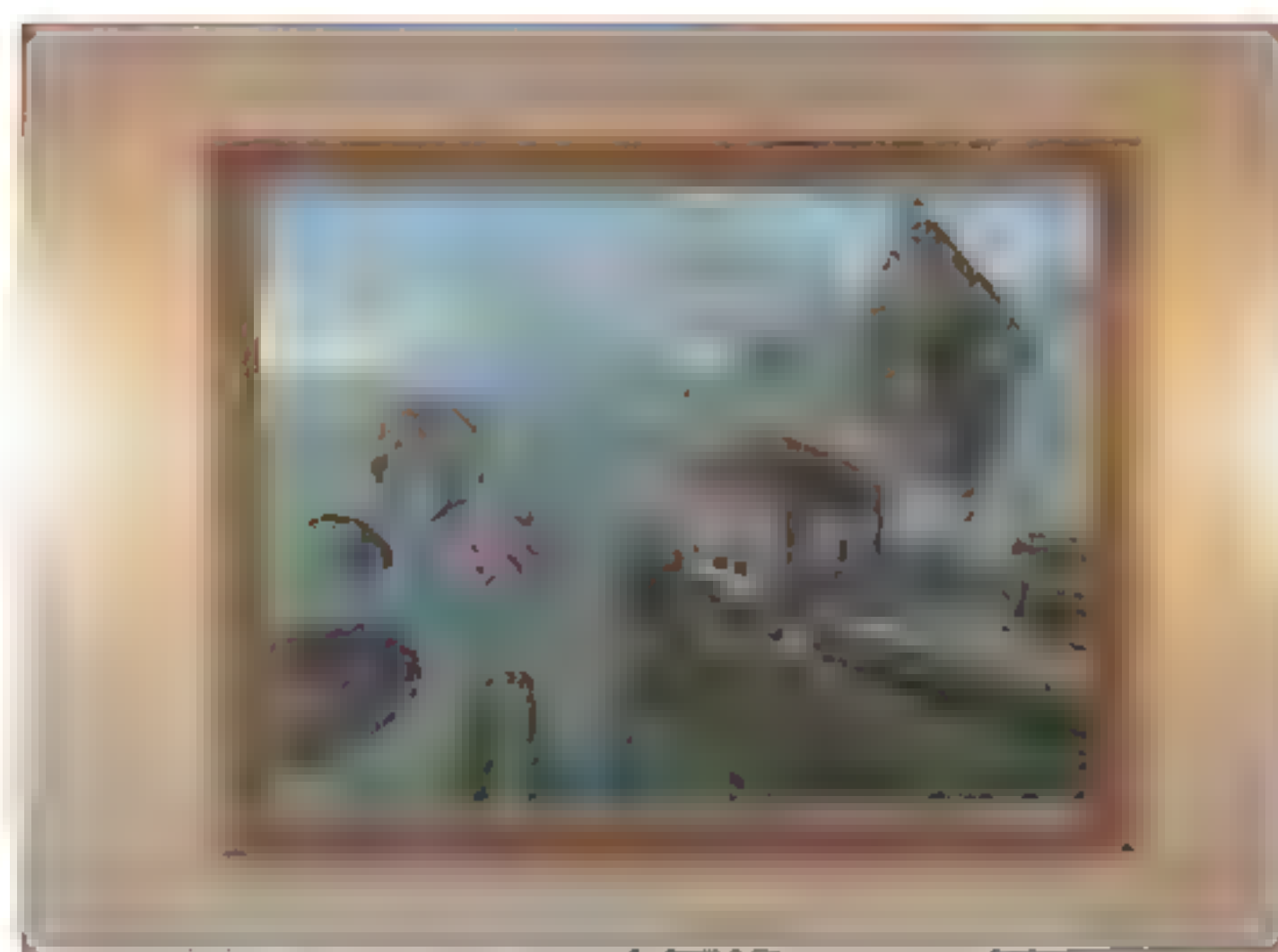
上映時間：約16分

原作：井上直久「イバラード」より

脚本・監督：宮崎駿

上映スケジュール等は、ジブリ美術館のホームページでご確認下さい。

URL：<http://www.ghibli-museum.jp/>



1. 壁画作成時の井上直久さん。椅子には「はなしかけてもだいじょうぶです」と記されている
2. ジブリ美術館で見ることができる《上昇気流Ⅱ》
3. 同じくジブリ美術館の壁に描かれている《明かりのもれる店》
※館内は撮影禁止となっており、特別な許可のもと掲載させていただきます
4. 《空の泉》2005
野中さんが個人的に井上さんの個展に足を運んだ際に購入。ぼんやりとした気持ちで赴いたが、見ているうちに欲しくなったという

Photos courtesy of Naohisa Inoue

66 インタビュー

同じ画家として ”

男鹿和雄

映画『耳をすませば』以来、同業者として、また友人としてお付き合いのある男鹿和雄さんに、井上さんについての質問に自筆で答えいただきました。

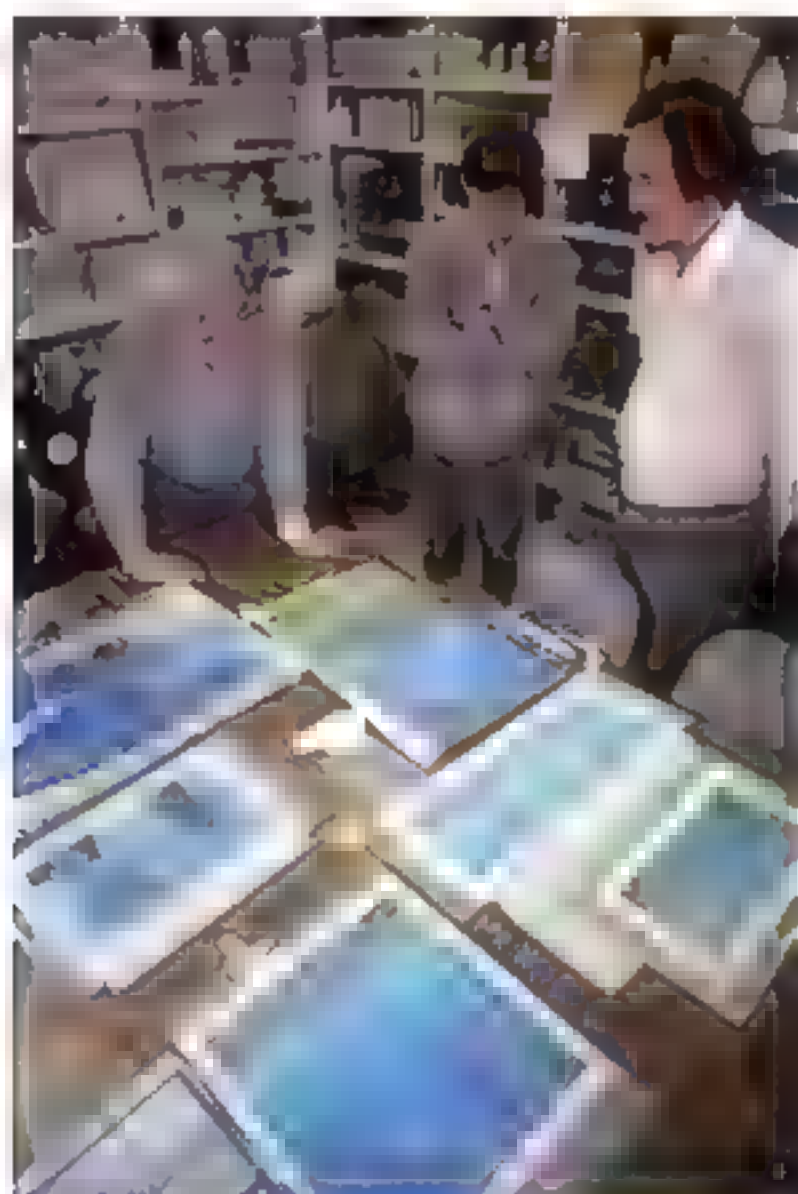
男鹿和雄

Q1. 同じ画家として、井上直久さんの「すごい」ところはどこだとお考えですか？

井上さんは「イバラード」という独自の世界を独特のタッチで表現している点が一番すごいかな。
それだけでなく、同じ世界を漫画でも描いているし、絵の中から聞かなくても音楽も演奏できる程で。
おしゃべりも大変面白いし、あの雰囲気ですから役者をやっても鬼気迫る存在になれるんじゃないでしょうか。
話には聞いてませんが陶芸家をやっても似合いそうだし、面白い作品ができそうです。
これでもまだほんの一部しか井上さんのすごいところは分っていないかも。
知りませんが、尊敬と同時にその才能が羨ましいです。

Q2. お仕事で井上さんとご一緒された際、印象深いエピソードはございましたか？

井上さんは「耳をすませば」の映画作りに参加するために、スタジオジブリにやって来ました。
アニメーションのスタジオがめずらしいらしくて、好奇心旺盛な井上さんは、様々な部署をのぞいては、スタッフに話しかけていたようでした。
やはり美術(背景)の部屋には強い関心があったようで、良く来てはみんなとの雑談を楽しんでいた。
職人としての仕事に優先される僕たちにとっては逆に、新鮮な空気と面白い話を運んで来てくれた人、として見ていました。
「耳をすませば」の中で井上さんの描いた絵に直接背景風の一部を描き足す、という役割りが僕に与えられました。恐れ多いと思いますが、直接上から描くのではなく、一枚重ねた透明なセルの上から描いて無難に井上さんとのコラボレーションが出来たのはいい思い出です。



映画『耳をすませば』製作
当時の様子。写真左から、
宮崎駿監督、男鹿和雄さん、
井上直久さん

Photo courtesy of Naohisa Inoue

Q3. 井上さんの作品の魅力は何だと思えますか。また、お気に入りの作品がございましたら教えてくださいませんか？

やはり Q1. で答えた「イバード」という独自の世界の表現ですね。
これは以前井上さんに聞いたことですが、あの世界の画面構成を考える時、
まったく関係のない風景や物体を画面に入れ込んでみる必要があるそう。
その表面をイバード風に描いていくと、想像もできなかった面白い不思議な
空間になる、といったお話も聞かせていただきました。
以前 池袋の東武ギャラリーで個展をされた時に見た
海の絵がとても気に入りました。
タイトルも詳細も忘れてしまいましたが、右のような
静かな入江の絵で、かなり大きい作品でした。
透明感のある深い海の色と、白い砂浜が
印象に残っています。



かなり遠くまでいとも知らず
小舟もあったかと思う



Photo courtesy of Naohisa Inoue

男鹿和雄さん

秋田県大仙市（旧太田市）生まれ。アニメーションの背景専門会社、
小林プロダクションにて『ど根性ガエル』『家なき子』『エースをね
らえ』など数々のアニメーション作品に携わり、1987年に宮崎駿監
督にスカウトされて以来、スタジオジブリ映画『となりのトトロ』『お
もひでばろばろ』『崖の上のポニョ』などの作品で美術監督を務める。



右ページの絵は映画で使用される前の井上直久さんの原画。左ページの絵は、映画の中で使用されている「借景庭園+図書館のある街」のセル画。井上さんの元の背景画の上に、男鹿和雄さんが『耳をすませば』の街並みを加筆した、井上さんと男鹿さんのお二人で仕上げた合作。

井上さん曰く、男鹿さんが「井上さんの絵は、描きこんでいるようでうまく手を抜かれているので描き足しやすかった」とおっしゃっていたそうです。



『耳をすませば』
公開：1995年7月15日
上映時間：111分
■ 監督：近藤喜文
脚本・絵コンテ：宮崎駿
原作：柊あおい



牧師のハガキがもたらした満ちあふれる

陸奥 山形市東山形 山形県

1978 年 11 月 12 日

11. 20. 2017	12. 20. 2017	13. 20. 2017
--------------	--------------	--------------

● 少子化対策 少子化対策 少子化対策 少子化対策 少子化対策



图 4-1-10 设计色彩应用作品

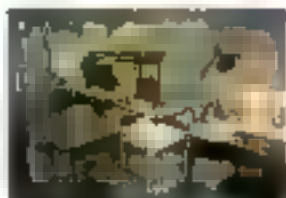
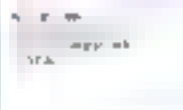
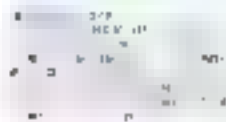


图 4-1-10 设计色彩应用作品

图 4-1-11 设计色彩应用作品

图 4-1-12 设计色彩应用作品

图 4-1-13 设计色彩应用作品

图 4-1-14 设计色彩应用作品

图 4-1-15 设计色彩应用作品

图 4-1-16 设计色彩应用作品

伏線が張られていたかのような出会い

奇跡のような偶然が起きたのは、今から20数年前のこと。映像画集『イバラード時間』の音楽を手がける小室和之さんと松尾清憲さんが井上さんとの出会いと、ミュージシャンでも舌を巻く独特の感性について語ります。

小室さん これまた本当に偶に「あー、あれはもうないんですよ」と言われてしまい。「あー、もうどうしよう」と思ったんですが、一応在庫の確認のために店主が引き出しを開けてくれたんです。そしてたらなんと、1冊だけ残ってたんですよ。あらためて本を見つけたんですよ。「なにこれー」って。だいたい「博物誌」と書いてあるのが、当時としては珍しく、変わっているなど印象的でした。その本を開くと——これまたすごい！でも、その場ですぐには買わなかったんです。よく衝動買いをしていたせいで、家族に禁止令出されてたので。でも、家に帰ってから悶々と気になっちゃって……。1週間後にまた同じ本屋に行きました。そしたら、店主

に「あー、あれはもうないんですよ」と言われてしまい。「あー、もうどうしよう」と思ったんですが、一応在庫の確認のために店主が引き出しを開けてくれたんです。そしてたらなんと、1冊だけ残ってたんですよ。あらためて本を見つけたんですよ。「なにこれー」って。だいたい「博物誌」と書いてあるのが、当時としては珍しく、変わっているなど印象的でした。その本を開くと——これまたすごい！でも、その場ですぐには買わなかったんです。よく衝動買いをしていたせいで、家族に禁止令出されてたので。でも、家に帰ってから悶々と気になっちゃって……。1週間後にまた同じ本屋に行きました。そしたら、店主

松尾さん 雪が降ってたね。

小室さん そうそう。井上さんにしてみても、雪の日で足が悪いからあまり人は来ないだろうと思っていたらしいです。なのに予想外にたくさん来たのでびっくりしたんですって。午前中僕らで、午後

が宮崎駿さんたちだったそうです。結局それが、伏線になり、後にも繋がったんだと思います。きつかけは、この本を本屋でたまたま見つけたこと。そうじゃなきゃ、僕ら知り合っていなかったよね。松尾さん 今考えると、すごいな（笑）。小室さん 僕はその時のインパクトを元に、徳間ジャパンコミュニケーションズの未来ミュージック『イバラード〜イバラード博物誌より〜』のデモテープを作りました。松尾さん 音を作りたくなる絵だもんね。小室さん 普段の僕らのテイストとは異なるのですが、できてしまったので。勝手に自



松尾清憲さん

福岡県生まれ。1980年、ムーンライダーズの鈴木慶一さんのプロデュースでデビュー。小室さんと結成した、ユニットバンドBOXのメンバー。未来ミュージック『イバラード〜イバラード博物誌より〜』にて、松尾さんが作曲を手掛けたのは、「ニーニヤの店」。



分たちでカセットに「イバラード」と書き、井上さんに送りました。そしたら、喜んでくれて。ここからドラマ的にすごいことが起こったんですよ。その時たまたま井上さんにNHKの取材があり、そこでの撮影中、ディレクターが、アトリエで「イバラード」と書かれたカセットを発見してくれたんです。そこで、僕らのことが話題に上がり、そこからはもうトントン拍子で。すぐにレコーディングになりました。

いいものは醸造される

松尾さん 井上さんが「絵はもちろん好きですよ、でも音楽は大好きなんです」とおっしゃる時があるんです。

小室さん そうそう。初めてお会いした際も、僕らが音楽をしていると知った途端、目がランランと輝いたし。松尾さん 「音楽!」ってね。小室さん 井上さんと僕の知り合いが僕の家に集まったところがあるのですが、スタジオとかコンサートでは一緒にやっている連中なのに、みんなシャイだから、集まっても音楽を奏でる人がいなくて。なのに、いきなり井上さんがギター持って、「HELP!」と歌い出したり（笑）。ピートルズの曲を、しかもプロの前で（笑）。松尾さん すっごい度胸だなとびっくりしちゃったもんね。もう弾きたくて弾きたくて仕方がないんだらうなあ。

小室さん しかも、井上さん

は、わからなければとりあえず3つのコードでビートルズ

弾こうとするんですよ。イマジネーションで(笑)。

松尾さん 井上さん流(笑)。

小室さん「音楽家って本当にうらやましい」と、井上さんがおっしゃっていたことがあるんです。「絵は一枚描いたものが個展にあり、それを見んなが見に来る。だけど、音楽は、何処でも空間を作れますよね」と。

松尾さん 音楽は目に見えないから、ある意味絵と対照的。だからお互いに引き合う部分があるので、音楽にも興味があるんでしょう。

小室さん 井上さんは、自分の世界を表現したいがために音楽がそこにあると思っっている。「自分のできることで、人の前でやってもいい」と。よく考えたら本当にいろんなことがそうですよね。ここまでできなかったらはいけない、ということは絶対

にないから。

松尾さん 自由な世界ですからね。

小室さん すごく僕が勇気づけてもらった話があるんですが、昔イバラードの曲を作った、そのカセットテープを車の中に置きっぱなしにして忘れてしまったことがあるんです。何年後かに、「これなんだ」って見つけて聴いてみると、すごく面白く響いて、良かったんですよ。それを井上さんに話したら、「それは音楽が車の中でね、醸造されたんですよ」って。

松尾さん 出た、面白い！

小室さん そこから、醸造されるのっていいなと思いましたが、だって、ダメなものは醸造されないでしょう。絵もそういう風に描いているんだと納得すると同時に、音楽もそれで良いんだなと。すごく勇気をもらい、救われました。

井上さんの世界に

マッチしているかどうか

松尾さん 映像画集『イバ

ラード時間』を制作する際、

最初に組んだ事務所がいい加減だったんだよね。

小室さん 井上さんのファンの人たちが集まって、制作しようって話でしたよね。

松尾さん それで音楽なら僕らがやりたいって。井上さんの映像を見ながらその場で曲作ったんですよ。でも、組んだチームの実務がいい加減で。最初結局宙に浮いてしまったんですよ。

小室さん でも、井上さんが「ちゃんと出したいので、ジブリに話してみます」と言うてくださり。

松尾さん だからアニメーションは、ジブリの制作チームで動かしてもらえることになったね。すごいよね。

小室さん 「これは面白い！」と言ってもらえて。でも、井上さんは、僕らの音楽になかなか納得してくれませんでしたね。

松尾さん みんなに合うって言われてから、「これ合いま

すね、いいね」って(笑)。

小室さん 大変なこともありましたが、映像では、海の波が来るシーンがあるんですが、まだCGで波を表現するっていうのが世界的にもなかった時代でした。でも、井上さんが「この波を動かしてほしいんですよ」って、ジブリのスタッフたちに言うて「ジブリでできないんですか！」って。

松尾さん 意外と大胆な発言をズバリ言っちゃうところがいいんでしょうね。

小室さんがつつり組んで仕事したらやばい、と思いました。すごく確固とした部分があり、絶対に譲らない。作品を共同で作っていると、ガツーンとぶつかるとすよね。井

上さんが自分の世界にマッチ

するかどうかで判断しているから、井上さんが見えていない部分をこちらが提示するとは、まずないですよ。試しに、これは違うなというのを持って行ったこともあるのですが、当然ながら「困りますね、小室さん」って怒られちゃって、ダメでした(笑)。

松尾さん 逆に「え？あれ、好きじゃないの？」ということもあつたり(笑)。そこ

がまた面白かつたりする。小室さん 読めない。松尾さん 読めないよね。先に音楽がOK出ていたので、僕ら救われたよね。

小室さん これが逆だったらと考えると……。

松尾さん 大変ですよ(笑)。



小室和之さん

神奈川県生まれ。1978年、キティからシングル『きまぐれなつむじ風』でデビュー。映像画集『イバラード時間』にて松尾さんと共に音楽を担当する。未来ミュージック『イバラード〜イバラード博物誌より〜』で収録されている「イバラード」と「ネバーランド・エバーランド」の2曲の作曲と編曲を手掛けた。



“インタビュー

音楽が好きな画家、絵が好きな音楽家”

中村由利子

趣味の域を超えるほど、絵と同じくらいの愛情を音楽にも注ぐという井上直久さん。短編映画『星をかった日』のバックミュージックなどを担当した音楽家の中村由利子さんに、業種の畑は違えども、同じ表現者として関わってきた井上さんについて語っていただきます。

最初にお会いしたきっかけ

は確か、CD-ROM シンフォレストの『イバラードの世界』だったかと思っています。その時は、作曲ではなく、ピアノの演奏を頼まりました。

はじめの印象から井上さんは、全く変わられていません。本当にユーモアに溢れて、明るい方だなと思います。井上さんは音楽もお好きで、ご自身で演奏されたり歌われたりもなさるんですよ。ギャラリーなどで私と井上さん、それとイバラードを通じて知り合った音楽家の方たちとコンサートなんかをする際も、私たちももちろん楽しんでるんですけれども、井上さんがいつも一番楽しそうで、それを見てこちらまで楽しくなっちゃいます。その時のお顔をお見せしてあげたいくらい（笑）。それがいつも印象的です。

星をかった日の秘話

井上さんに、宮崎駿さんの作品でしよう？「できるんだろうか、期待に応えられるんだろうか」という思いも大きかったと思うのですが、良い作品に使っていただけたという嬉しさもまた、大きかったですね。作曲のヒントは、井上さんの今までの作品がイメージのベースにあったのと、宮崎さんからの「どこにもないんだけど、なんだか懐かしいメロディーを」とのリクエスト、それと「追憶」というキーワードでした。あと、宮崎さんから言われたのが、ピアノ、バイオリン、チェロという楽器編成だけでした。

映画『星をかった日』は、井上さんのオリジナルの世界観に宮崎さんマジックも加わった作品だと思います。ストーリー自体はあまり語られ

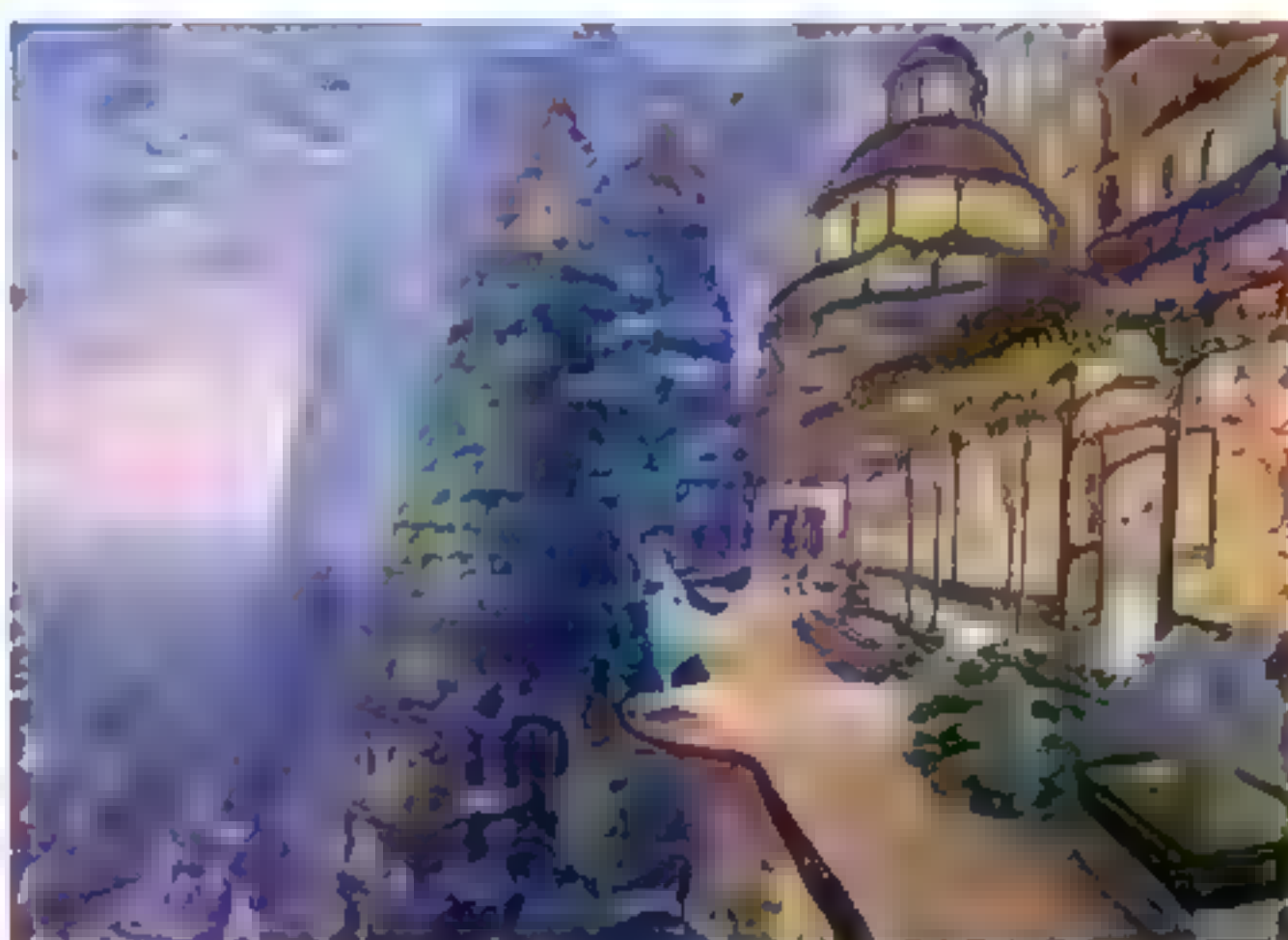
ていなくて、「イバラード」が何とか、「時間局（※時間を管理する機関）」がどうか説明が十分にされていない部分があるかとは思いますが、ちゃんと観てくださった方たちに宮崎さんのメッセージがしっかりと伝わり、「ああ、そうだよね」と納得して帰れるような映画になっているかと思えます。この作品に携わることで、井上さんの原作が形になるのに時間がかかってしまうわけもわかりましたし、絵本となつて拝見した際も、また少し違った井上さんの世界として楽しめました。

最初、井上さんの思い描く主人公は女の子でしたし、宮崎さんの描いた主人公は男の子で、どちらも譲れなかった部分だと思うのですが、それぞれのイメージが作品として表現されていて素敵ですよ。

宮崎さんが井上さんに言わず絵コンテを先に描いてしまったこともすごいのですが、それを見た井上さんが喜んで映像化の話が進んでいったことも面白いと思います。

決め込まない作風

《天文館の宵》という絵を、私の部屋のピアノの脇に飾っているんですが、この作品にはこうなる前の絵があるんです。前の作品と女性の位置や描かれているものが違うんですが、ある時、描き変えたらいいんです。そんな、絵がどんどん進化していつているような、ご自分の作品について決め込まないところが素晴らしいですよね。その日キャッチしたものだったり、気持ちも環境も世の中も毎日変わるように、どんどんご自身の絵も変えていってしまう自由な発想を、私も井上さんを手本に考えるようにしてます。



天文館シリーズ

1.《天文館の夜》1982

月刊『詩とメルヘン』昭和57年(1982)11月号に掲載。詩は岡村理恵子「風邪と共に真夏の夜の夢」*今夜の風は／桜島の灰を運ぶ錦江湾からの風ではなく*に始まる鹿児島島の街が舞台。天文館は実際の地名と、後になってやなせ編集長の指摘で知った。

2.《ナイトブリーズ》1992

《天文館の夜》をアレンジした長辺27cmほどの小品。1992年、茨木市のギャラリーエスタビエン新作展に出品。夜風を楽しむテーマは同じだが、構図や天文台の位置も違っている。人物を大きく中央に配し、ポーズも自然な感じで風が感じられるものに。

3.《天文館の宵》(初期) 1999

《天文館の夜》の設定を元に建物を大きく配置。“惑星の木”の盆栽を手前において遠近感を強調。ヒロインは大人の女性になり、初めは空中に飛び立とうとするポーズだったが、高い場所ゆえの不安感があったので、少し下がった位置に立つよう修正している。

4.《天文館の宵》(最終) 2002

3の絵に加筆したもの。手前にあった鉢植えを後ろに下げて、ヒロインを浮き立たせ、ナイトブリーズに似た、風を楽しむポーズに変更。遠景にラピュタ、中景の空に小惑星を追加、後ろの建物の入り口を開け多層海の模型をおいている。完成形、個人蔵。

画家はまるで魔法使いみたい

私の父が井上さんと同じ画家という職業で、作風は全然違ったのですが、人物としては、共通するところばかりが思い浮かびますね。話も好きで、面白く、みんなでわいわいするのも好きでしたし。そして何より、父も含めてご縁がある画家さんもみんな、魔法使いみたいに思えるんです。アトリエというほどのものはなかったのですが、父が自宅で絵を描いている作業をよく目にしてまして、前日に見た絵が、次の日また見に行くと変わっていて……という驚きをよく経験したので。当たり前かもしれないのですが、ただ黙々と作業を積み重ねているだけではなくて、他に特別な、それこそ魔法か何かをかけているんじゃないのかなって感じてしまうんです。

絵を見る度に発見がある

私は同じように表現できるものとして、音楽の方が向いていると思う、音楽の道に進みましたが、父から教わった絵のことが、音楽にも生かされていていると思います。一緒にスケッチなんかしていると、何を一番描きたいのか、何を一番入れたいのか、あとどこまで入れたいのかといったことを父によく言われてましたので、世界をどう切り取るかという構図のようなものを作る曲の際にも意識します。音楽と絵って違うけど、そういうところって一緒かもしれないですね。しかし、井上さんの作風は、どう切り取るのか、構図どうのこうのというよりも、その中にいろいろなものが無限に描きこまれているように感じます。ですが、ぎゅうぎゅうに詰め込んでいるという風

ではなく、イバラードの一枚を切り取って描かれているように見えます。絵を描いて表現していることの次元が違うんでしょうかね。

それと、井上さんの絵には、子供の時の大事な思い出や、忘れてはならない大切な記憶などが描かれているようにも感じ、見る度にいつも原点を思い起こさせてくれるんです。

きっとみなさん、井上さんの絵を見る度に印象が変われるのではないかしら。絵がすごく細かく描きこまれているので、見る度に発見があるんですよ。例えばイバラードのことを全然知らなくても、見入っているうちに自然にすーっと中に入り込めて、自分の中でいっぱい物語を作り続けていける。そんないつまでも見ていて飽きずに楽しめる作品だと思います。



中村由利子さん

横浜生まれ。1987年に本格的に音楽家としてデビューして以来、CM、アニメーション、ドラマ、映画などのさまざまなジャンルに携わり、多くの音楽を世に送り出してきた。

中村由利子さんオフィシャルサイト：
<http://yurikopia.com/>
Twitter: @Yuripen0603

Photo courtesy of Yuriko Nakamura



宮崎さんの絵コンテにあったニーニヤ
を真似てみたものです。意志が強そう
でキリッとしていますね



自然とリンクした二人のイメージ

短編映画『星をかった日』の秘話

三鷹の森ジブリ美術館で上映している短編映画『星をかった日』。イバラードを原作として誕生した本作には、何十年越しの井上直久さんと宮崎駿監督の想いが込められていました。相互の世界が広がっていった経緯を井上さんに語っていただきました。

映画『耳をすませば』が終わった後、三鷹の森美術館中央ホールの壁面絵画を頼まりました。お客さまが見てる前で描いてほしいと。美術館閉館後、宮崎駿さんが様子を見に来られ、その際に宮崎さんに短編映画『星をかった日』の元となるストーリーを「女の子が小さな星を買ってきて育てる話なんです」程度だったと思うのですが、お話ししたんです。そしたら、宮崎さんが「それで？ それからどうなるんです？ もうちょっと詳しく聞かせてください」と少年みたくに目をキラキラ輝かせながら身を乗り出して聞いてくれました（笑）。

次の週に会った時、「井上さん、あの話、映画にできますよ」と。それで、「星を男の子がね……」と続けられるんですよ。「女の子なんですけど」って僕が言ったら「いや、女の子でもいいんです。その女の子が星を買ってくるんですよ。掌に入るぐらいの大きさの星を、ひよこを買った時みたいに大事に手の中に入れて持って帰る、その男の子がね……」と（笑）。もう宮崎さんの頭の中で話ができてるんです。宮崎さんは映画の話になると、次から次へ溢れるようにいろんなアイデアが出て来るんですよ。そんなある日、鈴木敏夫さんができあがった絵コンテを持って、僕のところに来られました。もともとの僕のストーリーだと、女の子がカブを売って手に入れた星を育てるんですが、宮崎さんの映画ではその主人公はノナ君という僕の漫画の主人公になっていました。詳しく説明したわけでもないのに、宮崎さんのノナ君は、漫画のモ

デルだった当時の僕の息子の感じが出ていて、小さな生き物を逃がしてやるときの子そのままだ。宮崎さんは「僕は誰よりもイバラードを読み込んでいますから」と言っておられました。あらためて感嘆。漫画と映画の間の欠けていたピースが埋まった感じがしました。この少し前、映画『ハウルの動く城』が制作されています。宮崎さんが描く、その主人公、特に少年時代はその住まいも、『イバラード物語』の、このノナ君です。ある時話の中で、ニーニャは実は荒地の魔女になるのだと聞き、「ニーニャがあんなでかい顔のお婆さんになるのはイヤだ。せめてサリマン先生に」と言ったんですが、宮崎さんは頑として譲られず、ということもありました。映画『崖の上のポニョ』のお父さん、フジモトは、ノナ君だったそのハウルの、歳月を経た姿のように私には思えます。彼が言う「あの人が来てくれる！」は、普通に自分の奥さんを言うには変ですよ。フジモトがノナ君の、幾星霜の果ての姿なら、彼は魔法使いとして、とても尊敬し信頼していた先輩の、ニーニャと結婚していたのではないかなと思います。

今思いついたのですが、宮崎さんの映画のお話と僕の絵本のお話は、繋がるような気がします。宮崎さんのお話だと、ノナ君が育てた星を逃すのですが、それを僕のお話の女の子が買い、育てる。それが宮崎さんが言われた「すべてのジグソーパズルのピースが見事にはまった幸せな作品」にいつかなればと思います。



「キラキラした感じを」との宮崎監督からのリクエストで、井上さんが描いたニーニャの例

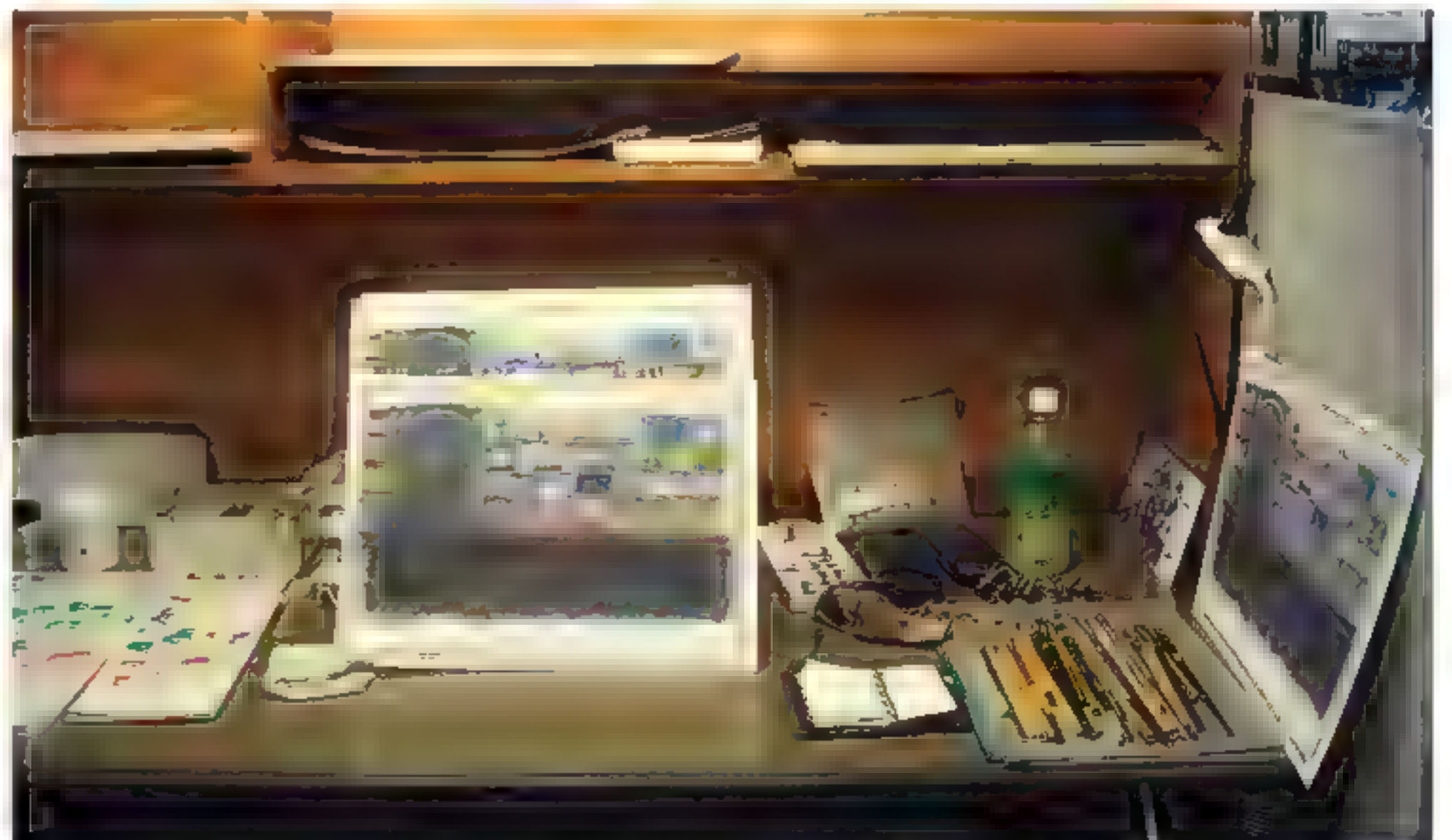
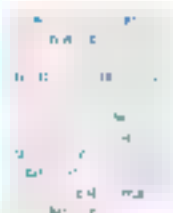
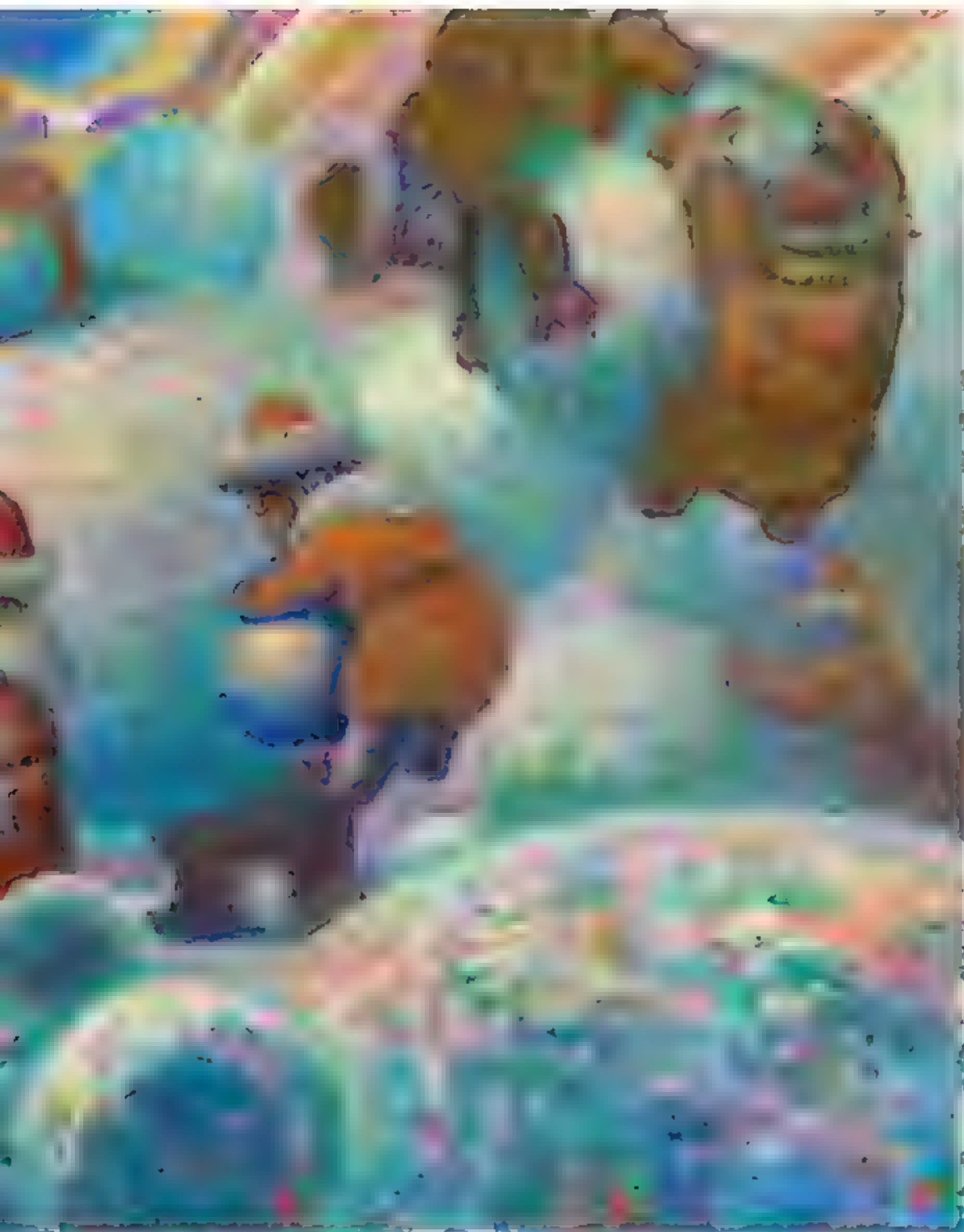


Photo courtesy of Nachisa Inoue

『星をかった日』制作時の井上さんの作業机



©



『星をかった日』は、僕の娘がアイリーン・ハース『わたしのおふねマギーB』が大好きで、その物語で女の子が乗る船を惑星にして描いてみたら面白いんじゃないかと話が膨らみ、できたお話です。

この絵本には、山に住むドワーフ小人が出てきます。主人公が星を買いに行った時、持っていたカブだけでは星を買うのに足りない。なのでドワーフたちはその子に「星を大きく育てて、その星に僕たちを呼んでくれるなら、星を売ってあげる」と言います。

僕はこのドワーフたちは、もうこの世からいなくなった父、祖父や祖先たちではないかと思っています。僕たちがこの世からいなくなった後にも、このドワーフたちのように、僕たちの子供やその子供たち、遠い子孫たちの前に現れて、こんな星のプレゼントをしてあげられたり、星を育てるのをそっと応援してあげられたらどんなにいいだろうなと思います。(井上直久さん談)





絵本『星をかった日』(P9-10)より

上の絵の元となった線画



⑤

うーん、少いなりないうえ、そうがそれならこうしよ。



スタジオジブリの手法にならい、ポスターカラーで試作した『星をかった日』





NAOHISA INOUE



イバラードを見つけるまで

イバラードを描き続けて約40年。井上直久さんが画家を志すまでには、少しの助走がありました。そしてその背景には、常に未来を方向づける支えとなった両親、画家だった祖父、進むべき指針を与えてくれた恩師といった人々の存在が大きく関わっていました。

ご本人のモノローグで振り返る、画家・井上直久さんができるまで。



小さい頃に描いた絵のイメージ。ひらがなの「た」の字の右を半円で囲っただけの落書きのようなものを描いて、髷を結ったお待さんの横顔のつもり

今一番記憶に残っているのは、小さい頃に路地で紙芝居を見て、その後すぐに、自分で地面に釘で絵を描き、「今見た紙芝居の絵より僕の方がうまい」と酔いしれたことです。丸描いて、鼻描いて、点みたいな落書きだったんでしょうけれど（笑）。だから僕の場合、絵を描くというのは、自分の描いたものが素晴らしいという、思い込みと誤解の上に成り立っているのではないかと考えます。父や母もよく幼い私を褒めてくれて、何を描いても良いのだと信じられる自分にくれたのも大きいと思います。物事を続けるのに大切なのは、客観的に見てちゃんときているか、できていないかではなく、やっている本人がこれでいいと思いつく能力だと思うんです。

過去の偉人や芸術家の生き方とかやり方が創作の参考になっていたりもします。例えば、ゴッホ。彼は素晴らしい絵をたくさん描いたのにも関わらず、生きているうちは全然評価されなかったでしょう。つまり、例えば自分が一生懸命に、すごくいいものを描いていても、結果が出ない、あるいは評価されていないとしたら……僕はしょうがないし、文句は言えないと思っています。だって、ゴッホくらい素晴らしいけども評価されなかった人だから。いろんなものを見ていけば、その自分の境遇や評価に文句は言えないです。そんな風に僕は、先人たちのしたことを見たり、知ることも創作の手がかりの一つとしています。



《よこての路地》1976
幼い日の路地を思い出して描いた作品です



小学校低学年くらいからお話を作るのが好きで、自分で考えたストーリーをアニメーションみたく動かし

たりして、空想の中でよく遊んでました。「不思議な動物と旅をする、脇道の公園が太古から続く大森林に

なり、マンホールの下には地底人の住む世界が広がり、空に浮かぶ雲には浮遊する島々が隠れている……」。

子供の頃はそんな自分の好きなことばかりを考えていたので、学校に通う道々が毎日大冒険でした。

さかのぼれば、小学4年の時、学外展に出された自分の絵を見に行くと、上下逆に展示されていました。

驚いて、担当の先生に言いに行くと、「あの方が抽象作品として強くて良くなるからそうした」とのこと。確かにそうでしたが、ただ花瓶を描いた絵ですよ（笑）。その先生は、世界に名だたるあの「具体美術」のメンバーで、ご自身の作品も、画面の

絵具をガスバーナーで焼いて、気に入ったところを切り取るといった作風でしたので、その判断はまあ納得できました。今にして思えば、この頃から中学にかけて、「具体美術」

の白髪雄さんの、足で描いた巨大な油絵や、吉原治良さんの抽象画な

どを、多感な少年に見せてくれた先生方にあらためて感謝したいです。

迷いが吹っ切れた

僕は祖父の家の久宝寺（大阪市中

央区）で生まれました。祖父は井上梯蔵（雅号・木它）という日本画家

です。浅井忠に師事し、後に日本画家に転身しました。日本のポスター

の草分けといわれる赤玉ポトワイのポスター、サントリーのオール

ドや角瓶のパッケージなどのデザインをした人なんです。父に何度も、

どんなに祖父が立派な人だったかと誇らしく聞かされて育ったので、「画家は偉いんだ」というイメージか

ら、美術に興味を持つようになり、小さい頃から美術や音楽に触れる機会も多かったです。そして父は

薬剤師でしたので、専門書が家に置いてあり、科学に触れる機会も多く、

学生の頃は、生物学者とか原子物理学者とか考古学者にも憧れていました。なので、絵の道かサイエンスの道かどうしようかと、高校2年生ぐらいまで迷っていました。

自分の成績では医学の道は手が届き

そうになく……美術部に所属していたわけではなかったのですが、高校卒業後は美術大学に進学しました。

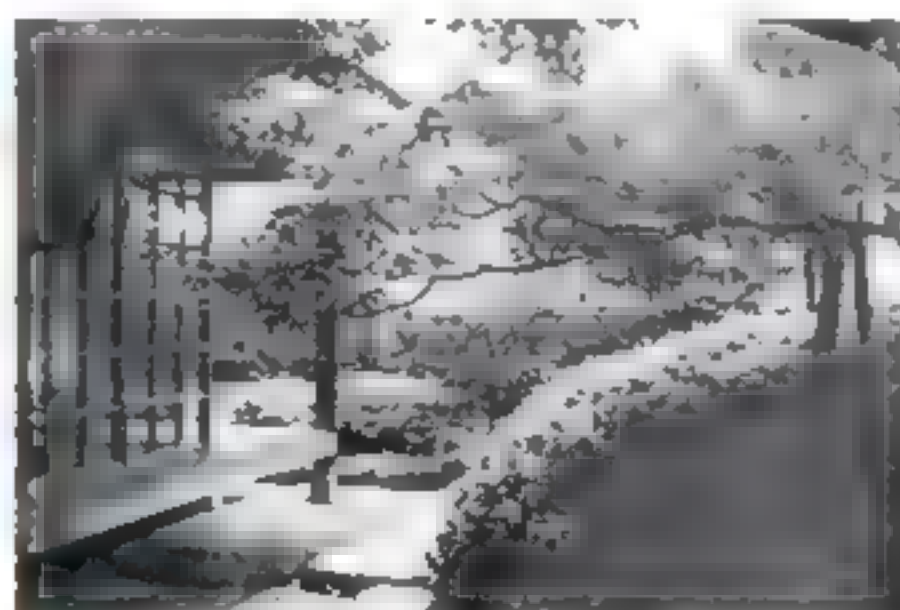
学科は「美術の世界ならデザインの道に」との父のアドバイスからデザイン系のコースがある学科に所属しました。デザインの技術を身につけておけば、売るための絵を描かなく

てもデザインの仕事をメインにしても生活していける。好きな絵は好きな時に描けばいい、という父なりの考えがあったのではないかなと思います。しかし、大学に行ってもまだ悩んでました。

金沢美術工芸大学には金沢大学から哲学の先生が非常勤で教えに来られていて、大変お世話になりました。思い出深いのは、ある雪の日のことです。その日は、受講生が僕一人しかおらず、普通でしたら休講になると思うんですが、それでも哲学の先生は、平然と紫色の風呂敷をほどこいて「ではイギリス観念論の続きを」と授業を始められたんです。ところが僕は、唯一の受講生にも関わらず、つい途中でうとうと寝てしまったんですね。はっと目を覚ますと板書が何行か増えて、平然と「そこでバー

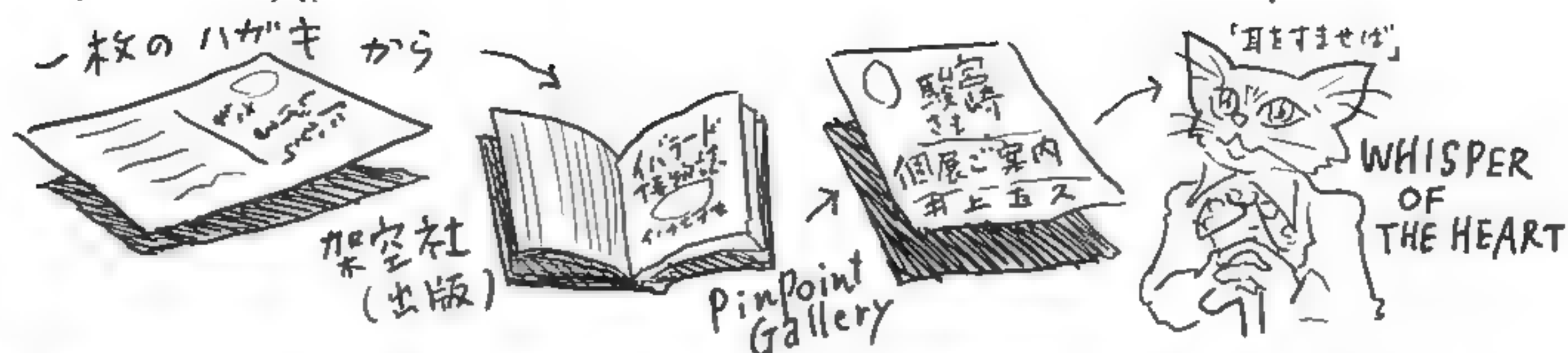


《曾祖父の庭Ⅲ》2005



祖父木它の家の庭の写真
5歳まで住んでいました

浅井忠さん（雅号：木魚、黙語）
日本近代洋画の先駆者として極めて大きな功績を残した洋画家。1875年に国沢新九郎に師事し、翌年工部美術学校に入学、フォンタネージに師事する。代表作に「春畝」「収穫」「グレーの秋」などがある。



トランド・ラッセルは……」と続けているんですよ。それで哲学者というのは偉大なもんだなど。そんなことがあり、僕も例え講演に一人だけしか集まらなくてもやろうと思いましたがね。それからその先生に教えを乞うという疑問を聞いてもらうようになりました。哲学の先生も僕を気に入ってくれて、時々授業終わつた後「井上くんお茶でも飲みますか」と誘ってくださったり、本をいたいたこともあります。記号論理学の本で、読んでもよく分からなかったけれども(笑)。

そしてある時、先生に「僕は本当は哲学とか心理学の道に進みたかったのですが、美術で間違えたかったです。美しくて打明けたんです。

そしたら先生が「私は哲学を仕事にしているけど、教師として知識や成果を切って売っているようなものです。あなたは絵が描けるんだつたら、自分の哲学をビジュアルで表現するということをやれば、すごくいいんじゃないですか」と。その言葉で迷いが吹っ切れましたね。それから猛然と絵に向かうようになりました。絵は単に絵ではなく、描くことで眼前の世界を見つめることができ、こ

の世界の本当の姿や自分の考えを探求できる手段でもあると思います。世の中どうも本当はこんな風になつてくれないか、でもそれはよくわからないから絵を描いて探してみよう。こうして、絵を描くことに対しては前向きにはなれたのですが、「こんなじゃダメだ、まだ足りない」という思いが強くなり、明日には死んでしまうような勢いで、ただ焦り、まるで生き急いでるかのようになつてしまつた時期もあります。でも、今振り返ると、そんな時に楽器やお茶を始めたり、いろんな書物に触れたので、未知の地域を踏査するように、自分がここに居ることの本当の意味について考える、いい期間だったように思います。

飛び石を飛んでみたい

大学生の時に「教育の資格だけ」に応取つておいたほうがいい」と父に言われたので、教育実習に行き、教員免許は取得しました。大学卒業後は広告代理店に勤めたのですが、仕事が大変でこのままだと体を壊してしまうと悩んでいたところ、高校時代の恩師が定年退職するにあたり、母校だから学校に尽くすだろうと僕

に後任として声を掛けてくださいました。それで、先生になつたんです。本当は5年か6年で辞めるはずだったのですが……気づいたら随分と長く勤めていましたね。

1992年3月に、19年ほど勤めた府立高校の教師を辞めました。何もすることもないまま、あつという間に4月を迎え、家の裏の河原の土手に咲いた満開の桜の下で「これからは自営でいきます」というハガキに使う写真を撮りました。当時の、足が地面についていないような、頼りないふわふわした感じを今でもよく覚えています。ハガキを20枚出した時点で、家内が「お義母さんに、20年勤めてたら恩給が出ると説明してあるのに、ハガキにわざわざ19年と書いていいの？」って。これを母が見ると心配なので、もう出さないでほしいと頼まりました。身分は公務員なので安定はしていたのですが、教師の終わり頃は急に白髪が増え、夜はうなされ寝言を言い、「自分はこんな事をしてるべきではない」という思いがことあるごとにこみ上げてきて……。でも本当に辞めて良かった。「今の自分が本当の自分」だと思います。たむらしげ

るさんから架空社、架空社からピンポイントギャラリー、ピンポイントギャラリーに宮崎駿さんが来られて……。今振り返ってみても、まるで飛び石を飛んでみたいにすごい展開だったなと思います。勤めている時はどうやって辞めたらいいのか悩んでいたのに(笑)。

イバラード目

イバラードは、パレルワールドではなくて、ひらたく表現すると「気の持ちよう」。見方を変えれば今現在いるこの世界なんです。宮崎さんが「イバラード目(め)」とよくおっしゃいます。「イバラード目(め)」でもものを見ることが出来る人の見ている世界がイバラードです、と。だから、あなたが今いるところを中心として何キロかの広がりイバラード。これがどこまでかは、あなたがどこまでイバラードだと思ってるかによって変わってきます。要はその人次第ということですね。

ある時、オーストラリアの方に「この絵は懐かしい。これはウチの家の近所だ」と言われたことがありました。そんなはずはないですよと言うんですけども(笑)。スペインの方にも、

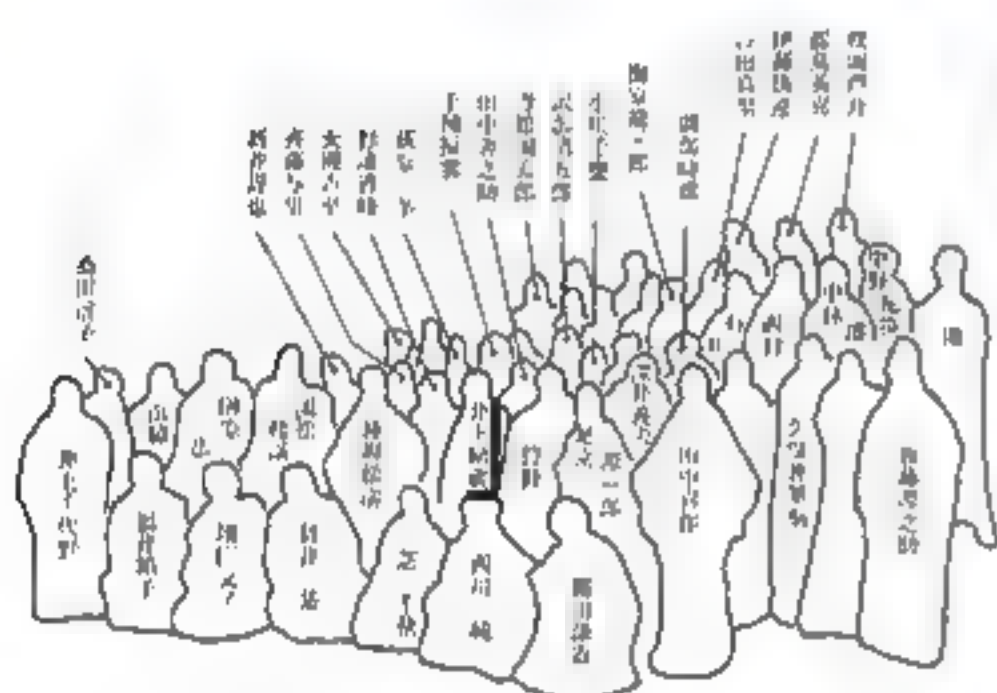


井上直彦さん

1915 年、日本画家だった井上悌蔵さんの次男として生まれる。大阪府出身。薬剤師として藤沢薬品工業に務める。

祖父がサントリーウィスキーボトルのデザインを手がけていた際、自分で作ったサントリーの角瓶ラベル案を縁側に並べ、父に「直彦、どれがいいと思う？」と聞いたそうです。父がどう答えたのか聞きませんでした。

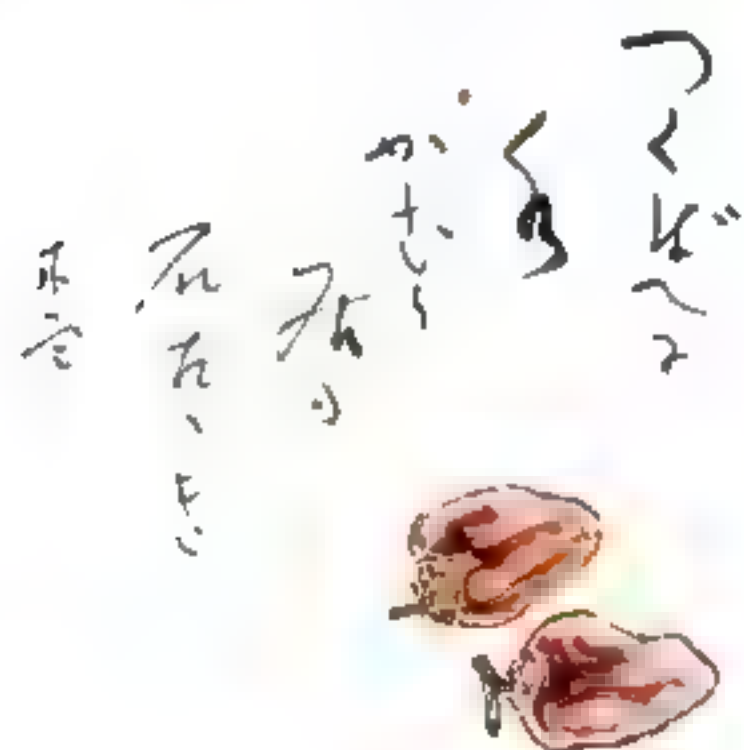
父は子供に優しい人で、食べ物が多分なかった当時、ドジョウを捕ってきて自分でさばき、蒲焼にしてくれたり、冬にはタニシを水の枯れた田んぼからとってきてゆでて、タニシ汁にして食べさせてくれました。



浅井忠さん一周忌の際の弟子たちの集合写真です



井上悌蔵さん（雅号：木它）1885 年生まれ。浅井忠さんに師事し、後に日本画、俳画を描き活動していた画家。主な作品として、赤玉ポートワインポスター「グラスを持つ半裸の女性」、サントリーウィスキーボトルのデザインなどがある。



干し柿の絵



梅の絵



木它さんの自直絵



一番左が井上亨さんです。



井上亨さん（芸名：小泉徹）。宝塚歌劇団男子部員の 1 期生。

男 4 人兄弟の末っ子で、歌がうまく冗談好きで、友達のように接してくれました。なので、オジさんとは呼ばず、「トオルさん」と呼んでいました。



自分の近くにグラナダというところがあり、僕の絵の《ウチナダ》はきつとそこと関係あるんじゃないかとかな言われるんですね。ウチナダ（内灘）というのは海に面した金沢の近くの町なんです（笑）。

自分の世界がある場所

以前、僕の絵を見た方によく、「これはどこですか」と聞かれていたんです。「架空の世界です」と答えても良かったのですが、名前をつけたらどうかと思ったんです。何故そう思ったかと言いますと、金沢美人に通っていた時、通学中の列車の中で、僕はよく宮沢賢治の文庫本を読んでいた。そういう時、車窓からの景色が、少しだけ賢治の童話世界のように見えたんです。風景に重ねた心の映像を、賢治は「心象風景」とし、実際には岩手県にあたるその場所を、エスペラント語風にアレンジして「イーハトーブ」と呼んでいました。僕は、自分の風景を描くうちに、賢治のこのやり方に習い、自分の描いた、実際とは少し違う世界に名前をつけてもいいのではないかと感じ、自宅がある場所の地名、茨木市から「イバラード」と名付けま

した。いかにも簡単そうなネーミングに思えてしまいましたが、大事なのは言葉のニュアンスです。国文学の先生がいらついたら、それは違うとおっしゃるかもしれませんが……、「いにしえ」という昔を意味する言葉がありますね。あの言葉、なかなか面白いので僕好きなんです。「へ」というのは「Where」、場所を意味します。岸辺とか野辺とか山辺とか海辺とかありますね。あの「べ」です。「べ」がどうして「いにしえ」と関係あるかと言いますと、「いにしえ」の「え」は場所という意味の「べ」なんです。つまり、去ってしまった場所」というのが「いにしへ」。単に昔っていうのが、もう今はないから昔ではなく、かつてあり、そして去ってしまった事を意味する。そんな風に、一字一字に意味を持つている日本の大和言葉のニュアンスが好きなんです。

「イバラード」の「イ」「い」という音は屹立したニュアンスがあり、「自分」という意味になります。例えば古い日本語で自分のことを「わい」と言いますよね。英語の「I」それからドイツ語の「Ich」という風に、「イ」という言葉は自分の事、

あるいは自分のいる場所を表す単語が多い。それから「イバラード」の「バ」は、「World」とか「にわ」の「わ」。あるいは、人が集まっている場所の「わ」のように、ひとつの「世界」を示している単語が多い。「ラード」というのは「Field」とか「Yard」のように「広がった場所」というニュアンス。

このように「イバラード」は「自分の世界がある場所」という風な意味づけと解釈をし、これは自分の世界を表現する上でも非常にいいんじゃないかと考えました。それから、「これはどこですか」と聞かれた時に「イバラードです」と答えると、面白いことにその場所が非常に具体的な気がして、実際にある見慣れた駅も、電車も、道ばたの小石も、全ての見える景色が全然違って見えてくることに気がついたんです。

これからという方向へ絵の世界が進んでいくのか、という質問も多いですね。これは少し前に気づいたことなのですが、書籍のタイトルが、『イバラード博物誌』『空の庭、星の海』『ジパングの岸辺』『虹化石の街』『迷路の街で聞いた話』『ここが、その街』と、意識したわけで

はないのですが、イバラードへ上陸して、そしてだんだん具体的に街の中へ入っていくような流れになっています。だから次はきつと「私の住むこの家で」とか「この窓辺で今」など、さらに一歩中へ入ったタイトルになるんじゃないかと予想しています。こうして解き放った無意識を、後から解釈してみるといろんなことが見えてくるんですね。

今見ている世界は素晴らしい、不思議で、わくわくする、そんな表現できないくらい面白いものだと思いがわかる絵を描きたいですね。絵描きの仕事の一つは、この世界の素晴らしいさを伝えることだと思っています。諦めずとにかく続けていけば大抵のことはできるようになると信じています。楽しむ事と諦めない事は、どちらも一種の才能。僕は長いことかかったけれど、いい人たちと出会えた、いい人生だと思います。



タ, T ; 質量, 実体 ダ, D ;	ナ, N ; 否定	ハ, H, F, P ; 力 (活力)	マ, M ; 大きい秩序の なかの別秩序	ラ: 進行, 変化	
				R ; 連続的変化 無意識的	L ; 不連続な変化 意識的
タ (Ta) ・一様な広がり のある実体 田, 他, 多 誰, 宅, 五 タク 炊く 魂 タル 足ル タシ 確か	ナ (Na) ・広がり否定した もの 名 (name) ナシ 無し なじむ ナル 広く なる ナス 成す	ハ (Ha) ; 活力があり一様 な広がりのある存在 歯, 葉, 母 (お母) ハル 春, 張 張る Spring タマキハル ハシ 愛し ハツ 吐	マ (Ma) ; 独立した別秩 序を持つ存在 魔, 間, 目の子 → まなこ (眼) Man Magic Machine Magnet アマニ シマ, タマ, ツマ, ママ	ラ (Ra) ; 連続して変化 する広がりを持つ存 在 Race (人種, 家系) Rail (レール) Rafica (ラフィカ) ※イラート語 Rain (雨)	ラ (La) ; 不連続に変化 する広がりを持つ 存在 Laputa (ラピュタ) Labyrinth (迷宮) Race (レース: 競)
チ (Ti, chi) ; 集中し山立した 実体 地, 血, 乳 (ち) チル 散る (ちりちり) ← ゴル 散る	ニ (Ni) ; 否定的に山立 するもの 荷 (=) 丹 (にし) ニク 憎む 語る 苦 night ニル 似る 煮る	ヒ (Hi) ; 活力が集中して 存在する状態 火, 日, 陽 光 (ヒカリ) 昼 ヒル 干す ヒク 引く	ミ (Mi) ; 独立した別秩 序を持ち山立するもの 身 (ミ) might 命 (ミコト) ミル 見る	リ (Ri) ; 連続して変化する 集中した存在 Rib (肋骨, 翅脈) (羽のうね) ribbon Rich (豊かな) 濃い Rick (種みら) Ridge (山脊)	リ (Li) ; 不連続に変化 する集中した存在 Lighta (リグダ) Light (光)
ツ (Tu) ; 中空で実体の あるもの 津 ツク 付く 突く ツル 釣る ツマ (妻) (ツメ)	ヌ (Nu) ; 否定的で本体が なく, 外側にあるもの アル 寝ル, 塗ル 奴 (ぬ) ぬる 主 (ヌシ) ↔ アルシ (同じ主でもここは逆) ぬかるみ ぬく (抜く) ぬぐ	フ (Hu) ; 中空で外側に 活力がある存在 フク 吹く, 福 フル 振る, 経る 1/2 (フウ) → ちい 踏む, 伏す ふたフ	ム (Mu) ; 独立した別秩 序を持ちうつろなもの 無 (ム) 胞 (ムネ) 虫 (ムシ) ムク 動く 動く ムベ なるもの	ル (Ru) ; 連続して変化する 中空の存在 rub (こす, ぬぐ) rue (後悔する) ruffle (しわをよこす) ruin (荒廃)	ル (Lu) ; 不連続に変化 する中空の存在 Luck (運) Luc (光) lux Lung (肺)
テ (Te) ; 末端として存在し 実体あるもの 手, ち, 山の手, 裏手 テル 照ル	ネ (Ne) ; 末端で否定的 なもの 根, ネの国 (あね) ネズミ (ネに住むもの) New → なかた 下 上 上 下 否定存在 新いもの negative	ヘ (He) ; 活力が末端 にある状態 ヘル 減る ヘリ (フタ) へ 辺 (ヘ) = where と の関連は未分 ヘタ (下) (棒のヘタ)	メ (Me) ; 独立した別秩 序を持ち末端に あるもの 目 (メ) 女 (メ) メク 巻く ためく メス 召す	レ (Re) ; 連続して変化する 末端の存在 re- (再び) reach (届く) remember return ready (用意して) read (読む)	レ (Le) ; 末端にある不連 続な変化をするもの Lead (先頭, 導 入, 手がかり, ひきつづ) Deaf (聴) Leap (跳ねる)
ト (To) ; 主体と離れて存在 する実体あるもの 土 (ト) 戸 (ト) 外 (ト) (由良の戸をへ) 泊 (トマリ) 富 (トミ) 徳 (トク)	ノ (No) ; 否定的で独立 した存在 野, ノリ 除く ぬく ノル 告げる, のりと (こぼす実体あるもの) nothing	ホ (Ho) ; 活力が主体と 離れた客体にある 状態 ホク 考へ 穂 (ホ) ホシ 欲し 方 (ホウ) ホホ 掘る ホル ぬめる	モ (Mo) ; 独立した別秩 序を持ち, 本体と離 れて存在するもの モク 木の実をもぐ モカク (古 幕れ) モス 燃やす 藻 (モ) 面 (モロ)	ロ (Ro) ; 連続して変化する 本体と離れた 存在 road (道) roam (放浪する) roar (はえる) robe (長衣)	ロ (Lo) ; 本体と離れて 不連続な変化を するもの Locus (位置, 軌 跡, ラン locus) Logic (論理) logos (理性) loaf (かたまり)

II イバラード音韻学 II

行 子音 母音	ア (動詞形) ①+クグ/ナウ (②の (①の状態になる)ナル/状態にする) (②の状態)	カ, K ; 凝集 ガ, G ; 凝固	サ, S ; 感覚 ザ, Z ;		
ア, A ; 存在	ワ, W, V (u+a) ・大きく根源的 な広がり	ヤ, Y (i+a) ・小さくまとまった 局所的な広がり			
ア, a ; 一様な 広がりをも (場合) 持つて存在 するもの	ア(a) ; 存在の場 吾(ア) 天(アマ, アメ) 頭(アタマ) 雨 アウ 合う アカ 開く 乾く アエ 蒸シ 雨ク 乾ク	ワ(Wa, Va) ; 大きな広がり 我(ワ) 輪 場(Va) WaTa = 海(ウミ) Water 水 Walk → フルク → アルク	ヤ(Ya) ; 屋(ヤ) 谷(ヤ) 山(ヤマ)	カ(Ka) ; 広がりをも凝集 したものの カ(=処: 場所) 住み処, あり処 アスカ 渦, 火 カク 書く カケ 掛る カル 刈る	サ(Sa) ・一様な広がり ;(場合)の感覚 → 実体は無い さも~, さ迷ふ さとし(さ+利し) → かしこい(ま) 利し サク 探る 世間を
イ, i ; 屹立し、 一点に集中 して存在する もの	イ(i) 意、 岩、石、板 居 言ウ 居ル 行く 生ク	Wi (ウイ) Vi (ヴィ) ; 根源的屹立 ワイ=1人称、転 じてI(英) 去(Wi=ぬ)ぬ 固み=シス (Wiにレエ)=去りに レあたり→昔	キ(Ki) ; 凝集して屹立する もの 気、木、城(キ) キル 切る、着ル キワ(=境) キワめる キワどい キク 利く、聴く	シ(Si) ; 集中して屹立した 感覚 シ(島) 沐(シ) 沐(潮) シク へにシはない シル しろし、白レ印レ 知る 知らス シマス	
ウ, u ; 中空で、 中央がなく まわりの存在 するもの (うつろなもの)	ウ(u) 宇(宇宙) うつろ、うれし ウク 浮ク ウシ 憂シ 餓え 飽ム	Wu	ユ(Yu) ; 中空の存在の場 結ウ 行ク 湯	ク(Ku) ; 中空で凝集 したものの 句、空、苦 クシ 奇シ ビク クル 来る クウ 食ウ 愚(Gu)	ス(Su) ; 実体のない中空の 感覚 吸ウ、巣、洲 簾、酢、鬆、素 スウ 搦ウ 末(ス) スク 助ク
エ, e ; 本体の 周辺、末端 連なりの端 として存在 するもの	エ(e) 柄 絵 兄(エ) 末(スエ)	We (ウェ) ; 存在の周辺、端 Where → We → 辺 固 木辺 山辺、川辺 フタ(語) ナベ(辺) ヘヤ(部屋) イニシエ(去にレエ) マエ、スエ	ケ(Ke) ; 凝集した末端 毛、もののけ(気) 気配 気どる ケル へありける ケス 踏ル 踏アベク モアルカ	セ(Se) ; 感覚の末端 背、瀬、元 せい(背) せかけ セク 急く 咳 塞く セル 競ル	
オ, o ; 客体 主体と離れ て存在する もの	オ(o) 尾、緒、男 オル 居ル、折ル オク 送ク	Wo (ウオ); 根源 的な存在が客体とな ったもの World Wood Wool work	ヨ(Yo); よい、 くまとまった存在の客体 世、余 ヨシ 良い ヨス 止ス 送ス 送る ヨル 除く ヨク	コ(Ko) ; 凝集した客体 子(コ) カゴ(かご) カイ(かい) 個、粉、コ(比喩) コル 凝る コク ウコク コシ 濃シ コス	ソ(So) ; 感覚の客体 そ(それ) そち(あなた) ソウ 添ウ そち そこ(其処) 外(ト) 底(ソコ) そっぽ それ(それ) する(返る)

言葉と音について考え始めたきっかけは、Na行がいろんな言語でも否定に使われていることに気づき、音には固有の印象があるのではないかと思ったからです。詩人のアルチュール・ランボーが作品『母音』で、AIUEOには色があると記しており、それもヒントになっています。(井上直久さん談)





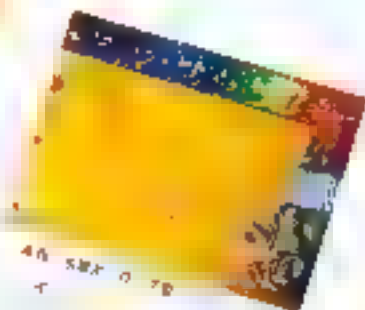


NAOHISA COLLECTIONS

井上直久さんの「イバラード」を生み出してきたお部屋の道具たち。
創意工夫によってアレンジが施された画材たちには、
多彩な表現技法を可能にするための工夫が施されています。

中の「ついでに、じつ」
「ついでに、じつ」

中の「ついでに、じつ」
「ついでに、じつ」



中の「ついでに、じつ」
「ついでに、じつ」

中の「ついでに、じつ」
「ついでに、じつ」



中の「ついでに、じつ」
「ついでに、じつ」

19 24A 20의 箱飾 (Box Decoration)



20 24B 20의 箱飾 (Box Decoration)



21 24C 20의 箱飾 (Box Decoration)



22 24D 20의 箱飾 (Box Decoration)



23 24E 20의 箱飾 (Box Decoration)

【题眼】 考查对《孟子》中“性善论”的理解。

π $P_{\alpha} = \eta$ $\cdot 21.70$ n \approx 10^6

本 稿 は 一 部 改 訂 版 日 本 学 術 振 興 会 研 究 費 助 成 金 基 金 助 成 によるものである。

DATE OF REP. 3 17 4 4 4

[illegible]

CLOSE UP



5113

此等語・ア・ハ・ヒ　ア・ハ・ヒ　ア・ハ・ヒ　ア・ハ・ヒ
ア・ハ・ヒ　ア・ハ・ヒ　ア・ハ・ヒ　ア・ハ・ヒ



町、上の方から見て、また、
 らな、な、な、な、な、な、
 せで、な、な、な、な、な、
 ト、な、な、な、な、な、
 ト、な、な、な、な、な、



町、上の方から見て、
 らな、な、な、な、な、な、

町、上の方から見て、
 らな、な、な、な、な、な、

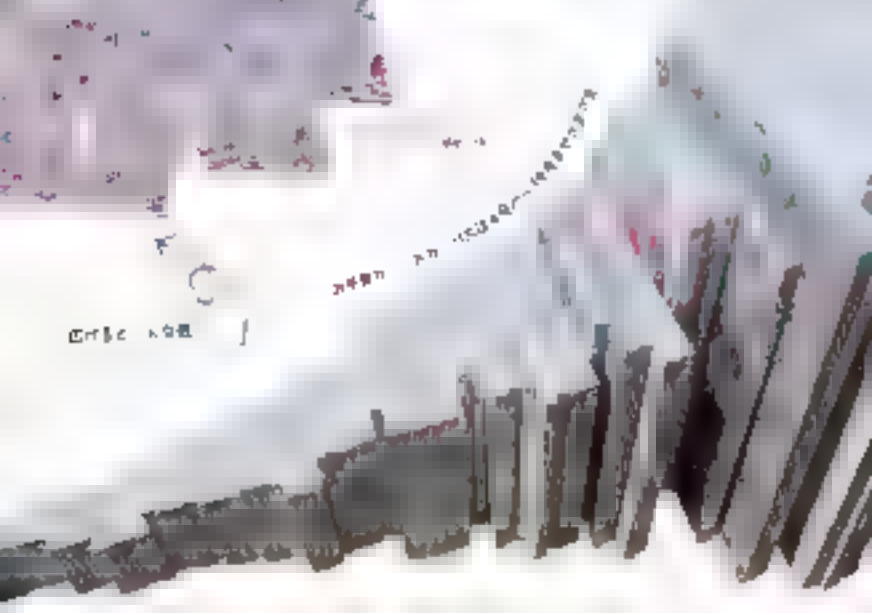


町、上の方から見て、
 らな、な、な、な、な、な、

町、上の方から見て、
 らな、な、な、な、な、な、

町、上の方から見て、
 らな、な、な、な、な、な、

町、上の方から見て、
 らな、な、な、な、な、な、





1. 2. 3. 4.

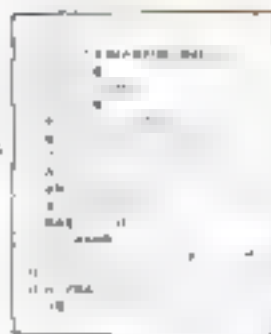
5. 6.

7. 8.

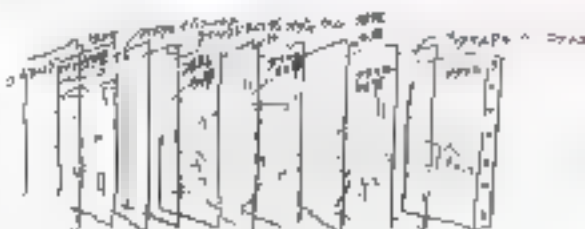
9.



1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. 16. 17. 18. 19. 20. 21. 22. 23. 24. 25. 26. 27. 28. 29. 30. 31. 32. 33. 34. 35. 36. 37. 38. 39. 40. 41. 42. 43. 44. 45. 46. 47. 48. 49. 50. 51. 52. 53. 54. 55. 56. 57. 58. 59. 60. 61. 62. 63. 64. 65. 66. 67. 68. 69. 70. 71. 72. 73. 74. 75. 76. 77. 78. 79. 80. 81. 82. 83. 84. 85. 86. 87. 88. 89. 90. 91. 92. 93. 94. 95. 96. 97. 98. 99. 100.



1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. 16. 17. 18. 19. 20. 21. 22. 23. 24. 25. 26. 27. 28. 29. 30. 31. 32. 33. 34. 35. 36. 37. 38. 39. 40. 41. 42. 43. 44. 45. 46. 47. 48. 49. 50. 51. 52. 53. 54. 55. 56. 57. 58. 59. 60. 61. 62. 63. 64. 65. 66. 67. 68. 69. 70. 71. 72. 73. 74. 75. 76. 77. 78. 79. 80. 81. 82. 83. 84. 85. 86. 87. 88. 89. 90. 91. 92. 93. 94. 95. 96. 97. 98. 99. 100.



1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. 16. 17. 18. 19. 20. 21. 22. 23. 24. 25. 26. 27. 28. 29. 30. 31. 32. 33. 34. 35. 36. 37. 38. 39. 40. 41. 42. 43. 44. 45. 46. 47. 48. 49. 50. 51. 52. 53. 54. 55. 56. 57. 58. 59. 60. 61. 62. 63. 64. 65. 66. 67. 68. 69. 70. 71. 72. 73. 74. 75. 76. 77. 78. 79. 80. 81. 82. 83. 84. 85. 86. 87. 88. 89. 90. 91. 92. 93. 94. 95. 96. 97. 98. 99. 100.

1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. 16. 17. 18. 19. 20. 21. 22. 23. 24. 25. 26. 27. 28. 29. 30. 31. 32. 33. 34. 35. 36. 37. 38. 39. 40. 41. 42. 43. 44. 45. 46. 47. 48. 49. 50. 51. 52. 53. 54. 55. 56. 57. 58. 59. 60. 61. 62. 63. 64. 65. 66. 67. 68. 69. 70. 71. 72. 73. 74. 75. 76. 77. 78. 79. 80. 81. 82. 83. 84. 85. 86. 87. 88. 89. 90. 91. 92. 93. 94. 95. 96. 97. 98. 99. 100.

ラビニタによる下地実験

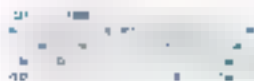
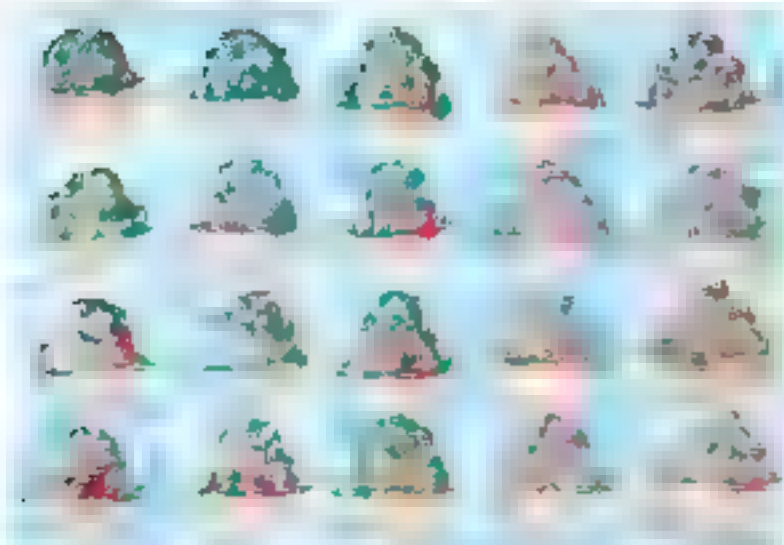
2

5

Lenses*

5.2.8 4. 1994-1995

248





一朝一夕では身につかない造形世界

こうして技術が磨かれていく

豊かな情景を生み出すには、基礎を大事にしつつ、常に努力と探究心を惜しまない姿勢が大事なのでしょう。デザイナー時代から、2000点あまりの絵を描き続けてきたという井上直久さん。そして、教師時代はその経験を教育現場でも存分に発揮していました。ここでは、作品の一枚に凝縮されている技法の一部をご紹介します。



100 の技法

<20styles> examples for stylization

1. 0.1 ミリ幅の線で
2. 0.5 ミリ幅の線で
3. 1 ミリ幅の線で
4. 2 ミリ幅の線で
5. 5 ミリ幅の線で
6. 2 通りの太さの線で
7. 5 ミリ幅の黒い切り紙で
8. 黒い切り紙のシルエットで
9. 丸筆の線で
10. 平筆の線で
11. かすれのあるブラシストロークで
12. G ペンで
13. 丸ペンで
14. 自分で削った竹ペンで
15. フェルトペンで
16. 硬い鉛筆で
17. 柔らかい鉛筆で
18. シャープペンシルで
19. 鉛筆で描き、スキャンしてプリント
20. コンテで描き、スキャン
21. パステルで描き、スキャン
22. シャドウで
23. 立体図形として
24. 紙ひもで
25. テープで
26. 針金で
27. ゴムスタンプで
28. 紙版で
29. 木版で
30. 孔版で
31. シルクスクリーンで
32. ドライポイントで
33. エッチングで
34. ステンシルで

35. 色紙の切り張りで
36. 色紙を手でちぎって
37. 自分で染めた紙で
38. フロッタージュした紙で
39. ペーパーレリーフで
40. サンドペーパーの目の違いで貼り絵
41. 素材の質感の違いでコラージュ
42. 粘土レリーフで
43. 厚紙切り抜きで
44. 合板切り抜きで
45. ソフトフォーカスで
46. 「にじみ」の線で
47. 「垂らし込み」で
48. 淡彩で
49. 鉛筆淡彩で
50. 不透明水彩で
51. ガッシュ色面平塗りで
52. カラーインクで
53. アクリル厚塗りで
54. アクリル薄塗り塗り重ねで
55. 油彩で
56. 鉛筆のハーフトーンで
57. 鉛筆と擦筆で
58. 色鉛筆のハーフトーンで
59. ペン画のクロスハッチングで
60. ペン画の点描で
61. ペン画の平行線で
62. スクラッチで
63. 黒いペンの輪郭線+水彩で
64. ダブルトーンで
65. 三原色で
66. CMYKで
67. 任意の3色で
68. 任意の3色と黒で

69. コラージュ (マッチ棒、ビーズなどで)
70. 砂で
71. 石に彩色して
72. 紙粘土で立体に (写真に撮る)
73. 紙粘土で立体にして彩色して
74. 油土で作り立体アニメに
75. 砂絵にしてアニメに
76. 小麦粉粘土でアニメに
77. 影絵に
78. カラーセロファンの影絵で
79. ガラスに描いて影絵に
80. ガラスに油彩で描いてアニメに
81. フォトモンタージュで
82. 人体のフォトモンタージュで
83. 光る材料で
84. 透明な材料で
85. 迷路として描く
86. 地形図として描く
87. 3DCGで
88. 基本形態の3Dで
89. ポリゴンの3Dで
90. 両眼視の3D画像で
91. 補色の3D画像で
92. 着ぐるみに作る
93. 仮面に作る
94. 風船に作る
95. ぬいぐるみに作る
96. 粘土で作り焼成して陶に
97. 歌舞伎や京劇のようなメイクで
98. 特殊メイクで
99. 金属廃材をハンダつけで立体コラージュ
100. 食材で立体に...

「100 の技法」は大学教師時代、「このうち 20 を選んで実験、実作させる」という課題用に、井上さんによってリスト化されたものです



Drawing × Painting

クロッキー、デッサン、カラーチャート、3D 立体視など多種多様な技法を試し、日々技術を磨き続ける井上直久さん。ご自身の描きたいものの深奥を追求する創作の技術の一部をご紹介します。

デザイナーを経て教師をしてきた20年間、何度も何度も個展をし、毎日毎日飽きもせずデッサンとクロッキーを描き続けました。それが今となっては、画家として自立するまでの下ごしらえになったと思います。

教師になってから出した描写の課題は、たいてい自分も描いてました。色彩演習も、出す前から自分でやってました。クラブ合宿の時も生徒と一緒に、昼間は屋外で風景を描き、(屋外で写生する時は、2日で2枚仕上げるのがベストのペース——なぜ2日かというと、午前と午後では光の位置が違うからです。午前と午後で場所移動して描き、翌日も午前は最初の場所で仕上げ、午後は別の場所

さまざまな技法で描かれたクロッキー



線は少なく、外側の輪郭だけで

色彩感をやわらかい蜜蝋で



カーペンターペンシルで明暗だけを



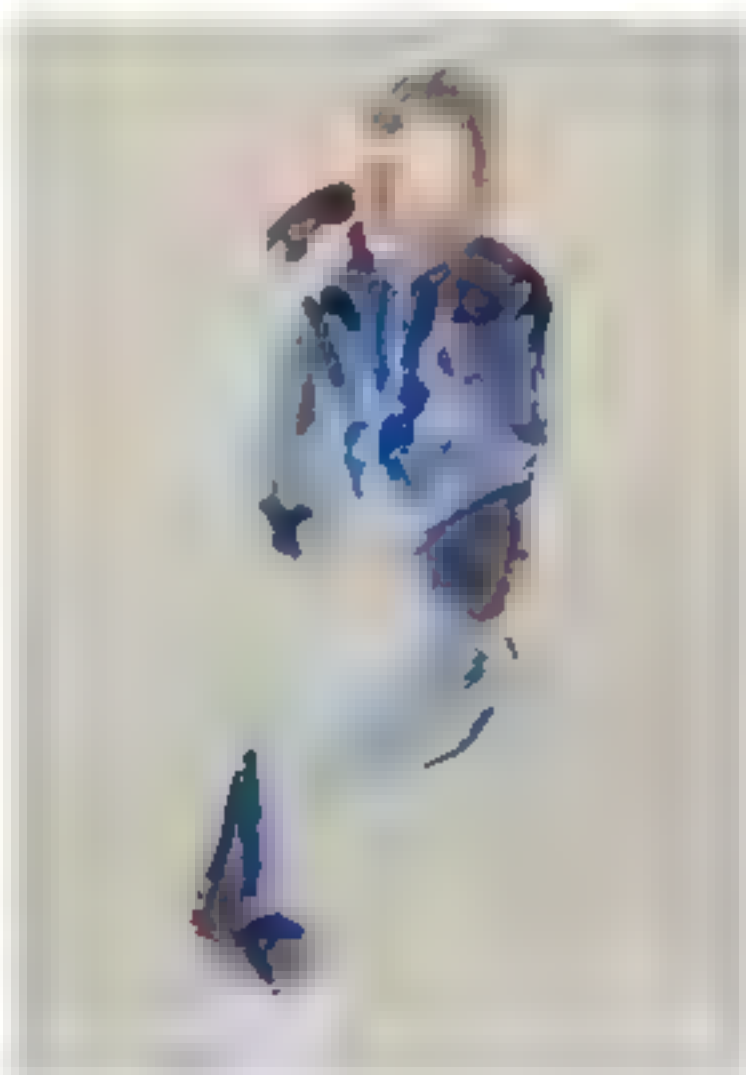
アウトラインと最小限の明暗で



やわらかいたくさんの線で



明暗の境を線で描く



アクリル絵具と油彩筆を使って



筆書き



で仕上げる勘定です。

夜は夕食後2時間以上、ク
ロッキー（人物速写）をしまし
た。だいたい3泊4日で100
枚くらいのクロッキーを描いた
と思います。

人物クロッキーは、「写真か
ら描いてはダメですか」という
学生が毎年いますが、本当の人
間を描かなければ意味がないで
す。写真から描いた絵は、一見
形が整っているようですが、ト
レースのように平面から平面に
写しただけなので、立体描写の
訓練にはなりません。

描き続けてわかったことは、
やはりこれでも描き足りないとい
うことです。最近、「絵が描
けるというのはこういうことか
もしれない」という感覚がたま
に起こることがありますが、常
にそういう状態にならなければ
「私、絵が描けます」とは言え
ないのではないかなど。僕に特
別才能があり、幸運があつて、
絵描きになつたらすぐに認めら
れたわけでもありません。僕は
画家と呼ばれていない時期も、
ずっと描き続けていました。

（井上直久さん談）



「五彩山水」

「事に五彩あり」というように、事には全ての色があるの
を逆手にとり描いた、井上さん考案の作品。5色ぐら
いの鮮やかな純色を塗り重ねて、重ねた色が分かるように
周辺はわざと色をずらし、微妙な準色にする「色彩遊び」。



「てるてる坊主」

学生用クレパスで描いた作品です。「いいもの
を多彩な色で描きました。中間色が作れるほ
ど意外にうまくクレヨン色が混ざってます。



フィンガーペイントとマスキングインク



カラーインクの黒と
マスキングインクによる淡彩



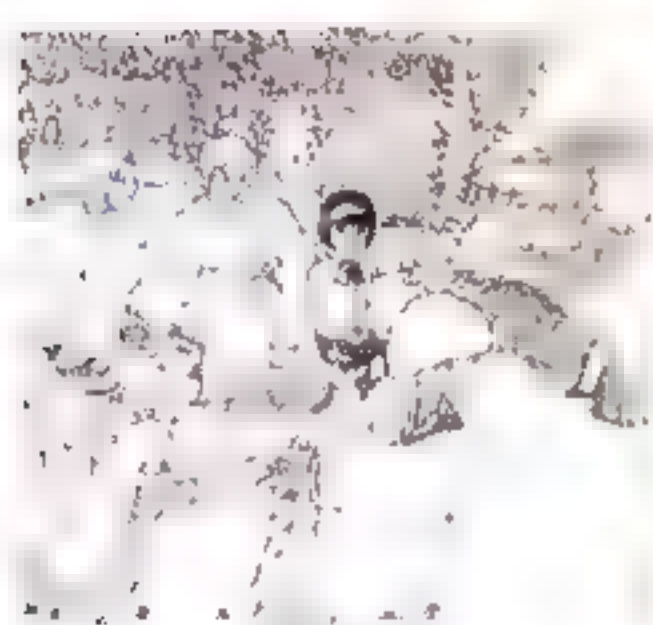
カラーインクの黒と白、
マスキングインクによる表現



カラーインクの黒によるにじみ表現



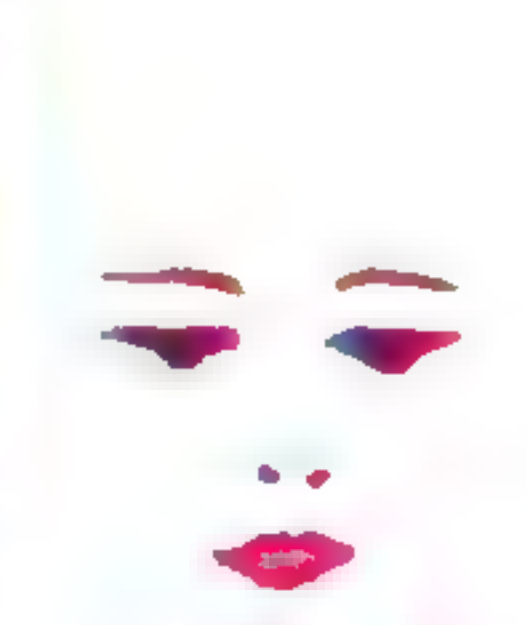
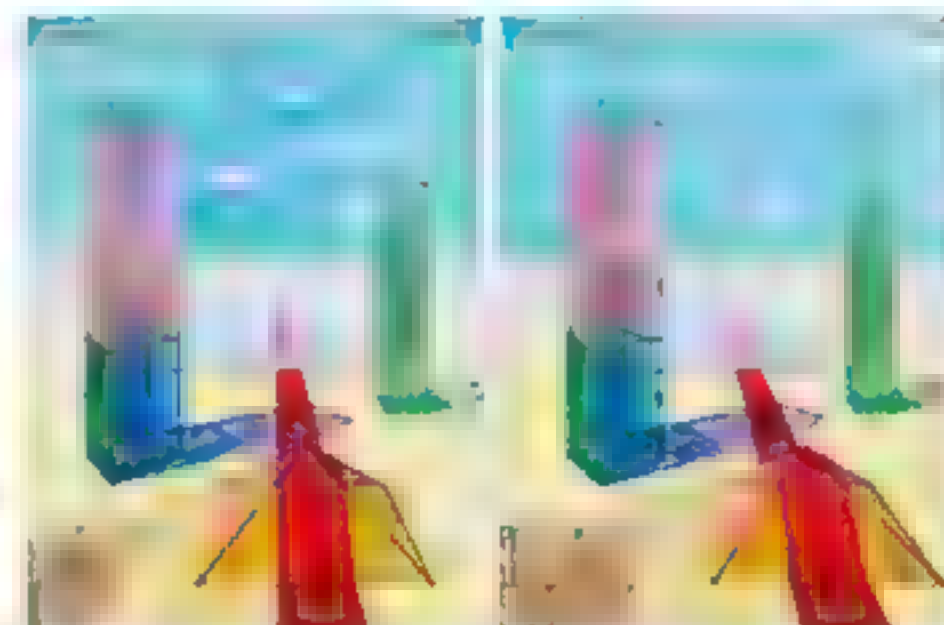
アクリル混色による準色淡彩



サインペンと白修正



3D 立体視（ステレオグラム）。
目を寄り目にする、立体に見えるように作図、彩色しています。



カラーインクによる透明混色



紙を重ねた判で作った版画



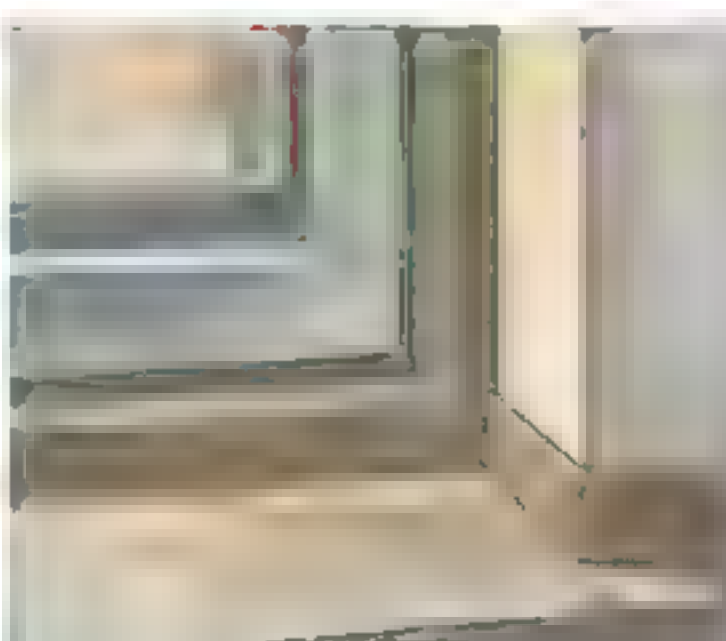
多色木版画



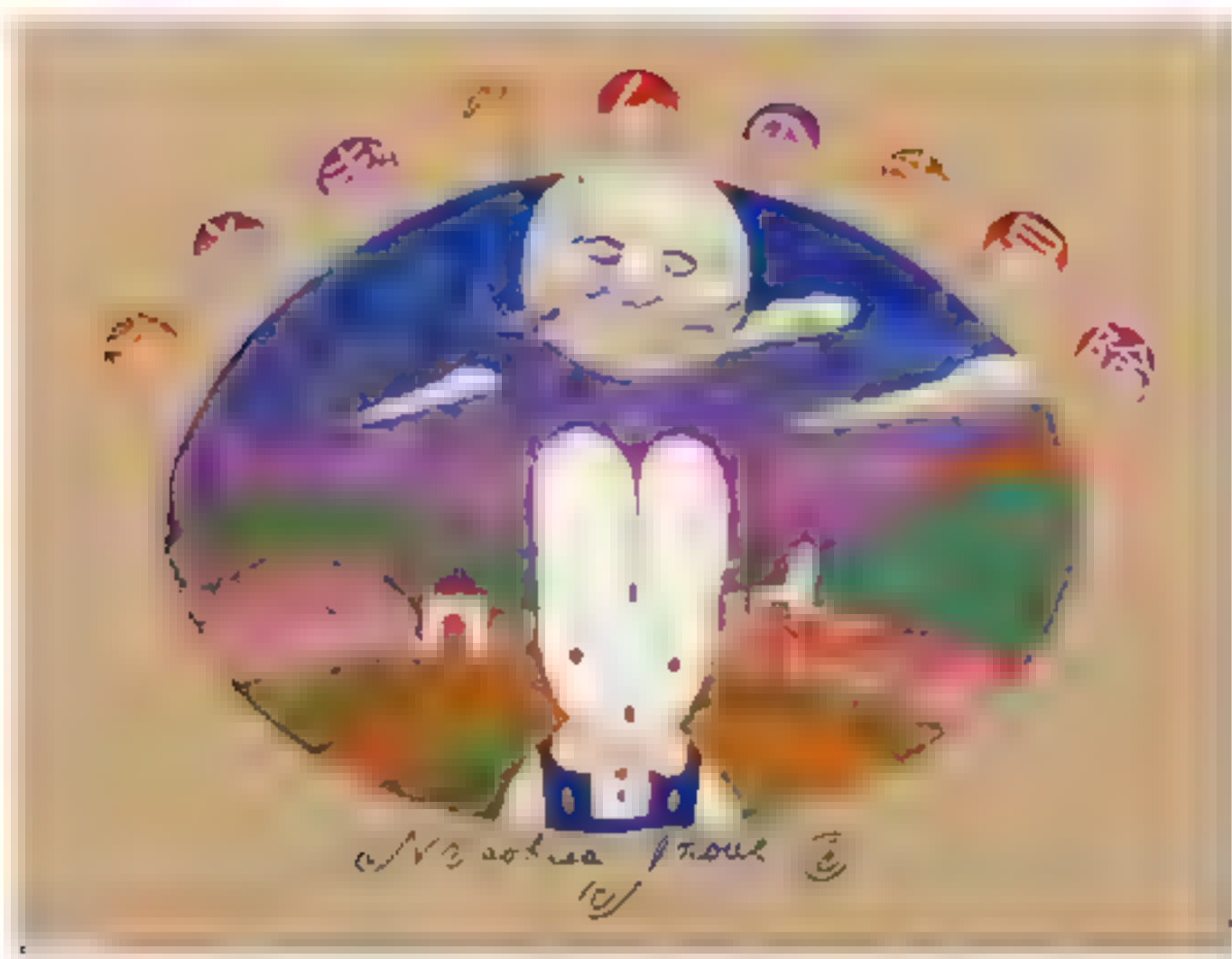
カラーインク



同じ窓をそれぞれ油彩（右）とアクリル（左）で描いた作品。
同じものなのに間隔が異なって面白いです。



(大阪府春日丘高校での資料)



絵本制作授業のサンプル。1年生の時に文庫本の表紙を作り、2年生で体裁を決め、3年生の時に中身を描くという、3年間かけてやっと完成する本作りの課題。うさぎくんが家に帰るまでの大冒険を描いた未完成の絵本の表紙。

Teaching

構図、色、空間、遠近など、絵を支えるさまざまな技法たち。それらを柔軟な発想で探求している井上直久さんは、教師時代もご自身の知識と技量を惜しみなく学生たちに伝授していました。今回、実際に授業で使用されていた資料の一部を公開いたします。

(大阪府春日丘高校での資料)

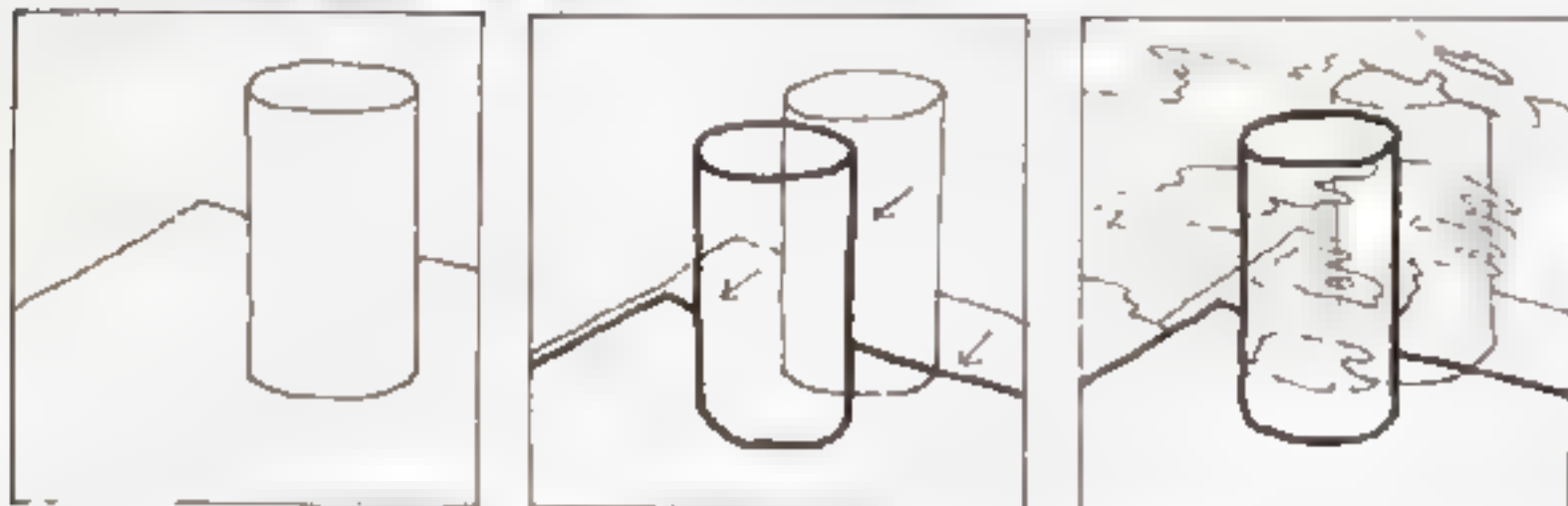
「描写演習」の授業で、構図、形、陰影などの基礎を教えるため、井上さんが独自にまとめた資料が配られました。

井上直久教室

描写演習 I ———— 単色写生

ウルトラマリンブルーまたはバーントアンバーと、白だけで描写する。

(1) 構図の修正 → 平行移動

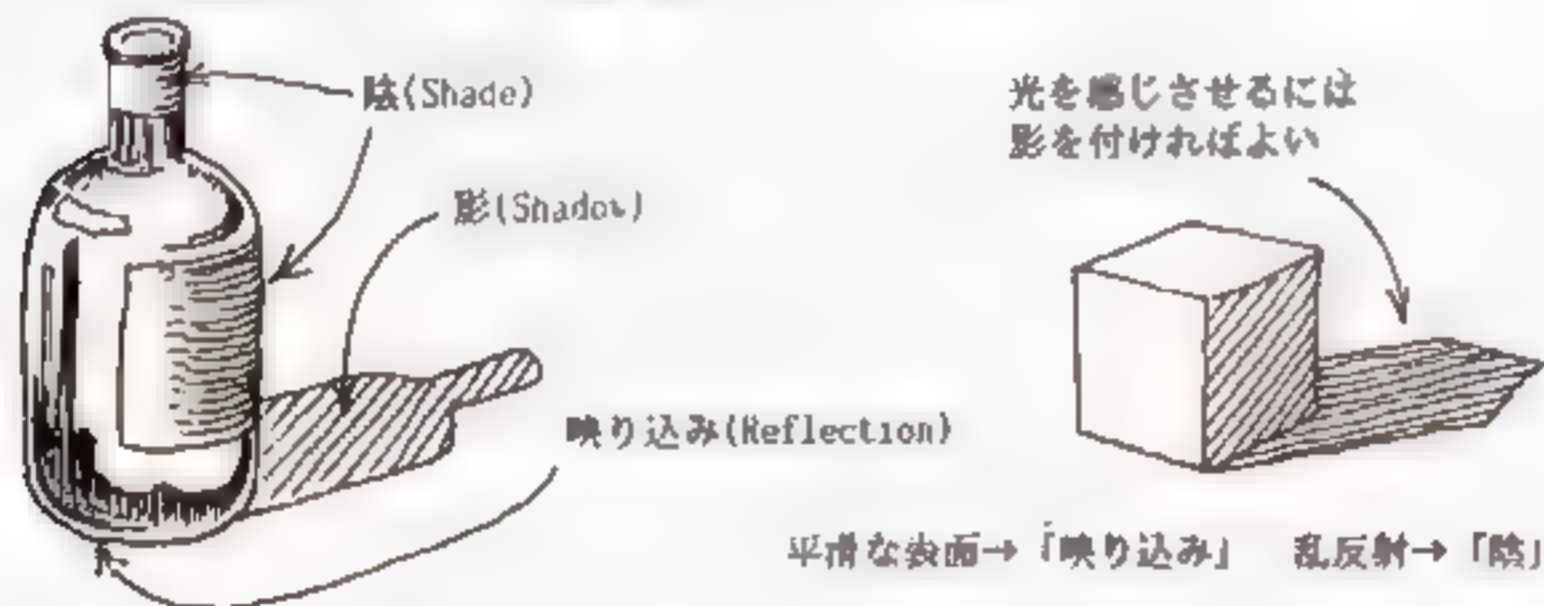


構図を直すときは、元の図を消さずに、平行移動した新しい図を描き、そのあと元の図の上に新しい構図の色を置いていく。(最小限の変更ですみ、元の図と色も牛かせる)

(2) 形 → 円と四角

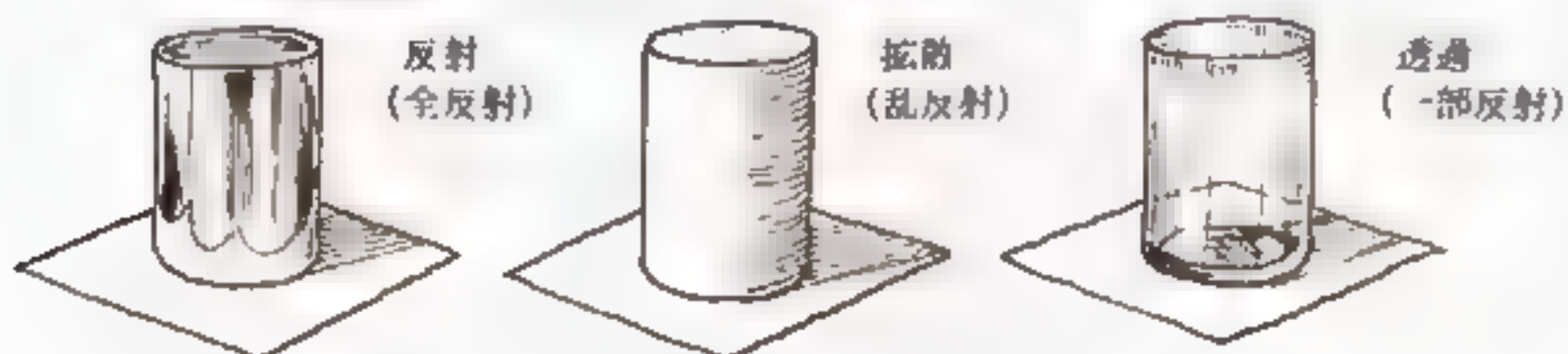


(3) 陰影 → 3種類の「かげ」



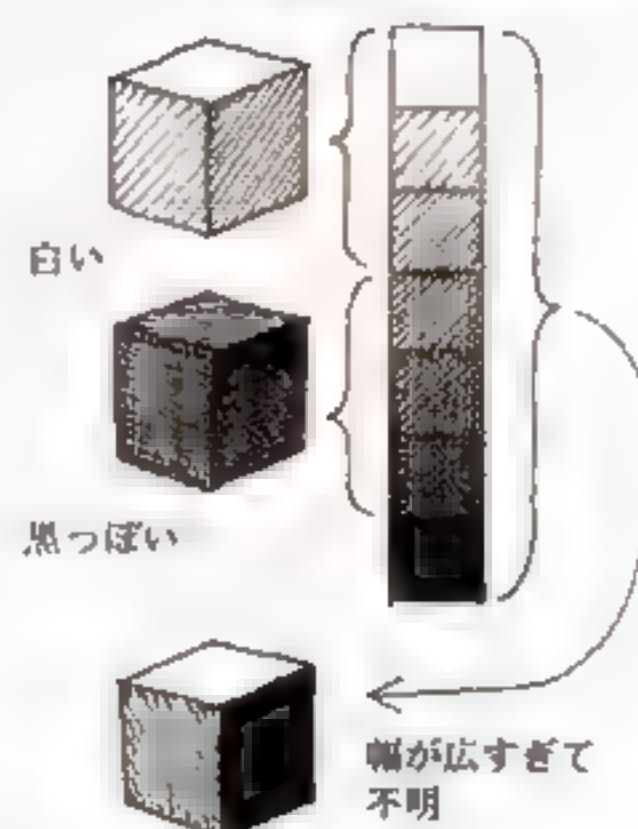
(4) 質感

質感は映り込みによって決まる

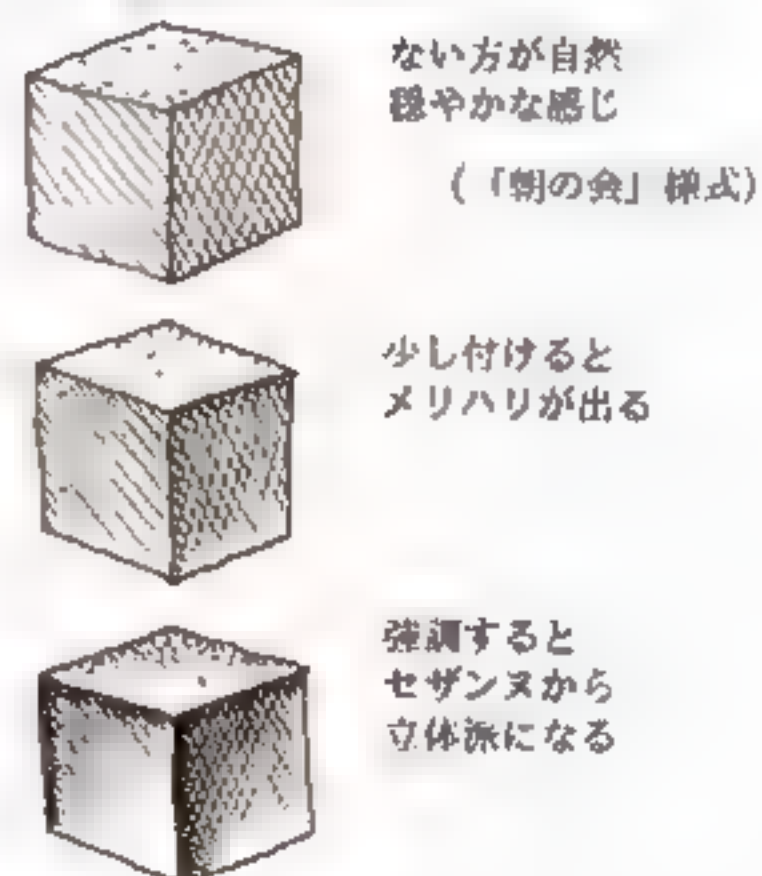


(5) 色感

→ 明度の幅



(6) 縁辺対比



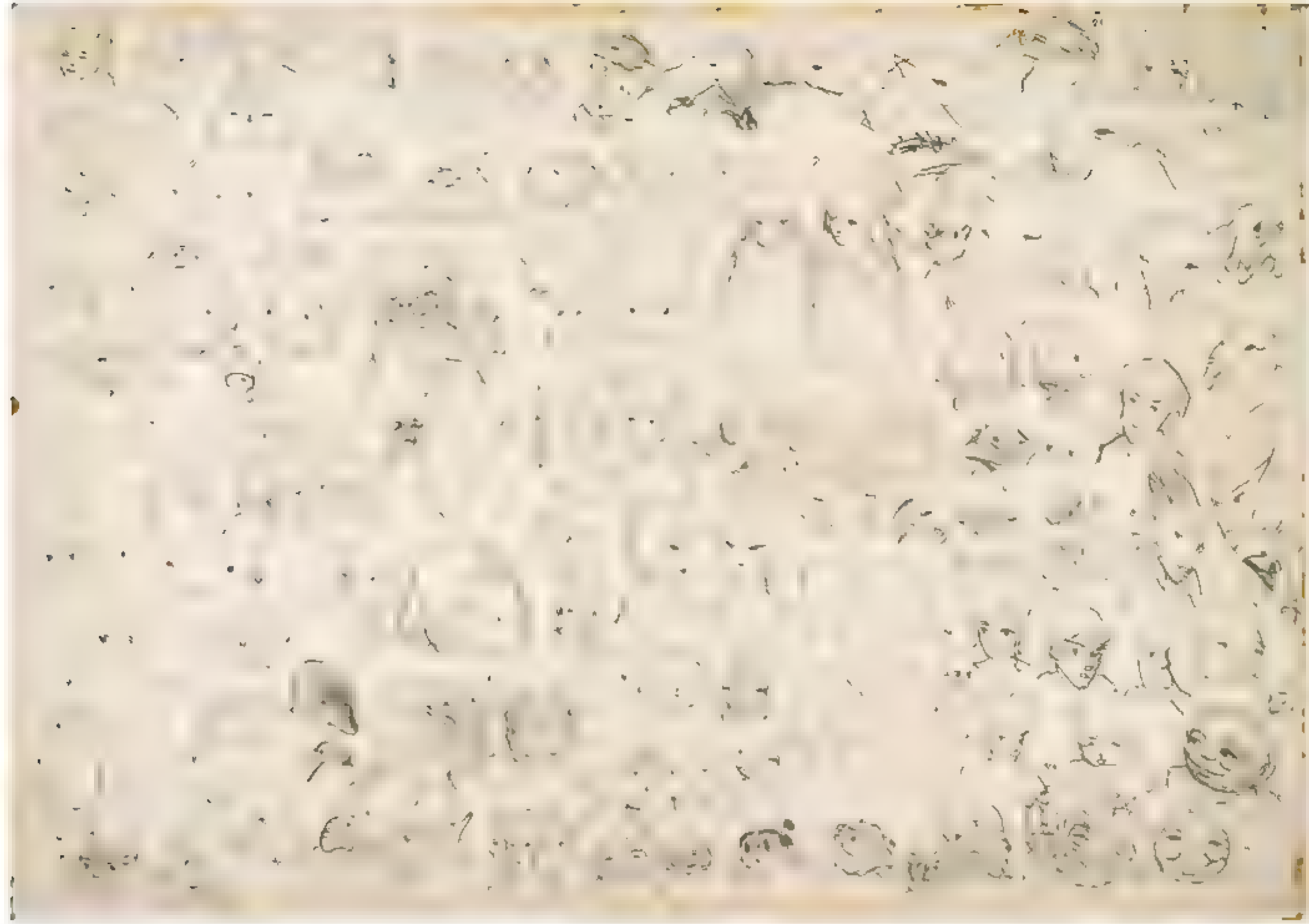
[illegible]

March 2004

11

11. 1994 年 10 月 1 日起, 凡在我国境内销售货物的单位和个人, 均应按销售额的一定比例缴纳增值税。



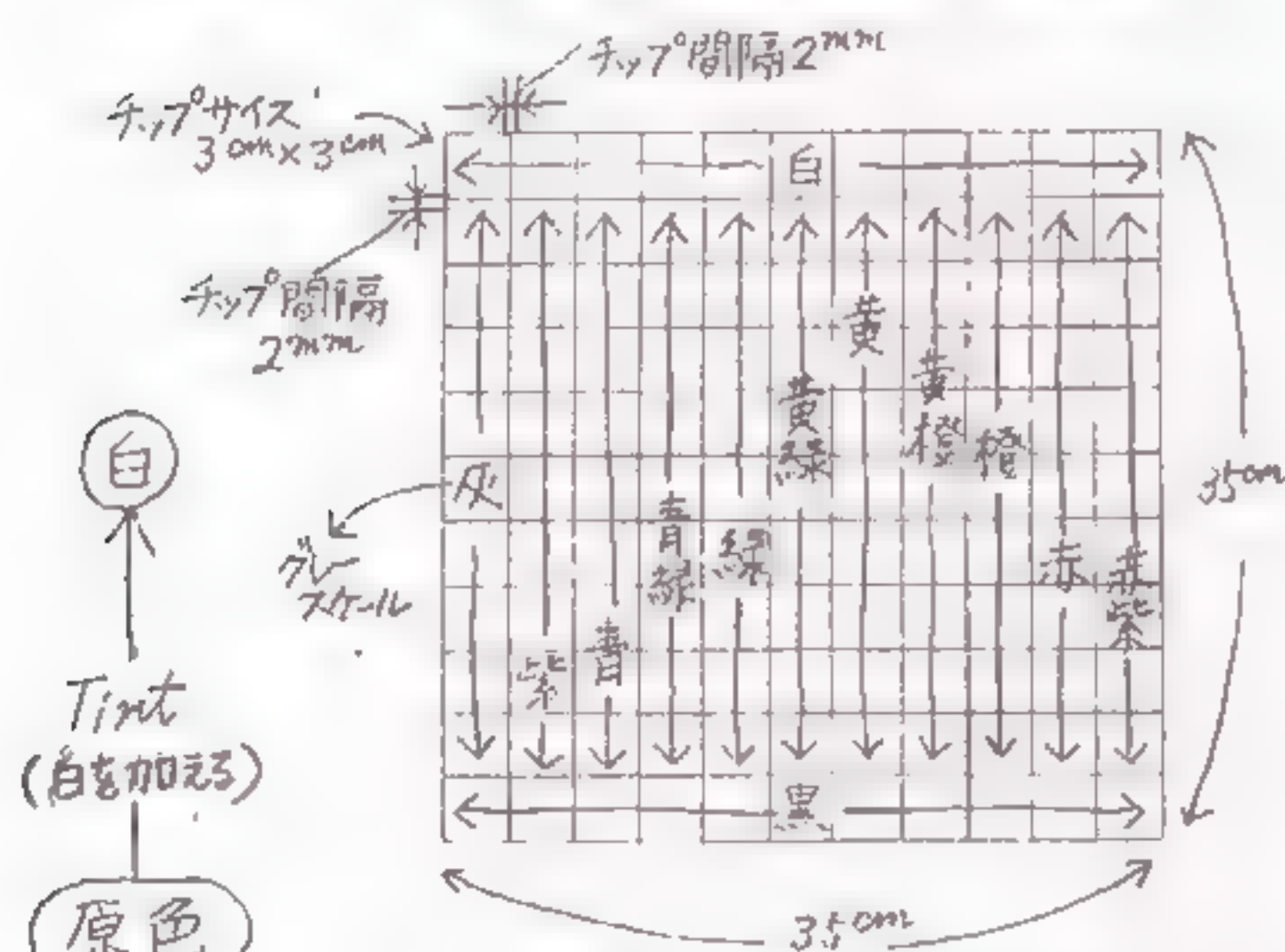


(成安造形大学での資料)

課題のサンプル。100コのキャラクターを生み出すヒントは、10コキャラクターを考え、例え似ていたとしても、どんどん描いていくこと。100コのキャラクターが描けたら、そこから4コキャラクターを選び、それに喜怒哀楽をつけます。



< Tint & Shade > 成安造形大学 井上直久



① 原色に白または黒、どちらかを加える。
(両方に加えることはない。)

② 横方向に明度をそろえる。

- ・ 原色はできるだけ、採用する。
- ・ 原色の位置は色によって違う。
(原色の位置で判断される)
- ・ グレースケール(灰の段階)を基準として並び、すべての色をそれ合わせ、全部を並べてバランスを取る。

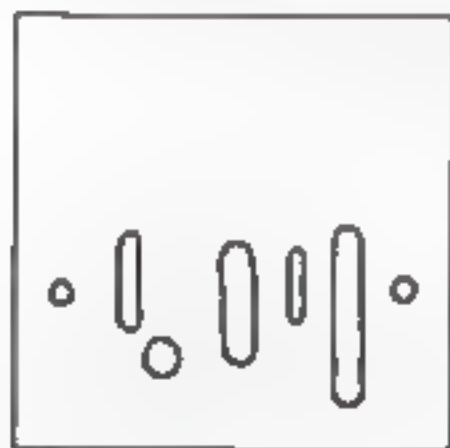
「ところにより曇り」
左がスフマート(ぼかし) / 油彩に移行して可能になった、レオナルド・ダ・ヴィンチ以後の技法です。右がハッチング(平行線) / 上記以前、ボッティチェリなど、ぼかしの難しいテンペラ作品の技法です。



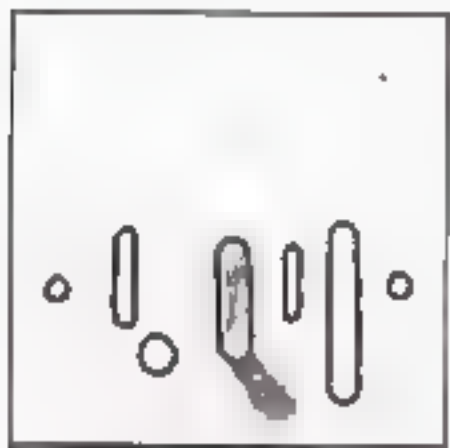
(成安造形大学での資料)

陰影法

光源を基準にし陰影をつけることは、単に立体感を出すだけではなく、空間の中で、もの相互の位置関係を示すたいへん有効な方法です。しかし直射光によるはっきりした影を描くには、光源の追跡という考え方を必要とします。そのため、これが明確に描かれるようになったのは、科学的な思考が普及する近代に入ってからです。



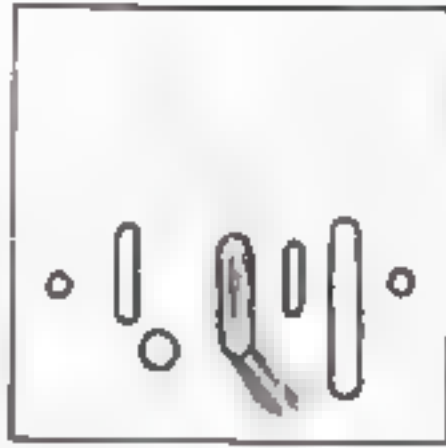
陰影のない輪郭だけでは、ものの位置関係は分からない。



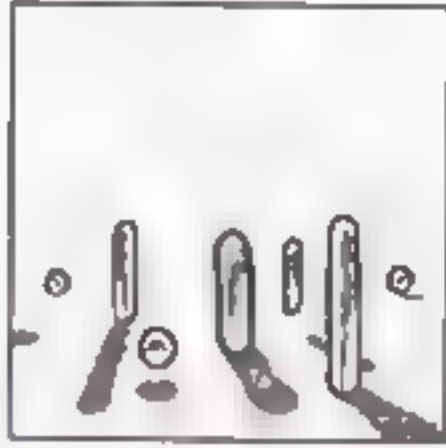
どれか一つにでも影をつけてみる。(仮定)

(成安造形入学での資料)

影をつけることにより、光を表現できます。光源のおかげで全ての位置関係が明確になります。



すると必然的に光源の方向と位置が決まり、



それ以外の全てのものに、この光源からの光による影がつく。この影によって、光源と物それぞれの位置関係がはっきりして、空間が出来る。(仮定)

直射光による影を作るには、このように「仮定を検証し演繹する」考え方が必要です。明瞭な空間を作るためには、視点(自己認識の確立＝ルネサンスの遠近法)と、例外を作らない物の見方(19世紀以降の科学的な思考法)が必要だったのです。

| 課題 | 科目 | タイトル | 概要 | 回数 | 用具 | 内容 |
|---------|------|-----------------|----------------------|----|----|----|
| 010-01 | 描写基礎 | 石膏像 形を明確で見る | 基本形 球 立方体 円筒で描く | 1 | | |
| 010-02 | 描写基礎 | 石膏像 形の捉え方 | 基本形 球 立方体 円筒で描く | 1 | | |
| 010-03 | 描写基礎 | 石膏像 軸を明確 遠近 | 点線 面線 円筒 球 立方体 円筒で描く | 2 | | |
| 010-04 | 描写基礎 | 石膏像 遠近と面で見える | 点線 面線 円筒 球 立方体 円筒で描く | 3 | | |
| 010-05 | 描写基礎 | 石膏像 明確の陰影 | 点線 面線 円筒 球 立方体 円筒で描く | 4 | | |
| 010-06 | 描写基礎 | 石膏像 明確の立体表現 | 点線 面線 円筒 球 立方体 円筒で描く | 5 | | |
| 010-07 | 描写基礎 | 石膏像 遠近表現 | 点線 面線 円筒 球 立方体 円筒で描く | 6 | | |
| 010-08 | 描写基礎 | 石膏像 単色描写 | 点線 面線 円筒 球 立方体 円筒で描く | 7 | | |
| 010-09 | 描写基礎 | 石膏像 単色描写 青+茶による | 点線 面線 円筒 球 立方体 円筒で描く | 8 | | |
| 010-10 | 描写基礎 | 石膏像 単色描写 青+茶による | 点線 面線 円筒 球 立方体 円筒で描く | 9 | | |
| 010-11 | 描写基礎 | 石膏像 単色描写 青+茶による | 点線 面線 円筒 球 立方体 円筒で描く | 10 | | |
| 010-12 | 描写基礎 | 石膏像 単色描写 青+茶による | 点線 面線 円筒 球 立方体 円筒で描く | 11 | | |
| 010-13 | 描写基礎 | 石膏像 単色描写 青+茶による | 点線 面線 円筒 球 立方体 円筒で描く | 12 | | |
| 010-14 | 描写基礎 | 石膏像 単色描写 青+茶による | 点線 面線 円筒 球 立方体 円筒で描く | 13 | | |
| 010-15 | 描写基礎 | 石膏像 単色描写 青+茶による | 点線 面線 円筒 球 立方体 円筒で描く | 14 | | |
| 010-16 | 描写基礎 | 石膏像 単色描写 青+茶による | 点線 面線 円筒 球 立方体 円筒で描く | 15 | | |
| 010-17 | 描写基礎 | 石膏像 単色描写 青+茶による | 点線 面線 円筒 球 立方体 円筒で描く | 16 | | |
| 010-18 | 描写基礎 | 石膏像 単色描写 青+茶による | 点線 面線 円筒 球 立方体 円筒で描く | 17 | | |
| 010-19 | 描写基礎 | 石膏像 単色描写 青+茶による | 点線 面線 円筒 球 立方体 円筒で描く | 18 | | |
| 010-20 | 描写基礎 | 石膏像 単色描写 青+茶による | 点線 面線 円筒 球 立方体 円筒で描く | 19 | | |
| 010-21 | 描写基礎 | 石膏像 単色描写 青+茶による | 点線 面線 円筒 球 立方体 円筒で描く | 20 | | |
| 010-22 | 描写基礎 | 石膏像 単色描写 青+茶による | 点線 面線 円筒 球 立方体 円筒で描く | 21 | | |
| 010-23 | 描写基礎 | 石膏像 単色描写 青+茶による | 点線 面線 円筒 球 立方体 円筒で描く | 22 | | |
| 010-24 | 描写基礎 | 石膏像 単色描写 青+茶による | 点線 面線 円筒 球 立方体 円筒で描く | 23 | | |
| 010-25 | 描写基礎 | 石膏像 単色描写 青+茶による | 点線 面線 円筒 球 立方体 円筒で描く | 24 | | |
| 010-26 | 描写基礎 | 石膏像 単色描写 青+茶による | 点線 面線 円筒 球 立方体 円筒で描く | 25 | | |
| 010-27 | 描写基礎 | 石膏像 単色描写 青+茶による | 点線 面線 円筒 球 立方体 円筒で描く | 26 | | |
| 010-28 | 描写基礎 | 石膏像 単色描写 青+茶による | 点線 面線 円筒 球 立方体 円筒で描く | 27 | | |
| 010-29 | 描写基礎 | 石膏像 単色描写 青+茶による | 点線 面線 円筒 球 立方体 円筒で描く | 28 | | |
| 010-30 | 描写基礎 | 石膏像 単色描写 青+茶による | 点線 面線 円筒 球 立方体 円筒で描く | 29 | | |
| 010-31 | 描写基礎 | 石膏像 単色描写 青+茶による | 点線 面線 円筒 球 立方体 円筒で描く | 30 | | |
| 010-32 | 描写基礎 | 石膏像 単色描写 青+茶による | 点線 面線 円筒 球 立方体 円筒で描く | 31 | | |
| 010-33 | 描写基礎 | 石膏像 単色描写 青+茶による | 点線 面線 円筒 球 立方体 円筒で描く | 32 | | |
| 010-34 | 描写基礎 | 石膏像 単色描写 青+茶による | 点線 面線 円筒 球 立方体 円筒で描く | 33 | | |
| 010-35 | 描写基礎 | 石膏像 単色描写 青+茶による | 点線 面線 円筒 球 立方体 円筒で描く | 34 | | |
| 010-36 | 描写基礎 | 石膏像 単色描写 青+茶による | 点線 面線 円筒 球 立方体 円筒で描く | 35 | | |
| 010-37 | 描写基礎 | 石膏像 単色描写 青+茶による | 点線 面線 円筒 球 立方体 円筒で描く | 36 | | |
| 010-38 | 描写基礎 | 石膏像 単色描写 青+茶による | 点線 面線 円筒 球 立方体 円筒で描く | 37 | | |
| 010-39 | 描写基礎 | 石膏像 単色描写 青+茶による | 点線 面線 円筒 球 立方体 円筒で描く | 38 | | |
| 010-40 | 描写基礎 | 石膏像 単色描写 青+茶による | 点線 面線 円筒 球 立方体 円筒で描く | 39 | | |
| 010-41 | 描写基礎 | 石膏像 単色描写 青+茶による | 点線 面線 円筒 球 立方体 円筒で描く | 40 | | |
| 010-42 | 描写基礎 | 石膏像 単色描写 青+茶による | 点線 面線 円筒 球 立方体 円筒で描く | 41 | | |
| 010-43 | 描写基礎 | 石膏像 単色描写 青+茶による | 点線 面線 円筒 球 立方体 円筒で描く | 42 | | |
| 010-44 | 描写基礎 | 石膏像 単色描写 青+茶による | 点線 面線 円筒 球 立方体 円筒で描く | 43 | | |
| 010-45 | 描写基礎 | 石膏像 単色描写 青+茶による | 点線 面線 円筒 球 立方体 円筒で描く | 44 | | |
| 010-46 | 描写基礎 | 石膏像 単色描写 青+茶による | 点線 面線 円筒 球 立方体 円筒で描く | 45 | | |
| 010-47 | 描写基礎 | 石膏像 単色描写 青+茶による | 点線 面線 円筒 球 立方体 円筒で描く | 46 | | |
| 010-48 | 描写基礎 | 石膏像 単色描写 青+茶による | 点線 面線 円筒 球 立方体 円筒で描く | 47 | | |
| 010-49 | 描写基礎 | 石膏像 単色描写 青+茶による | 点線 面線 円筒 球 立方体 円筒で描く | 48 | | |
| 010-50 | 描写基礎 | 石膏像 単色描写 青+茶による | 点線 面線 円筒 球 立方体 円筒で描く | 49 | | |
| 010-51 | 描写基礎 | 石膏像 単色描写 青+茶による | 点線 面線 円筒 球 立方体 円筒で描く | 50 | | |
| 010-52 | 描写基礎 | 石膏像 単色描写 青+茶による | 点線 面線 円筒 球 立方体 円筒で描く | 51 | | |
| 010-53 | 描写基礎 | 石膏像 単色描写 青+茶による | 点線 面線 円筒 球 立方体 円筒で描く | 52 | | |
| 010-54 | 描写基礎 | 石膏像 単色描写 青+茶による | 点線 面線 円筒 球 立方体 円筒で描く | 53 | | |
| 010-55 | 描写基礎 | 石膏像 単色描写 青+茶による | 点線 面線 円筒 球 立方体 円筒で描く | 54 | | |
| 010-56 | 描写基礎 | 石膏像 単色描写 青+茶による | 点線 面線 円筒 球 立方体 円筒で描く | 55 | | |
| 010-57 | 描写基礎 | 石膏像 単色描写 青+茶による | 点線 面線 円筒 球 立方体 円筒で描く | 56 | | |
| 010-58 | 描写基礎 | 石膏像 単色描写 青+茶による | 点線 面線 円筒 球 立方体 円筒で描く | 57 | | |
| 010-59 | 描写基礎 | 石膏像 単色描写 青+茶による | 点線 面線 円筒 球 立方体 円筒で描く | 58 | | |
| 010-60 | 描写基礎 | 石膏像 単色描写 青+茶による | 点線 面線 円筒 球 立方体 円筒で描く | 59 | | |
| 010-61 | 描写基礎 | 石膏像 単色描写 青+茶による | 点線 面線 円筒 球 立方体 円筒で描く | 60 | | |
| 010-62 | 描写基礎 | 石膏像 単色描写 青+茶による | 点線 面線 円筒 球 立方体 円筒で描く | 61 | | |
| 010-63 | 描写基礎 | 石膏像 単色描写 青+茶による | 点線 面線 円筒 球 立方体 円筒で描く | 62 | | |
| 010-64 | 描写基礎 | 石膏像 単色描写 青+茶による | 点線 面線 円筒 球 立方体 円筒で描く | 63 | | |
| 010-65 | 描写基礎 | 石膏像 単色描写 青+茶による | 点線 面線 円筒 球 立方体 円筒で描く | 64 | | |
| 010-66 | 描写基礎 | 石膏像 単色描写 青+茶による | 点線 面線 円筒 球 立方体 円筒で描く | 65 | | |
| 010-67 | 描写基礎 | 石膏像 単色描写 青+茶による | 点線 面線 円筒 球 立方体 円筒で描く | 66 | | |
| 010-68 | 描写基礎 | 石膏像 単色描写 青+茶による | 点線 面線 円筒 球 立方体 円筒で描く | 67 | | |
| 010-69 | 描写基礎 | 石膏像 単色描写 青+茶による | 点線 面線 円筒 球 立方体 円筒で描く | 68 | | |
| 010-70 | 描写基礎 | 石膏像 単色描写 青+茶による | 点線 面線 円筒 球 立方体 円筒で描く | 69 | | |
| 010-71 | 描写基礎 | 石膏像 単色描写 青+茶による | 点線 面線 円筒 球 立方体 円筒で描く | 70 | | |
| 010-72 | 描写基礎 | 石膏像 単色描写 青+茶による | 点線 面線 円筒 球 立方体 円筒で描く | 71 | | |
| 010-73 | 描写基礎 | 石膏像 単色描写 青+茶による | 点線 面線 円筒 球 立方体 円筒で描く | 72 | | |
| 010-74 | 描写基礎 | 石膏像 単色描写 青+茶による | 点線 面線 円筒 球 立方体 円筒で描く | 73 | | |
| 010-75 | 描写基礎 | 石膏像 単色描写 青+茶による | 点線 面線 円筒 球 立方体 円筒で描く | 74 | | |
| 010-76 | 描写基礎 | 石膏像 単色描写 青+茶による | 点線 面線 円筒 球 立方体 円筒で描く | 75 | | |
| 010-77 | 描写基礎 | 石膏像 単色描写 青+茶による | 点線 面線 円筒 球 立方体 円筒で描く | 76 | | |
| 010-78 | 描写基礎 | 石膏像 単色描写 青+茶による | 点線 面線 円筒 球 立方体 円筒で描く | 77 | | |
| 010-79 | 描写基礎 | 石膏像 単色描写 青+茶による | 点線 面線 円筒 球 立方体 円筒で描く | 78 | | |
| 010-80 | 描写基礎 | 石膏像 単色描写 青+茶による | 点線 面線 円筒 球 立方体 円筒で描く | 79 | | |
| 010-81 | 描写基礎 | 石膏像 単色描写 青+茶による | 点線 面線 円筒 球 立方体 円筒で描く | 80 | | |
| 010-82 | 描写基礎 | 石膏像 単色描写 青+茶による | 点線 面線 円筒 球 立方体 円筒で描く | 81 | | |
| 010-83 | 描写基礎 | 石膏像 単色描写 青+茶による | 点線 面線 円筒 球 立方体 円筒で描く | 82 | | |
| 010-84 | 描写基礎 | 石膏像 単色描写 青+茶による | 点線 面線 円筒 球 立方体 円筒で描く | 83 | | |
| 010-85 | 描写基礎 | 石膏像 単色描写 青+茶による | 点線 面線 円筒 球 立方体 円筒で描く | 84 | | |
| 010-86 | 描写基礎 | 石膏像 単色描写 青+茶による | 点線 面線 円筒 球 立方体 円筒で描く | 85 | | |
| 010-87 | 描写基礎 | 石膏像 単色描写 青+茶による | 点線 面線 円筒 球 立方体 円筒で描く | 86 | | |
| 010-88 | 描写基礎 | 石膏像 単色描写 青+茶による | 点線 面線 円筒 球 立方体 円筒で描く | 87 | | |
| 010-89 | 描写基礎 | 石膏像 単色描写 青+茶による | 点線 面線 円筒 球 立方体 円筒で描く | 88 | | |
| 010-90 | 描写基礎 | 石膏像 単色描写 青+茶による | 点線 面線 円筒 球 立方体 円筒で描く | 89 | | |
| 010-91 | 描写基礎 | 石膏像 単色描写 青+茶による | 点線 面線 円筒 球 立方体 円筒で描く | 90 | | |
| 010-92 | 描写基礎 | 石膏像 単色描写 青+茶による | 点線 面線 円筒 球 立方体 円筒で描く | 91 | | |
| 010-93 | 描写基礎 | 石膏像 単色描写 青+茶による | 点線 面線 円筒 球 立方体 円筒で描く | 92 | | |
| 010-94 | 描写基礎 | 石膏像 単色描写 青+茶による | 点線 面線 円筒 球 立方体 円筒で描く | 93 | | |
| 010-95 | 描写基礎 | 石膏像 単色描写 青+茶による | 点線 面線 円筒 球 立方体 円筒で描く | 94 | | |
| 010-96 | 描写基礎 | 石膏像 単色描写 青+茶による | 点線 面線 円筒 球 立方体 円筒で描く | 95 | | |
| 010-97 | 描写基礎 | 石膏像 単色描写 青+茶による | 点線 面線 円筒 球 立方体 円筒で描く | 96 | | |
| 010-98 | 描写基礎 | 石膏像 単色描写 青+茶による | 点線 面線 円筒 球 立方体 円筒で描く | 97 | | |
| 010-99 | 描写基礎 | 石膏像 単色描写 青+茶による | 点線 面線 円筒 球 立方体 円筒で描く | 98 | | |
| 010-100 | 描写基礎 | 石膏像 単色描写 青+茶による | 点線 面線 円筒 球 立方体 円筒で描く | 99 | | |

イラストレーション演習 1

試作1 明度の統一により、彩度の鮮やかを得る。

①下の段は、9つのコマごとに、3段階の明度に分ける。(1~9)

9つのコマの中央コマに、グレーを置き、そのグレーに明度を合わせて、まわりに8色を置く。

※明度が合っているかどうかは、目を離れて、目に入る光量を少なくすると、分かりやすい。

暗い中では色の区別はつきにくく、明暗だけの図になる。

これは色を見る視細胞(錐体)は明るくないと働きが鈍いのに対し、明暗を見る桿細胞(桿体)は、光量が少なくても働くことによる

②明度が合っていないと、色の境界で明度対比が起こる。

すなわち、暗い方の縁がより暗く、明るい方の縁がより明るく見え、境界が際立ってしまう。これを縁明対比と言う。

③9コマで明度が揃うと、明度による縁明対比がなくなり、彩度の対比が見えてくる。

明度が合うと、色も揃っていても、境界が解け合って見え、色の鮮やかさが引き立ってくる。

そのすべて同じ明度の中で一番彩度の高い色が、盛光色のように輝いて見える。

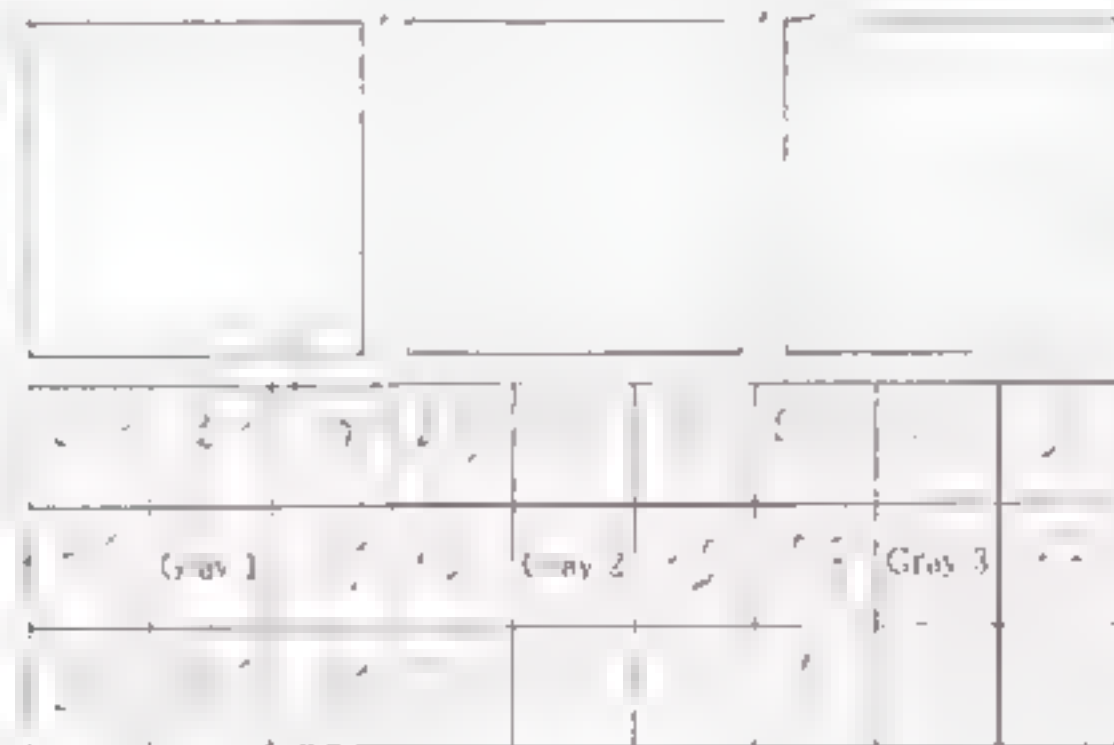
この効果は、明度が合わないときに出てこない。

④上りの9コマ、つまり明度の違う区画との間だけに、縁明対比が出るようになれば正解

明度がそろっていないと、明暗の差ばかりが目について、彩度の美しさが出てこない

⑤下の段でコップがつかめたら上の段に、その明度の色だけを使って絵を描いてみる。

3段階の、明度を統一した絵になる。



(成安造形入学での資料)

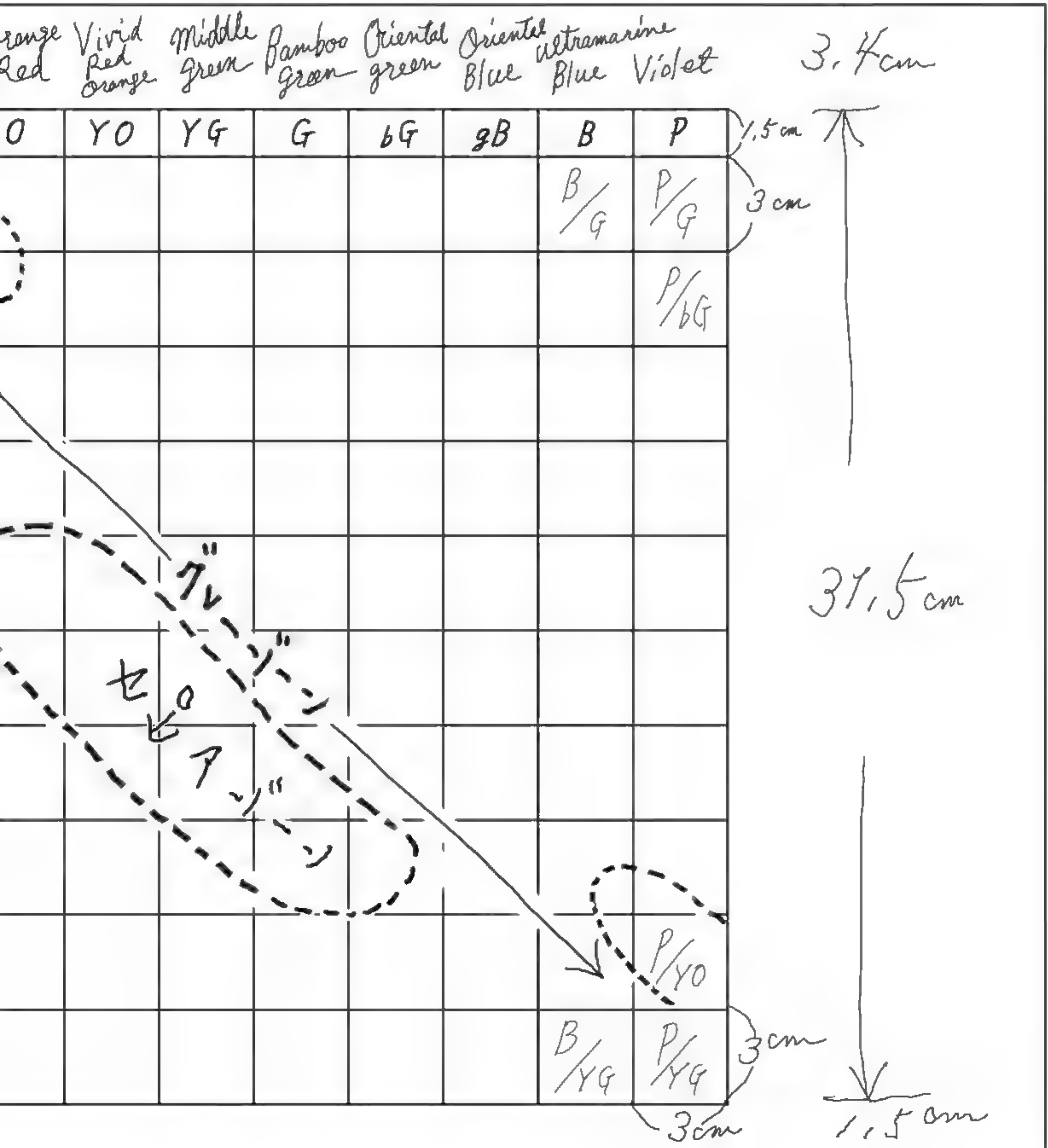
「イラストレーション演習」の授業で、配色を学ぶために、カラーチャート作成の課題が生徒に与えられました。

(自宅アトリエの絵画教室で行っていた課題メニュー)

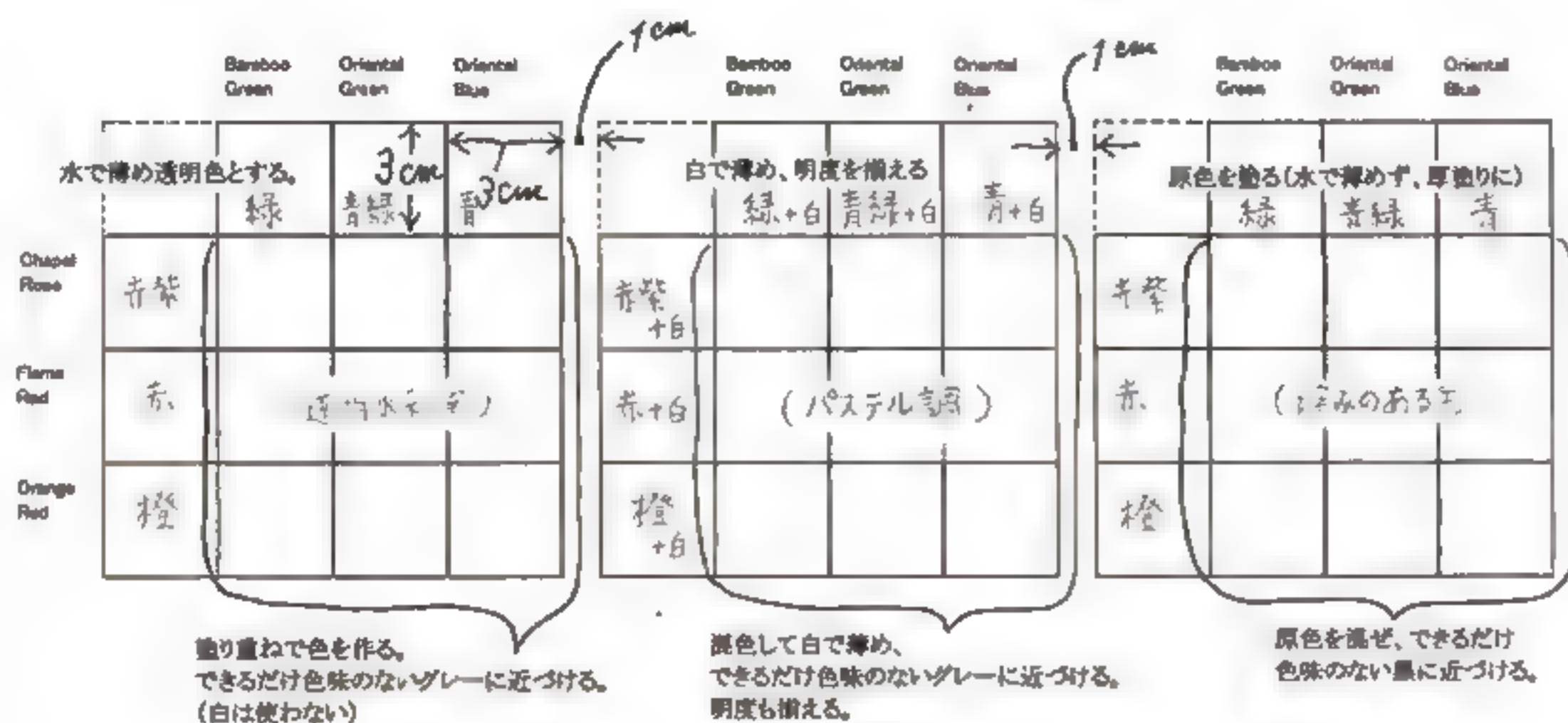


Color

「色というのは、ピアノの鍵盤のようにどれも欠かせない」と井上直久さんはおっしゃいます。ここでは、色に関する大学生時代の課題や今までの試行実験の一部をご紹介します。井上さんの幅広く豊かな彩りを出すヒントが垣間見えるかもしれません。



■補色3対の混色例と明度調整



by イナズマ・ナオヒサ 2011.8.1.

手描きのレタリング

SEPIA ZONE



Bamboo green
Oriental green
Oriental Blue
Ultramarine Blue
Violet
Chapel Rose
Flame Red
Orange Red
Vivid Red
Orange
Middle green

| | RP | R | |
|----|-------|------|--|
| G | RP/G | R/G | |
| 6G | RP/6G | | |
| 2B | | | |
| B | | | |
| P | | | |
| RP | | | |
| R | | | |
| O | | | |
| YO | RP/YO | | |
| YG | RP/YG | R/YG | |

1.5cm

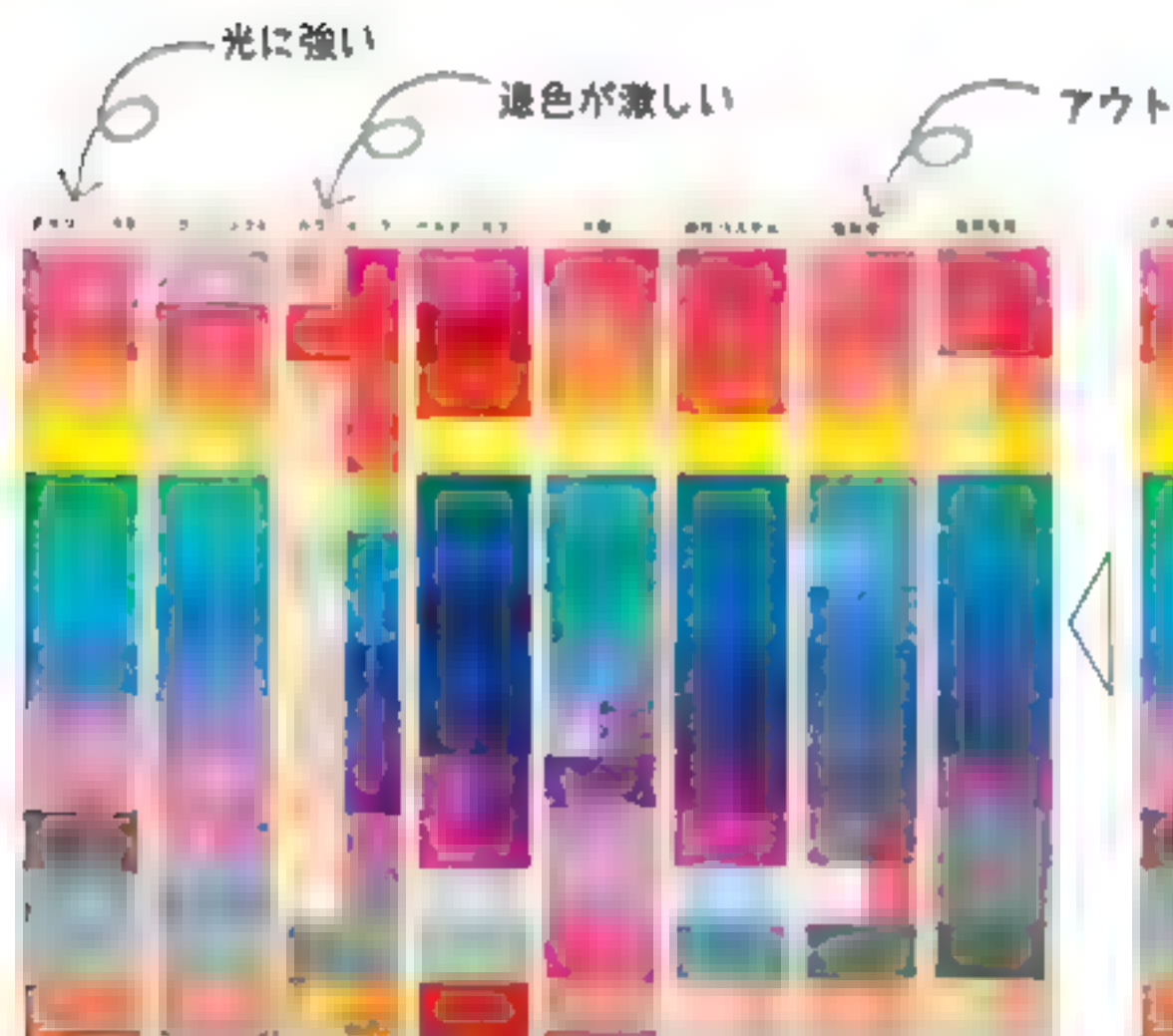
混色に白を加えたもの

混色

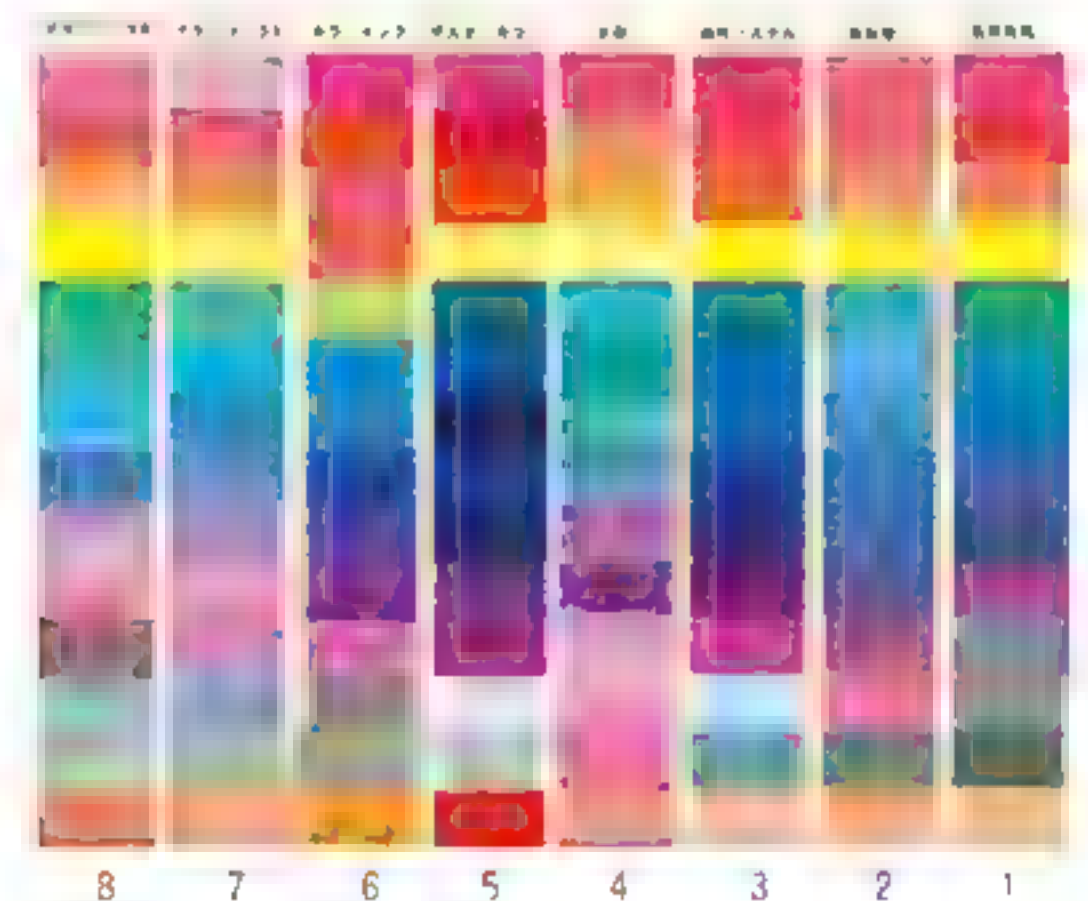


斜めのラインは、補色なので混色してニュートラルな灰色に近い色が出る。2つの透明の色を塗り重ねて、重色を見る。

左は白を混ぜて明度を整えたもの、右は原色。色の微妙な変化が面白く、いつも発見がある。



退色しやすい色を知るための退色実験

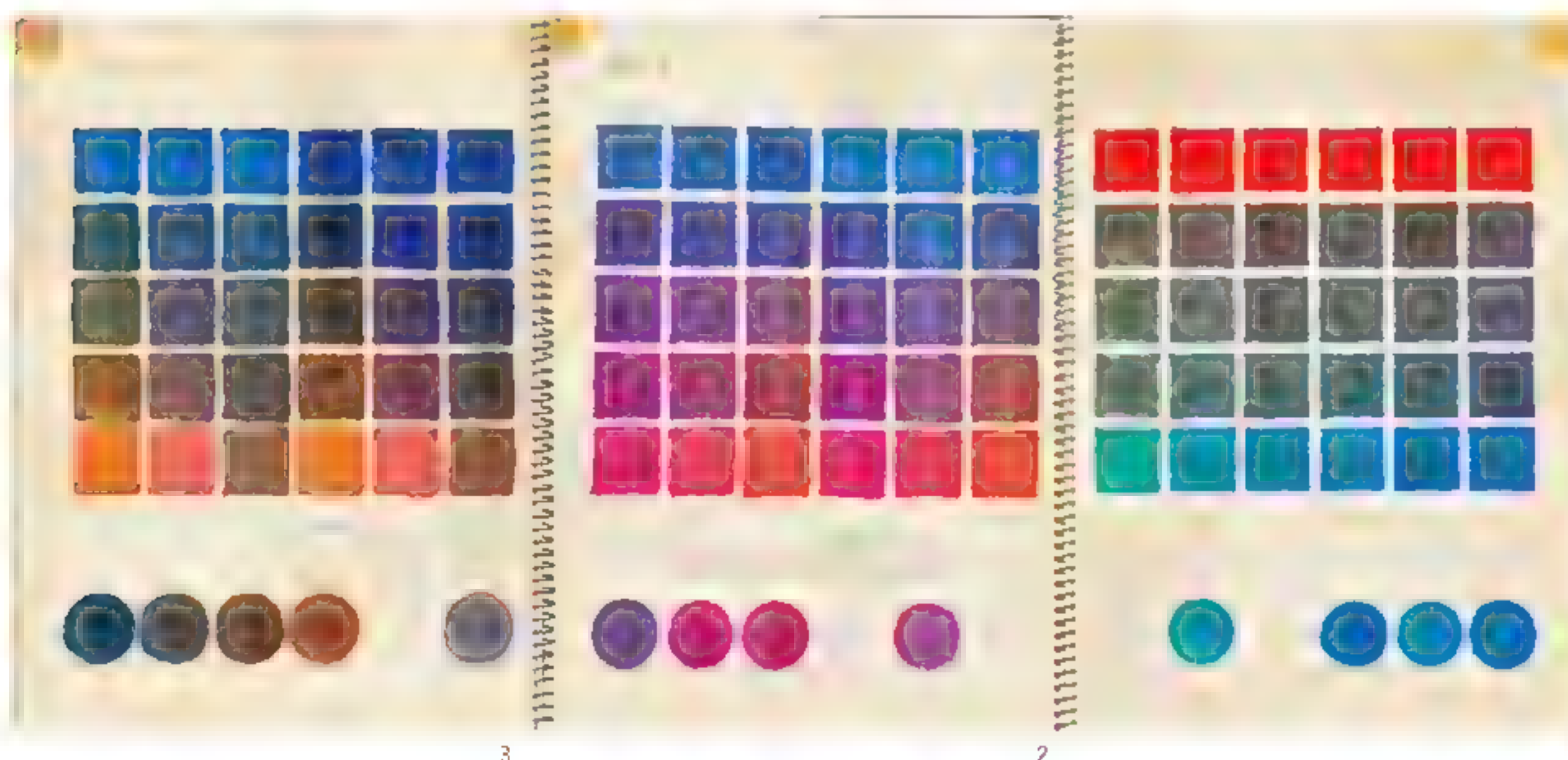


だいたい4月～9月のひと夏の間、直射日光にさらした結果

色の半分を覆い、太陽光に当てる

元の色

お手製色彩チャート帳

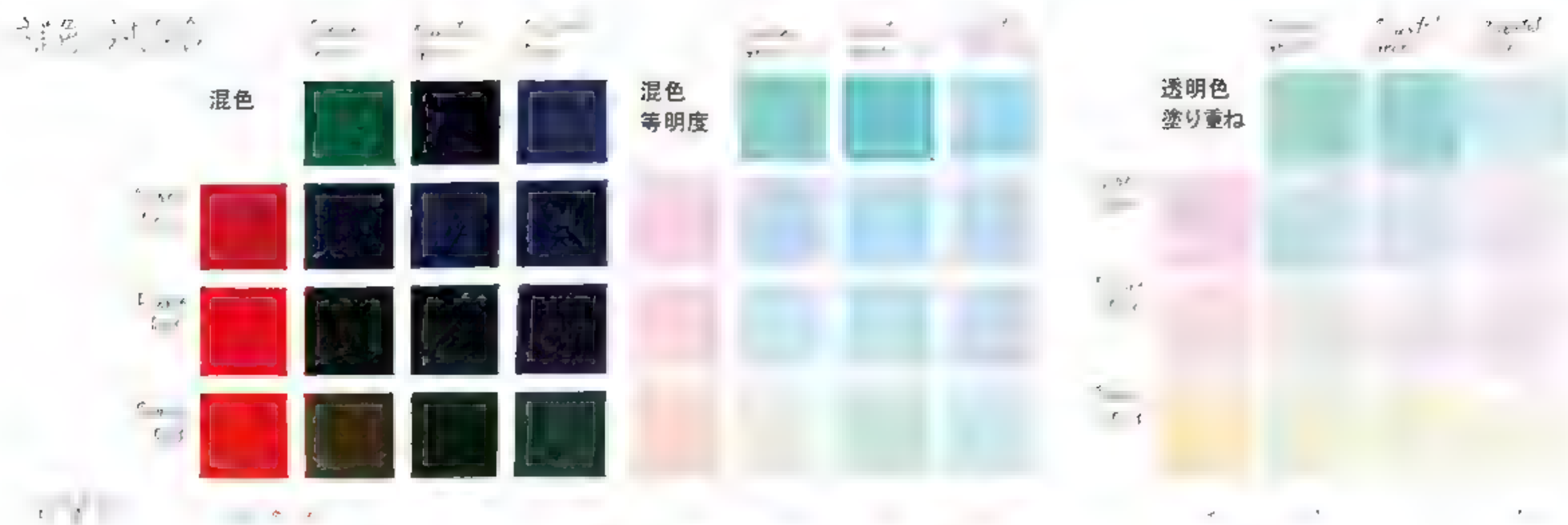


1. 色研色紙
2. 色鉛筆
3. 油性パステル
4. 水彩
5. ポスターカラー
6. カラーインク
7. アクリリックA
8. アクリリックB

色の効果や混色での補色などの予想をつけるために、正方形の枠の中で1/3ずつ、グロス、メディウム、クリスタルバーニッシュとツヤ出しを変えた色彩がまとめられています。

1. 赤（グランバッカーレッド）の補色を見つけるテスト
2. 重色で紫を出し、ツヤの有無や程度により見え方がどう変わるかの実験
3. 青、紫、茶などをト地とした影の色を黒に近づける「グレージング技法」の探求（補色で黒くする）

補色三対混合



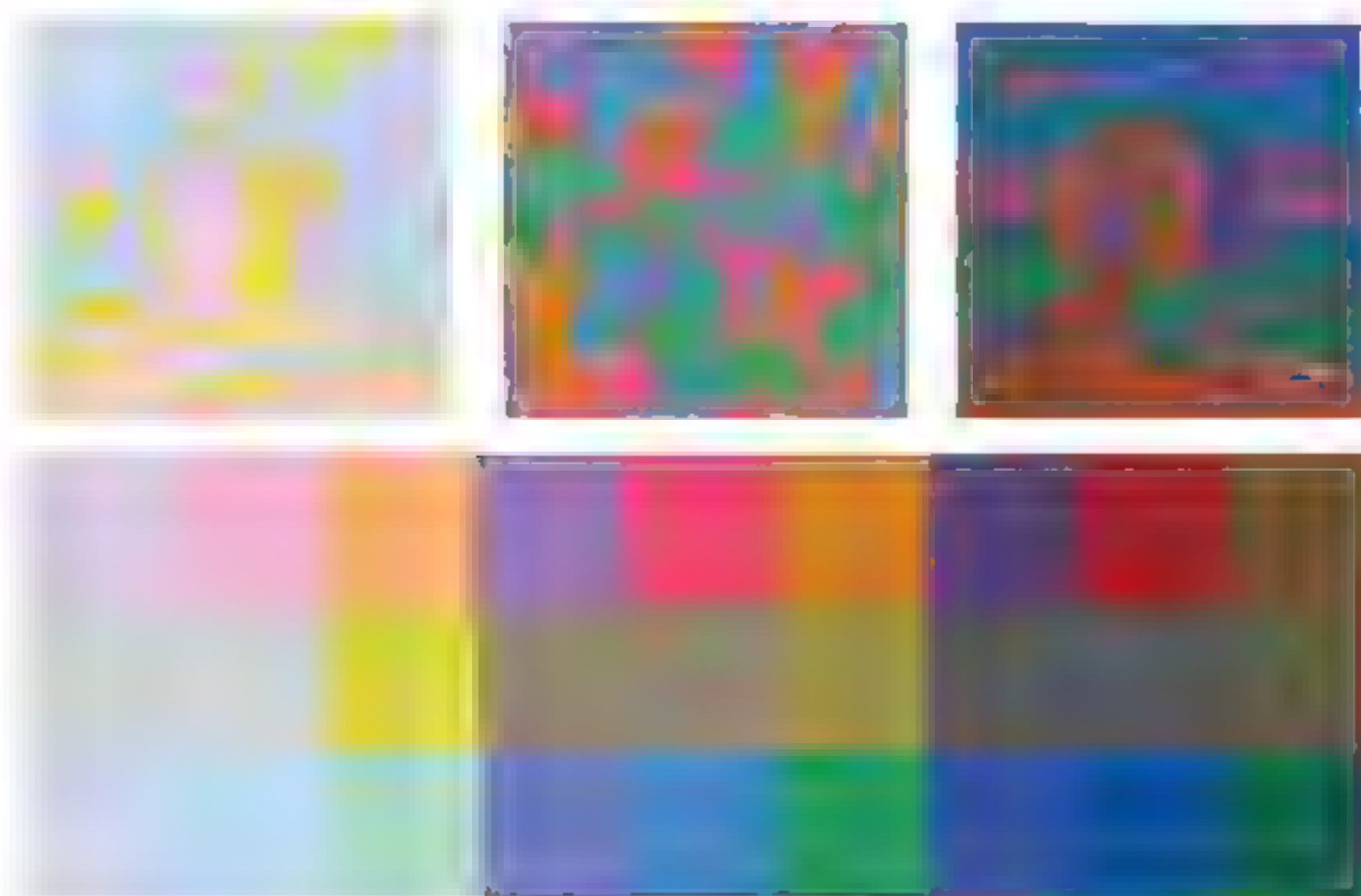
こういうカラーチャートを3種類作り、それぞれの効果を実践した試作の絵も3点描く。これは明度段階で、次が透明色の重ね、続いて補色による混色。冴えた色、深い色、微妙な色が出せるようになるためのトレーニングです。



点描の技法

明度を合わせ、いろんな色を入れます。点々で描くことで“ぼかし”や“塗りつぶし”から解放され、絵の修正を限りなく続けることができます。明度を揃えているんな色を置くのがポイントです。

Value control 明度を三段階にそろえる

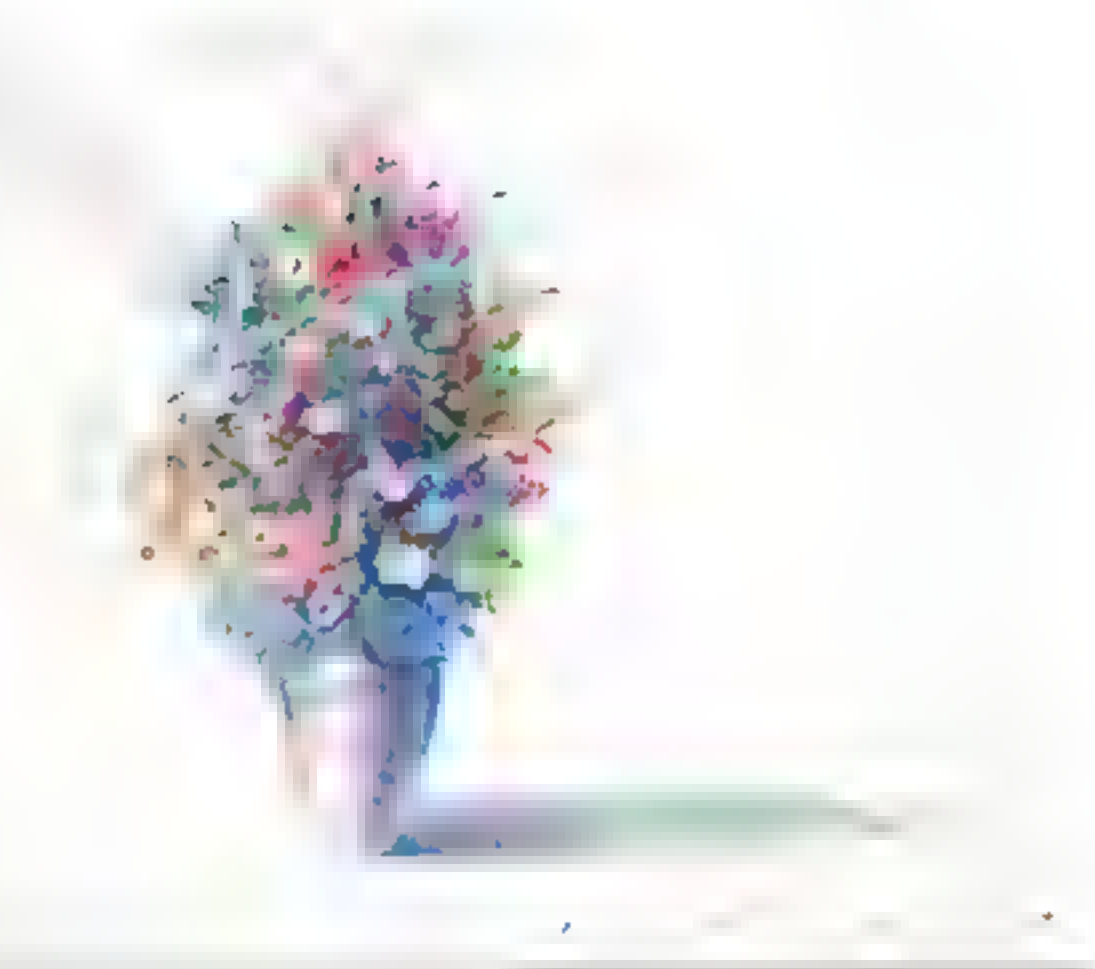


真ん中の灰色に、まわりの色の明度を合わせる。明度が揃うと、彩度の違いが際立ち、高彩度の色が鮮やかに見えます。

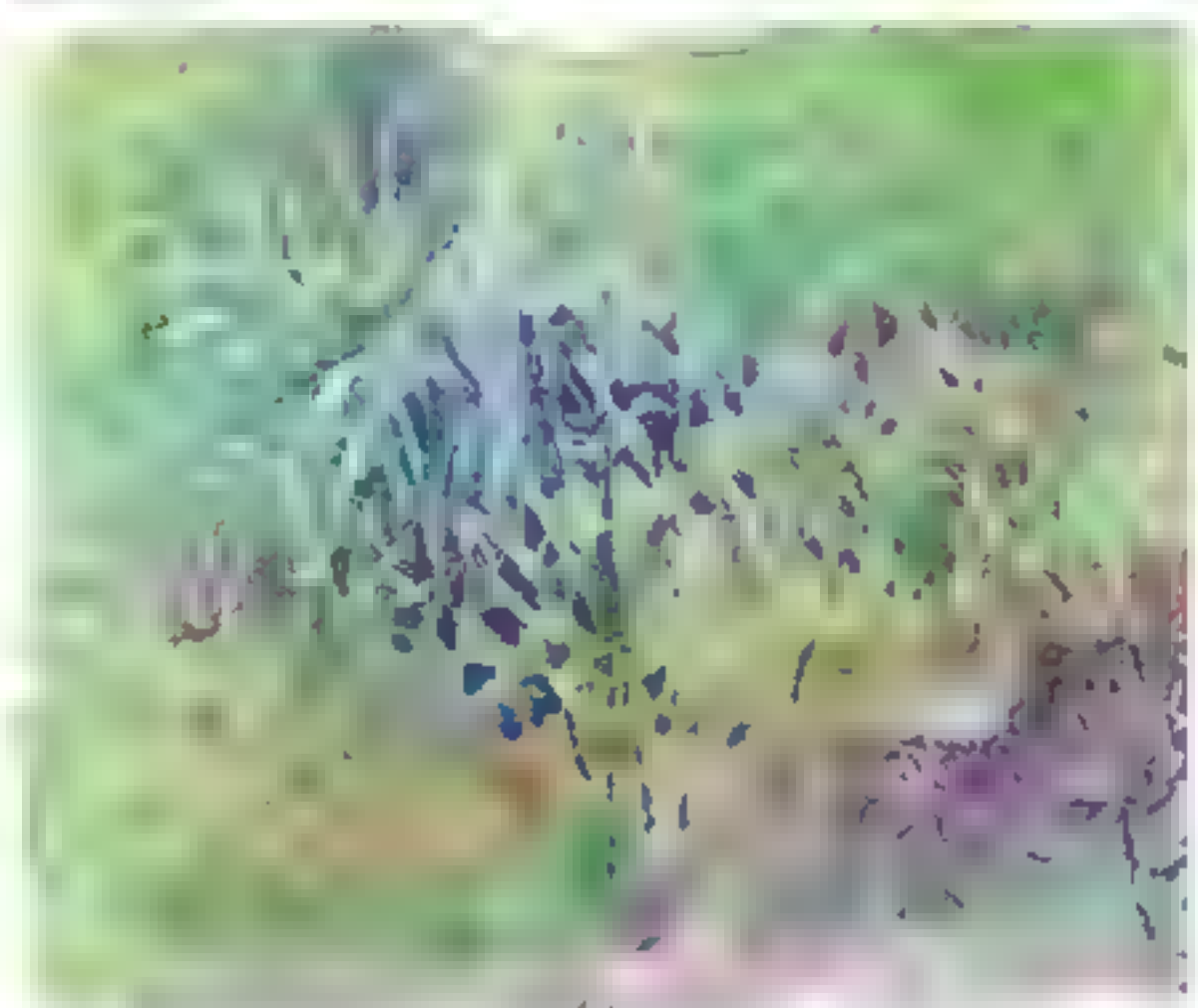
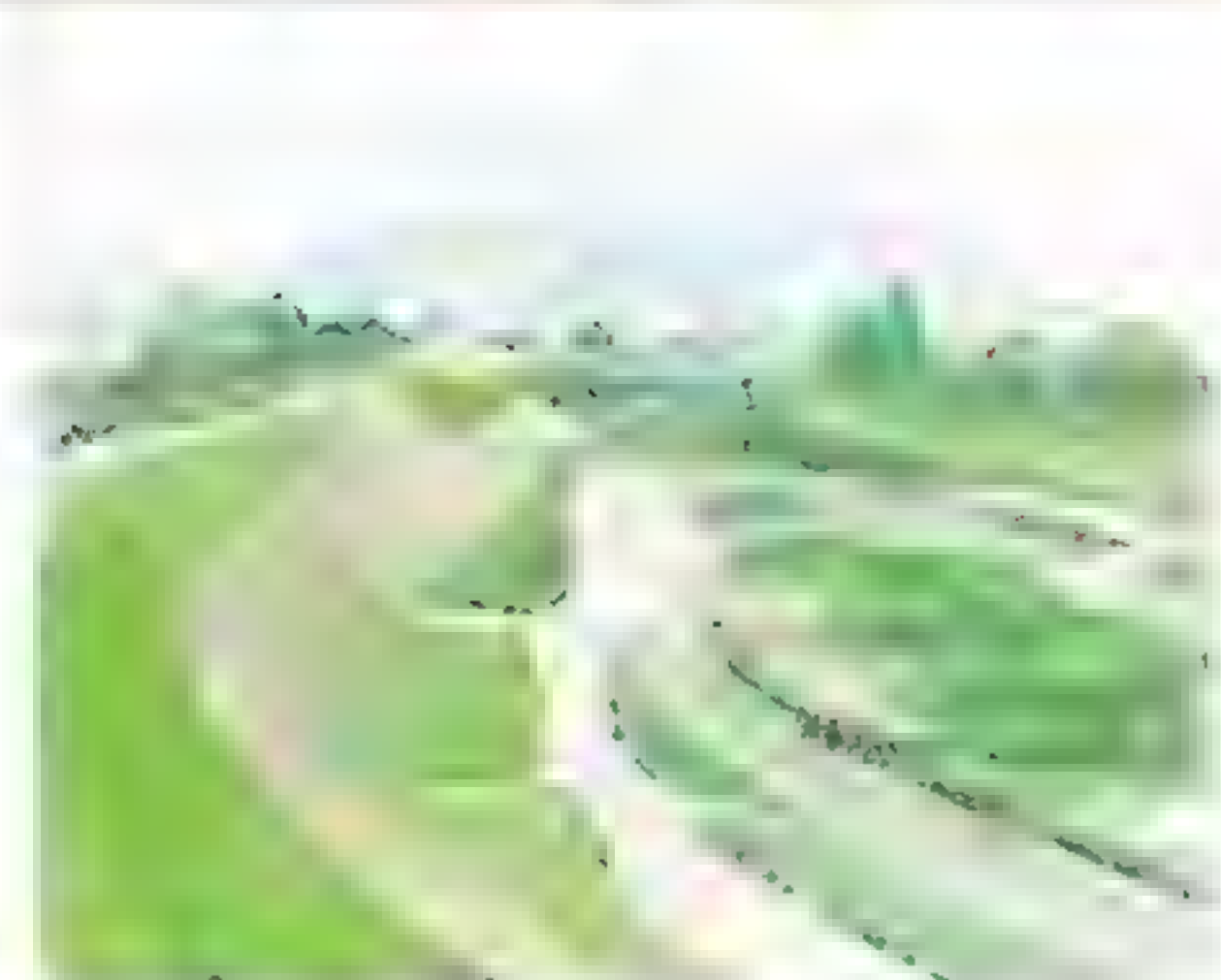
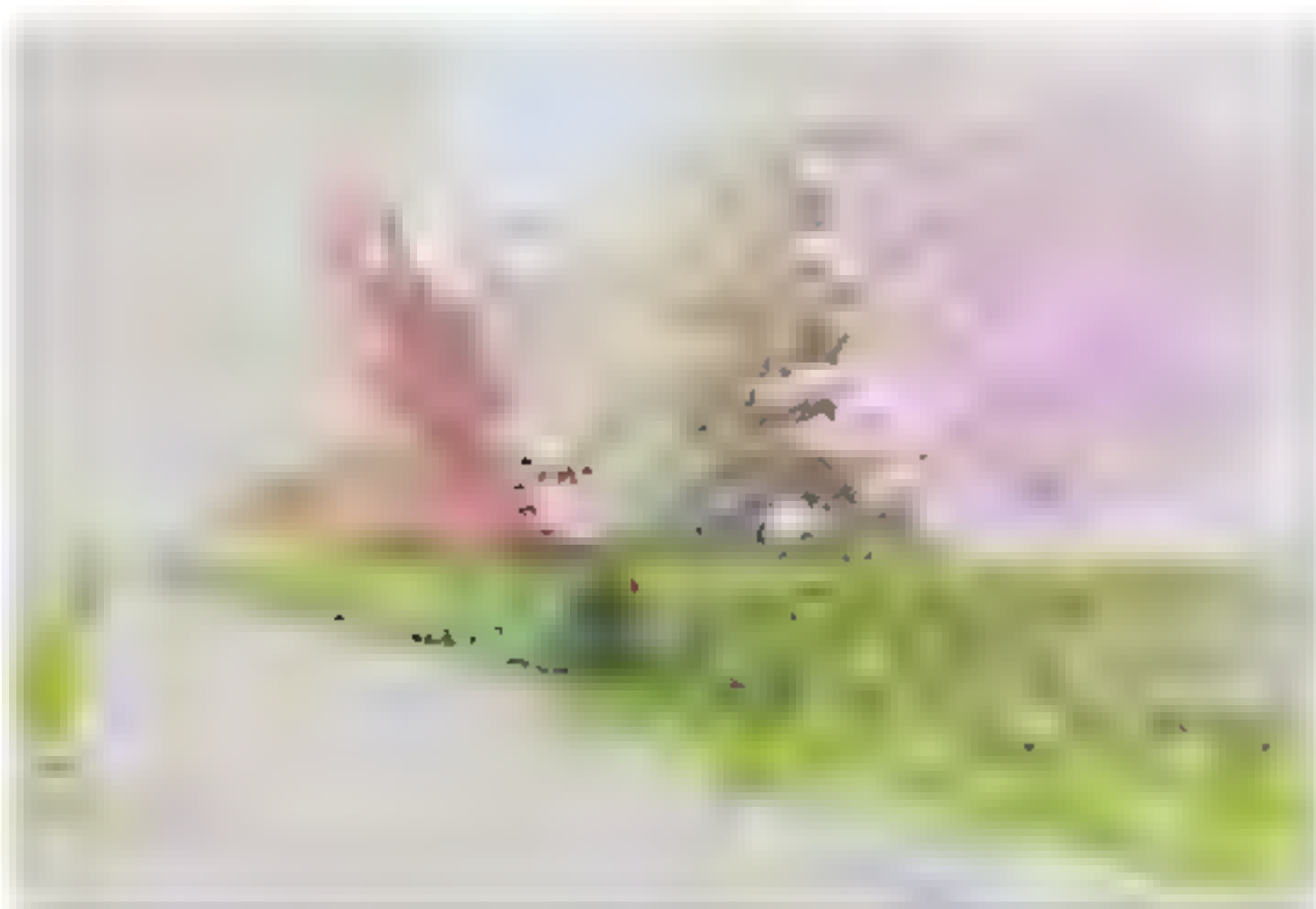


透明画法の3原色で描いた作品
3原色を混ぜないで塗り重ねる。
右：1/3 描き途中
中央：途中
左：完成

11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
59
60
61
62
63
64
65
66
67
68
69
70
71
72
73
74
75
76
77
78
79
80
81
82
83
84
85
86
87
88
89
90
91
92
93
94
95
96
97
98
99
100



11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
59
60
61
62
63
64
65
66
67
68
69
70
71
72
73
74
75
76
77
78
79
80
81
82
83
84
85
86
87
88
89
90
91
92
93
94
95
96
97
98
99
100



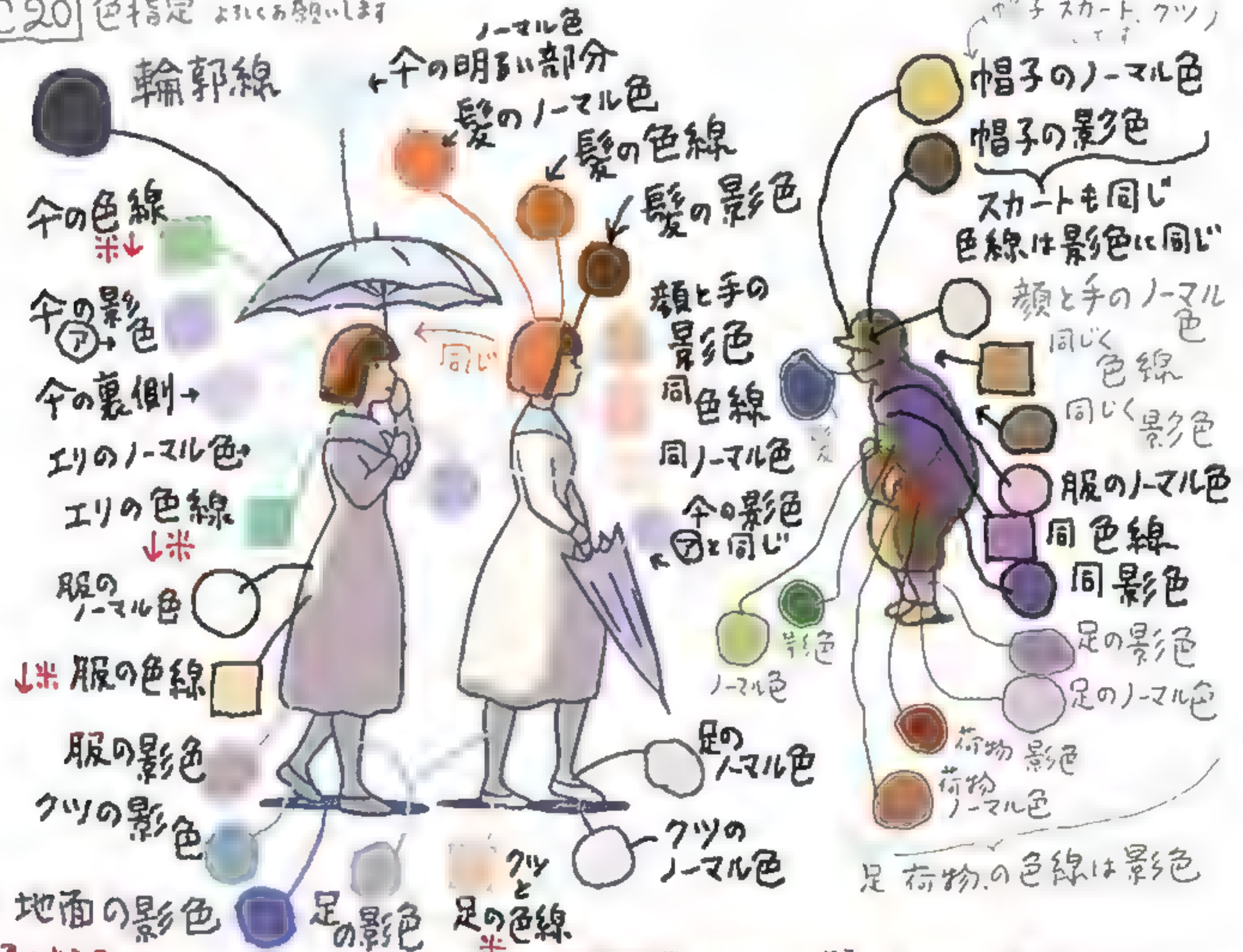
C30 色指定-女



C26 人物 色指定



C20 色指定 よろしくお願ひします



アミの
色線は、かなりハズレた色ですが、絵の虫のような 如果に頼ったものです。実際は小さくてわからない、
色スレのような かもしれませんね。
よろしくお願ひします。 (井上)

映像画集『イバロード時間』におけるキャラクターの色指定

高校教師時代の教え子

画家・宝永たかこ

高校の教師を19年務めた井上直久さん。当時の教え子には一体どの様に映っていたのでしょうか。貴重な教師時代の井上さんのお話を、宝永たかこさんにお伺いしました。

着ていらしたので、理科の先生みたいだなと思ったのが井上先生でした（笑）。

美術部顧問だけではなく、クラス担任をしてくださった時もあります。授業以外でもいろいろとお話をしてくださるし、課題もすごく面白そうだと思わせてくれる前振りをしてくださり、本当に噂通りの良い先生でした。

——高校を卒業された後は、井上さんに師事されたとお聞きしました。経緯などお聞かせいただけますか。

高校を卒業した後は、最初は美大受験をする予定だったのですが、大学でよく知らない先生に教わるよりも、この先生についていった方が絶対に良いと思ったんです。

それで、先生の都合とか全然考えずに、卒業後先生のところに行くことを決意しました。

両親には「大学に行かない代わりに4年間自由にさせてくれ」って打診したら、案外すんなり承諾してくれました。

そして、井上先生のところにも母が挨拶に行ったんです。「来てくれるなら面倒見ますよ」って、快諾してくださいました。

当時驚いたんですが、先生は大学時代のノートとか資料や課題を全て残してあったんですよ。

そしてその頃の課題が役立つからって、「僕ももう1回やってみるよ」と面白がりながら一緒にひたすらカラーチャートを作ったりしました。

その当時、井上先生は20代後半だったのですが、今あらためて考えると、あの時にすでに人としてできあがっていたのがすごいなと思います。

世の中には常識なるものが存在すると思うのですが、それを違う視点で、例えば恐竜の目で見たらとか、微生物の目で見たら、この世界はどういう風に見えるのかっていうお話をしてくださったり、価値観なども1つではないんだと教えられました。

1回は自分できちんと考えなくてはいけないのだなと気づきましたし、ものの考え方とか、生きていく上でも本当に勉強になりました。

なりました。

井上先生がよくおっしゃっていたことで「欠点だと思っていることを克服することに努力を使うな」というお話があるんですけど、欠点克服って苦手な事なので辛いんですよね。

マイナスのものを10努力してもやっと0になるだけだから、プラスのところを10努力した方が楽しいし、伸びるよって教えてくださいました。

私の時代は『巨人の星』の有名な「血を吐くぐらい努力しろ」という考えの方が多く、それを刷り込まれてきたような世代だったので、こういった価値観を持った方に出会えて良かったなとすごく感じました。同じように私も学生に言うんですけど、みんな目を輝かせるんですよ。

私は、井上先生は「井上直久」が仮の姿で教師をしているだけだと思っていたので、この方は世界に羽ばたいていく人なんだろうなと感じていました。

なので今、画家として活躍されていて本当に嬉しいです。



宝永たかこさん

大阪府出身。大阪府立春日丘高等学校を卒業後、井上直久さんに師事。現在、成安造形大学で教壇に立つ傍ら、イラストレーター、画家として活動中。

宝永たかこさんサイト情報：
A MOON IN THE POCKET
URL: <http://hoer.takako.com/>



《野原の花火屋》 1979

高校卒業後、額装手伝いの際に、宝永さんが一目惚れして購入された作品。ラピュタ、塔、飛行船など全ての要素が入っていて「これだ」と直感したんだそう。

大学講師時代の教え子

画家・宮脇周作

井上直久さんの大学講師時代の教え子である宮脇周作さん。大学では、どのようなことを学び、何を学んできたのでしょうか。井上さんの授業を回想していただきました。

井上直久さんの最初の印象は覚えていらつしやいますか。

「生粋の画家」でした。筆を自由自在に操って、絵を描く様なんてまさに、昔から僕がイメージしていた画家そのまんまだなと思いました。髭を生やしていて、少し風変わりなところも（笑）。

——講義はどのようなものでしたか。そして、印象深い出来事などございましたか。

僕は、「絵具だけ触っていた」という生徒だったので、実際に絵具を使いながらの実習が多かった井上先生の授業はとて

も好きでした。特に思い出深いのは「イラストレーション実習」で、有名絵画を自分なりに工夫して加筆するというもの。僕は日本の浮世絵がヨーロッパの印象派に影響を与えた歴史上の事実を逆にして、写楽の浮世絵をゴッホ風に描いたんです。それが、課題で描いただけの作品なのにもかかわらず、なんとギャラリーでほしいという方が現れたんです。僕は絵の値段のつけ方さえも分からなかったのですが、井上先生が間に入ってくれて、交渉してくれました。僕はビンボー学生で、当時家賃を2ヶ月分滞納していたので、

とても有り難かったです（笑）。その時はじめて「絵を描いてお金をもらえるんだ」と実感しました。そういう経験をさせてくださった井上先生には、すごく感謝しています。

井上先生は、頭の中に引き出しがいくつもあるんでしょう。よく授業に関係のないようなこともいろいろ話をしてくれました。その中で、一番印象深かったのが、ルノアールの話です。150年ぐらい前の絵具は質が悪かったので、描き上げた時黄変するんです。ルノアールはそれが嫌で50年後に色が落ち着くように、あえて明るめに、下地なども工夫して、変色した頃に絵が完成するように描いたっていうお話をされて、「彼は若い時に、50年後も自分の絵が大事にされるってわかっていたんだ。それぐらい画家は先を見据えて、何十年後も自分の作品が愛されているっていう確信をもって描かなきゃいけない」って。画家は来年どうなるのかとか、お金が入るかどうかだけ考えてはダメだよと教えられました。今でも

覚えていて、くじけそうになった時いつも励まされるんです。そして何より、井上先生は、絵を描いてると良い事ありそうだなと想像させてくれるような存在でした。なので、僕が画家になりたいと思ったのは、間違いなく井上先生がきっかけですね。自分が本当に絵が好きなんだって気づかせてくれましたし、背中を押してくれました。

——画家として活動されている宮脇さんのことを知ったら、きっと喜ばれるでしょうね。

実は、2016年の個展で約8年ぶりにお会いしました。覚えていてくださり、すごく嬉しかったですね。学生の時よりも元氣そうに見えました。10年前よりどうしてエネルギーに感じたかという点、僕が個展を今年もやりたいので、この1年で20枚描けたら、という話をした際に、「僕なら20枚ぐらい1ヶ月で描けるよ」と言われて。やっぱり敵わないあつて、あらためて圧倒されました（笑）。



《炎の役者絵》

ビエソグラフで印刷し、クイックドライビングソディウムとクリスタルバーニッシュでコーティング。その後、油彩とアクリル絵具で加筆した作品。2003年「エブソン京都ビエソグラフギャラリー」でのグループ展で展示されました。



宮脇周作さん

福岡県出身。京都成安学園成安造形大学造形学部デザイン科イラストレーション群イラストレーションクラス卒業。現在日本テレビ専属放送画家、油絵画家として活動中。



《その日》2013

2013年、池袋東武百貨店の個展で一番大きく飾られていたという作品。

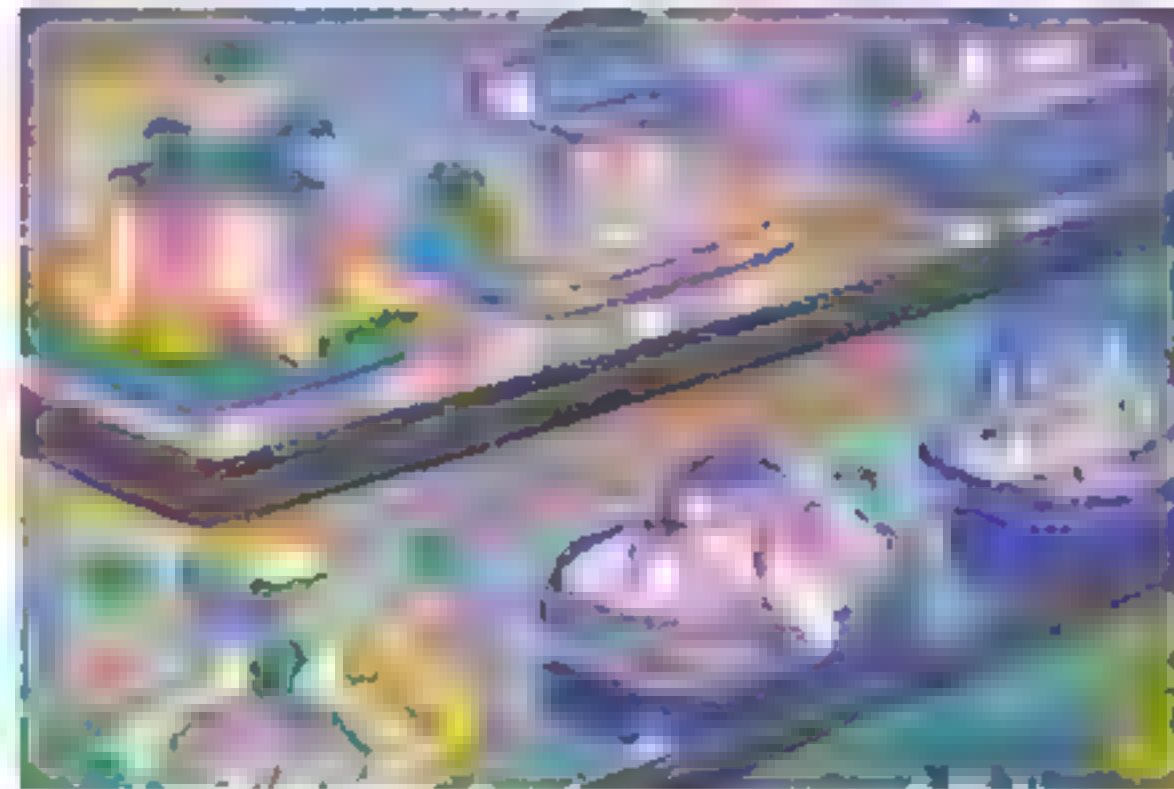
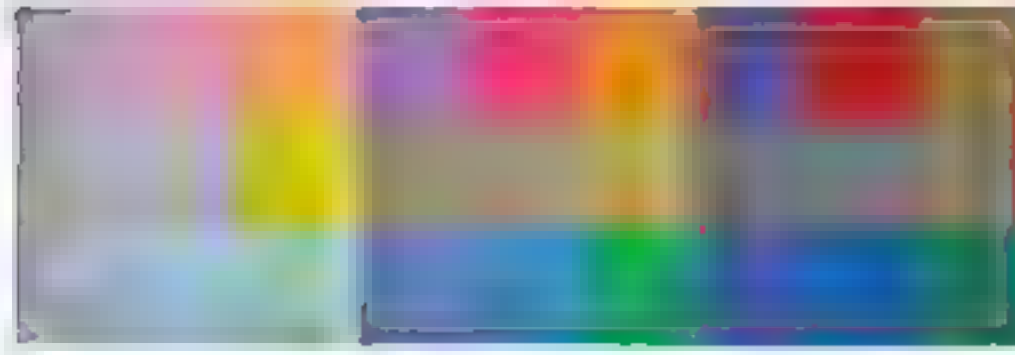
大学卒業後、画家となってから久しぶりに見た井上さんの絵は、格別だったと宮脇さんは語ります。

固有色を否定し、印象派の成果を応用する技法として、色彩の明度を揃え、彩度・色相を対比させると、蛍光色ではなくても輝くような色彩効果が生まれます。

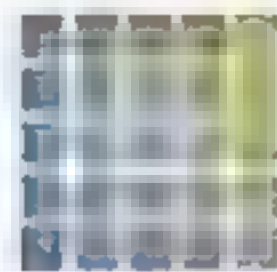
イバラード色の試案

“イバラード色”（案）のための試案

- (1) 明度の揃った、
または明度差の少ない
色使いを試みる。



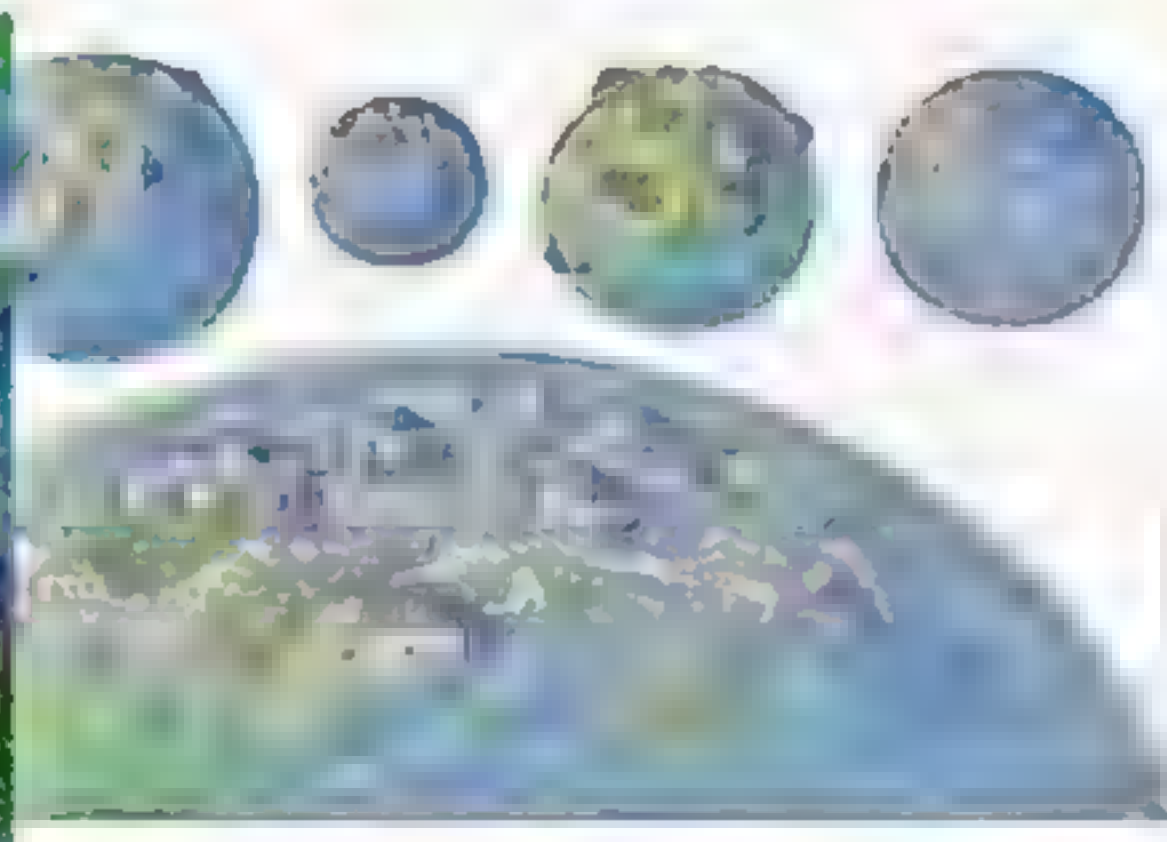
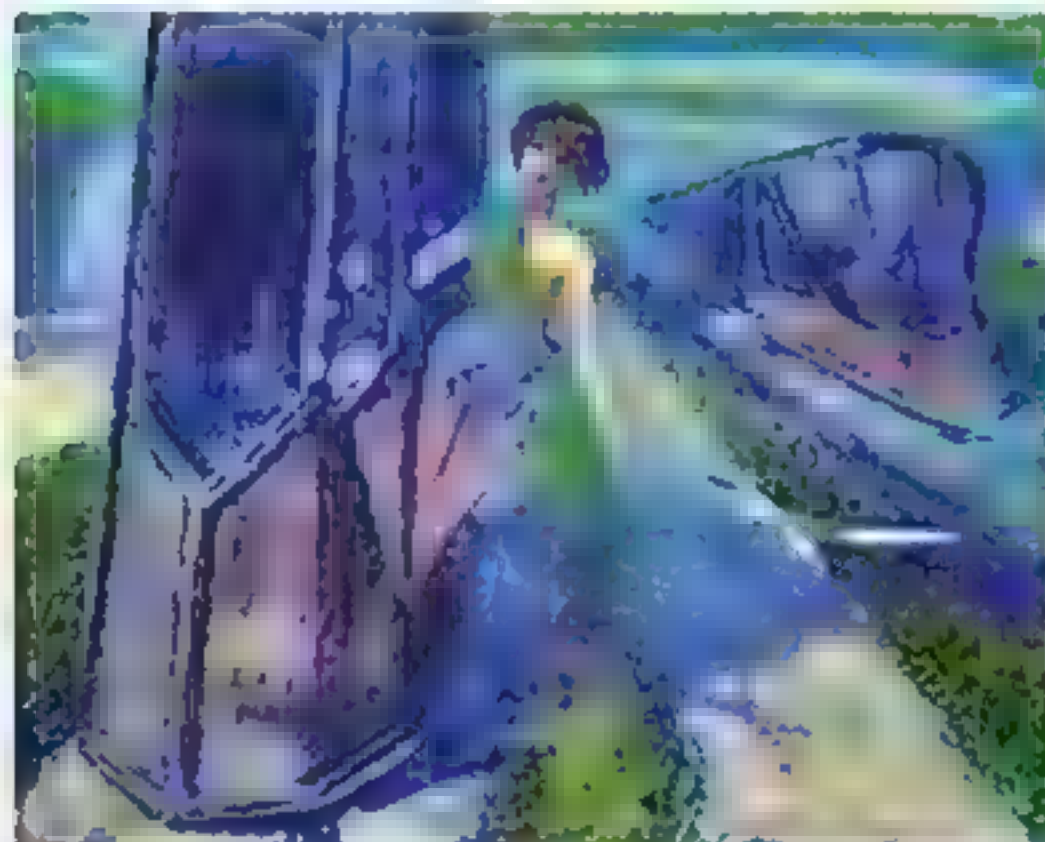
- (2) 単一の色面の中に
色のバラつきを作る。



- (3) 空間の距離感による色の差を表現



- (4) 影を青っぽくし（空の反射）、地上におちる影も表現、
明暗の差を明確にし、澄んだ大気の中の明るい陽光
を演出する。



イバラードのイメージのような色を作り出すために試案された「イバラード色」

色彩遠近法

遠くは、淡い青にして、近くは暖色にして
コントラストを強くする。



interview

創作を支えるキ パ ソン

井上道久さんの作品制作を支えているのは個人だけに限りません。誌面やアソシエイト打寄を通して連携している企業や紹介者。その作品と接れ合う機会を揃えてくれる関係なども、井上さんの大切な「パートナー」とも見えるでしょう。そんな企業や会社のキーパーソンにお話を伺いました。

福岡敏郎

信頼できる仕事のパートナーとして、井上直久さんと20年以上もの長い間、共に歩んできた福岡敏郎さん。出会われてから体験した絵の持つ不思議について語っていただきます。

——井上直久さんとはどういう機会でご面識を得たのですか。

かねてより井上直久先生の元高校の教え子でいらつしやる宝永たかこ先生の画商を、井上先生とお会いする2、3年前からしていました。宝永先生の個展を全国で行っていたのですが、大阪阪急での開催の時に、井上先生がわざわざ見に来てくださったんです。確か、先生がまだ高校の教師をされていた頃だったかと思います。その際に宝永先生の絵を買っていたのだきまして、とても義理堅い方だなと思ったのが最初の印象です。その際に、「僕も絵を描いている

んですよ」と、井上先生がおっしゃられたのですが、まさかその後、こうして長く先生の絵を扱うようになるとは全く想像していませんでしたね（笑）。

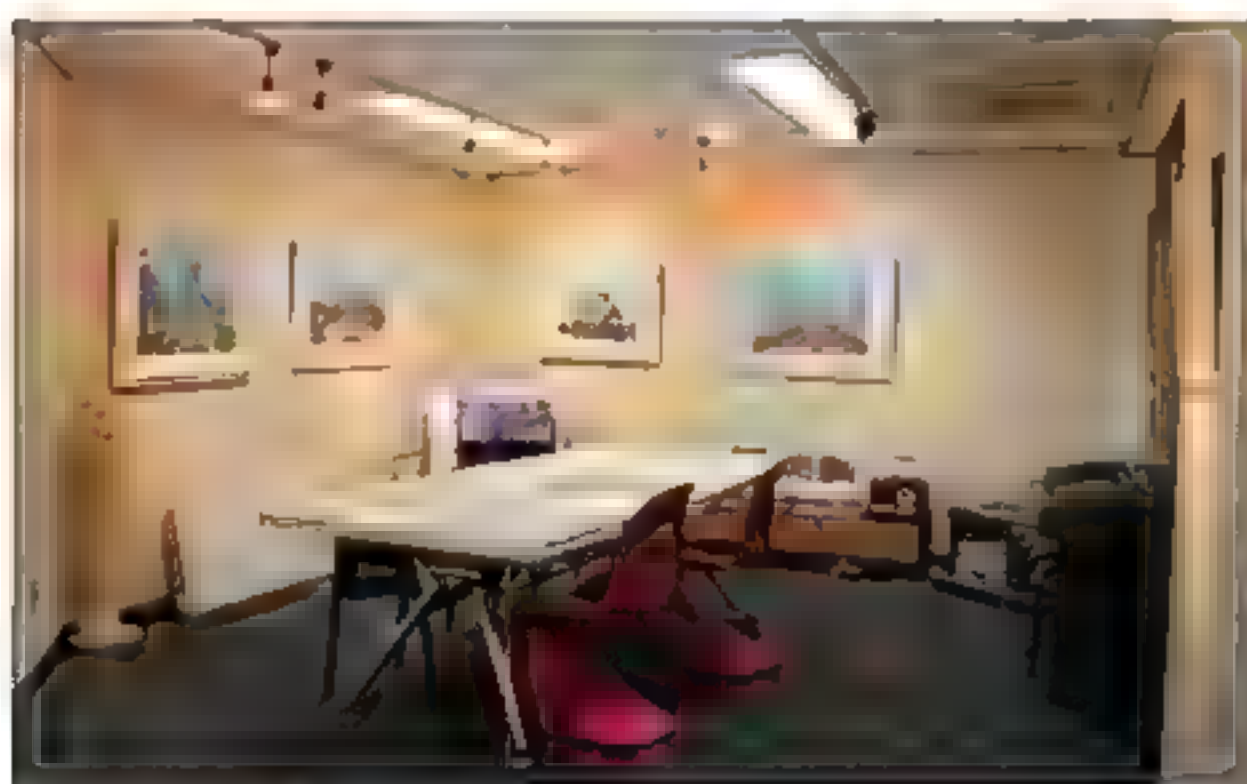
井上さんとの出会いは何だか運命的なものを感じますね。

そうですね。実を言うと、私は高校時代、美術に非常に興味があり、美大受験を目指していた頃もありました。卒業文集にもモネとかシャガールの作品を扱えるようになりたいと書いていたぐらいです。ですが、両親にそれでは生活していけないと言われ、急遽高校3年生の時に進路を変え、受験勉強を始めました。それまでは、真剣にデッサン教室に通っていたほどだったのですが、その後大学では、法学部に所属し、司法試験の勉強をしていました。しかし、裁判所関係か美術関係かどちらの仕事にするのか決断を迫られた時に、もともと絵が好きだったので、画廊に入ることにしました。残念ながら今は直接モネの作品は扱ってはいないのですが、運命的にも井上先生もモネが好きで、先生

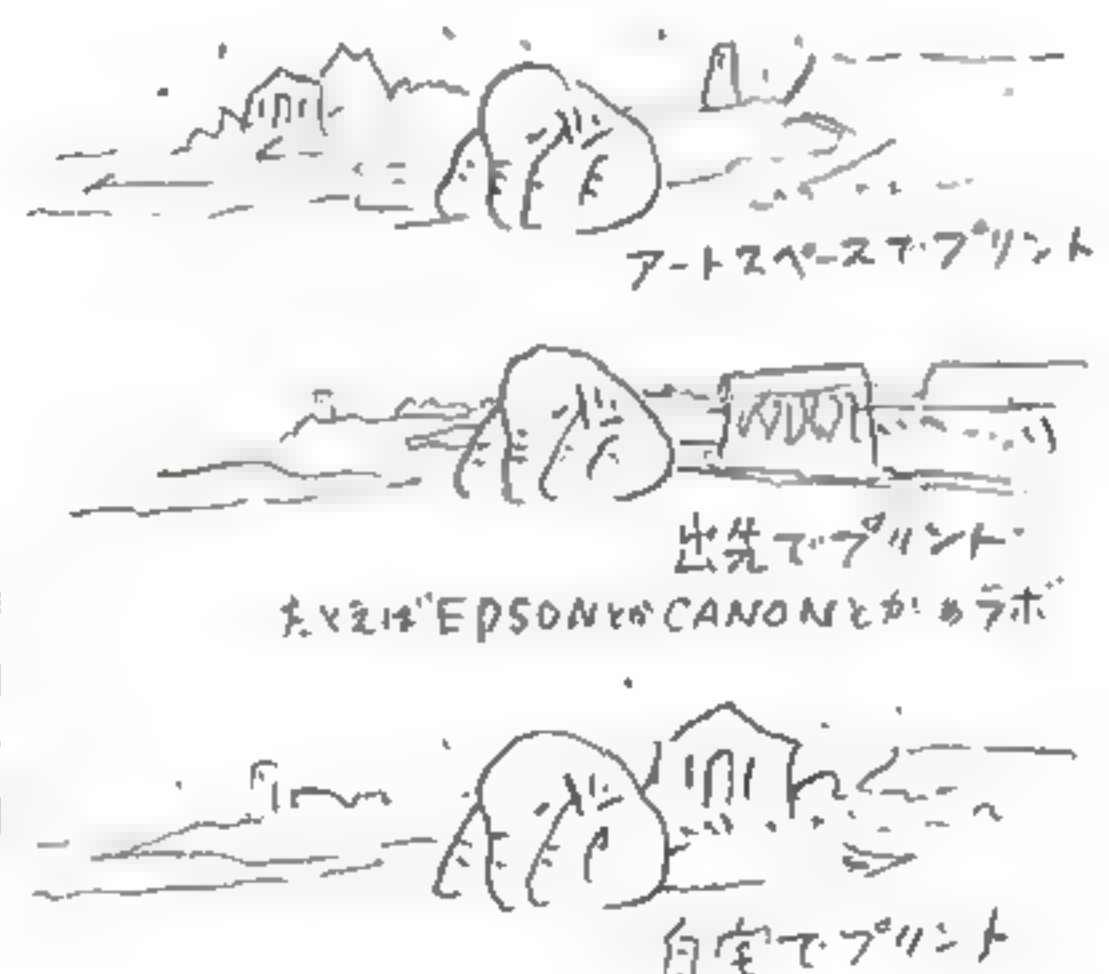
の作品も似た雰囲気をお持ちなので何かしらの縁を感じています。

——これまでで一番印象深く残っている出来事はございますか。

以前、「うちの母が井上先生の絵を見ると痛みが引くんです」とおっしゃられた方がいました。その方のお母さんが末期ガンで入院されていて、余命ももう限られていたらしいのです。原画はとてもじゃないけど手が出せないが、せめて版画だけでもということので一点購入してくださいました。私が額装をして、その方のお母さんの病院に届けに向かう際、井上先生に「先生の絵を見ると痛みが引くという方がいらつしやるんです。すみませんが、色紙が何か書いていただけませんか」とお願いしたんです。私はサインが何かをとっていたのですが、なんとこんなに大きい紙（手を肩幅ぐらいに広げながら）に水彩画を描いてくださって。それは、野原があり、小さい丘の向こう側に家が建っていて、家に向かって一人の女性が歩いている絵でした。「ああ、なるほど。自分の家に帰っていくん



建物内には、ピエゾグラフで出力された井上先生の絵が飾られたスペースも。右隅に置かれているのは、井上先生私物のピアノ



井上さんは、ピエゾグラフ作品には「ハウス・プリント」マークとして、アートスペース、ラボ、自宅と出力場所別にサインしています

ART SPACE

世界が認めたデジタル出力の技術

セイコーエプソン株式会社が開発した「ピエゾグラフ」というデジタル出力の技術で、主な版画を制作しているアートスペース。近年では、鑑賞者側の嗜好も多様化し、原画よりも版画の方をカジュアルなインテリアとして好む人も多くなっているそうです。色合いによってプリンターを使い分けるなど、高度なノウハウを駆使した作品の美しさは世界で認められています。

Certified Studio
for digital fine art printing



アートスペースは、ドイツにある製紙会社の Hahnemühle Fine Art (ハーネミュレ ファインアート) 社からファインアート専門認定され、同社の推薦企業に選ばれました。

だな」と、病気で家に戻ることができないその女性の心情と重なる部分があるような気がしました。井上先生は、そういう優しい部分がありますよね。通常、末期ガンの患者はモルヒネなどで痛みを和らげるしかないそうなのです。音楽でという話を聞いたことがあります。同様に絵でも痛みが癒されるということがあるのですねと、お医者さまもおっしゃってま

した。科学では証明できない何かがあるのでしょうか。井上先生の絵には、ピンクなど癒される色が多く使われているからかもしれない。人々の気持ちを癒し、時には痛みまで忘れさせてくれるというの、自分が絵の中に入っているような世界観の作品でもあるからでしょう。ご自身でカラーチャートも作られているので美しい色の出し方やそのバランスも人

並み以上に知っていらっしゃるのでしょうか。理屈抜きに誰もが惹かれる部分があると感じますので。フランスなど海外に行つて感想を書いてもらうと、「かつて自分が行ったことのあるような風景です」と。面白いことに、日本と全く同じなんです。国や地域を問わずいろんな方が先生の絵を見て感動している姿を見ると私まで嬉しくなります。



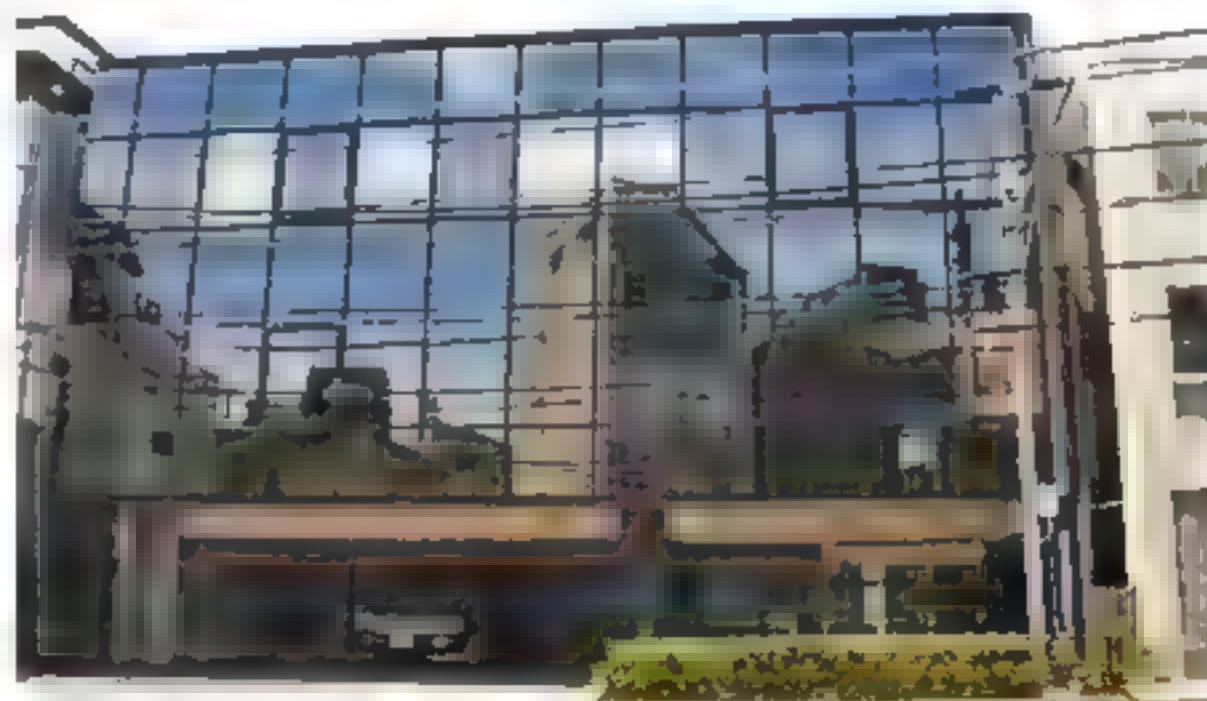
福岡敏郎さん

鹿児島県出身。株式会社アートスペースと株式会社アムゼの代表取締役。井上直久さんをはじめ、宝永たかこさん、松本零士さん、手塚治虫さん、牧美也子さん、長野剛さんの作品を取り扱っている。アートスペースでは販売、アムゼではデジタル出力を専門に行っている。

株式会社アートスペース
東京都文京区西片 2-22 21
本郷 MK ビル 1F
営業時間：10:00～17:30 (日曜祝日は休業)
TEL: 03(6379)8885
FAX: 03(3813)7182
URL: <http://artgallery.co.jp/ibland/>

株式会社アムゼ
上記住所 B1F
受付時間：10:00～17:30 (日曜祝日は休業)
TEL: 03(3868)3033
URL: <http://www.artgallery.co.jp/prints/>

アクセス
東京メトロ南北線東大前駅より徒歩約3分



東大本郷キャンパス近くの静かなエリアに立地。1階は株式会社アートスペース。地下1階に、株式会社アムゼがある

内堀法孝

井上直久さんを語るのに、必要不可欠な存在なのが、印刷技術「ピエゾグラフ」（概要はP118を参照）。それはどのようにして作り出されたのでしょうか。開発時セイコーエプソン株式会社に勤められ、井上さんと深く関わられた内堀法孝さんに当時の様子を振り返っていただきました。

—どのような流れで「ピエゾグラフ」の開発が行われ、井上直久さんと出会われたのでしょうか。

以前、セイコーエプソン株式会社（以下エプソン）で製品デザインの担当をしておりまして、1990年代半ば頃でしょうか、インクジェットは、デジタル印刷技術だけではなく、新たな表現技法となり得るのではないかと思い始めました。エプソンの開発者が少し変わった方法でスキャナーを設計していたのがきっかけです。

普通スキャナーというのは、影を出さぬようきれいに画像などを読み取ると思うのですが、あえて

ある角度から光を当て、影を出していたんです。その方法でなら、立体感を表現できるのではないかと閃きました。例えば、油絵ですと、砂などでマチエールを作るのですが、するとザラザラした表面になりますよね。つまりその質感を、原画のごとく現実的に再現できるんです。この技術を具現化するにあたって、やってみるのなら、単純な色のもではなくて、色が複雑に混ざり合っているものとか、できるだけ難しいテーマからと考えました。

ちょうどその時に、「ジブリT H E A R T シリーズ」の『パロンのくれた物語』の物語で、井上直久さんを知ったんです。

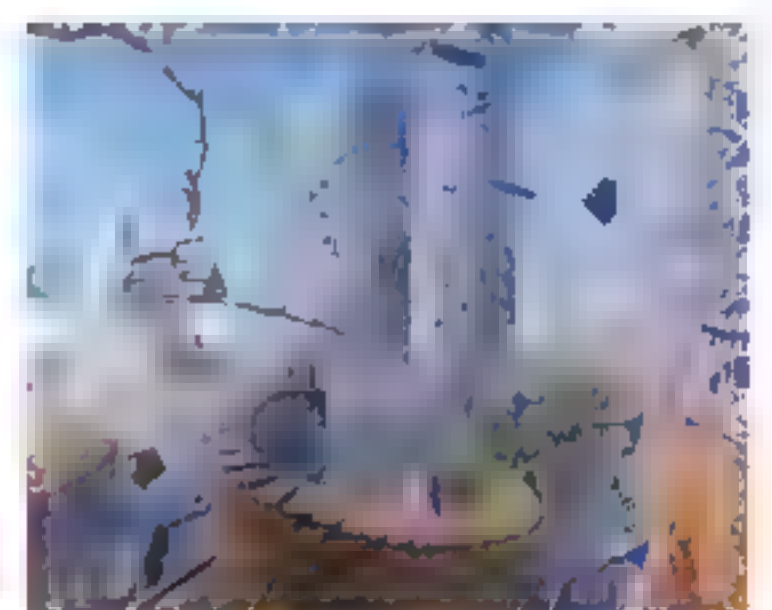
絵全体を締める役割に黒色を使われる方が多くいらつしやるのですが、井上さんの絵は、黒色を使わずにいて、ゆるさが全くないですし、色を組み合わせて点描みたいなのが描かれていたので、これは再現するのが難しそうだなと思いました。しかも、それを再現できれば、インクジェットの再現性の高さを証明できると確信しました。

そして、いざ作家と直接交渉しなくてはとなった際、井上さんの経歴を見たら、偶然にもちょうど10年違いの同じ大学出身だったんです。これなら話がしやすいと思いました。お話をしてみたら、とても話しやすい上に申し出を非常に快く応じてくださいました。

—井上さんとは具体的にどのようなことをされましたか。

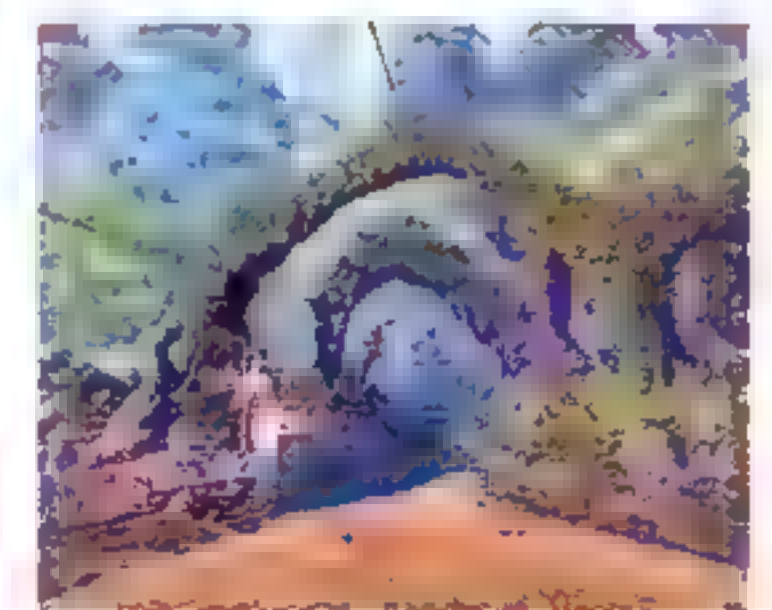
最初の企画で、画集『イバラード博物誌』や絵本などから代表作品を選び、『イバラード六景』という大判画集を作りました。その後も、プリンターの特性を生かして「イバラード絵巻」というのを創作したり（148〜155ページ参照）いろいろ試みました。

作家の方は、できあがったものだけしか評価しない人たちもいるのですが、非常に珍しいことに井上さんの場合は、できあがったものをどんどん変えていき、自らの作品で実験する人なんですよね。このインクジェットの技法でなら途中経過のものを残しつつ、新たな作品を作れるのではないかというアイデアを井上さんが出された



『イバラード六景』1997

左上から時計回りに《マーケットプレイス》、《タニマチ》、《モトマチ》、《第2投》、《Bon-Sai Garden II》、《百貨店》



DIGITAL INKJET PRINTING

んです。元の絵を加筆し、全く違う絵にしたり、拡大してみたり、絵具で再現できなかった色を出したり。普通は手で描いた原画のほうが大それたと思われがちですけれども、それはあくまで表現したいものの途中の段階にすぎないんです。アナログの画材では出ない色を、再度デジタル化する際に作家のイメージしている通りの色にすることもできるので、コッコツと手で描いていくのと、デジタル上で調整していくのは何が違うのかというと、あんまり違いはないと思います。データ上で制作した作品でも、もしデータを無くしてしまったら、もう再現できないので。

「一緒に仕事をして印象深い出来事などございましたか。」

我々もデザインの仕事をしているので、インクジェットを単なる情報機器で終わらせたくなかったんです。

コピー機の域から脱し、新しい価値を生み出す道具として、筆や紙のように作家たちに受け入れてもらえて、尚且つ、使い続けても

らいたいと思ってました。ただ当時は「コピー」に代表されるデジタルプリントという認識が強くて、世間では、単純に複製しているだけで、1枚につき紙代くらいの20円〜30円の価値しかないはずなのに、2万〜10万円もするなんて詐欺だよと言われていました。そんな風潮の中、井上さんが、「原画を売っているだけだと、原画を手にしたわずかな人たちが幸せになるが、複製画だと10点複製すれば10人幸せになる。複製画だから価値が下がるのではなくて、複製画だからこそより多くの人に満足してもらえるんだ」と、お話をしてくださったことがあり、気持ちが本当に楽になりました。それが井上さんと一緒に仕事をして良かったと感じた、一番印象深かったことですね。

プリンターとは、最終出力を出すだけでなく、画材の一つであり、表現の幅を広げる役割を果たすのだと捉える事ができたのも、いろんな試みに挑戦できたのも、井上さんという、とてもクリエイティブな方に出会えたのが大きく、そのおかげだと思っています。



Photo courtesy of Naohisa Inoue

セイコーエプソン株式会社の社内上映会の様子。井上さんの作品が大きくスクリーンに映し出されている。「スクリーンの近くに行けば行くほど細やかな部分が見え、高精細なものをゆっくりと動かすことにより、実際にその世界の中に入ったような不思議な感覚になりました」と内堀さんは語ります。



内堀法孝さん

三重県生まれ。1979年金沢美術工芸大学卒業後、諏訪精工舎（現セイコーエプソン株式会社）に入社。デザインマネジメント等を担当。2013年に独立してUNYdesignを創業。現在、長野県を拠点に起き、製品デザイン、ブランド開発、デジタルプリントアーカイブなどを手がけている。

内堀さんが手にしているのは、『「イバロード」イノウエ教授のピエゾグラフ特別講座 玄光社刊「イラストレーション誌 No.140-No.145」より』。井上直久さんとセイコーエプソン株式会社により「ピエゾグラフ」についてまとめられた非売品書籍。

UNYdesign（ウーニーデザイン）

長野県諏訪市中洲 230-4

TEL 070-5558-0357

Email unydc1957@gmail.com

URL: <http://www.ndpa.jp/member/unydesign/>

PiezoGraph

井上直久×ピエゾグラフ

井上直久さんの創作活動を支える印刷技術「ピエゾグラフ」。それは一体どのような技術なのでしょうか。井上さんの湧き出るイマジネーションの界限を広げてくれる、画期的な表現技法をご紹介します。

ピエゾとは、「圧力を加える」という意味のギリシャ語。1880年、フランス人の物理学者であるキュリー兄弟によって発見され、石英水晶に圧力を加えることで電荷が生じるこの現象は、圧電（ピエゾ）効果と名付けられました。

この現象を応用し、独自のピエゾ素子を用いたインクジェットプリンターを製造するエプソンでは、同社の技術名称「マイクロピエゾテクノロジー」にちなんで、人の視覚に極めて近い、この超高密度創作技法を、「ピエゾグラフ」と称しました。

ピエゾグラフでは、原画をスキャンまたはカメラなどで撮影し

てデータ化した後、それをそのままプリントアウトするのではなく、原画を再現しつつ、より作者のイメージに近づけられるように、読み込んだデジタルデータをレタッチ。画像色彩補正を行った上でテスト印刷を繰り返し、より作品の表現に適した印刷用紙（メディア）を選定しながら、高精細インクジェットプリンターで印刷します。

写真や版画の用紙の風合いから、絵画においては筆のタッチや画材の素材感までも精密に再現でき、且つ耐光性、耐水性も抜群の耐久力によって100年以上持つとも言われています。

この技術は井上直久さんをはじめ、多くの作家やデザイナーの創意工夫により、既存の表現技法に匹敵するものとして、その可能性を広げる役割を担ってきました。



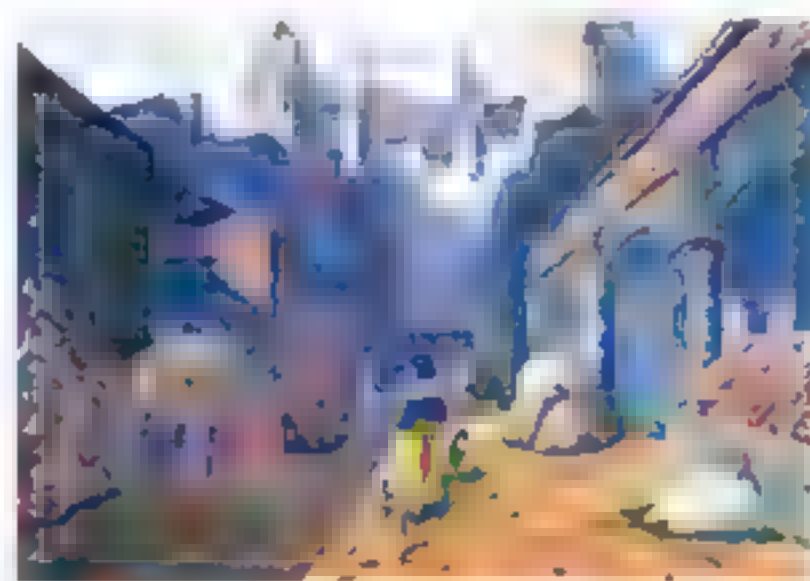
ピエゾグラフを用いた主な作品

《ここがその街》

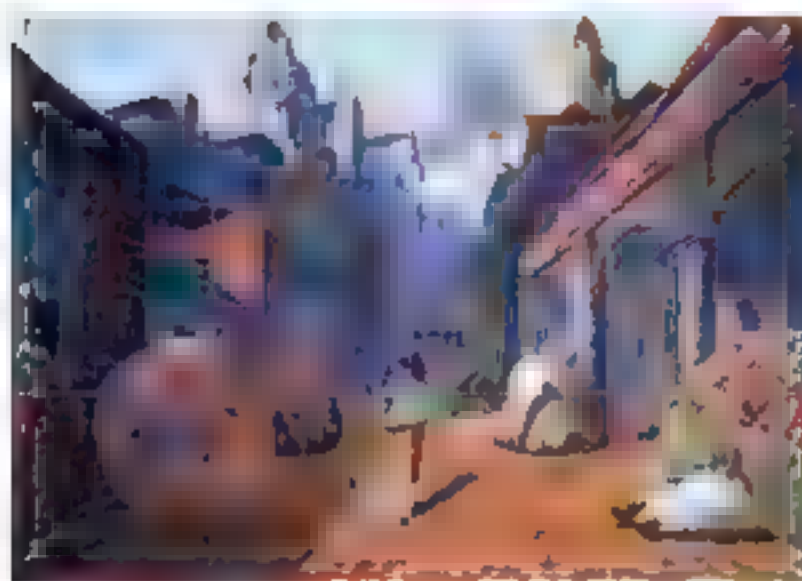
《多層海麗日》



3



1



4



2

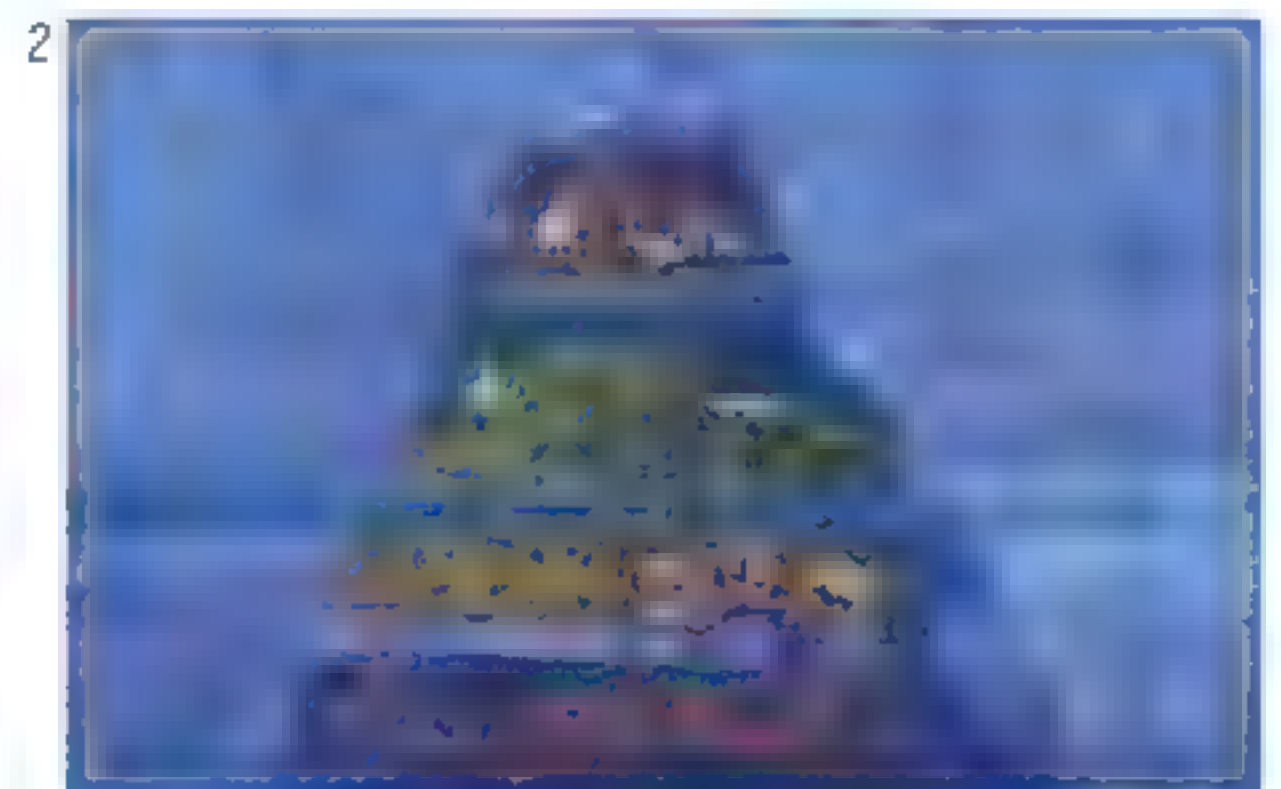
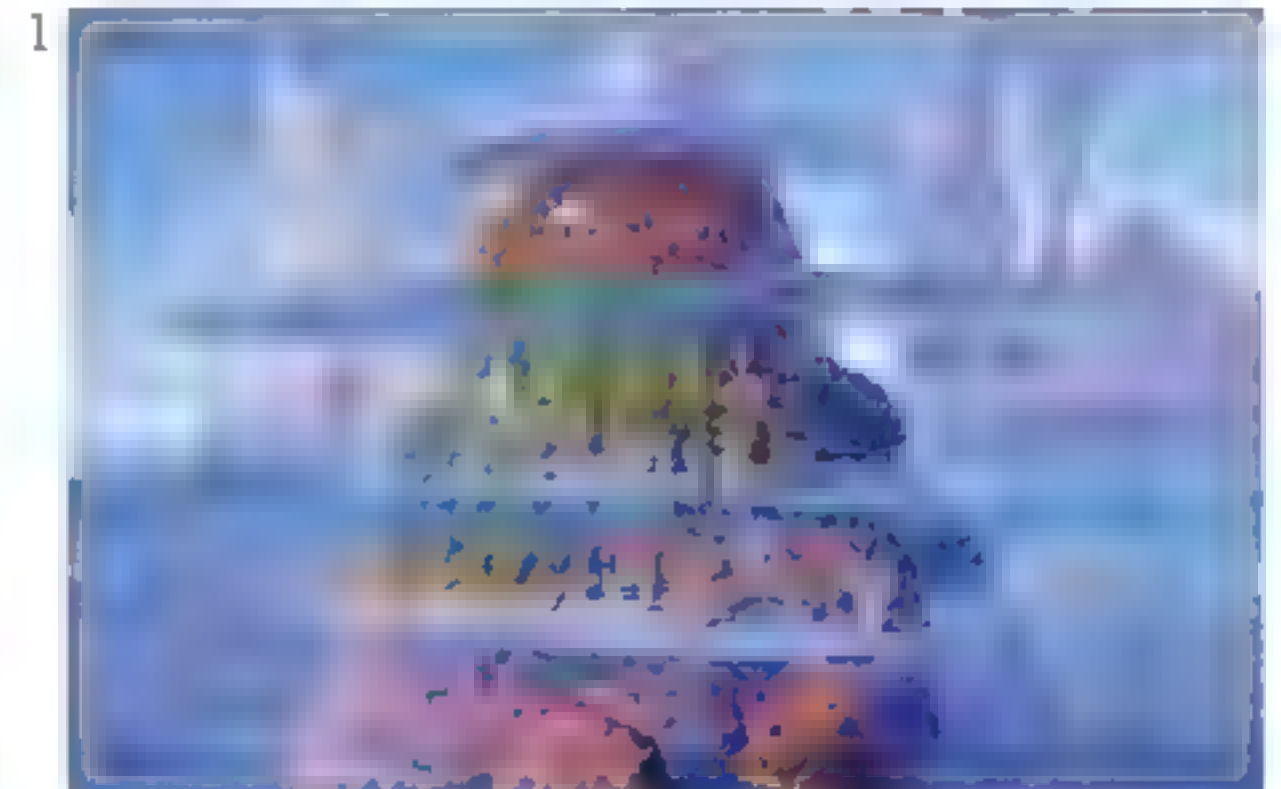


5

1. 原画 (2002)
2. 主人公を半分女性化 (2004)
3. 男の子を女の子に描き変える (2004)
4. 《その日、この街》遠景にめげソウを描き、女の子を男の子にまた描き変える (2006)
5. 主人公を《アーケード》に描き足す (2009)

参考文献：

井上直久 (2004) 『「イバラード」イノウエ教授のピエゾグラフ特別講座 玄光社刊「イラストレーション誌 No.140-No.145」より』、セイコーエプソン株式会社
油谷 勝海 (2005) 『ピエゾグラフクリエイティブプリント 360°』(コマーシャル・フォト・シリーズ)、玄光社



1. 《多層海麗日》原画 (1998)
2. 《多層海、麗しき宵》夜バージョンに描いてみました (2013)

HOLBEIN

井上直久さんの作品を支える大切な絵具。その中には、
ホルベイン工業株式会社と井上さんの交流により生み出された製品も少なくありません。
キャンバス上に彩られる色たちの開発には、技術者たちの想いがたくさんつまっていました。



井上直久さん
ホルベイン工業株式会社
開発部係長。1995年入社。

小杉弘明さん
ホルベイン工業株式会社
常務取締役。1977年入社。

伊藤彰宏さん
ホルベイン工業株式会社 1965年
入社。現在ハンズアキラ代表。

春日敏人さん
ホルベイン工業株式会社
取締役開発部長。1980年入社。

伊藤さん 昭和50年ぐらいから、高校の先生にモニターリングをお願いをしていた、その中の一人が井上先生でした。井上さん そうですね。いろんな色を試して、使いやすいさやこんな色がほしいという提案をさせてもらいました。他社の絵具をいろいろと使っていた時期もあったのですが、ホルベインさんのアクリル絵具ではいろんな意見交換ができたので、今では一番馴染んでいます。

小杉さん 先生の発言の影響力はすごかったですよ。きつちり返事を書いてくださる方は少ないので。

井上さん 他のメーカーさんに問い合わせても、あまり反応がなかったりしたんですが、ホルベインさんではちゃんと開発部の方が来てくださって。

春日さん 常に使う側からの色に基づいた的確なアドバイスをいつもいただいていた。桂さん 先生はちゃんと文章にして、サンプルの感想を

送ってくださいますしね。

伊藤さん いろんな方にご意見を聞いていたのですが、先生が一番ご要望が多かったです(笑)。

井上さん きつと近畿で一番うるさい教師だったんです(笑)。でも、それをすれば絵具がより良くなり、自分の勉強にもなりますしね。ほしかった色が製品化されたりして、気を良くしてました。

難しいリクエスト

伊藤さん 難しかったのはやはり赤紫系の色。顔料が当時は手に入りづらかった。あとはジェッソのにじみ具合ですかね。

井上さん ジェッソは地塗り用の白なのですが、僕は絵を描く際にも使うので。透明色は絵具の白の上だとかなかなか均一に伸びないのですが、ジェッソの上だとうまく広がる。ホルベインさんの「ジェッソS」は丸い粒子でできているので筆が痛まなくていいんですが、絵肌の風合いは

「ジェッソ M」の方が面白い。
小杉さん たぶん「ジェッソ M」の粒子の大きさに差があるからでしょうね。

伊藤さん アマチュアの人もプロの人も、いろんな色を厚く塗って印象派みたいにする方が多いのですが、井上先生は、地塗りの段階で白い下地に色を重ねて、透明な色の変化や深みを追求し、描写でも透明色を大事に使われているので、そこまでされている方は少ないと思います。

ホルベイン社のポリシー

小杉さん よく要望されるのがグリーンとブルーの間。あとレッドと赤紫。よく分かりますし、調色したらできる色ではあるのですが……。

井上さん ホルベインさんのポリシーとしては、混ぜて作るのではダメなんですよ。メーカーさんによつては調色が多いのですが、ホルベインさんは、できるだけ調色しないで顔料自体を生かすようにしている姿勢が素晴らしいと

高く評価しています。

春日さん 色味というのは原料に関わる問題なので、先生の要求を100%実現するのは難しいところではあるのですが……それでもちゃんと、アドバースをいただけたらなるべくご希望に近づけるようにと、誠心誠意に対応してきました。

小杉さん 顔料メーカーもどんどん減ってきていて、世界中の絵具メーカーが手に入れていることができる顔料って限られてきているんです。そのせいで、バリエーションもどんどん減っていて……。結局はどの顔料を選ぶかということと、それをいかにきちんと作っていくかということだと思います。絵具の顔料は非常に小さいんです。それをきれいに分けてあげないとせっかくきれいな色が入っても、能力を発揮できない。塗料屋に比べると絵具メーカーは、機械力とか分散技術は遅れがちなので、それらも含め、分散技術をどんどん進めてい

き、絵具をいいものにしていかなければと。いいものを作り、できるだけ多くの人に使用していただきたいという強い思いがあります。

井上さん ホルベインさんにはそのまま最高の絵具を作ってもらいたいんですが、理想を突き詰めていくと、いろいろ要望があるので……。それだけではなく、より多くの人に絵具の良さを広めていくために、誰でも使えて簡単に描けるものがあってもいいんじゃないかと思います。今の子は絵もコンピューターで描いたりして、絵具で描く子が減ってきていると思います。絵具をパレットに出して、筆につけて、カンバスにと描くまでに3段階あるのは、難しいんです。だから子供向けのものがあつたらいいなど。僕の娘が言っていたのですが、チューブの先が描けるようになっていて、チューブごと描けるような絵具ができないかなど。多くの人がマーカーを好むのは、塗ったままの色で

そのまま描けるからだだと思います。それに近いのはあると思うんですが、すぐ乾いてしまうんですね。昔の水彩のような感じで、子供用のは、高い保存性はなくともいいんですよ。それで先のスポンジ部分をもう一度水につけたらまた描き直せるようなものがあつたらいいなと思っています。技術的に難しいのは良く分かるんですが……。

春日さん 結局はついつい売れるものをと求められるんですが、作つていてもそれはあまり面白くないんです。作るとしたら、ある性能を追求し、100%活かしたものであるべきだと思います。

井上さん それが「ホルベイン」という会社のカラーなんです。日本の絵具のグレードの高さは、ここから来ていますね。日本の技術はこの分野でも突出したものを持っていると思います。僕は、ホルベインさんを通して本当にいろんなことを学ばしてもらいました。

ジェッソ (Gesso)

絵具の下地。石膏のことをイタリア語でジェッソといい、テンペラ画や油彩画の下地として用意された膠と石膏に由来する。ホルベイン社では、粒子の異なる白色のジェッソ(S/ M/ L/ LLサイズ)、半透明タイプのクリアジェッソ(M/ Lサイズ)、色のついたカラージェッソ(300ml / 900ml)を扱っています。

ホルベイン工業株式会社

HOLBEIN WORKS, Ltd

創業：明治33年(1900年)

設立：昭和21年(1946年)10月11日

本社：大阪府大阪市中央区上汐2-2-5

TEL：0120-941-423

受付時間：10:00～16:00(土・日・祝日除く)

URL：http://www.holbein-works.co.jp/

hanzuakira (ハンズアキラ)

本社：大阪府大阪市城東区鳴野西3-4-1-101

TEL/FAX：06-6961-2430

ネイルペイント製造、ネイルステンシル、教材絵具、絵具全般、パッケージ、販促ツールなどのデザインを扱っています。

Modeling Powder/Modeling Paste



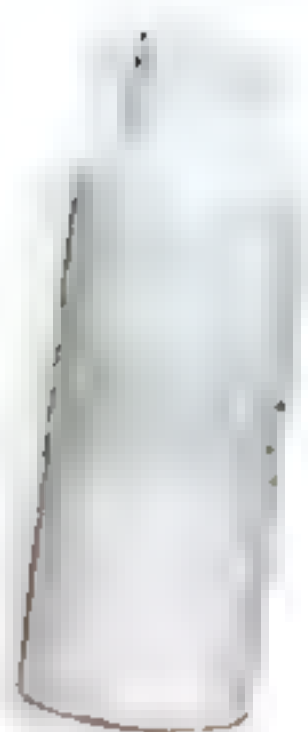
モデリングパウダー / モデリングペースト

立体、半立体造形用盛り上げ用地塗り材

Super Opaque White

スーパーオパークホワイト

粘りが少なく、細い線でもきれいに描ける濃度の高い白



April Orange

エイプリル・オレンジ (仮)

4月にもらったのでこの名を付けた。低粘度のアクリル絵具の液状タイプ、未発売

Clear Gesso

クリアジェッソ

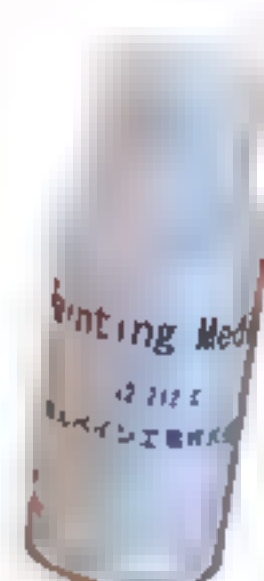
透明な地塗り材



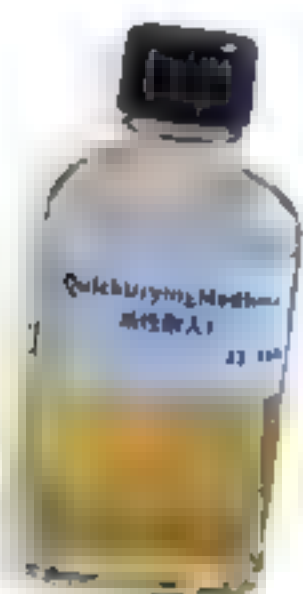
Painting Medium

液状ペインティング・メディウム

画溶液



Quick Drying Medium



クイックドライイングメディウム

調合溶き油

ホルベイン×井上直久

井上直久さんがモニタリングされたホルベイン社の製品たちです。中にはまだ開発中のものやすでに商品化されているものまであります。

Crystal Gel Medium



クリスタルジェルメディウム

ゼリー状で透明度が高いのが特徴

Rich Gold



リッチ・ゴールド

金箔のような密度のあるゴールド

High Accuracy Pearl



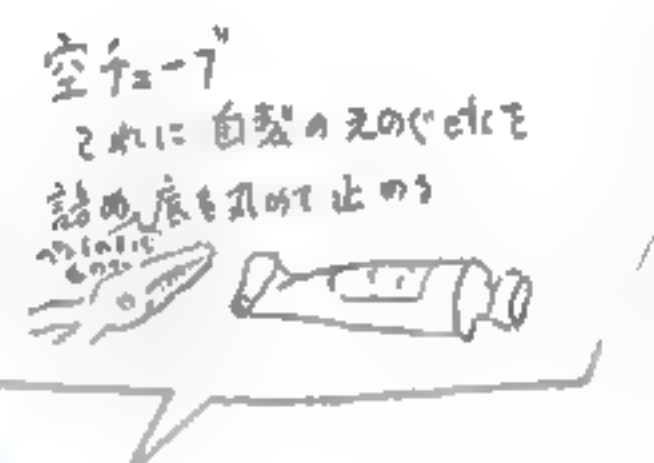
高精度パール

フレーク状でキラキラ光るゴールド

Aluminium Tube



自作した絵具を入れるためのアルミチューブ



Gel Medium(Acrylic Resin)

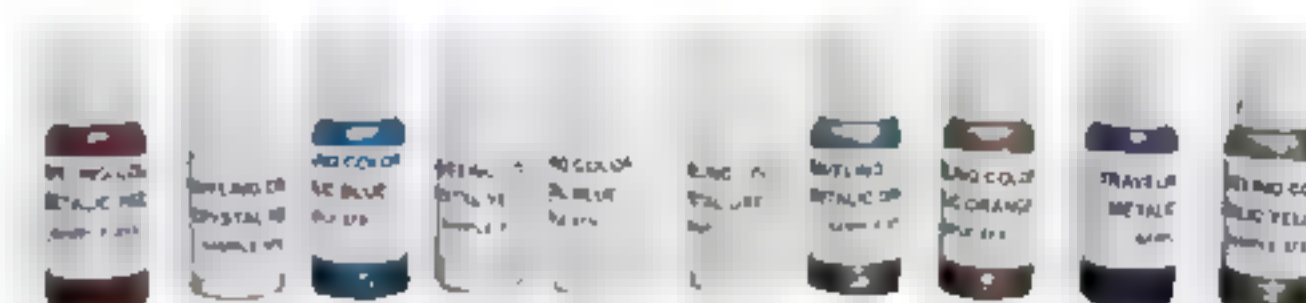


粘度、流動性の異なる透明度の高いジェルメディウム(アクリル樹脂系)の試作品

粘り気がある

サラッとしている

Traveling Color



トラベリングカラー

角度によって金属やパールのような色を出せるのが特徴。2017年3月「アクリリックイリデッセンス」として商品化された

HOLBEIN ARTISTS' COLORS



HOLBEIN Factory Tour



スペシャル企画

井上直久さんで行く ホルベイン工業工場見学

今回、特別企画として、井上直久さんと共に普段からお世話になっているホルベイン工業株式会社の工場見学をしてきました。ホルベイン工業の絵具が、世界でトップクラスの高品質を誇るヒントは、地道な開発と厳しい検査体制にありました。

Ultramarine Blue

ウルトラマリンブルー



イバラードにもよく出てくる「ラピスラズリ（本瑠璃）」。これはウルトラマリンの顔料として使われており、黄鉄鉱が混じり、金の星のように光り、まるで澄み切った夜空のような美しさを持つ青紫の鉱石です。天然のものはヨーロッパ付近ではアフガニスタンでしか産出できず、それが黒海を経てイタリアのベニスへ海路で運ばれたといわれています。そのことから、海のシルクロードで運ばれてくるこの色に、「海を越えて（ultramarine）」という名称がつけられました。

井上さんご愛用の絵具ウルトラマリンブルーもこちらで製造されています！



今回見学させていただいたのは.....

ホルベイン工業枚岡工場

住所：大阪府東大阪市横小路町 4-10-52

TEL: 072-985-1221

FAX: 072-985-3516



Let's HOLBEIN 工業工場見学

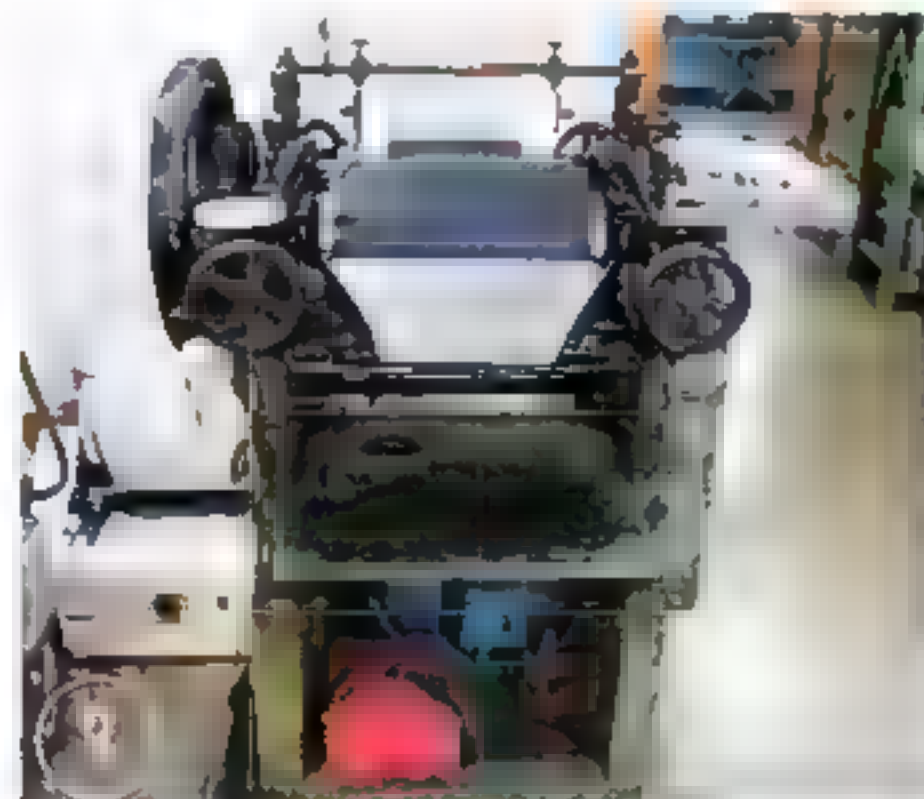
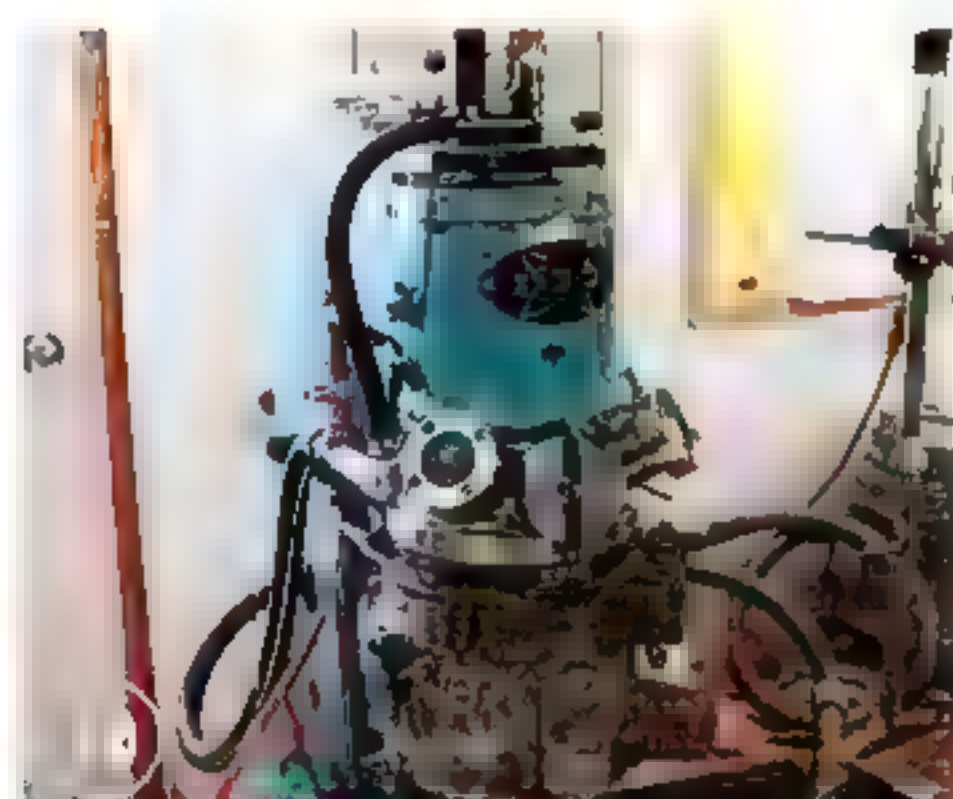
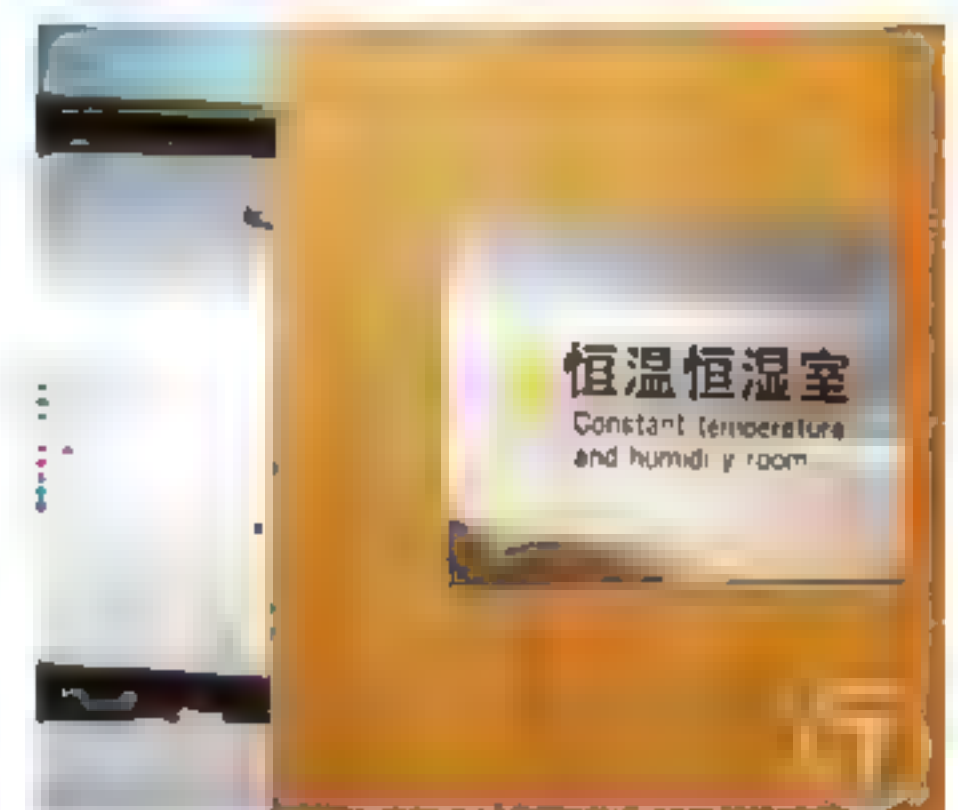
色の素である顔料 (①) と、接着剤である乾性油、増量剤でもある体質顔料を攪拌機にかけ (②)、それを摺り合わせる3本ロールミル (③) と、展色材と混合させる真空攪拌機 (④)。絵具の独特の色彩、粒度、粘度を出します。



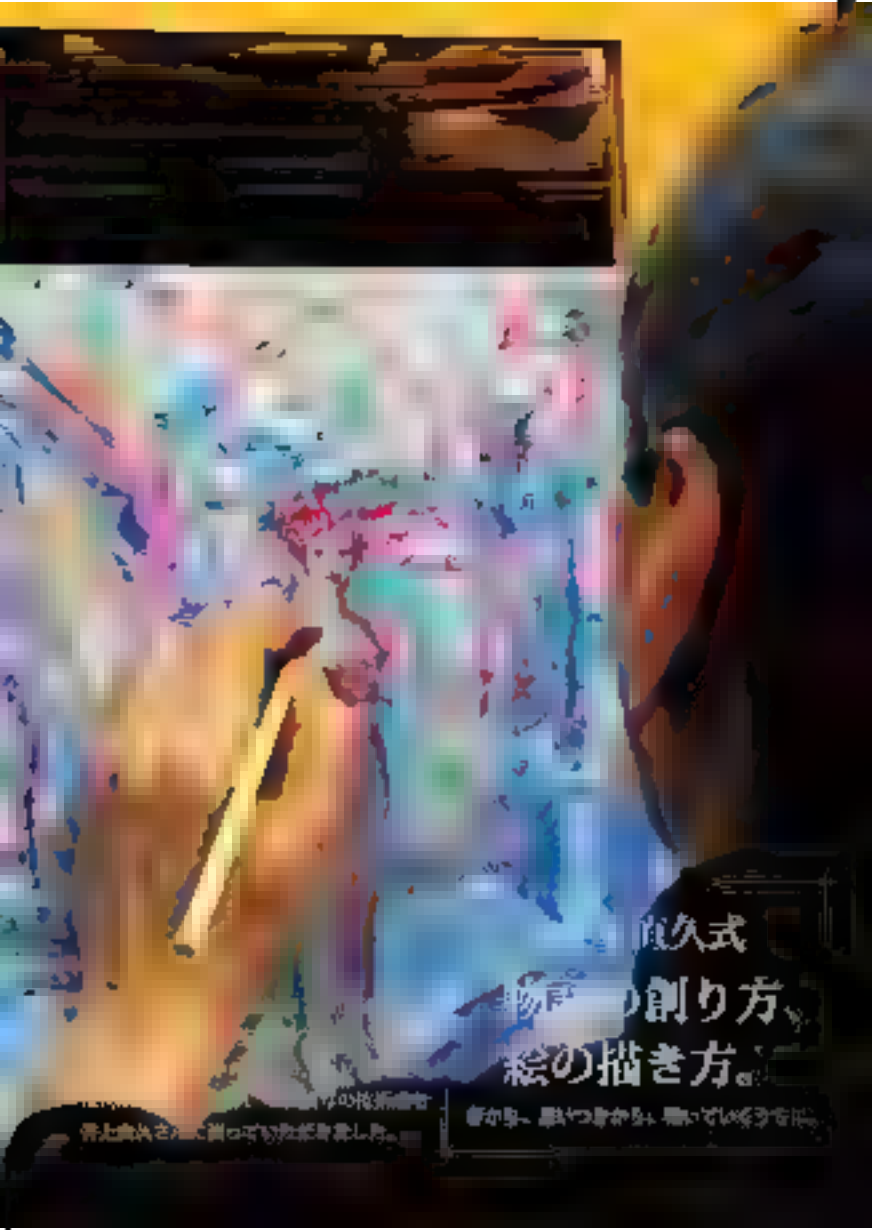
ロールで練り上がった絵具は、「測色計」で色相、彩度、明度、マンセル値を検査し (⑤)、「フーバーマラー」で顔料と展色材を混練した際の色の検査をします (⑥)。顔料は、色、吸油量、粒度、耐光性・堅牢性、耐薬品性がチェックされます。



常に高品質を保つために、「恒温恒湿室」 (⑦) では、「平行板粘度計」 (⑧) で粘稠度を計測したり、湿度や温度の管理をしています。製品としてできあがる前に、さまざまな検査工程を経て、初めて市場に送り出されるのです。



絵具を混ぜ合わせる工程で使われるローラー (⑨) とミキサー (⑩) です。顔料の塊をつぶし、油と均一に粒子を徹底的に細かく練り合わせ、滑らかで艶のある絵具に仕上げます。スイスでは実際にこの機械でチョコレートを作っているそうです。



直久式

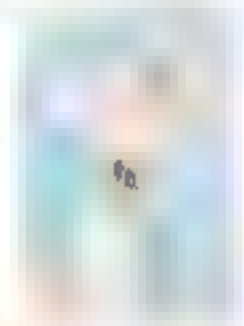
物語の創り方、
絵の描き方。

昔と変わらぬ物語の描き方。
昔と変わらぬ物語の描き方。

昔から、思いつきから、思いつきから、思いつきから。

10 11 12
 13 14
 15 16

17 18 19 20 21 22 23 24
 25 26 27 28 29 30 31 32
 33 34 35 36 37 38 39 40
 41 42 43 44 45 46 47 48
 49 50 51 52 53 54 55 56
 57 58 59 60 61 62 63 64



10 11 12



13

14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64



宮崎駿さん
東京生まれ。アニメーション映画監督。「風の谷のナウシカ」「となりのトトロ」「千と千尋の神隠し」など数々の名作映画を世に生み出した。「耳をすませば」ではプロデュース・脚本・絵コンテを担当。

対談 井上直久×宮崎駿

理屈なんてない世界

1994年2月、井上直久さんの東京での初個展。
その案内ハガキの送付先の一人に、まだ面識のない宮崎駿監督がいました。
この個展で初めて顔を合わせた2人はその後、
美しくて純粋で、楽しくも甘酸っぱい時間を切り取った
映画『耳をすませば』を作り上げました。
あれから20数年たった今、あらためて懐かしい思い出話から
お互いの近況報告まで、思い思いにお話ししていただきました。

宮崎監督 井上さんの個展は
たまたま行つて、ちよつと入
り口から店内を覗いたんで
す。それで、面白そうだなと
感じて、入ってみましたよ。

井上さん ドアが開いて、
入ってきた人がなんか見たこ
とがある人物だなと。『風の
谷のナウシカ』の漫画の後ろ
ページに宮崎さんの写真が
載っていたので。

宮崎監督 よく覚えています
ね。あそこで印象深かったこ
とは、井上さんの絵が飾って
あるからなのか、個展会場が
非常に広く感じたことです。
本当はもっと狭いところなん
ですが。そして、何かお話を
したのを覚えています。

井上さん 確か僕の絵は、『鏡
の国のアリス』に出てくるお
店の棚みたいだつて。

宮崎監督 あの食器や本が
びっしりの。でも一つの品物
をよく見ようとすると、そ
れが消えちゃうという。その
シーンが浮かびました。

井上さん 色を撒き散らし
て、あまり細かく描き込まれ
ていない部分でさえも何か見

え、途端に見えなくなつちや
うつてことですよ。

重力から解放される

井上さん 実は、僕は20年前
の絵に上から塗り重ねて描い
たりするんです。売れなかつ
た絵があつたら「しめた、こ
れまだいける」つて。それで、
実は『上昇気流』も最初、女
の子はいなくて、後で描き足
したんです。絵の名前も全然
違い、『住まいの多様化』で
した。もしそのままだったら、
宮崎さんは映画にされなかつ
たのではないかなつて。『上
昇気流』という題が、やつぱ
り何か呼び起こすものがある
んだと思います。

宮崎監督 井上さんの絵は僕
が縛られているいろんな重力
から自由に解放されているん
ですよ。無理やりすり合わせ
たのはこれ（『耳をすませば』）
ですから。無理やりという言
いは変ですが、実はこれは
ね、ずっと悔しい思いが残っ
ている作品なんです。

井上さん え、そうなんです
か！

宮崎監督 手すりに出てき
て、ベランダから広い景色を
見ているシーンが、もつとい
いものになるはずだったんで
す。なんだか不思議な、スッ
と抜けた、空中に降りて歩み
出ていく感じにしたかったの
ですが、いくら絵を描いても
床板とかが全部邪魔で、どう
やってもできなかったんで
す。ちよつと上に目を向ける
と今度は屋根が。それで屋根
を描かなければいいかといえ
ば、そうするとただ屋根がな
いだけになるんですよ。ない
わけにはいけないというのは
凡人の考えることで、イメー
ジこそが大事なんです。

井上さん それが、『上昇気
流』の女の子が歩みだすここ
ろに似ているんですよ。

宮崎監督 それからずっと、
ひよつとしたらこうかなと
か、ああかなとか……。
井上さん その手すりから乗
り出して、手すりが見えなく
なる、というのではダメなん
ですか。

宮崎監督 ダメなんです。ね。
女の子が、物語を書こう、と

かなんか口走っているだけの
映画にしてもしょうがないん
ですよ。確かに手すりは見え
なくてもいいという考え方が
ありますよ。そういう嘘をつ
くのが僕はうまいですから。

僕が考えていることは絶対に
無理なのかもしれないんです
けれども、無理が無理じゃな
いかというよりも、これね、
なんだか面白くないんです。
これには、答えはないんです
よ。結局、とても自然な感じ
になつちやいましたね。い
やー悔しいね、こりゃ。これ
かなつて、しばらくやつてい
ると、違ふんです。終わらな
いんです。

井上さん 他の映画でもそう
いう経験はあるんですか。

宮崎監督 いや、この映画の
あのシーンが特に。そのため
にわざわざああいふ建物を崖
の上に作つたんです。

井上さん あの見晴らしのい
い場所に。

宮崎監督 夏目漱石原作の映
画『三四郎』を中学生の時に
観たんですが、僕は映画が足
元から始まっていたと思ひ込

んでいたんですよ、ずっと。
どういうカメラワークなんだ
ろうつて考えていたんです
が、この前観てみたら——た
だの全身だつたんです。

井上さん なんですつて？

宮崎監督 ただの全身像だつ
たんですよ。足元に目が行つ
ていただけなんです。

井上さん 宮崎さんの見方
だつたんですね。

宮崎監督 ただ僕が勝手に、
足元のアップとしてしか観て
いなかっただけなんです。『耳
をすませば』のシーンもそう
いう風に見て取つてくれたら
いいんですが。「それなら、
初めから描くなよ」と言われ
るかもしれないけど、それは
それでおかしいんですよ。

井上さん でも、宮崎さんの
心ではそういう風に観えてい
たんですね。

宮崎監督 それで足元からや
ろうと思つたわけですよ。歩
み続けていき目の前に風景
が広がる——かどうかい
と、実際は広がりませんから
ね。面白くないと思ひ、納得
いかないまま早20年（笑）。

よもやま話

「ジブリ」の杜名
「ジブリ」、ヒブリー、ジブリー。

宮崎監督 実は、イタリアの友人に「GHIBLI」の読みは「ジブリー」か「ギブリー」か聞いたんですね。それでジブリーにしたら、後から、「ギブリー」だって、ちゃんと確かめたのに。おまけにスペイン語の読み方は「ヒブリー」になっちゃうんですよ。ひやぶりになるな、なんて。面白いなと記憶に残っているんです。それがなんとなく「ジブリー」でいいやって、そのまま。

井上さん まあ、固有名詞なんだから。

宮崎監督 固有名詞になっちゃったんだけど、もともとはサハラ砂漠の「熱風」という意味の言葉なんですよ。風には全部名前がついているんです。井上さん そういうのいいですね。

宮崎監督 風向きごとに名前がついているんです。どこかの分厚い本に書かれていたんですが、その後出会っていないんですよ。見つかからないんです。

井上さん その時のその気持ち伝わってほしいわけですよ。今度からあの映画を観る人は、そこに手すりなんかないかのように、空中に踏み出していくような感じで、観ましょう！

理屈で説明できないこと

宮崎監督 理屈はつけられないけれど、「こういうもの」というイメージはある。でもいざそれを映画にしようと思うと、その「理屈」がないと困るんです。ですが、井上さんの絵を見ていたら、描きたいものを描いていたらいのだから感じました。

井上さん 映画は筋や理屈が通らないと観に来てもらえませんが、僕は描いた後に理屈を考えるから。

宮崎監督 理屈が通っているから観にくるというわけでもないんですが、一応筋があるのがルールでもあり、

通っているのを求められるので。しかし、この映画は「こういうルールで成り立っている」と説明したくないんですよ。ゲームになっちゃうでしょう。

井上さん 全部説明されて分かってしまうとつまみなくなっちゃういますもんね。

宮崎監督 そうそう。あれはなんだったんだろうって思えないんですよ。謎めいてよくわからないものを持っている映画の方が面白い。どうして彼女が彼を好きになるのかとか、そこに理屈はない。

井上さん あんな奴に、こんなにも賢い可愛い子が惚れてしまう、という話は山ほどありますからね。

宮崎監督 そういうことです。ありそうな世界を写生して描かなければいけないとか、そういうものではない。井上さんの頭の中の奥の方に世界があり、それを引っ張り出す

ために、ペッペッペッと色を撒き散らす。自由なやり方を見つけたというね、面白いと思いますよ。そして、それをへこたれないでずっと飽きずに続けてきているというのが、たいしたものだなと。

井上さん 楽しいんですよ。

宮崎監督 そう言える井上さんがすごいんですよ（笑）。

井上さん そうなんですかね。家内は僕の機嫌が悪くなると、イライラしはじめたら、「そろそろ絵を描いたら？」と言うんです。描いていると「あ、僕結構、絵うまいわ」と機嫌良くなるので（笑）。宮崎さんも映画は、楽しいからずっと続けられているんでしょう？ 宮崎さん 楽しそうですもん。

宮崎監督 楽しくないですよ（笑）。

井上さん それは宮崎さん、責任感が強いから。そもそも僕なんかよりも長く続けられているじゃないですか。

宮崎監督 僕、いろんな映画を作っていますからね。井上さん それを言うんだっ

たら、僕だっているんな絵を描いていますよ（笑）。

あるものをあるがままで

井上さん 宮崎さんがすごいのは『耳をすませば』の時、ベストを着て蝶ネクタイしている人を登場させたじゃないですか（※）。僕ベスト着てお会いしたことありましたかね。実は僕ベスト好きなんです。あとあのおじさんリコーダー吹いたでしょう。僕、趣味でリコーダーやっています。どちらもご存知ないはずなのに、そんなのが結構あるんですよ。なんでこんなに人の表面だけを見て、わかるんだろうかなと。宮崎さんの洞察力は本当にすごい。宮崎さんの映画に出てくる人物は、動けば動くほどその人の内側が出てくる。内側があつてこそ、外側の世界が広がってできてくるし。

宮崎監督 あとは作品を作るのにあたって、どれくらい羽目を外せるかですかね。羽目を外せない人も中にはいますから。



対談収録後も、「二馬力」でお茶をしながら談笑するお二人

井上さん でも、そういう、羽目を外せないタイプの人がいるおかげで、こちらは安心して羽目を外せる。

宮崎監督 だいたいコンちゃん（近藤喜文監督）もいざとなると臆病ですから。

井上さん 慎重な方でしたよね。

宮崎監督 作中事が裾ばっかり気にしててね。自意識過剰で僕はもう嫌でした。

井上さん 座る時はスカート曲げたりなんかしてね。

宮崎監督 実際に人がいない時に、それやる子はそういうないですよ。人に見えてしまったからって下品ということはないので、かまわないんです。かえって隠そうとするよりも失礼な感じがしないんですよ。『未来少年コナン』というテレビシリーズで、スカートを履いた子が足をバタバタさせるところを描いたんです。どうしてもパンツが見えちゃうんですが、全然気にならないんですよ。本当に驚くべきことでした。スカートから見えたらドキッとする

なんていうのは、本当にどうでもよく、そんな固まった考え方とはかけ離れているんです。だから、あのシーンも何か他にやり方があったんじゃないのかなど。あるものをなくしてしまわないで、あるものをあるがままで。

動いて見える瞬間が懐かしい

宮崎監督 仕事のことは、車の中ではなるべく考えないようにしているんです。代わりに何をしているかということ、バスを何台見たか数えているんです。

井上さん そうしないとどんな考えてしまうんですね。

宮崎監督 同じ道を20年以上通っていて、飽きない方法は何かということ、路地をのぞいていく事なんです。路地をのぞいて、その中に何があるのかということではなくて、どういう風に現れ、どう消えていくのかを見るんです。井上さん 宮崎さんは動きでものを見ているんですね。宮崎監督 路地が消えていく瞬間、道をすっとのぞかなく

ちやいけないんですよ。

井上さん すごいね。まさに映像アイ（目）。

宮崎監督 路地裏に入ったらどうなるのか描ければいいんですが、難しく描けないんです。あと、横を向いてばかりいると、ものすごく危険。

井上さん 確かに（笑）。

宮崎監督 危なくないように前後左右気をつけて。仮に道が14差路あるなら、それを全部見て――。

井上さん 面白いですね。

宮崎監督 そういう事を毎日していると、同じものであっても、毎回見えているものが違うし、ものすごく懐かしい風景にも見えるんです。自分の中で特別何かあるというわけではないんですが。たまに散歩に出かけた時、わざわざそういう路地に入ったりしますけど、それだとやっぱりただの路地で。要するに、変化している瞬間が面白いんです。それだけのことなんです。井上さん でも、それを他の人にもわかってもらうには、宮崎さんに映像を作ってもら



戸締りをし始める宮崎監督と、突如グランドピアノを奏でる井上さん

うしかない。僕らは、おおよそは見えてもやっぱり違う。

宮崎監督 つまり、散歩している時に止まっちゃいけないんです。歩き続けて見ないと。井上さん 止まっちゃうといけないんですね。

宮崎監督 そうなんです。よく見ようとして止まると、もう風景が死ぬんですよ。動態で見ていると、刻々と変化するでしょう？ だから、いいところがどんどん通り過ぎちゃうんですが、止まるわけにはいかないんです。

井上さん 映画みたい！

宮崎監督 みんなそうなのかもしれないんですけど、動いているものの方がよく見えるんです。山とか歩いていて「あ、なんかあるな」と思っても、歩きながら「過ぎちゃう、過ぎちゃう」と動いているとなんだかい景色に。いろいろ実験した結果、本当にそういうものですよ。他にも、遠くに建つ大きなマンションが望めるところがあるのですが、そこが夜になるとすごく華やかなんです。窓にみんな

井上さんの絵は、理屈なしにいい。

色があるように見えて、まるでイバラードですよ。でも、昼間見るとがっかりするんですよね。しかし、それをのぞける路地が二本しかない。もう信号が目の前まで来ている場所だから、危険なんですけれども。

井上さん 「ここから見るとよい」って名所の立て看板置かなくちゃ(笑)。車のスピードがいいとかですか？

宮崎監督 動態で見るのがいい。そうすると感覚が、止まって見るのとは違ってくる。カエルは目の前で止まっている餌があっても食べないんです。人間もカエルと同じで、かえって全然動いていないと、見えなくなるんですね。

こういう妄想は常にある

井上さん 宮崎さんこれ、覚えてますか。(《街の回廊》の絵を見ながら。65ページ参照) 本当にいいのかなと、もらってしまったことをすごく気にして。映画には出て

いなかったけれども、あの時『パロンのくれた物語』の物語』の本を出されたでしょう。だけど、そこに載っていなかったもので、こんないい絵、惜しい、えらいことしてしまったと。

宮崎監督 覚えていないです(笑)。こういう妄想はずっとあるんですよ。でも、理屈を言うと変な感じになります。理屈なしに井上さんの絵はいいんです。

井上さん 宮崎さんは、理屈と理屈のないところの隙間を、どんどん掘り下げていけるのがすごい。

宮崎監督 本当に理屈のない世界なんですよ。

最初から結末まで出さない

宮崎監督 今進めている企画のために描いているのがちよつとあるのですが。こんなのが成り立つのかどうか、とりあえず絵コンテを描いてみないとわからないんです。井上さん いつもそうですよ

2. よもやま話

「星」という名の才能

てしまう。ハウルはそれを捨て去るのではなく自由にするんですが、自由になった星がまた自分の元に帰ってくる、つまり才能が自分を選び、自分がそれを受け入れるんです。あの流星は、自分の才能というか、運命みたいなものなんです。僕なら星が降ってきたら飲み込まない手はないと思ってしまいますが、それは自分に与えられたものを肯定するということなんです。どうも僕も5歳かそこらの時に星、飲んでますね(笑)。何かの時に「自分は無敵だ」と思えたことのある人は、たぶんみんなそうなんですよ。(井上直久さん談)

「ハウルが飲んだ流星は、一度自由になって『わーい』と飛んでいくがまた戻ってくる、あれがいい。あれは自分の才能から一度自由になって、その上で和解したってことなんですよ」と宮崎さんにお話したことがあるんです。そしたら、宮崎さんがすごく喜んで「えっ、井上さん、それ、わかりますか!? メビウスがね、自分は11歳の時に星を飲んだと言うんですよ」と宮崎さん。才能は、持っているうちにやがて重荷になり自分を縛りつけるものになってくるんです。そこから自由になりたいと思うが、どうにもならず、自分では解放できなくな

ね。冒頭というか、入ったところから話を考えて描き始めている。高畑さんもおっしゃっていました、「アニメはやり直しが利かない世界なのに、結末まで出さず、撮りはじめることができるのは、普通の人間だとできない。あれは天才なんです」と僕に力説しておられました。

宮崎監督 天才とかなんとか

そんなのではなく、頭の中で最初から結論までいければいいんですけれども、途中でどんどん変わってしまうのはわかっていて。そこまではないとわからないことがたくさんあるんです。

井上さん 僕も漫画を描く

時、最初の一コマ描いて、次描いてと、あらかじめ全体のストーリーボードは作らないです。40ページとか、きりのいいところまで描くと徐々に話がまとまってくるんです。

宮崎監督 それすごくわかります

ます。僕もそうですから、『風の谷のナウシカ』を連載している時もネームなんか作らなかったですよ。

井上さん ナウシカは描くのしんどかったですか? 僕も漫画描くのはしんどいですが、絵を描いていると、「頭の中にイメージがたくさんあるんですか」とよく聞かれるんですけれども「いや、入っていません」と答えるんです。描き出してから出てくるんで。たぶん宮崎さんの映画もそうだと思います。

宮崎監督 作るのか作らない

のか決めてもらうだけの絵コンテですから。でも、作品の精度に関わることで、あんまり殴り描きではわからないです。でも、ストーリーを全部見通そうと思っても、全然見通せない。そんなの考えててもしょうがないから、とりあえずさっさと描いていくだけです。

井上さん 100カットの絵

コンテを映像にすると?

宮崎監督 10分ぐらいじゃないですかね。

井上さん それで世界の形が

見えてきたら面白いですね。

宮崎監督 100コも描いて

いくとどんどん変なものになっ

ていくんです。初めは暗黙の組み立てられた公式があり、それがただの条件反射みたいにルーティンになっているんです。そこからどうやって抜け出そうかとずっと続けていくと、わけがわからなくなるんですよ。

井上さん 僕、わけのわから

ない話大好き。わー楽しみだ。

宮崎監督 ヘタなものにな

ったらしょうがないから、ちよつと見えてきた時に、全体像を描いて、こんな感じになるんだらうなど。そしたら、初めの段階では全然予想もしなかったものが出てくるんですよ。どういう風になつていくのはわかんないです。

井上さん それを聞くと何か

理由を作ってまたこちらに来たくなります。大変でしょうけれども、また面白い映画を作っていたらいい。僕もまた全然違う絵を描かないと。

宮崎監督 本当、長生きして

ください。奥さんによろしく。

井上さん お互い元気で、何

度でもまたお会いできますように。

3. よもやま話

「グリコ体操」

井上さん 宮崎さんのお隣で一緒にお仕事をした際(65ページ参照)、隣にいないなと思ったら、後ろにある長椅子で寝ていらして(笑)。

宮崎監督 僕は困ると寝てばかりいましたから(笑)。今でも眠たいんですけどもね。でも、5分だけでも寝るとずいぶん稼働できるんですよ。

井上さん 「何分寝よう」と思って寝ると、催眠術にでもかかったかのように、起きれるもんですよ。宮崎監督 困ったことに、毎朝6時に起きてしまうので、会社に着いた時には、もう眠いんですよ。

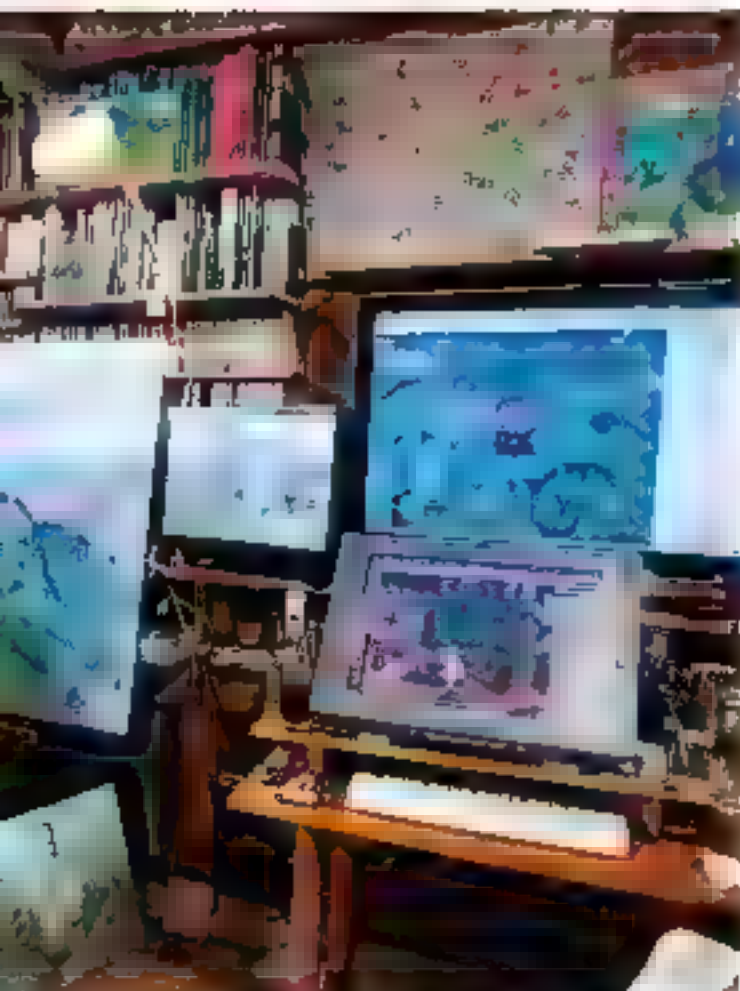
井上さん 早く起きて何をされてるんですか?

宮崎監督 僕は変な体操をしています(笑)。自己流の「グリコ体操」を、手を挙げて耳につけるんです。

井上さん (実際にやってみて)結構大変ですね(笑)。

宮崎監督 朝、50回やるんですが、その間にもいろんな体操を入れてるんです。乾布摩擦じゃなくて、たわしでマッサージとか。

井上さん 50回もですか! 手の上に挙げるのは、人間は普段しない動きなので難しいんですよ。宮崎監督 朝の日課が重すぎて、会社に着くともう眠いんですよ。一日始まったばかりなのに。



井上直久さんが創り出すイバラードの世界

How to Create IBLARD

井上直久さん 著
 井上直久さん 著
 井上直久さん 著
 井上直久さん 著



Photo courtesy of Naohisa Inoue

4



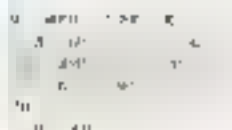
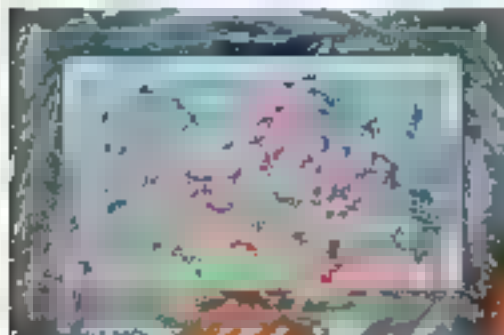
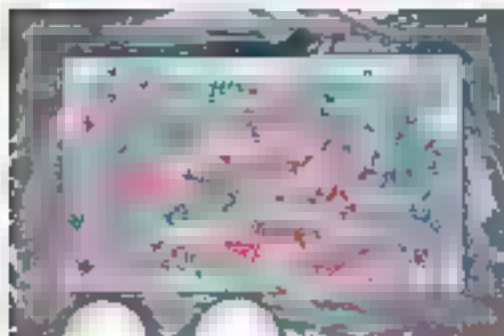
5



6



How to Create IBLARD



10

大 小 中 大 小 中
 大 小 中 大 小 中
 大 小 中 大 小 中
 大 小 中 大 小 中
 大 小 中 大 小 中



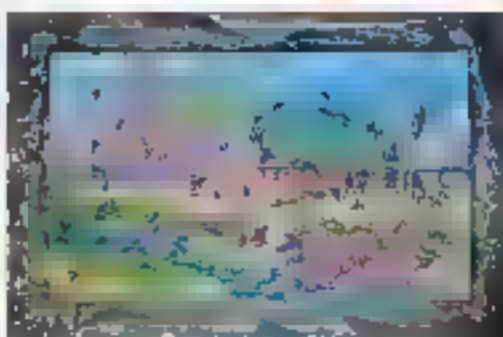
11

大 小 中 大 小 中
 大 小 中 大 小 中
 大 小 中 大 小 中
 大 小 中 大 小 中
 大 小 中 大 小 中



12

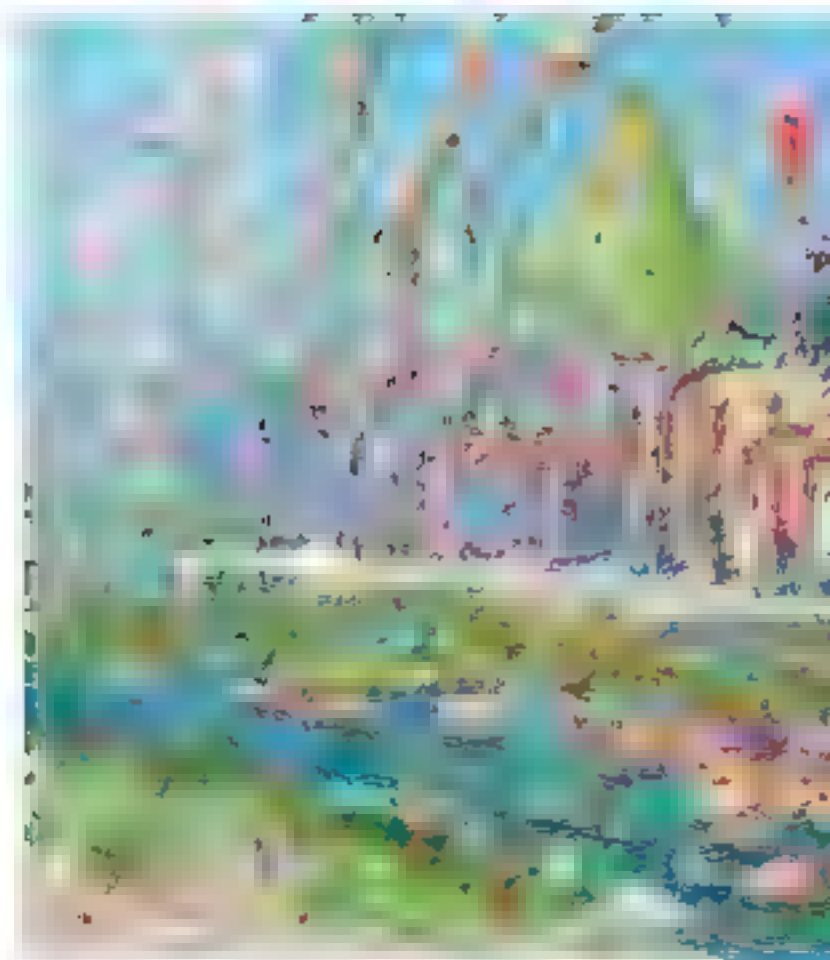
大 小 中 大 小 中
 大 小 中 大 小 中
 大 小 中 大 小 中
 大 小 中 大 小 中
 大 小 中 大 小 中







THE UNIVERSITY OF
MICHIGAN
LIBRARY





д.

1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. 16. 17. 18. 19. 20. 21. 22. 23. 24. 25. 26. 27. 28. 29. 30. 31. 32. 33. 34. 35. 36. 37. 38. 39. 40. 41. 42. 43. 44. 45. 46. 47. 48. 49. 50. 51. 52. 53. 54. 55. 56. 57. 58. 59. 60. 61. 62. 63. 64. 65. 66. 67. 68. 69. 70. 71. 72. 73. 74. 75. 76. 77. 78. 79. 80. 81. 82. 83. 84. 85. 86. 87. 88. 89. 90. 91. 92. 93. 94. 95. 96. 97. 98. 99. 100. 101. 102. 103. 104. 105. 106. 107. 108. 109. 110. 111. 112. 113. 114. 115. 116. 117. 118. 119. 120. 121. 122. 123. 124. 125. 126. 127. 128. 129. 130. 131. 132. 133. 134. 135. 136. 137. 138. 139. 140. 141. 142. 143. 144. 145. 146. 147. 148. 149. 150. 151. 152. 153. 154. 155. 156. 157. 158. 159. 160. 161. 162. 163. 164. 165. 166. 167. 168. 169. 170. 171. 172. 173. 174. 175. 176. 177. 178. 179. 180. 181. 182. 183. 184. 185. 186. 187. 188. 189. 190. 191. 192. 193. 194. 195. 196. 197. 198. 199. 200. 201. 202. 203. 204. 205. 206. 207. 208. 209. 210. 211. 212. 213. 214. 215. 216. 217. 218. 219. 220. 221. 222. 223. 224. 225. 226. 227. 228. 229. 230. 231. 232. 233. 234. 235. 236. 237. 238. 239. 240. 241. 242. 243. 244. 245. 246. 247. 248. 249. 250. 251. 252. 253. 254. 255. 256. 257. 258. 259. 260. 261. 262. 263. 264. 265. 266. 267. 268. 269. 270. 271. 272. 273. 274. 275. 276. 277. 278. 279. 280. 281. 282. 283. 284. 285. 286. 287. 288. 289. 290. 291. 292. 293. 294. 295. 296. 297. 298. 299. 300. 301. 302. 303. 304. 305. 306. 307. 308. 309. 310. 311. 312. 313. 314. 315. 316. 317. 318. 319. 320. 321. 322. 323. 324. 325. 326. 327. 328. 329. 330. 331. 332. 333. 334. 335. 336. 337. 338. 339. 340. 341. 342. 343. 344. 345. 346. 347. 348. 349. 350. 351. 352. 353. 354. 355. 356. 357. 358. 359. 360. 361. 362. 363. 364. 365. 366. 367. 368. 369. 370. 371. 372. 373. 374. 375. 376. 377. 378. 379. 380. 381. 382. 383. 384. 385. 386. 387. 388. 389. 390. 391. 392. 393. 394. 395. 396. 397. 398. 399. 400. 401. 402. 403. 404. 405. 406. 407. 408. 409. 410. 411. 412. 413. 414. 415. 416. 417. 418. 419. 420. 421. 422. 423. 424. 425. 426. 427. 428. 429. 430. 431. 432. 433. 434. 435. 436. 437. 438. 439. 440. 441. 442. 443. 444. 445. 446. 447. 448. 449. 450. 451. 452. 453. 454. 455. 456. 457. 458. 459. 460. 461. 462. 463. 464. 465. 466. 467. 468. 469. 470. 471. 472. 473. 474. 475. 476. 477. 478. 479. 480. 481. 482. 483. 484. 485. 486. 487. 488. 489. 490. 491. 492. 493. 494. 495. 496. 497. 498. 499. 500. 501. 502. 503. 504. 505. 506. 507. 508. 509. 510. 511. 512. 513. 514. 515. 516. 517. 518. 519. 520. 521. 522. 523. 524. 525. 526. 527. 528. 529. 530. 531. 532. 533. 534. 535. 536. 537. 538. 539. 540. 541. 542. 543. 544. 545. 546. 547. 548. 549. 550. 551. 552. 553. 554. 555. 556. 557. 558. 559. 560. 561. 562. 563. 564. 565. 566. 567. 568. 569. 570. 571. 572. 573. 574. 575. 576. 577. 578. 579. 580. 581. 582. 583. 584. 585. 586. 587. 588. 589. 590. 591. 592. 593. 594. 595. 596. 597. 598. 599. 600. 601. 602. 603. 604. 605. 606. 607. 608. 609. 610. 611. 612. 613. 614. 615. 616. 617. 618. 619. 620. 621. 622. 623. 624. 625. 626. 627. 628. 629. 630. 631. 632. 633. 634. 635. 636. 637. 638. 639. 640. 641. 642. 643. 644. 645. 646. 647. 648. 649. 650. 651. 652. 653. 654. 655. 656. 657. 658. 659. 660. 661. 662. 663. 664. 665. 666. 667. 668. 669. 670. 671. 672. 673. 674. 675. 676. 677. 678. 679. 680. 681. 682. 683. 684. 685. 686. 687. 688. 689. 690. 691. 692. 693. 694. 695. 696. 697. 698. 699. 700. 701. 702. 703. 704. 705. 706. 707. 708. 709. 710. 711. 712. 713. 714. 715. 716. 717. 718. 719. 720. 721. 722. 723. 724. 725. 726. 727. 728. 729. 730. 731. 732. 733. 734. 735. 736. 737. 738. 739. 740. 741. 742. 743. 744. 745. 746. 747. 748. 749. 750. 751. 752. 753. 754. 755. 756. 757. 758. 759. 760. 761. 762. 763. 764. 765. 766. 767. 768. 769. 770. 771. 772. 773. 774. 775. 776. 777. 778. 779. 780. 781. 782. 783. 784. 785. 786. 787. 788. 789. 790. 791. 792. 793. 794. 795. 796. 797. 798. 799. 800. 801. 802. 803. 804. 805. 806. 807. 808. 809. 810. 811. 812. 813. 814. 815. 816. 817. 818. 819. 820. 821. 822. 823. 824. 825. 826. 827. 828. 829. 830. 831. 832. 833. 834. 835. 836. 837. 838. 839. 840. 84



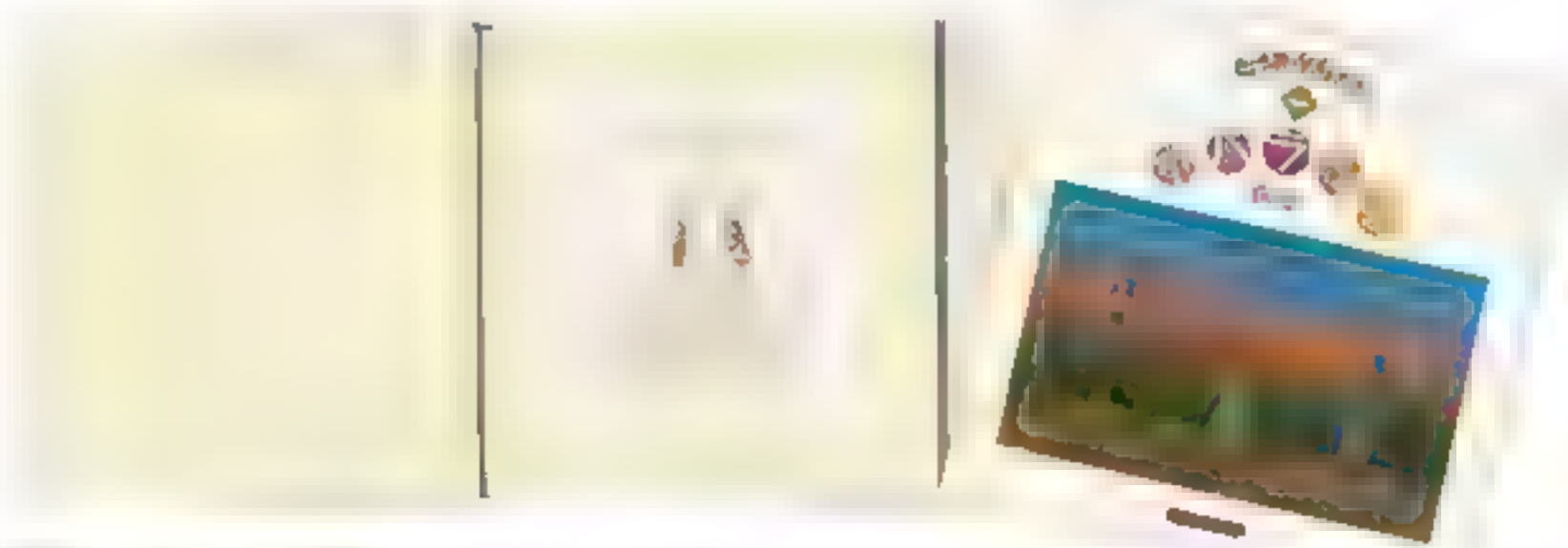
IBLARD Collections

井上直久さんのこれまでの作品をまとめたコーナーです。
これまでに出版されたものやすでに絶版になってしまったもの、
デザインアイデアまでさまざま。グッズやゲームなどもご紹介します。

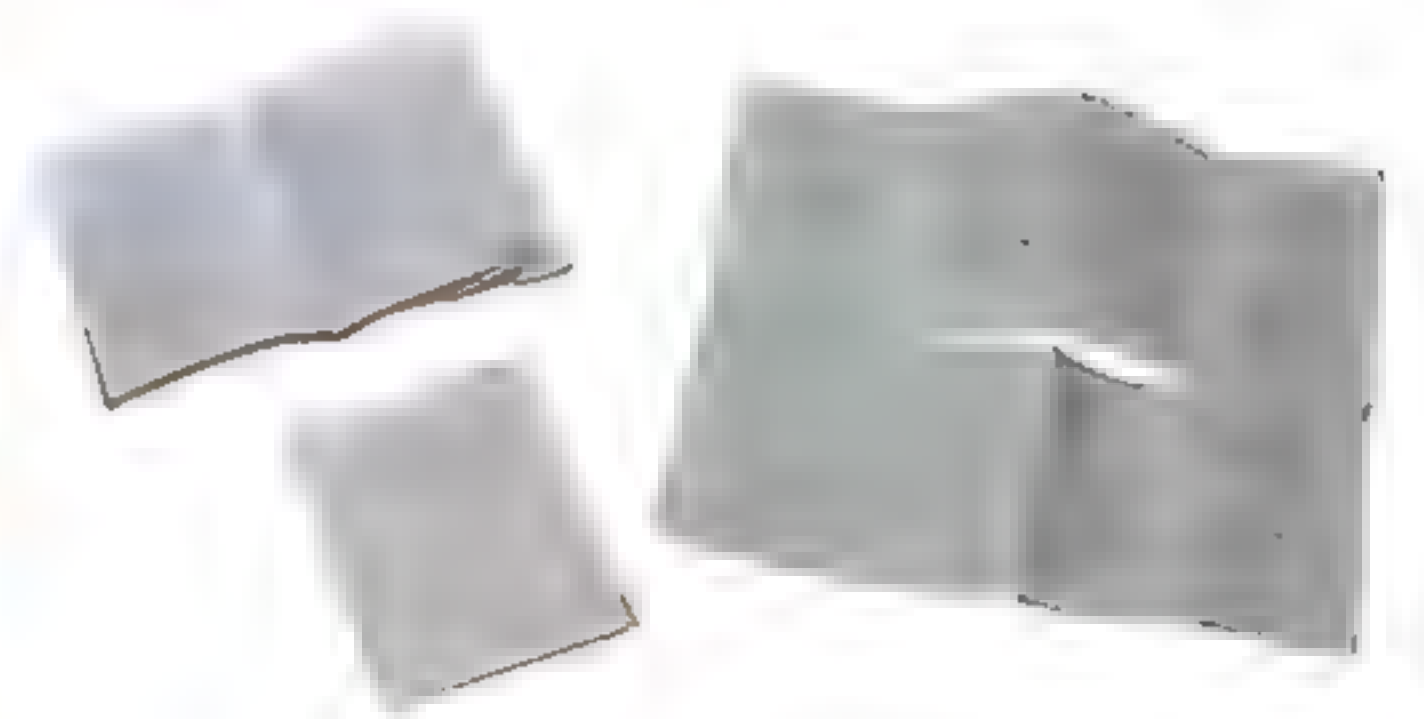
※製造・販売が終了し、入手困難な商品もあります。

「ソルマプレス」という
名を自分で名付けました。

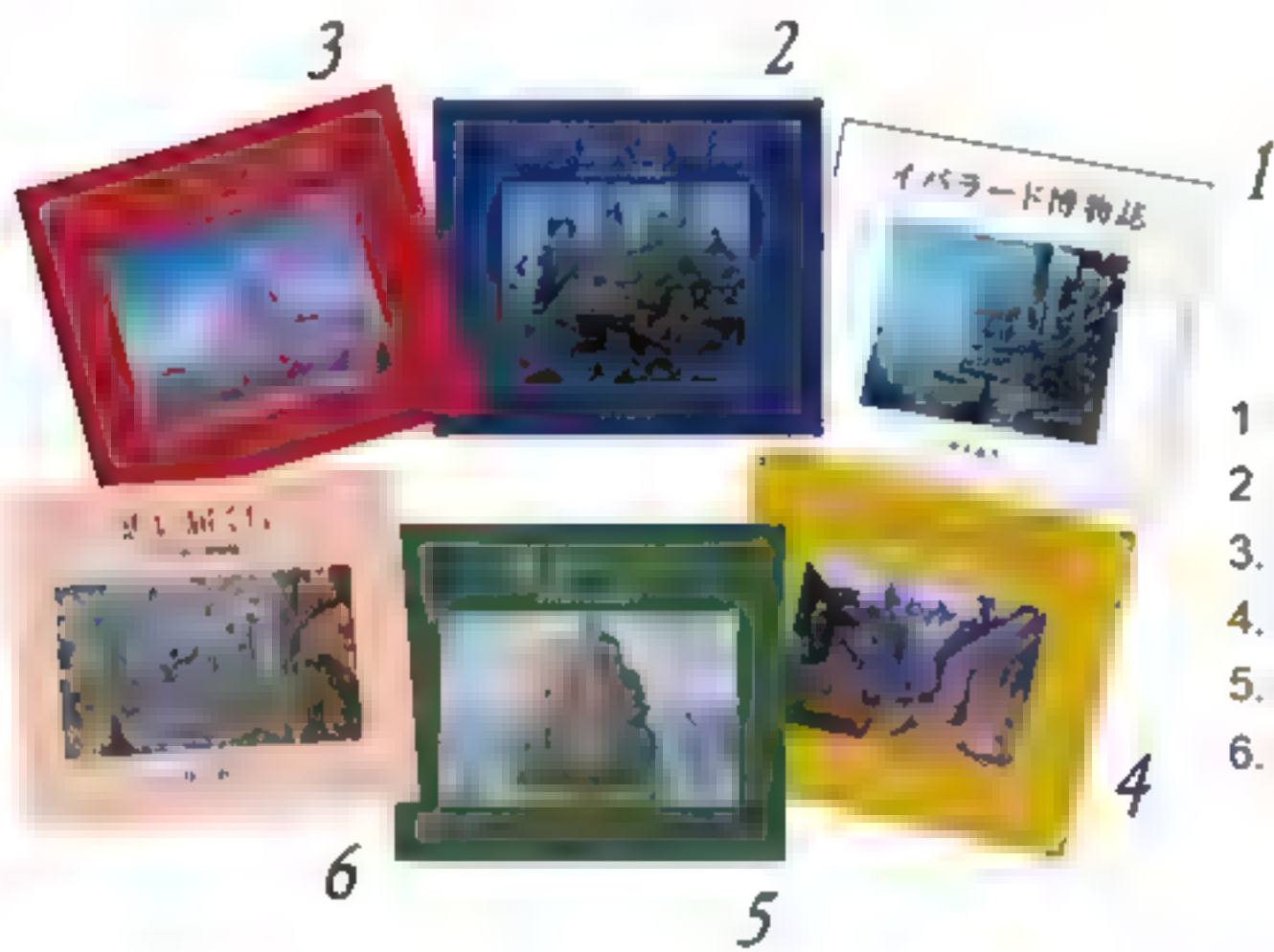
画集『井上直久作品集イバラード 1981』の
限定版の中の挿絵 No.291



画集『井上直久作品集 イバラード 1981』
ソルマプレス 自費出版 1981



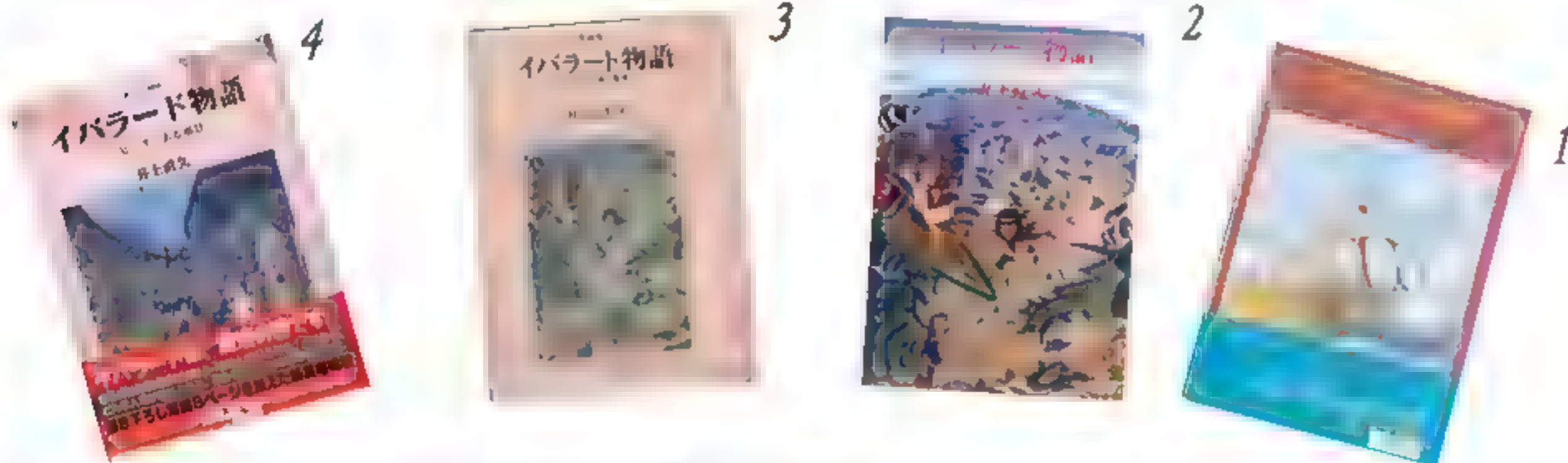
もともとは鉛筆手書き、A4の紙で8頁の小さな折
り本形式で、一章一章書いては友人に配っていまし
た。そして、最終的には自費出版した最初の画集に
「イバラード消息」として収録しました。



- 1 画集『イバラード博物誌』架空社 1993
- 2 画集『空の庭、星の海 イバラード博物誌Ⅱ』架空社 1996
- 3 画集『ジバングの岸辺 イバラード博物誌Ⅲ』架空社 1999
- 4 画集『ここが、その街 イバラード博物誌Ⅳ』架空社 2003
- 5 画集『水わく丘 イバラード博物誌Ⅴ』架空社 2008
- 6 画集『思い届く日 イバラード博物誌Ⅵ』架空社 2012



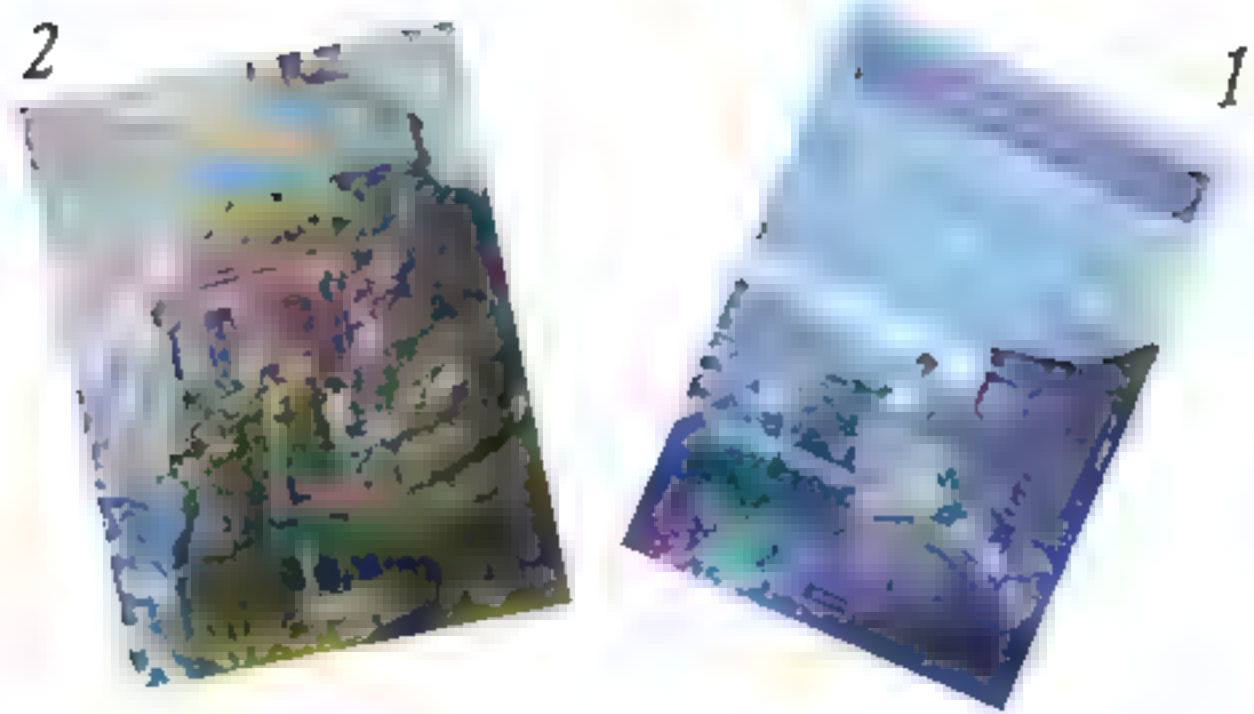
絵本『イバラードの旅』講談社 1983



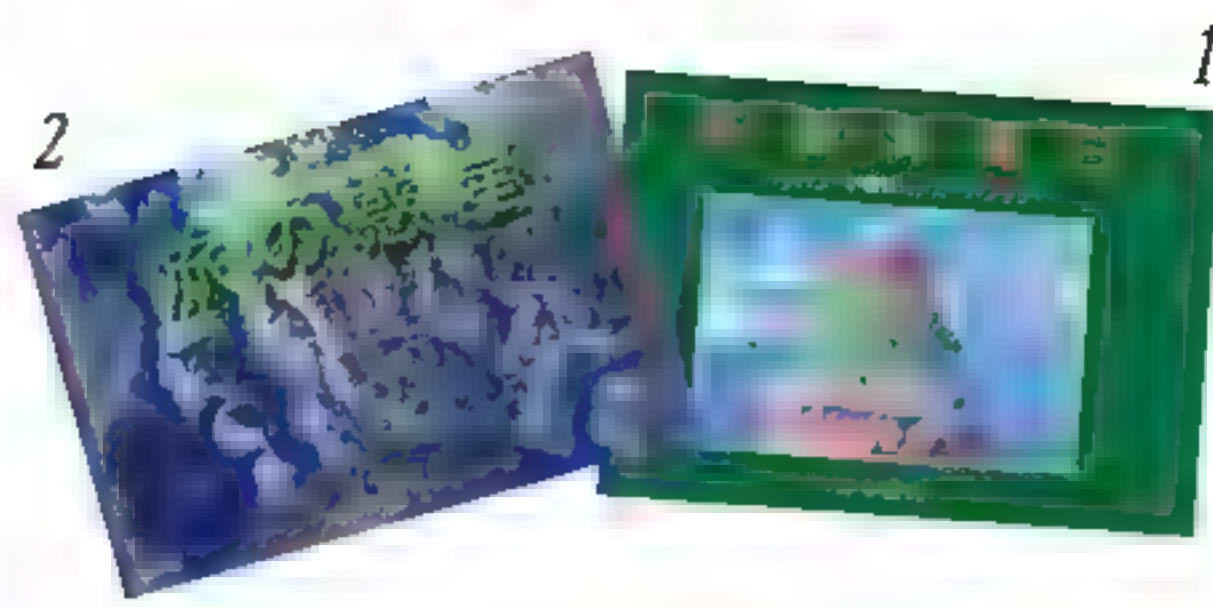
1. 単行本『イバラード物語』青心社 1985
- 2, 3. 単行本『イバラード物語 ラピュタのある風景』増補版&愛蔵版 青心社 1995
4. 単行本『イバラード物語 ラピュタのある風景』新装増補版 青心社 2009

《イバラード絵巻》1997
ロール紙プリンターで制作された作品。横幅は8m超。
この絵はP157まで続いています。





1. 大判画集『世界はあなたのコレクション』架空社 2001
2. 大判画集『旅誘う光の粒』架空社 2014



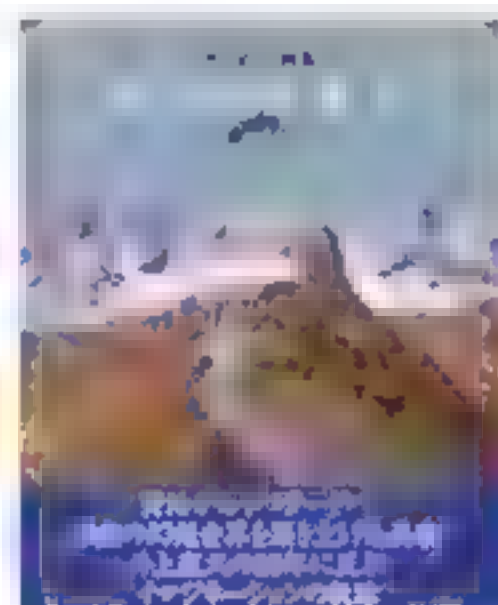
1. ポストカードブック『多樹海麗日』架空社 1999
2. ポストカードブック『旅の惑星』架空社 2010



単行本『めげゾウの日』
井上直久のアクリリック
架空社 2009



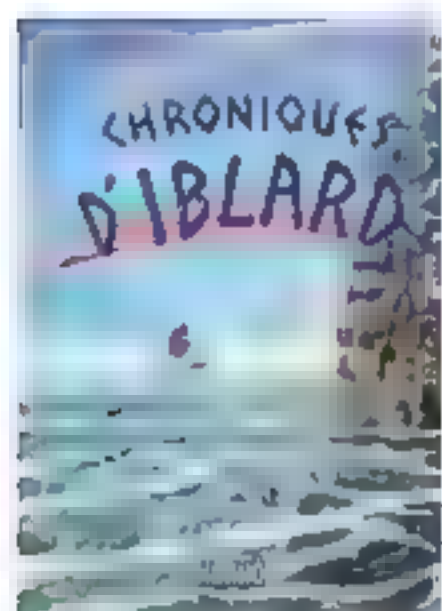
絵本『星をかった日』
架空社 2006



画集『虹化石の街へ』井上直久画集
サンリオ 2001



大型本『「ハロンのくれた物語」の物語』
映画『耳をすませば』より
(ジブリ THE ART シリーズ)
スタジオジブリ 1995



コミック『イバラード物語』
フランス語版 KANKŌ 2008



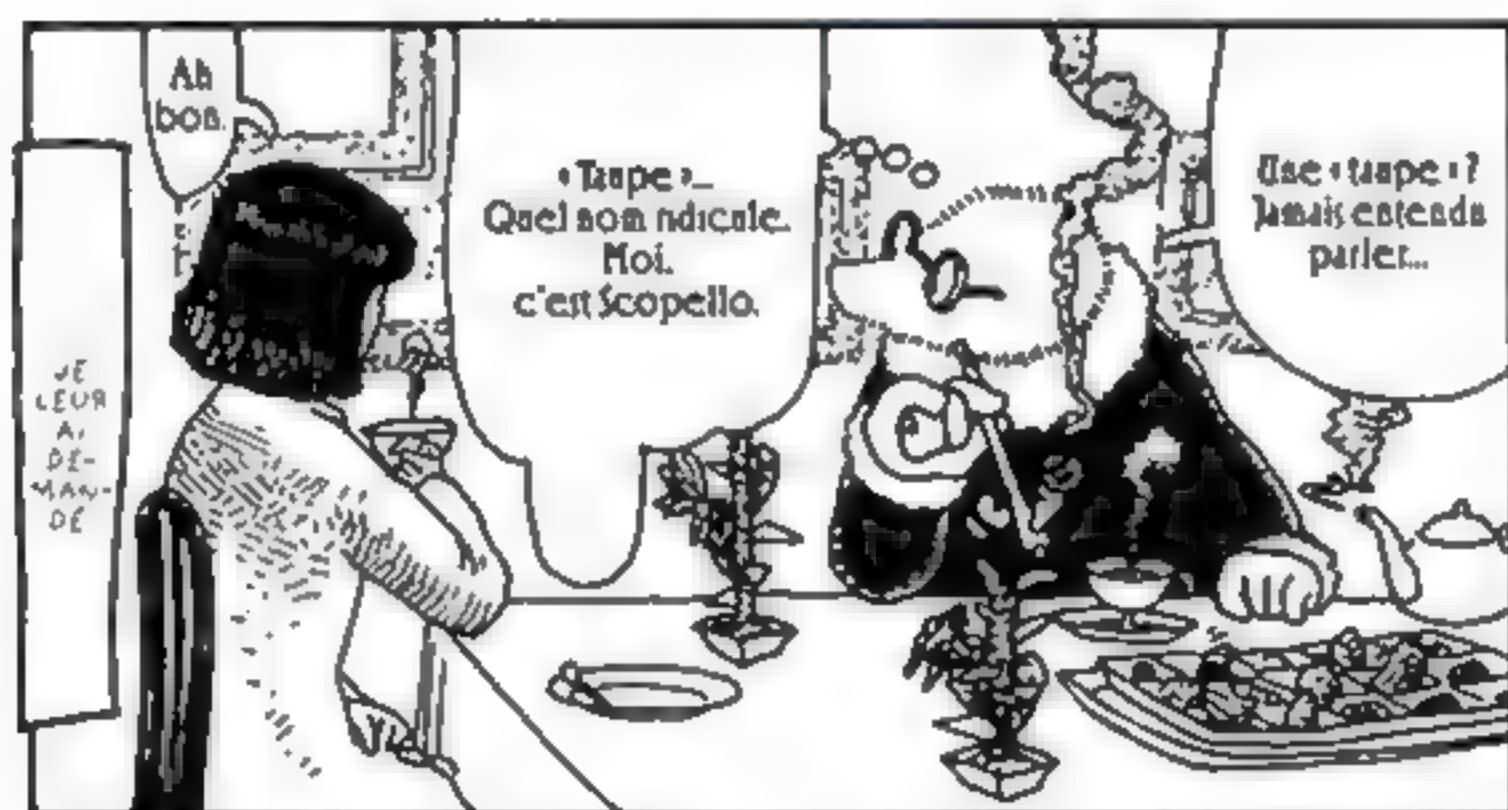
漫画『ドラゴンファイヤー』
芹心社 1987



文庫『迷路の街で聞いた話 IBLARD』
Traveler's Guidebook
株式会社プラスアルファ文庫 2002



ポストカードブック
『めげゾウのいた日』ミニ画集 &
ポストカードブック』サンリオ
2001



フランス語版『イバラード物語』のカットの一部分。





「Barn Stormer」
 LP レコード 12 インチ盤 <E4244>
 自主制作盤 ギターによる独演集 1983
 Produced by Trio Los Aires
 Recorded at 456 studio, Ibaraki
 Engineered by Masao Kida
 Sound co-ordinator Isato Nakagawa
 Cover art Naohisa Inoue
 Liner art Katsuhisa Toda, Erika Hayashi, Takako Houei, Hiroshi Hata, Naohisa Inoue
 Photography and Art direction: Katsuhisa Toda



CD ROM 画集『イバラードの旅』シンフォレスト 1996



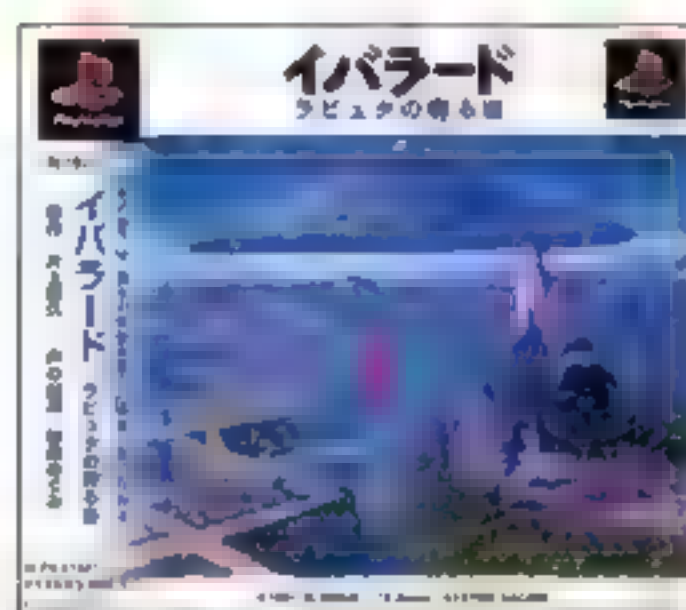
CD-ROM『イバラードの世界』シンフォレスト 1998



CD ROM『イバラードを見た』Visions of IBLARD』
 株式会社アートスペース 2003



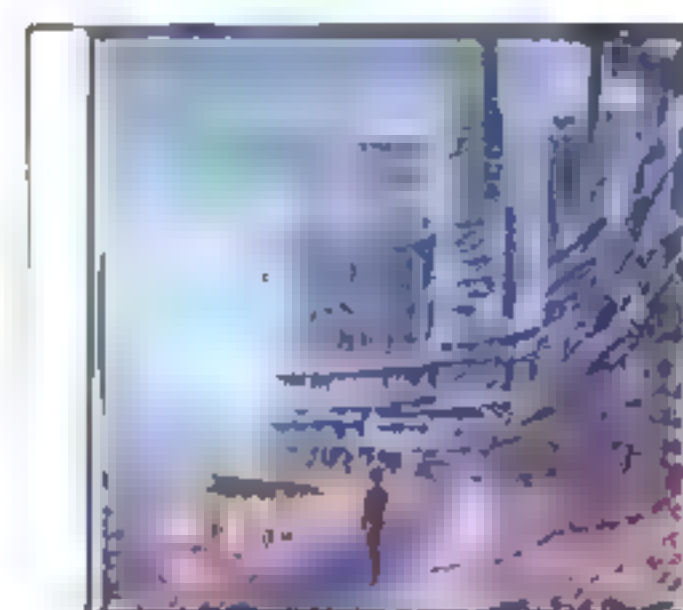
CD-ROM『イバラードを見た』Visions of IBLARD』(サンプル)
 株式会社アートスペース



Play Station
 『イバラード ラビュタの夜る街』
 システムサコム 1997



CD ゲーム・ミュージック
 『イバラード ラビュタの夜る街』
 ワンダースピリッツ 1997



イメージ・CD アルバム
 『イバラード～イバラード博物館より～未来 MUSIC』
 徳間ジャパンコミュニケーションズ 1995

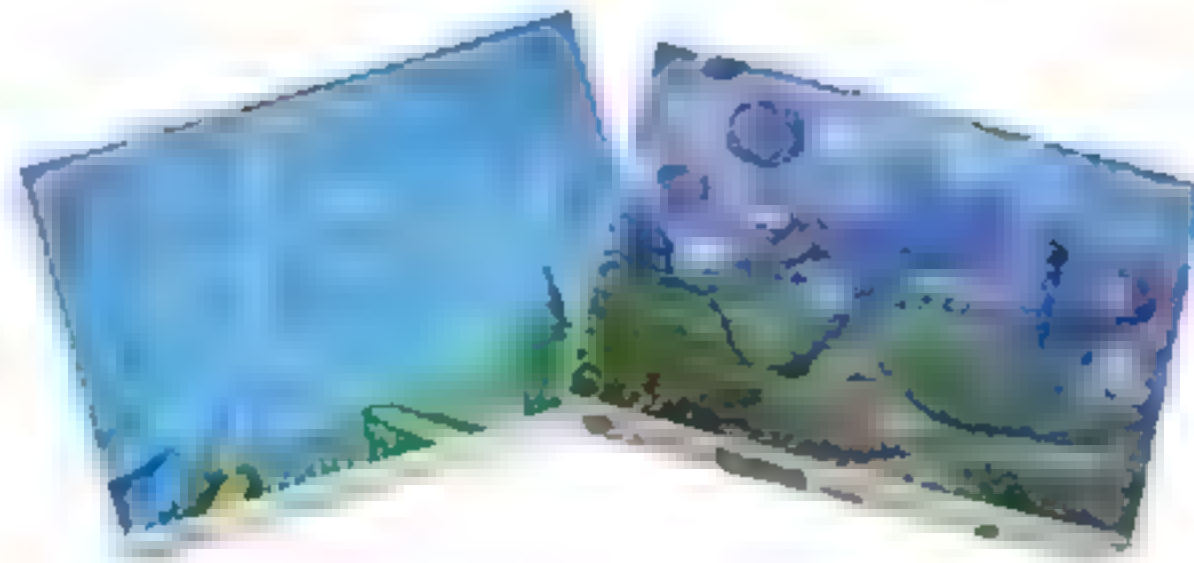


IBLARD Collections



VHS・カラー・ステレオH i F i 『イバラードの旅』
 時間：45 分
 原作：井上直久
 主演：浜丘麻矢
 演出、脚本：伊藤正美
 サウンドデザイン：TSP
 ハイビジョン撮影、CG 監修：ソニー PCL
 スタジオ撮影：テイクシステムズ
 制作・著作：テレビ朝日 / 1999 年 3 月・BS ハイビジョン放映作品

DVD & Blue-ray 『イバラード時間』
 ウォルト・ディズニー・ジャパン株式会社
 2007



キーホルダー (めげゾウ、ハネめげ、ノナ、
 スコッペロ、メーキンソー、多層海、惑星、市電)
 株式会社アートスペース

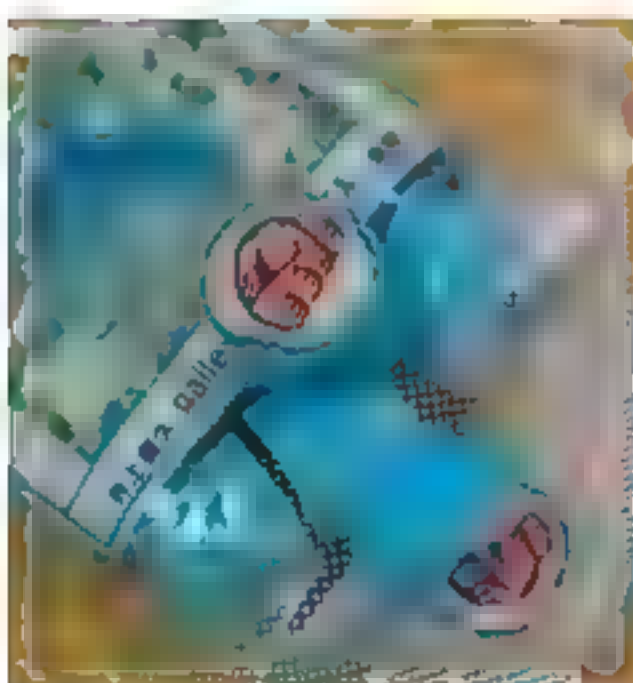
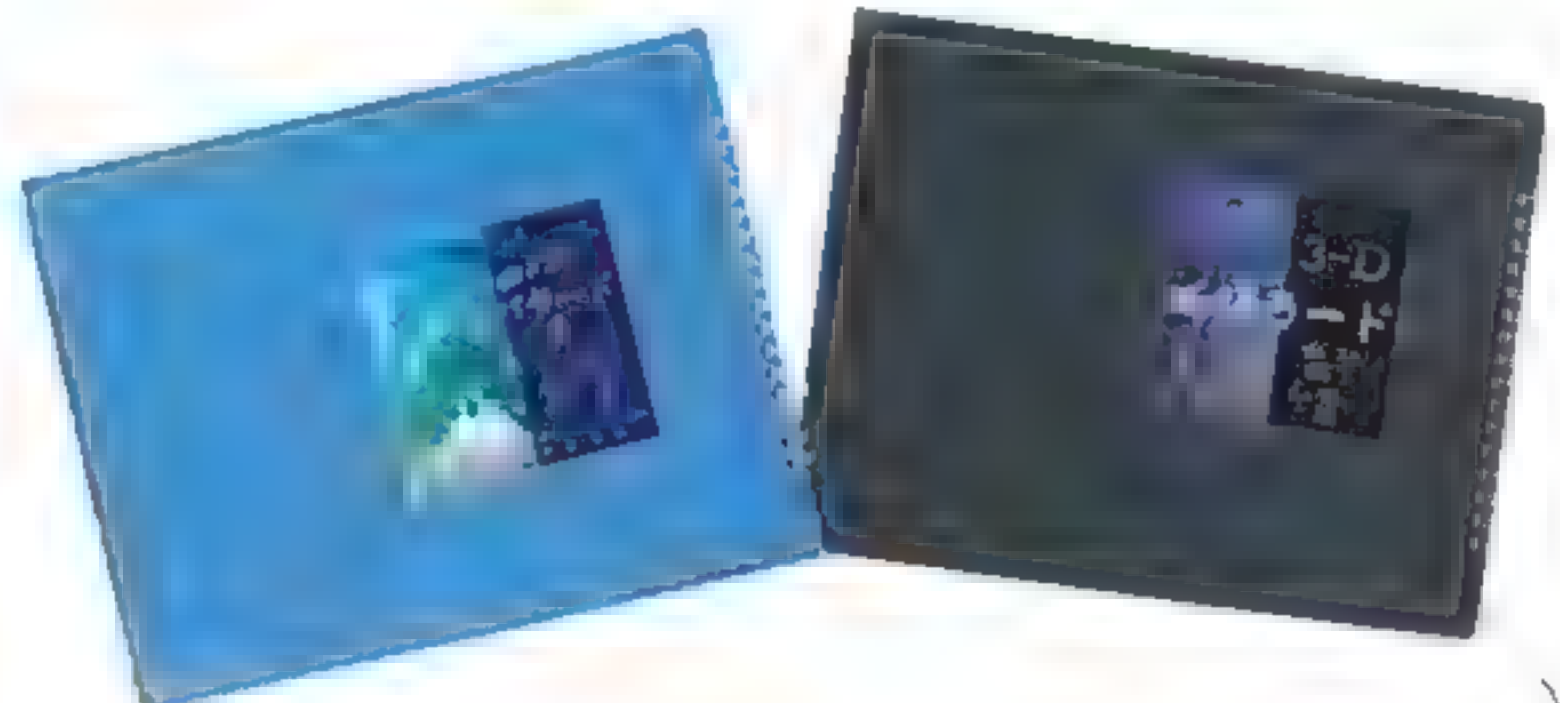
ジグソーパズル 1000 ピース 51.5 cm × 72.8 cm
 井上直久 KONAMI 1993

アートスペース主催のイバラード展での
 賞品と参加賞



めげゾウぬいぐるみ
 テレビ朝日
 1997

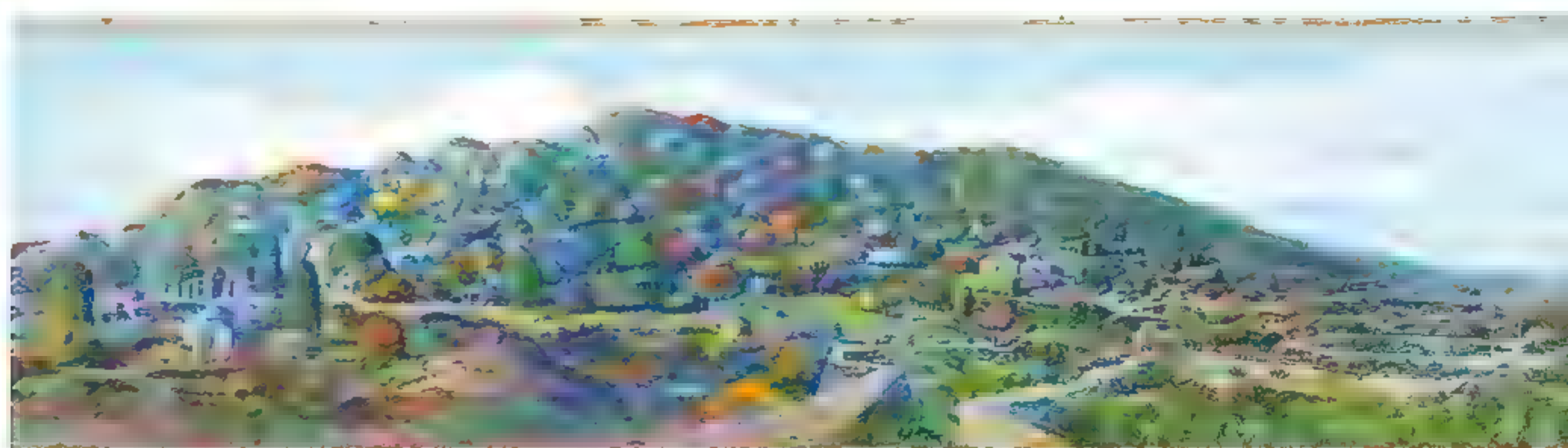
お手玉になったメーキンソーとスコッペロ
 ジブリ美術館 2015



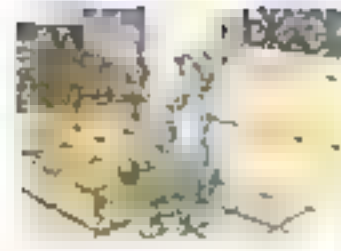
イバラード展でのプレゼントグッズ
 めげゾウ館



右：3D 制作 シンクラボラトリー 杉山 誠 『3-D イバラード』 架空社 1998
 左：3D 制作=シンクラボラトリー 杉山 誠 『3-D イバラード2』 架空社 1998



高校教師退職後、カリフォルニアにある「加州日本語学園協会」からの依頼でイラストを制作。1・2年生用、2・3年生用、そして5年生用の教材にイラストを描きました。犬は犬種がわかりやすいように、子供は学年別に年齢相応に、などたくさんの注文がありました。そのおかげで漫画執筆の際、役に立ちました。



加州日本語学園協会
(CAJLS : California Association of
Japanese Language Schools) の5年生用の
「わたし達の日本語」挿絵 1992

僕の孫のプレゼント用に
作った包装紙です。



藤蔭会誌

藤蔭会という、大阪府立春日丘高等学校卒業生の会の
表紙の挿絵 1992



オリジナル郵便ハガキ



普通の石に陰影を絵具でつけ、
めげゾウに見えるようにしたもの



NewYork 展の記念バッジ 2004



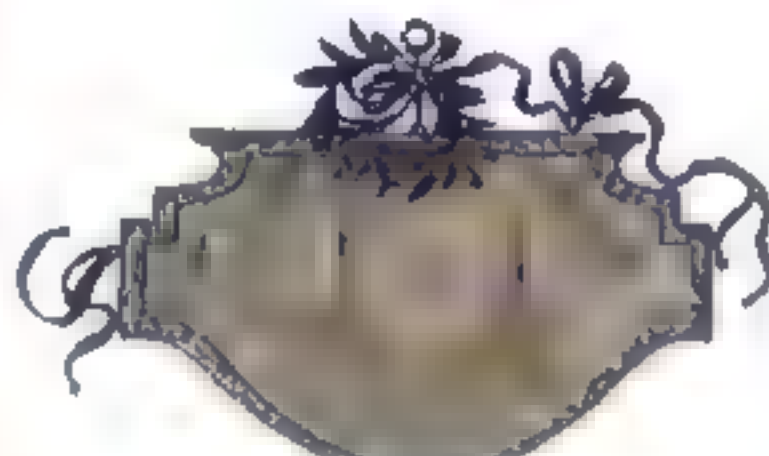
《フェアの竹》

鉄鋼芸術家の堀田節也さん
作の額に絵を入れました。

近所にモグラ塚があり、当時幼稚園児だった息子
と、バケツとスコップを持って、モグラ塚に行
きました。その思い出を元に描いた作品です。
漫画『イバラード物語』に続いていますね。



《襟飾りの少女》



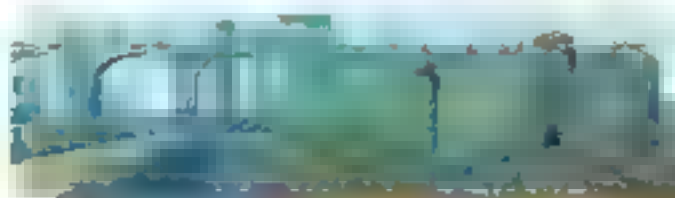
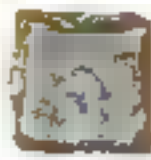
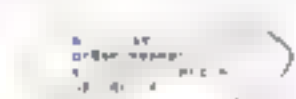
《塔と少女》



オリジナルの陶器によるチェス



MLAED Collections



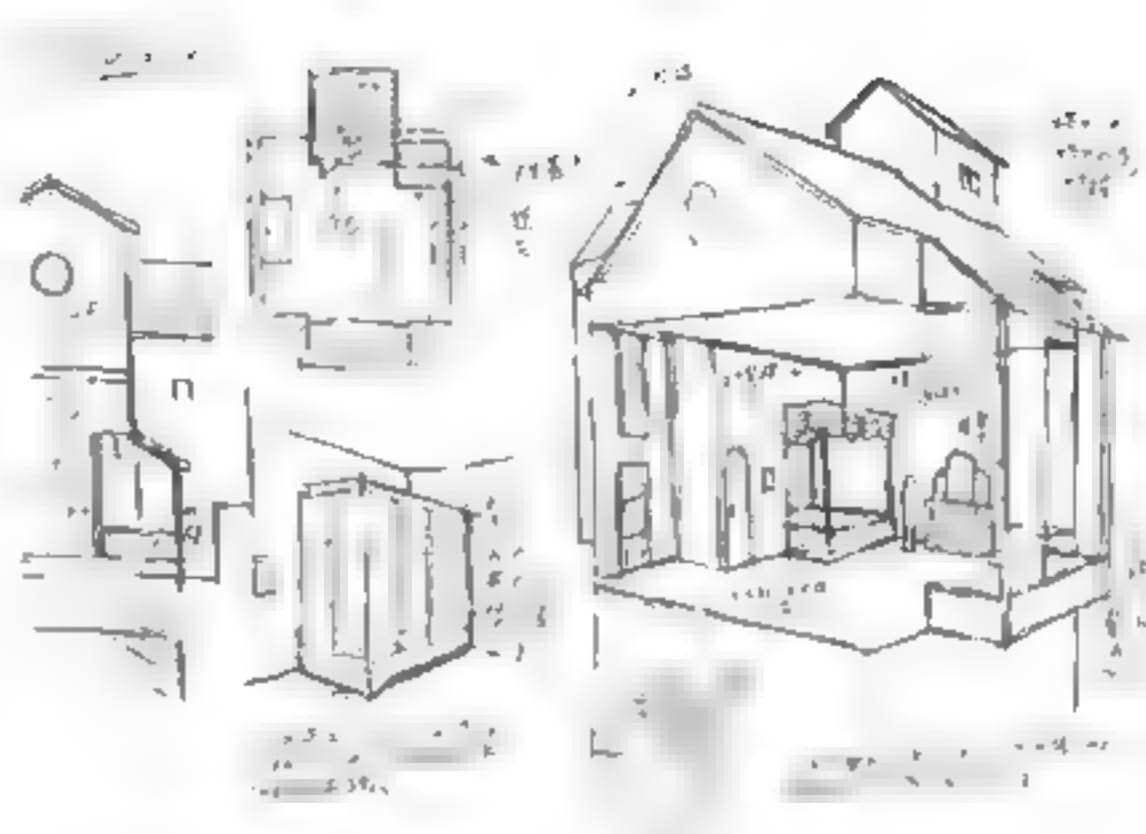
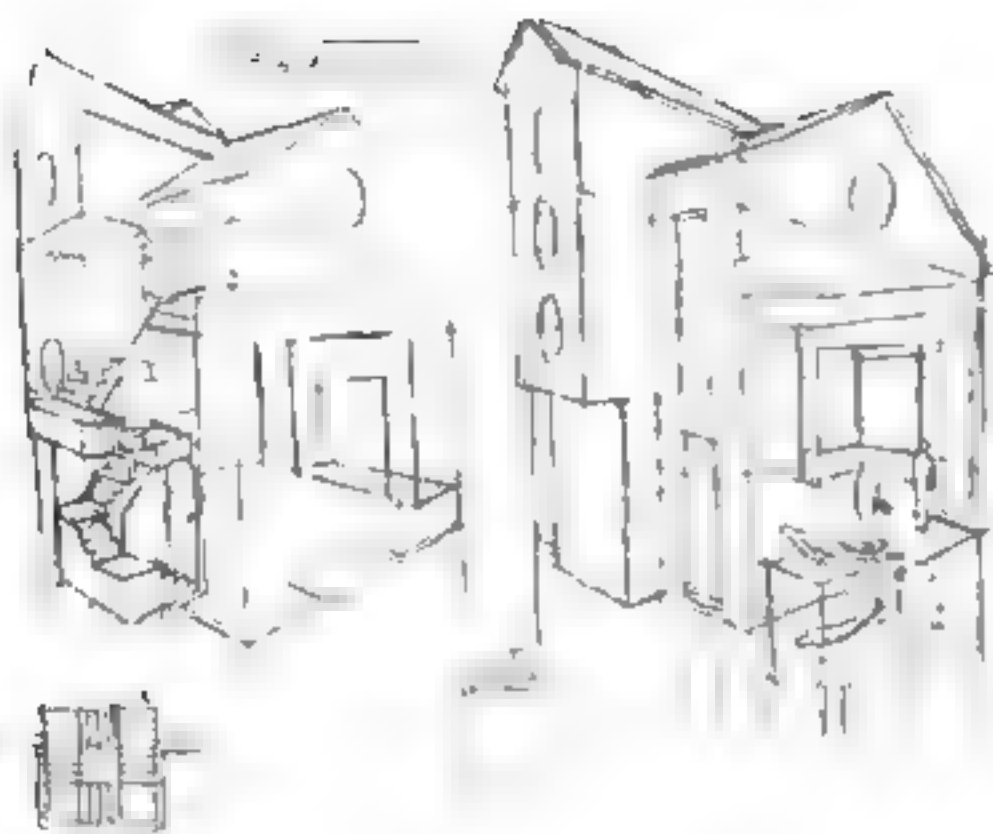


木造 門 1798
 111 112 113
 114 115 116

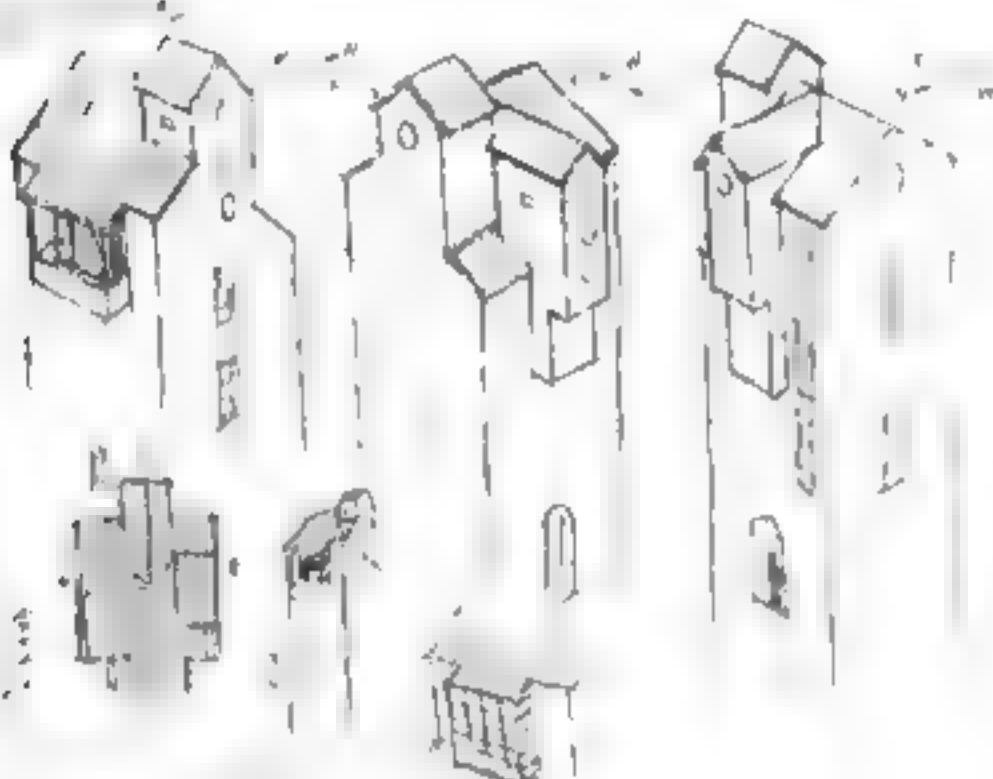


木造 門 1798
 111 112 113
 114 115 116

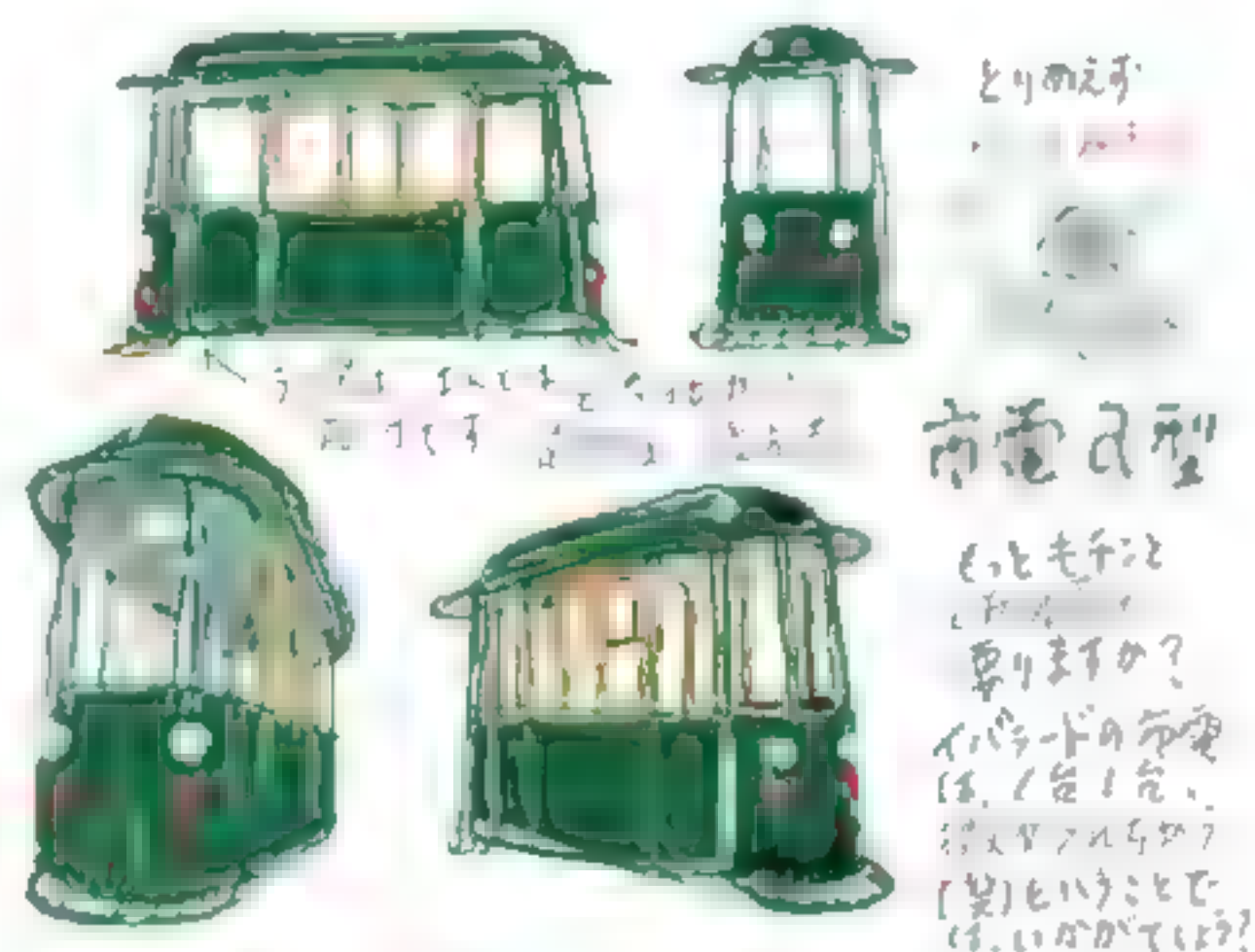




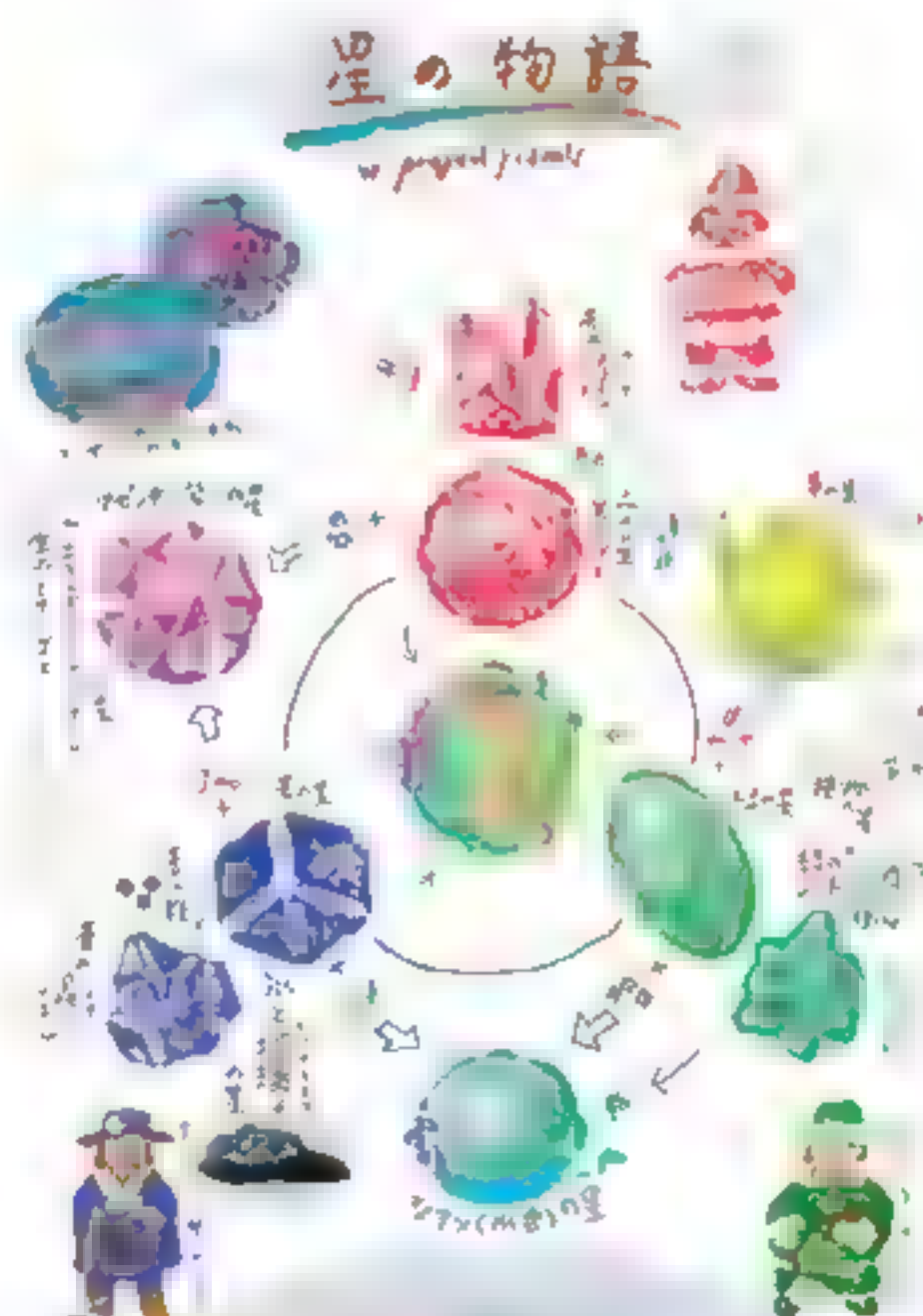
ゲーム製作の作図
ラプンツェルの塔の中のイメージ案



ペン描きの老人は、高校教師時代、同僚の先生からの「パソコンのロールプレイングゲームを作ってみよう」との提案で描いたキャラクター案です。少女像「白いアリス」は、高校退職後に京都修学院、ブティック・ミネでの4人展に出展した作品です。鉛筆描きの老人は、漫画『イバラード物語』を出版した後ぐらいに、続編のキャラクター候補として描いた遊びスケッチです。

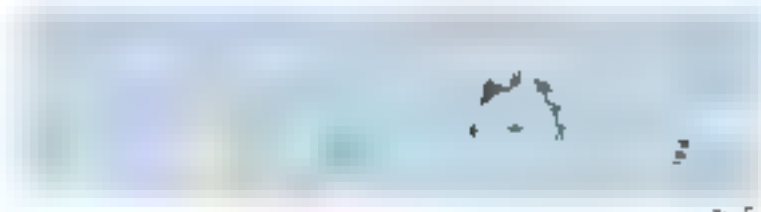


個展の展示、川、陶の家でできた街を止らせるための、市電模型原図

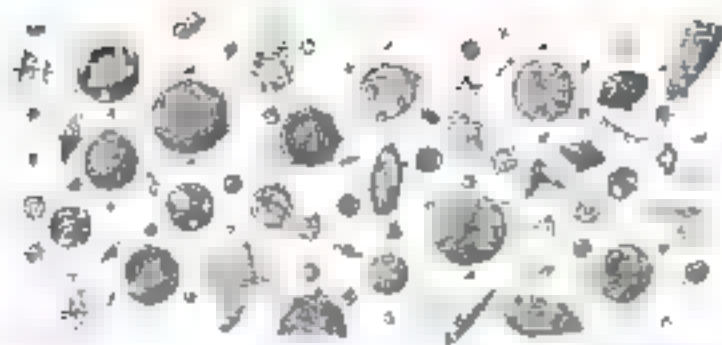


『星をかった日』の
シミュレーションゲームの
アイデア案

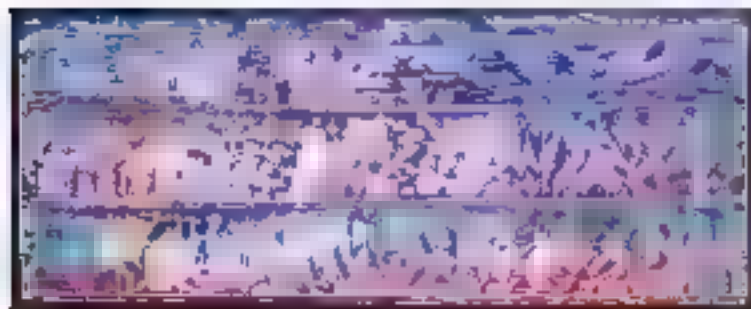




194



195



196

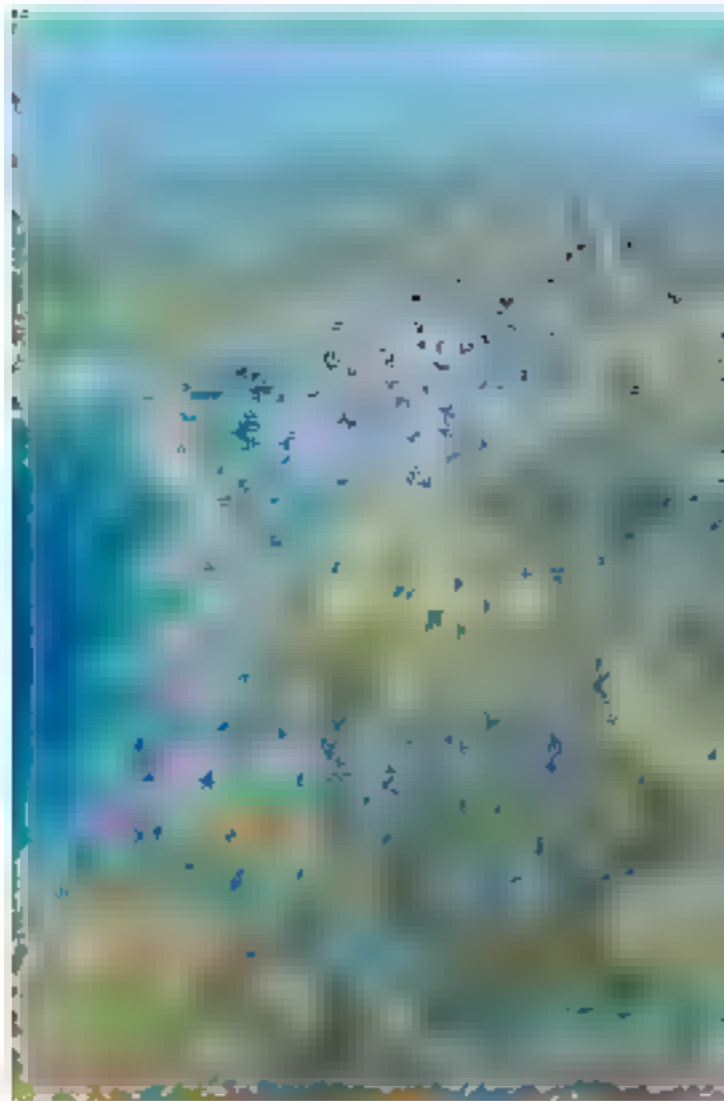
ペンタの戦い



漫画『イバラーダ物語』の15ページの貴重な線画。一コマの絵を描いたら、次、と最初に描いた絵からストーリーを次々と考えていくスタイルの井上さん。後から「よいこの漫画入門」のような本を読み、最初にストーリー全体を考えてから描くんだと初めて知って、驚いたそうです。







鮮やかな色がカンバス上に散らばり、まるで夜に広がる星のよう。黒く果てしなく広がる大空は、いにしえの人々にとって、自由に描けるカンバスだったのではないのでしょうか。昔の人たちが星と星とを結びつけて、動物、人、ものなどを思い描き、大きな空で遊んでいたように、井上直久さんもまた色鮮やかなカンバス上で、実に豊かな物語を繰り広げ、作品を創りだします。

井上さんの絵を見ると、自分だけの物語を心の中でワクワクと繰り広げられ、思いつきり自由な感覚の世界へ羽ばたいているかのような気分を味わいます。そして、なんだか言い知れぬ懐かしさのようなものも。それは、井上さん自身の記憶にも誘われて、いつの間にか絵を見るこちら側にも同じように想像力、空想力の自由を与えられ、私たちの記憶までもが引き起こされるかのようなのです。井上さん自身が一人一人の鑑賞者の手を引いてイバードをめくっているかのように、もしくは誰もがイバード目になれたかのように。

この本は、井上さんの絵である表紙から始まり、ページをめくって読み進めていくことで、関係者、ご家族、井上さん自身を通して、井上さん、そしてイバードについて、よりよく理解を深め、読み

終わった後には、以前とはまた違う世界の素晴らしさ、不思議さ、面白さに気づく――、きつと気づけば、「世界はもつとキレイに見える」。そうなったら、素敵でいいなという想いを込め、ページ構成をしました。

この本が制作されるいきさつについて少しだけ書いておこうと思います。そこには、幼い頃の思い出、全ての出来事がタイミング良く折り重なったこと、そして多くの方があたたかく手を差し伸べてくださったことが、非常に大きいです。

当時、学校の進級のための課題で何を作しようかと悩んでいました。そんな時、たまたま立ち寄った古書店の棚で、映画『耳をすませば』のパンフレットを見つけました。手に取り、その末尾のページに行き着いたところ、井上直久さんのインタビュページに出くわしたのです。私の趣味の一つがパンフレット収集なのですが、ジブリ作品の看板映画の一つである『耳をすませば』は、なかなか手に入る機会がありませんでした。ただ、その時偶然にでも手に入ることができたのは奇跡に近いかもしれません。

まだ課題の方針も何も定まらず、ただもんもんと悩んでいた私の頭の上に光が射したような、衝撃的な力を秘めていました。というのも、私が生まれて初めて

観た映画が『耳をすませば』だったから、なおさらです。

私は当時3つだったので、その映画がどのように映ったのかは、はっきりとは覚えていません。しかし、その時の私の様子を両親が何度も聞かせてくれました。映画館入場前はうろちよろして落着きがなかったのにも関わらず、上映中は瞬きを忘れているかのごとく見入り、エンディングの曲が始まると一人でスタンディングオーベーションをし、興奮のあまり真っ先に座席の一番前に走って、「カントリーロード」を熱唱したらしいのです。その記憶が私の頭の片隅に潜在しているのかは分かりませんが、大切な思い出であることには変わりません。

初めて観た映画のパンフレットに出会えたのは、本当に不思議な出来事にしか思えません。私の原点である映画に関わっていた、「井上直久さん」についてもっと詳しく知りたいと、純粋にその思いが強くなりました。それからというものの、インターネット、画集などを手当たり次第調べました。しかし、想像していたよりも情報があまりにも少なうて、どうやってご本人とコンタクト取れ

ばいいのか、途方に暮れていました。2015年12月。銀座三越で井上さんが個展を開かれるという情報を手にし

ました。先行き不安になりかけ、悩んでいた矢先に、吉報とはまさにこのことではないでしょうか。個展当日、緊張のあまり、どうやって声をかけるべきか悩みました。断られてしまったら、私の「進級課題」もろともパーになってしまいます。でも、「いいですよ。イバラードを知ってもらう機会があるのは僕にとって喜びです」そうおっしゃってくださいました井上さんの言葉は今でも鮮明に思い出せます。こんな、一鑑賞者にすぎない、その上社会人ですらない、無名の学生である私なんか、こうも心広くお応えしていただけるなんて夢にも思いませんでした。井上さんに関わられた方々もとても素敵な人たちで、取材過程ではさまざまな方にお会いし、貴重なお話を伺いました。編集の経験のない私にこのような機会を与えてくださった井上さんに、深く感謝いたします。

本当にいろんなことがたくさんありました。こうして、ようやく一冊の本にまとめることができました。たくさんの方々への感謝の気持ちと同時に、心底ほっとしています。

そしてもう一つ、とてもタイムリーな出来事がありました。それは、映画『耳をすませば』が、このムックの制作中に再放送されたのです（2017年1月現

在）。観るのは人生で3度目となったのですが、今あらためて観ると……こう表現してしまうのはなんですが、主人公とシンクロしてしまう部分が多いようにも感じ、笑ってしまうほどでした。この作品が生まれた偶然のような運命に、心の底からお礼を言いたいです。

そして、制作にあたり欠かすことができない、大変お世話になった人がいます。私がお話を進級制作にと話を持ち出した際、私の「全力を見せてほしい」と背中を押して、応援してくださいました高山太郎先生。この方は、私にとって『耳をすませば』に出てくる「西司朗」さんのような存在でした。進捗や取材原稿があると、一番に見て知ってほしいとばかりに、いつも明け方近くでも構わずに、連絡してしまっていました。この場をお借りし、お詫びをしたいと思います。本当にお世話になりました。そして、遅くまで学校で作業させてくださった先生方、携わってくださった方たち、応援してくださいましたみなさまに感謝申し上げます。ありがとうございました。

最後に、井上さんが作品で提示されているメッセージを、この本を読んでいただくことにより、より深く、より広く、少しでもより多くの方に、伝えることができましたらと願います。



《アトリエの窓辺》1998

IBLARD 井上直久 ―世界はもっとキレイにみえる―

IBLARD Naohisa Inoue — See Things with IBLARD Eyes —

2017年 8月21日 初版発行
2017年 11月21日 電子版発行

監修

井上直久

編集・制作

山野邊友梨

発行人

青木治道

発行

株式会社 青心社

550-0005

大阪市西区西本町 1-13-38 新興産ビル 720

電話：06-6543-2718

FAX：06-6543-2719

振替：00930-7-21375

<http://www.seishinsha-online.co.jp>

First edition 2017

Published August 21, 2017

Supervisor

Naohisa Inoue

Producer&Editor&Design&Photography

Tomona Yamanobe

Publisher

Harumichi Aoki

Published by

Seishinsha Co., Ltd,

Shinkosan Bldg. 720

1-13-38 Nishi Honmachi

Nishi-ku ,Osaka 550-0005

<http://www.seishinsha-online.co.jp>

Copyright© Naohisa Inoue 2017

Copyright© Tomona Yamanobe 2017

Printed in Japan

Special thanks to:

株式会社スタジオジブリ、株式会社アートスペース、ホルベイン株式会社、
ミノルタプラネタリウム株式会社、株式会社ピンポイントギャラリー、
圓通寺、学校法人専門学校東京ビジュアルアーツ、
宮崎駿さん、鈴木敏夫さん、野中晋輔さん、男鹿和男さん、たむらしげるさん、
北見隆さん、中村由利子さん、松尾清憲さん、小室和之さん、宝永たかこさん、
内堀法孝さん、福岡敏郎さん、西須由紀さん、前野真さん、宮脇周作さん、
後藤隆さん、近清武さん、伊藤彰宏さん、小杉弘明さん、春日敏夫さん、桂悟郎さん、
小谷美穂子さん、井上博子さん、高山太郎さん、こばやしみゆきさん、
制作に携わってくださったみなさま

NOTICE

111 ページ、宮脇周作さんのインタビュー内におきまして、井上さんがルノアールを例にしたエピソードを話された記述があります（本文 3 段目、13 行目～）。が、後日井上さんより、「『クリムゾン・レーキ』という色が出来たばかりの頃、これを使ったルノアールの絵を、“赤すぎるんじゃないか”と言った人に、“そのうち褪せてちょうどよくなる”とルノアールが返した、というのは話した記憶がありますが……」というご指摘がありました。今なお心に留めているエピソードとしてお話いただいた宮脇さんのご記憶を尊重し、取材時の発言に則した内容で掲載いたしました。

本書（電子版）のコピー、再スキャン、リエンジニアリング等は
著作権法上の例外を除き禁じられています。
法律の定めがある場合又は権利者の明示的な許諾がある場合を除き、
複製・転載・改変・翻案・翻訳・公衆送信・再配信・販売・頒布・
貸与等に使用することはできません。



